

日本古典作者事典 **かた 1500** ; 目次にもどる

- M1587 **賢朗** (かたあき・建部たけべ、賢嗣男/本姓佐々木) 1718-9982 幕臣; 1740大番/58新番、  
1791(寛政3)「先祖書扣」著  
[賢朗の通称] 隼太郎/隼之助
- M1588 **賢明** (かたあきら・建部たけべ/本姓佐々木、建部直恒男/建部昌親[賢隆]養子) 1661-171656 幕臣、  
和算家: 孝和門、書; 家学、1688養家を嗣/93納戸番、算書集を大成、  
「探円数」「大系図評判遮中抄」、1715「建部氏伝記」著  
[賢明の通称/法号] 通称; 隼之助、法号; 全清、賢之の弟/賢弘の兄、養子; 賢嗣  
鹿太(かたい・小畑) → 宗隆(むねたか・小畑おぼた/柴山、藩士/国学者) D 4 2 6 8
- M1589 **霞台** (かだい・伊藤いとう、名; 輝祖、字; 大佐/必大、別号; 省齋、梅宇男) 1724-175330 備後福山藩儒、  
詩文、1748「萍交唱和録」編、「霞台遺稿」
- M1590 **可大** (かだい) ? - ? 江中期尾張名古屋の俳人; 暁台門、  
1774美角「ゑぼし桶」入、  
[あけぼのは煙むるがごとき桜かな](ゑぼし桶; 83)
- C1529 **可大** (かだい・栗本くりのもと) 1807-186256 江後期岩代福島 of 俳人; 卓池門、三河・遠江に滞在、  
のち摂津武庫・須磨に結庵/播磨幽松庵に住; 没、梧庵から栗の本の俳系を継承、  
1838「よしのかこ」39「やまなかしう」52「こしひさこ」56「あすのほうく」58「起々集」編、  
1858-9「たひふんこ」編、「いほこもり」「いとうみ集」「何の実」著、  
1862遺言により没後門人醒花が「可大発句集」(ちり梅集)編、  
[可大の別号] 夢庵/時雨庵/月見庵/梅花老人
- M1591 **訶提** (かだい; 法諱、安藝矢口教蓮寺順故男) 1812-5443 安藝川尻村の真宗本願寺派光明寺住職、  
宗学; 曇竜門、寺内に学寮設置; 子弟教育、1852(嘉永5)司教、没後本山より勸学職を追贈、  
「選択集二行章聴記」著  
可大(かだい・平井) → 澹所(たんしょ・平井ひらい、儒/藩校総督) I 2 6 3 5  
可大(かだい・永田) → 善吉(ぜんきち・永田ながた、絵師/銅版画) M 2 4 0 3
- F1532 **我大** (がだい) ? - ? 江中期俳人、1733巴人「一夜松」入
- C1530 **賢家** (けんかかたいえ・上原うえはら・本姓; 物部/神) ?-1495 丹波守護代; 細川政元近臣、歌、連歌・蹴鞠、  
飛鳥井雅親/雅康門、政元の咎めを受; 近江坂本に逃亡/まもなく没、  
1510「犬追物」13「上堅抄」、「堅家聞書」著、「初心雲霧抄」(伝)、  
[賢家/堅家の通称] 次郎左衛門/豊前守  
華台心院(かだいしんいん) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1
- S1501 **片糸縫女** (かたいとのぬいじよ) ? - ? 狂歌; 1787才蔵集入; 582、  
[そろばんの珠たまに催もよぶす波枕夢おどろかす判取りの声](才蔵集; 十三582、  
呉服屋夢といふことを/丁稚が帳と代金を帳場の番頭に運び「判取り」と大声で促す)  
花台房法印(かだいぼうのほういん) → 実円(じつえん; 法諱、天台園城寺大僧正) U 2 1 4 9  
片歌道主(かたうたどうしゅ/みちぬし) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) I 0 2 8
- C1531 **方人** (かたうど・辺越へこし、初号; 海老船守えびのふねもり、佐野屋七兵衛) ?-1787 江戸日本橋小田原の魚商、  
狂歌詩・四方赤良門、1785「徳和歌後万載」3首/87「才蔵集」/86飯盛「吾妻曲狂歌文庫」入;  
[棹姫のお入とみえてむらさきの霞の幕をはるの山々](吾妻曲狂歌文庫)  
容和(かたかず; 初名・松平) → 容敬(かたか・松平まつだいら、藩主/文筆) M 1 5 9 9  
賢兼(かたかね・大庭) → 宗分(そうぶん・大庭おおば、武将・歌人) C 2 5 8 6
- M1592 **賢樹** (かたき・木暮こぐれ、初名; 谷五郎) 1788-186174 上州渋川の医者; 高野長英門、  
国学: 本居大平門・屋代弘賢門、私塾を開; 子弟教育、「養蚕須知」著、  
大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[をち方の尾の上の霞たちにけりきのふまでこそ雪は降りしか](八十浦; 684)、

[賢樹(；名)の字/号]字；五十槻、号；足翁/梅屋

賢木屋(かたぎや・矢田部)→ 弘岡(ひろおか・矢田部)やたべ、神職/国学) I 3 7 3 6

T1533 賢清(かたきよ・青木あおき) 1582-1656 75 肥前松浦郡唐津出身；初め修験道修学；金重院と称す、キリシタンに破壊された長崎の諏訪神社を復興；長崎奉行長谷川権六の支援で本殿造営、のち諏訪神社宮司；以後代々青木家が宮司を務める、  
[賢清(；名)の通称/号]通称；彦松丸、号；金重院(；修験号)

C1532 荷澤(かたく・畑中はたなか/はたけなか、名；盛雄もりお、建得[淡也]男) 1734-97 64 仙台藩士/儒者；別所穀城門、のち蘆野東山門、詩歌文、連歌・和学；父門、藩主重村の顧問；江戸住、平洲/金峨と交流、「源氏彙事」「源氏彙言」「荷澤詩文集」「荷澤和歌集」「畑中盛雄詠草」「膝太問答」「連璧集」、「磯なれ松」「十代集釈義」「すみだ河日記」外著多数、妻；蘆野東山女、青霞せいが[孝標]の父、  
[荷澤の字/通称]字；冲卿、通称；多忠/太冲/膝太冲、法号；滄海院

雅宅(かたく・増田) → 休意(きゅうい・増田)また、農業/文筆家) M 1 6 2 5

T1513 かた子(かたこ・松平まつだいら、?)?-? 江後期；歌人、松平弾正少弼の室、松平弾正少弼は信濃松本藩8代藩主松平光庸(みつね、1798-1878)か？、光庸の正室とすると；久世広誉女の伊保子か？、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[難波なる堀江の蘆も枯れふしてあらはにさゆる冬の夜の月]、  
(大江戸倭歌；冬1187/江上冬月)

方子(かたこ・よりこ松平) → 彰子(せいこ・松平/伊達、治郷正室/歌/1752-1829) O 2 4 4 7

U1593 交孚(かたぎね・高橋たかはし、有孚ありぎね[1793-1864]2男) 1825-51 早世 27 佐渡の商家の生、歌；父門、江戸で医学；伊東端三門/儒学；朝川善庵門、  
[交孚(；名)の字/号]字；文季、号；春逸

M1593 堅(かたし・源みなもと、字；園卿/固卿) ?-? 江前期常陸水戸の歌人；細井広沢と交流、1710「字林長歌」著、  
[堅(；名)の号] 竹隠/竹陰/竹庵

M1594 固(かたし・白井しらい、別名；重固しげかた/字；季執、白井茂貞男/本姓源) 1771-1833 63 庄内藩士、1789宗家の白井重富の養子、儒学/藩校致道館設立参画/1805学監兼司業、1807郡代/1811一時免職/17奏者番/18寺社奉行、歌；足代弘訓門、「可久裳草」「藻塩草」「野中の水」「八乙女紀行」、1830「百首略解」著、洒落本作者；「温泉ゆの垢」著、  
[固の通称/号]通称；吉兵衛/惣六/惣六郎、号；蔵六/采真堂/楓園

V1520 剛(かたし・中原なかはら、) 1823 - 1890 68 備中玉島の国学者、中原蕉斎しょうさい(貞固/丹波亀山藩家臣；玉島領役人)の孫、  
[剛(；名)の字/号]字；子静、号；霞処

M1595 賢重(かたしげ・堀江ほりえ、肥遯斎ひとんさい) ?-? 戦国期1469-87頃遠州敷智郡村櫛荘の武将/佐田城主、連歌；1472関東から帰洛中の宗祇を迎え「両吟山何百韻」

方女(かたじよ・川崎) → 方女(ほうじよ・川崎、俳人) B 3 9 6 9

M1596 良屋(かたすえ・佐原さわら、通称；金之丞/勘右衛門、良寧男) 1751-? 1837 存 幕臣；1768兄良緩の嗣子、1789大番組頭/1829鎗奉行/34西丸旗奉行/35致仕、「服忌中并追加」著

方助(かたすけ・河合) → 良温(よしほる・河合)か、医者/儒者) G 4 7 1 1

方介(かたすけ・山下) → 清臣(きよおみ・山下)やまた、国学者/歌人) V 1 6 5 3

方澄(かたすみ・荏土) → 荏土方澄(えどのかたすみ、狂歌) C 1 3 1 3

M1597 賢隆(かたたか・三宅みやげ、隆仲男) 1663-1746 84 岩代二本松藩士/1688家督/97勘定奉行、和算家；父門/礪村吉徳門、1723致仕後諸藩士に和算教授、国学/神道/刀劍鑑定に精通、1717「開成算法」、「具応算法」著、母；磐城三春の桑原兵右衛門女、  
[賢隆の通称/号]通称；治右衛門/与右衛門/与志(四)左衛門、号；穩治、法号；恵照院

M1598 賢敬(かたたか・山田やまだ、字；子信) ?-? 1739-60 頃存 尾張名古屋の文筆家、「山田世譜」校

M1599 容敬(かたたか・松平まつだいら、容住男/実は美濃高須藩主義和男) 1803-52 50 兄容衆かたひろの養嗣子、1822家督嗣/会津藩主、藩政改革/財政回復、江戸湾防備、歌/和学、「松平容敬手扣」編、1822-51「松平容敬日記」、56「皇朝二十四孝」、「鷹狩り絵巻」「清雅堂漫録」著、

- [容敬の初名/通称/神号]初名;容和かたかず、通称;靱負、神号;忠恭靈神
- S1596 **賢高**(かたか・能勢のせ、通称;岩次郎)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[氷ゐし野中の水もうちとけて鳴く鶯の声ぞのどけき](大江戸倭歌;春80)  
方孝(かたか・川崎) → 方孝(ほうこう・川崎、俳人) F 3 9 2 0  
方孝妻(かたかのつま・川崎) → 方女(ほうじよ・川崎、俳人) B 3 9 6 9
- N1500 **賢忠**(かただ・伏原ふしはら/本姓;清原、船橋秀賢男)1602-6665 廷臣;伏原家の祖、  
1655大蔵卿/従二位、後光明天皇侍読、宣幸のぶゆきの父、  
1649「日光山修善雜記」53「高雄山神護寺縁起」/「和漢官職鈔」著、  
堅田退庵(かたたいあん) → 退庵(たいあん・山本やまもと、茶人/香道) J 2 6 0 2  
方太郎(かたたらう・水野) → 正信(まさのぶ・水野みずの、藩士/国学者) F 4 0 8 2  
賢親(かたか・泉崎) → 眞畔(まろ・泉崎いづみざき、国学者/歌人) 4 0 6 9  
賢俊(かたとし・日野) → 賢俊(けんしゅん・日野、大僧正/歌・連歌) D 1 8 8 6  
賢年(かたとし・細川) → 治年(はるとし・細川ほそかわ、藩主) G 3 6 5 7
- N1501 **堅儔**(かたとも・北川きたがわ、通称小平次/号;汶陽)1690-174152 劍術;家伝/武芸全般精通/兵法家、  
門人多数、儒;山県周南門、「船戦以律口解」「舟戦以律抄」編
- U1527 **賢友**(かたとも・勝かつ/本姓;源、)1770-184071 近江彦根藩士、国学・歌人;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[賢友(;名)の字/通称]字;楽卿、通称;水之助/簾介
- N1502 **堅魚**(かたな・徳弘とくひろ、通称;四郎左衛門、重秋男)1732-6332 土佐高知儒者;戸部愿山/谷真潮門、  
歌学;賀茂真淵門、「近目先生の伝」、幼時に父死没;親戚の豪商蔵屋で養育された
- N1503 **質直**(かたなお・滝川たきがわ/修姓;滝、のち三好みよし、滝川有ありはる3男/三好賢能養子)1822-8059  
規矩流和算家;父有あり門、兄正直が三好賢能の養子;兄早世のためその家督を相続;  
兄友直男の吉之丞(永瀬)の代士藩/養父の禄を嗣ぎ加賀金沢藩士、  
「未詳算法」「雙鉤招差」「改姓額題」、関口開の師、  
[質直の字/通称]字;子達、通称;善蔵  
賢直(かたなお・星川) → 清晃(きよあきら・星川、藩士/国学者) N 1 6 0 5  
賢仲(かたなか・寺井) → 宗巧(宗功そうこう・寺井/橘、武将/城主/連歌) H 2 5 2 9
- T1501 **方業**(かたなり・鈴木すずき、通称;半之進)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[来て見れば桜なりけり朝日影霞める山の峰の白雲](大江戸倭歌;春256)
- U1523 **堅庭**(かたにわ・清家せいけ、)1814-187764 伊予宇和郡神山村八代神社神職/医者;長崎に修学、  
国学;二宮正禎まさただ・藤井高尚門/1835(天保6)本居内遠・足代弘訓門、宇和島藩皇学掛、  
子弟教育/1857(安政4)王子森文庫を設く、「水かや日記」「八重垣内集」「伊予すだれ」著?、  
歌人;菅原小楯おたて・和氣貞規・梶谷守清・矢野高鞆の師、「詠草」2冊/紀行文[日記]著、  
内遠「ひなのてぶり」に16首入集、[四拾番歌合(八幡浜歌人歌合)](判者;近田八東)7首入、  
[しばらくはこほりてよどめ雪とのみ見えて散りうく花の白波](四拾番歌合;右/定雄)、  
(左;夕くれの空かきくもり吹く風に桜の花の雪そふりくる/浅井清足)、  
[白雪の袖に降りくるここちして暁寒くちる桜かな](ひなのてぶり二編)、  
[堅庭(;名)の別名/通称]別名;定臣/定雄、通称;牧太/下総、貞一さだかず(貞寿)の父
- N1504 **方主**(かたぬし・猪熊いのくま、名;慶林、慶福男/本姓ト部)1803-187775 讃岐白鳥神社祠官;  
兄慶歆の養子;家督継嗣/国学・歌;藤井高尚たかなお門/和漢学に通ず/画を嗜む、  
「栄屋筆記」「遊部考」著、夏樹の叔父/秋彦の父、  
[方主(;通称)の別通称/号]別通称;少進、号;栄屋さかえや?/栄室主人  
方之丞(かたのすけ・戸田/間瀬) → 忠至(ただゆき・戸田/木村/間瀬、藩主) R 2 6 1 8  
鋼之助(かたのすけ・山下) → 勝幸(かつゆき・山下やました、歌人) R 1 5 6 7
- C1533 **片野尼**(かたのあま) ? - ? 平安中期尼僧/歌人、1022法成寺参詣尼の一人;風雅2101、  
[くもりなくみがける玉のうてなには塵もゐがたきものにぞありける](風雅2101)  
片野羽林(かたのうりん) → 季縷(すえなわ/すえつな・藤原、廷臣/歌) B 2 3 3 5
- G1579 **交野女**(かたのおんな) ? - ? 平安期交野に住む女;歌人(玄々集に前斎院兵庫とある)、  
橘道貞と交渉、金葉Ⅲ388/玄々集86、  
[逢うことの今はかた野にはむ駒は忘れ草にぞなつかざりける](金葉Ⅲ;七恋388)

(道貞の通いが絶えたのち飼馬が放れ女の許に行ったのを返す歌)

参考 道貞 → 道貞(みちさだ・橘、廷臣/和泉式部旧夫/小式部内侍父) B 4 1 5 0

交野少将(かたのしょうしょう) → 季繩(すえなわ/すえつな・藤原、廷臣/歌) B 2 3 3 5

N1505 容頌(かたのぶ・松平まつだいら、容貞男) 1744-1805 62 会津5代藩主; 1750襲封(叔父容章が後見)、  
田中玄宰を家老に抜擢し藩改革; 藩中興、儉約/殖産、1803藩校日新館開設、左近中将、  
1790「刑則」/1803教訓「日新館童子訓」著、母; 貴養(館氏、寿詮院)、  
[容頌の初名/幼名/神号] 初名; 容綏/容清、幼名; 亀五郎、神号; 恭定靈神

交教(かたのり・大屋) → 士由(志由しゅう・大屋/沼倉、国学/俳人) G 2 1 7 0

酸漿屋弥三郎(かたばみややさぶろう) → 菅鳥(かんちょう・不夜庵3世、俳人) R 1 5 4 1

N1506 賢久(かたひさ・須川すがわ) ? - ? 江末期博物学者、1876ゲートブリッジ「具氏博物学」訳、  
「尺度創始」、「蘇格蘭地誌」著(文部省刊「百科全書」に採録)

賢秀(かたひで・建部) → 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4

良仁(かたひと) → 覚深親王(かくしんしのう、真言僧) K 1 5 1 2

V1578 鋼姫(かたひめ・松平まつだいら、姫路藩藩主酒井忠学ただり女) 1841-63 早世 23 初め戸田忠明正室、  
夫は下野宇都宮藩主; 1856(安政3) 18歳で没、  
のち伊予松山藩主松平勝成(かつげ(1832-1912)の継室、歌人、法号; 純光院

C1534 賢弘(かたひろ・建部たけべ、別名; 賢秀/賢行、直恒男/本姓佐々木) 1664-1739 76 和算家; 1676関孝和門、  
1690甲斐府中藩士北条源吾右衛門の養子/旧姓復帰、府中藩士/幕臣; 小納戸/広敷用人、  
吉宗の信頼; 天文暦学顧問格/1804-8幕命で「日本総図」完成、孝和や兄賢明と「大成算経」、  
1720「綴術算経」25「歳周考」26「見訳話」、「綴術」「弧率」「弧背率書」「極星測算愚考」著、  
[賢弘の通称/号] 通称; 源右[左]衛門/源之進/彦次郎、  
号; 不休、法名; 道全、賢之/賢明の弟

N1507 容衆(かたひろ・松平まつだいら、容住男) 1803-22 早世 20歳 会津藩主;

1808父急逝のため襲封(田中玄宰が後見)、

蝦夷出兵・相模湾警備による藩財政困窮、1821將軍家斉女元姫と結婚/翌年(文政5)急逝、  
1809「新編会津風土記」、「河溪紀行」著、

[容衆の幼名/神号] 幼名; 金之助、神号; 欽文靈神

乾弘(かたひろ・千野) → 尚賢(ひさかた・柳/千野せんの、医者・和算) 3 7 9 4

賢弘(かたひろ・黒瀬) → 延賢(のぶかた・藤本/黒瀬、神職) B 3 5 1 8

N1508 賢房(かたふさ・万里小路までのこうじ/本姓藤原、勸修寺かじゅうじ教秀男) 1466-1507 42 万里小路冬房の養子、  
母; 飛鳥井雅永女、廷臣; 1505参議/右大弁/従三位、1506「賢房卿記」著

1519 賢文(かたふみ・かたぶん・建部たけべ、法名; 道孤、秀昌男/本姓佐々木) 1522-90 69 近江箕作の武将、  
兄秀治の養子/のち辞し佐々木[六角]義賢家臣; 改名賢文、書; 尊鎮親王門、  
箕作城代/1668剃髪/1570義賢が信長に敗北後蟄居/76秀吉の命で聚楽第の額を書く、  
秀次に「源氏物語」書写、伝内流書と称す、内匠頭、息昌興以後徳川家右筆、「建部氏書訣」著、  
[賢文の通称] 伝内/弦蔵、

T1545 方昌(かたまさ・荒巻あらまき、通称; 太左衛門) 1792-1872 81 筑後久留米藩士、歌人; 西田直養門、  
妻; 久仁子くに(同門の歌人)

N1509 堅丸(方丸かたまる・地形堂じぎょうどう/ちがたどう、山崎やまざき春方、山崎春正男) 1753-1823 71 幕臣;

1769(17歳)家督嗣; 父の遺跡2百俵、大番役、江戸牛込舟河原橋住、

絵/狂歌に興ず; 酔竹側判者; 唐衣橋洲と親交、1787「才蔵集」2首入、

1800「狂歌三十六歌仙」、06「狂歌南北集」編、07「狂歌花の園」著、

[地形堂堅丸の通称/別号] 通称; 又次郎/鍬之丞、別号; 地形堅丸ちがたのかたまる/栗園(;画号)、  
法号; 高専院、

[一二りん散り行も惜しよしの川この千金の花のせ中で](狂歌才蔵集)

堅丸(かたまる・千首楼・屋職) → 千首楼堅丸(せんしゅうろうかたまる、狂歌) M 2 4 4 8

1520 像見(形見/方見かたみ・大伴宿禰) ?-? 奈良期廷臣/50撰津初進; 正六上、

764従五下/769左大舍人助、771(宝亀3)仲鷹乱に功劳; 従五上、

万葉四期歌人; 万葉5首(664; 恋歌/697-699/1595)、拾遺2首、

[石上いそのかみ降るとも雨につつまめや妹に逢はむと言ひてしものを](万葉; 四664、

石上;ふるの枕詞/つつまめや;降込められじっと家に居られようか)

- V1526 **賢道**(かたみち・長坂ながさか、)1837-190367 陸奥磐井郡の儒医、歌;吉田種穂門  
[賢道(;名)の通称/号]通称;東雲、号;峰堂
- N1510 **謙光**(かたみつ・裏松うらまつ、初名:公英/公圭、四辻実長男/裏松光世の養嗣子)1741-181272 廷臣、  
1782従三位/98従二位/99権中納言;程なく辞任/1809正二位、画・歌人、  
「洞裏儀」著、小池友識の歌の師  
賢盈(かたみつ・松井/鱗形屋)→ 賢盈(けんえい・松井まつい、書肆/雑俳) B 1 8 3 0  
健宮(かたみや) → 教仁法親王(きょうにんほつしんのう、天台座主) O 1 6 4 4  
固(かため・白井) → 固(かたし・白井しらい、藩士/儒者/洒落本) M 1 5 9 4
- H1586 **片目あきら**(かためのあきら、梅忠梶右衛門)?-? 江戸市ケ谷田町儒者/狂歌;四方連、「知足振」入  
賢基(かたもと・建部) → 賢之(かゆき・建部たけべ、幕臣/和算家) 1 5 2 2
- 1521 **賢盛**(かたもり・杉原すぎはら/本姓;平、法名;宗伊そうい、杉原持之男)1418-8568 杉原伊賀守満盛の養子、  
足利将軍家家臣;近習五番衆の1、宝徳1449-52頃から連歌活動、  
1471北野連歌所奉行(能阿弥の跡を継嗣)/1480出家、連歌七賢の1、  
1482宗祇と「湯山両吟」、早歌:一休門、洒落本作者、1483足利義尚の「打聞集」編纂に参加、  
1482「連歌嫌様事」、「伊呂波百韻」「伊宗両吟百韻」「三代集作者百韻」など著多、新菟46句入、  
[吹きむすぶ川風しろきこほりかな](新撰菟玖波集;冬の発句)  
[賢盛の通称] 兵庫助/伊賀守、伊賀入道、長恒の兄
- V1577 **容保**(かたもり・松平まつだいら、美濃高須藩主松平義建6男)1835-9359 会津藩主松平容敬かたたかの養子、  
1852(嘉永5)襲封、公武合体論を主唱;1862(文久2)幕政参与;京都守護職、尊攘派弾圧、  
1863中川宮・薩摩藩と協力;長州藩ら尊攘派を追放/一橋慶喜らと朝政に参画、  
公武合体策は内部対立で失敗/1864(元治元)禁門変に長州藩を撃退;長州征伐の総裁職、  
慶喜と条約勅許問題等で活躍/1867(慶応3)薩長両藩の画策で容保誅戮宣旨;大坂に退去、  
鳥羽伏見で敗戦;江戸に逃亡/慶喜再挙に失敗;会津で奥羽越)列藩同盟の中心;籠城;降伏、  
鳥取藩のち紀州藩永預け/1872赦免/1880東照宮宮司、1893(明治26)没、  
[容保(;名)の初名/通称/号]初名;義方、通称;銚之允/若狭守/肥後守、  
号;祐堂/芳山/翠柳  
容盛(かたもり・猿渡) → 容盛(ひろもり・猿渡さわたり、神職/歌人) H 3 7 5 4  
方守(かたもり・山田) → 千疇(ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9  
嘉太夫(かだゆう・宇治) → 加賀掾(かがのじょう・宇治、浄瑠璃太夫) 1 5 0 4  
賀大夫(かだゆう・徳弘とくひろ) → 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) K 1 9 3 7
- 1522 **賢之**(かたゆき・建部たけべ、別号;賢基/賢雄、直恒男/本姓佐々木)1654-172370 幕臣/和算:関孝和門、  
1667以後小十人/同組頭/富士見宝蔵番之頭/1725致仕、賢明/賢弘の兄、「算格式」著、  
[賢之の通称/法号]通称;三四郎/兵庫、法号;宗源  
賢行(かたゆき・建部) → 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4
- T1553 **方義**(かたよし・井口いぐち、通称;茂十郎)?-1843 佐渡の官吏(州吏)、連歌・歌人;坂昌成・昌功門?、  
[佐渡天保文芸集-連歌]の選者、  
[花鳥の春に明けたる朝戸かな](酉年の春を迎へて)
- S1554 **加多留**(カタル) ? - ? 江中期江戸の川柳作者、上野山下の桜木連に属す、  
1782桜題万句合に初出/88呉陵軒可有(木綿)追善会の催主(追悼句;語陵軒と同一か)、  
[内ももでちらりつらりとわなを懸](誹風柳多留;二〇)  
嘉太郎(かたろう・岡) → 敦(あつし・岡おか/山本、陪臣/国学) H 1 0 3 3  
佳太郎(かたろう・井手/橋) → 今滋(いましげ・井手いで/橋、国学/歌) D 1 1 1 4  
可潭(かたん) → 鄒可潭(そうかたん) D 2 3 6 0
- F1534 **夏段**(かだん) ? - ? 俳人、1704范孚「あさふ」60韻入  
賀弾(かだん・森) → 江鱒(こうげき・森もり、商家/俳人) I 1 9 4 7
- N1511 **嘉千**(可千かち・佐々木ささき、岡おか為直女、佐々木盛安の妻)?-? 江後期天明寛政1781-1801頃の人、  
備前岡山の国学者/歌人:父門、父は岡山酒折宮社務、夫は玉井宮の祠官、「老木の花」著  
花痴(かち・梁田) → 天柱(てんちゆう・梁田やなだ/万代、藩儒) E 3 0 0 6
- C1536 **勝臣**(かちおむ/かつおみ/かちおみ・藤原ふじわら、発生ちかふ男)?-? 平安初期廷臣;883従五下;阿波権掾、越後介、

- 歌人・古今4首;255/472/999/1102、  
 [同じ枝えを分きて木この葉のうつろふは西こそ秋のはじめなりけれ](古今;秋255、  
 貞観御時綾綺殿前の梅の木に差す枝が紅葉し始めたのを殿上の人々と詠む)
- N1512 **可竹**(かちく・平田ひらた、名;宗恒むねつね/**宗弘**むねひろ、宗門男)1665-1728<sup>64</sup> 鹿児島藩士/吟味役、  
 日置流弓術;父門、甲州流兵学;新納久了門/書画/歌、1704出家;甫仙和尚門、  
 1707可竹庵に隠居、「平田可竹老日記」「平田可竹之書」「平田可竹状」著、  
 [可竹の字/通称/号]字;平六/喜角、通称;民部左衛門/(出家後;)可竹、号;幽谷  
 華竹庵(かちくあん) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7  
 華竹庵金彦(かちくあんきんげん) → 烏洲(うしゅう・金井、万戸男/儒/絵) B 1 2 7 5  
 花竹堂(かちくどう) → 嘉田(かでん・中村、儒者/詩文) O 1 5 1 1  
 瓦竹堂(がちくどう) → 李坡(李破りは・中村なかむら、俳人) C 4 9 3 5  
 可竹道人(かちくどうじん) → 文麟(ぶんりん・塩川、絵師) G 3 8 7 9  
 花竹幽窓主人(かちくゆうそうしゅじん) → 竹田(ちくでん・田能村、詩歌/絵師) D 2 8 5 4  
 勝栗(かちぐり・本田原ほんだわらの) → 定丸(さだまる・紀、幕臣/戯作/狂歌) C 2 0 4 4  
 搗栗(勝栗かちぐり・井上) → 頼定(よりさだ・井上いのうえ、神職/歌人) L 4 7 3 6
- C1537 **嘉智子**(かちこ・橘たちばな、橘清友女)786-850<sup>65</sup> 平安前期歌人;815嵯峨天皇皇后、仁明天皇の母、  
 壇林寺創建、歌:後撰集1080/1156、  
 [言繁いげししはばしは立てれ宵の間まに置けらん露は出でて払はん](後撰集;雑1080)、  
 (后になる前、天皇が早く来ると他の女御達の噂の種になり嫉妬を買うので詠む)  
 [嘉智子(;名)の通称]嵯峨后さがのきさい/壇林皇后/橘太后たちばなのおおきさい  
 画痴斎(かちさい・浜地) → 庸山(ようざん・浜地はまじ、庄屋/詩/画) B 4 7 0 5
- T1530 **可知女**(かちじょ・安達あだち/旧姓;塩津)?-? 享保1716-36頃讃岐の歌人(増補改訂讃岐人名辞書入)
- S1557 **勝成**(かちなり・川枯首かわかれのおびと)?-? 平安前期廷臣;従八上/刑部省判事少属、  
 本朝文粹;833野相公小野篁「令義解りょうぎげ序」に清原夏野等撰令義解の執議に参加の記事、  
 846勘解由主典;善愷事件の断罪文に入
- I1516 **夏虫**(かちゅう・伊藤いとう) ? - ? 大和長楽の俳人・狂歌;重頼門、  
 1671重以「新百人一句」の1人、1666「古今夷曲集」2首入、妻も狂歌作者、  
 [むつきながらあぢきじぎなく捨てられし子はそも何のむく犬の年](夷曲集;469、  
 戌の年道の辺の捨子を見て/睦月と襦袢・むく犬と報いを掛る/味気と時宜ぎを重ぬ)  
 妻 → 夏虫妻(かちゅうのつま・伊藤いとう、古今夷曲集入) N 1 5 1 3
- F1535 **何中**(かちゅう・荷中かちゅう・十河そごう、別号;半日斎/竹渭堂)?-? 大阪の俳人;才麿門、雑俳宗匠、  
 1719「俳諧土の餅」編、「松の梅」編、1696良弘「高天鷲」入  
 葭中(かちゅう・庄村) → 貞甫(ていほ・庄村しょうむら、商家/墳墓録) B 3 0 6 6  
 雅仲(かちゅう・高階) → 雅仲(まさなか・高階たかしな、廷臣/記録) F 4 0 0 7  
 雅忠(かちゅう)すべて → 雅忠(まさただ)  
 可仲庵(かちゅうあん) → 亀友(きゆう・可仲庵、俳人) M 1 6 2 0  
 可中庵(かちゅうあん) → 文角(ぶんかく・太田おた、俳人) E 3 8 9 2  
 霞柱庵(かちゅうあん) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C 4 0 6 4  
 花中逸人(かちゅういつじん) → 十江(じっこう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6  
 画中園(かちゅうえん) → 五葉(ごよう・田丸たまる、幕臣/俳人) N 1 9 8 5  
 花中人(かちゅうじん) → 傘狂(さんきやう・大野おのお、俳人) E 2 0 2 1  
 花中仙(かちゅうせん・河合) → 見風(けんふう・河合かわい、俳人/歌) C 1 8 9 7  
 牙籌堂(かちゅうどう) → 惟孝(これたか・小林/篠宮、和算家) O 1 9 4 4
- N1513 **夏虫妻**(かちゅうのつま・伊藤いとう)?-? 大和長楽に住/狂歌:1666行風「古今夷曲集」入  
 [万年も離れはせじな石亀のかうと約束かたき契りは](夷曲集;七447/寄亀恋かめによするこひ)
- N1514 **可緒**(かちよ) ? - ? 加賀の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」入  
 [葬あさがほのあはれをみだす盛り哉](月の夜)  
 雅緒(かちよ・久我こが) → 具房(ともふさ・久我、権大納言/歌) Q 3 1 4 9  
 臥猪(かちよ) → 一斎(いっさい・井筒いつづ、歌舞伎役/作者) C 1 1 7 9
- F1536 **花鳥**(かちよう) ? - ? 肥前長崎丸山の遊女/太夫、詩歌/俳諧、

1671成之「塵塚」入、1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入；

[伽羅きやらの香かや霜夜のほゝに泊まりがけ](女哥仙；31/ほほは懐ふところ；懐に香を留める)

- F1537 **可澄**(かちょう・丸山) ? - ? 常陸水戸の花押研究家；  
1690「花押藪」、1708「続花押藪」著
- I1517 **瓜頂**(かちょう) ? - ? 江中期江戸の俳人/宗因座沾涼せりよう側点者、  
1754竹翁「誹諧童の的」点句入
- N1515 **河鳥**(かちょう・都曲園ときよくえん、初姓；田口/のち向後むかじり) 1778-1848 71 向後源八の養子、  
下総香取の狂歌作者；浅草市人門、のち壺側判者、国学；平田篤胤門、1824「狂歌波の花」編、  
[都曲園河鳥(；号)の名/通称/別号]名；盈正みつまさ、通称；勘次/嘉右衛門、  
別号；浅波庵/大漁夫
- 可長(かちょう・朝比奈あさいな) → 可長(よしなが・朝比奈、武術家) F 4 7 2 7  
可澄(かちょう・池田) → 京水(きょうすい・池田いけだ、医者) O 1 6 1 3  
可澄(かちょう・田代/丸山) → 活堂(かつどう・丸山/山、藩士/和学) H 1 5 8 2  
可澄(かちょう・森) → 可澄(よしずみ・森もり/荒木、国学/歌) P 4 7 6 2  
可朝(かちょう・小川地) → 喜広(きひろ・小川地おがわち、神職) G 4 7 6 5  
河澄(かちょう・興野) → 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1  
佳朝(かちょう) → 三津五郎(4世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 4 0  
嘉長(かちょう・西河) → 嘉長(よしなが・西河しかわ、医者/歌人) Q 4 7 2 1  
嘉朝(かちょう・原田) → 嘉朝(よしとも・原田はらだ、国学/歌人) O 4 7 6 7  
嘉鳥(かちょう・佐久間) → 義隣(よしちか・佐久間さくま、農業/国学) M 4 7 9 6  
霞鳥(かちょう) → 豊綱(とよな・真野まの、神官、国学/俳) R 3 1 3 0  
霞朝(かちょう・諏訪) → 頼武(よりたけ・諏訪すわ、神職/国学) N 4 7 4 1  
華頂(かちょう；道号) → 文秀(ぶんしゅう；法諱、黄檗僧) F 3 8 6 9
- C1538 **賀朝**(がちょう；法諱/法師) ? - ? 平安前期天台叡山僧、歌；後撰1163(不倫の歌)、  
拾遺1032(娘をからかう歌)、女性にだらしなない僧？、  
[身投なぐとも人に知られじ世の中に知られぬ山を知るよしもがな](後撰；雑1163、  
人の妻に通ひけるに見付けられて/世間の知らない山を知りたい)
- N1516 **瓦長**(がちょう・大井おおい・土井) ? - ? 江戸中期大阪の俳人；才麿門、「壺万句集勝句」著、  
享保(1716-36)頃「潘山瓦長両評秀吟三百番」評
- N1517 **雅晁**(がちょう・丹羽にわ、名；信方、魯水男) 1779-1862 84 上州桐生広沢の俳人；「真砂集」著
- 雅澄(がちょう・鹿持) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9  
雅澄(がちょう・村上) → 雅澄(まさずみ・村上むらかみ、国学者) T 4 0 0 9  
雅長(がちょう・大中臣) → 雅長(まさなが・大中臣おおなかとみ、廷臣/歌) U 4 0 1 4  
雅長(がちょう・北原) → 雅長(まさなが・北原きたはら/神保、藩士/歌) P 4 0 2 9  
雅晁(がちょう・寺村) → 百池(ひやくち・寺村てらむら、商家/俳人) E 3 7 6 6  
雅朝(がちょう・飛鳥井) → 雅朝(まさとも・飛鳥井あすかい、廷臣/歌人) E 4 0 6 1  
雅朝(がちょう・室町/藤原) → 雅朝(まさとも・室町/藤原、廷臣/連歌) E 4 0 6 2  
雅朝(がちょう・中院/白川) → 雅朝(まさとも・白川/源/中院、神祇伯) E 4 0 6 5  
雅朝(がちょう・石山) → 雅朝(まさとも・石山いしやま/毛内、絵師/歌人) N 4 0 6 1  
賀朝(がちょう) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5  
花鳥庵(かちょうあん) → 貞旭(ていきよく・岡、俳人) 3 0 6 1  
花鳥庵(かちょうあん) → 甲子三(かねぞう・萩原はぎわら、神職/国学) V 1 5 3 8  
臥蝶園(がちょうえん) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4  
花鳥翁(かちょうおう) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2
- G1502 **花蝶組**(かちょうぐみ；組連) ? - ? 江中期武蔵浦和の雑俳の組連、  
取次；1749「菊丈評万句合」入、  
取次例；[つめらるゝ爪に爪なし馴染の手](前句；快い事々々)
- 花調斎(かちょうさい) → 若人(じゃくじん、俳人雑俳点者) G 2 1 2 8  
花朝子(かちょうし・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3  
華頂尊者(かちょうそんじや) → 源空(げんくう；法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1

- 花鳥長老(かちょうちやうろう)→ 了阿(りやうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1  
花鳥亭(かちょうてい) → 翠川(すいせん・世古・瀬古せこ、俳人) 2 3 0 3
- S1590 **花朝尼**(かちょうに・三田さんだ、名;みほ子)1798-1888<sup>91歳</sup> 駿河府中の生、歌;香川景樹・黒川真頼門、幕府御家人三田家の妻/三田葆光かほみの母、江戸/東京住、  
「箱館日記」著(息子葆光の箱館奉行勤務に同行)  
歌:1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;息葆光と入集)、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[晩稲おしぬ干す門田のはてに鳴く百舌鳥のさへづる声も秋ふけにけり]、  
(大江戸倭歌;秋807)  
[限りなき君が御代にか十かへりの松も幾度いくたび花咲かすらむ](現存百人一首;26)
- 花鳥園(かちょうへん・今村)→ 信正(のぶまさ・今村いまむら、国学者) H 3 5 4 4  
華蝶楼(花蝶楼かちょうろう)→ 国周(くにちか・豊原、荒川/大島、絵師) B 1 7 5 5  
嘉直(かちよく・星野ほしの) → 嘉直(よしなお・星野ほしの、歌人) K 4 7 7 0  
雅直(がちよく・飛鳥井) → 雅直(まさなお・飛鳥井/藤原、廷臣/記録) E 4 0 9 7  
雅直(がちよ・鐙木) → 雅直(まさなお・鐙木かぶらき、藩士/砲術/歌) O 4 0 9 4  
雅直(がちよく・木全) → 雅直(まさなお・木全きまた、商人/歌人) F 4 0 0 0
- I1518 **雅珍**(がちん/まさよし?・平山ひらやま)?-? 撰津俳人、直之の縁者?、狂歌:1666行風「古今夷曲集」3首入、  
[中汲みて扱ひぬれば此の井戸の際目さいめの論も水も澄みけり](古今夷曲集;九)  
(際目の論は境界をめぐる争い)  
雅陳(がちん・高倉/白川)→ 雅陳(まさのぶ・白川/源/高倉、神祇伯) F 4 0 5 6  
雅陳(がちん/まさのぶ) → 菊男(きくお・荒巻あまき、商家/俳人) K 1 6 0 4
- G1508 **克**(かつ・石川いしかわ、号;子復、通称;石克)?-? 詩人;石川丈山門、  
1676(延宝4)石川丈山詩文集「新編覆醬ふしう集」編・後序も
- T1577 **かつ**(・牛奥うしおく、別名;ふみ/田川、号;妙鏡、銀大夫女)1808-86<sup>79</sup> 紀伊藩老女;江戸市ヶ谷の生、  
初名;ふみ/1821(14歳)紀州江戸藩邸に出仕;[かつ]の名を賜う/美女の奥女中として活躍、  
香道・長刀・歌道などに精通/田川と改名;大奥作法指導、幕末維新の藩内権力闘争に連座、  
江戸に幽閉/のち許され1780(明治13)乞食老婆の姿で紀伊海士郡浜中村長保寺に至り住、  
堯海阿闍梨を戒師に尼となり;妙鏡と号し藩主の祖廟を生涯に渡り守る、  
仏を念じ余暇あれば喫茶詠歌し風流を楽しむ、法名;浄光院水月妙鏡禅尼  
勝(かつ・蓑田) → 田上尼(たがみのあま・蓑田、俳人) D 2 6 8 5  
勝(かつ・鈴木) → 亮(あきら・鈴木すずき/土濃塚、国学者) H 1 0 7 5  
活(かつ・人見) → 雪江(せつこう・人見、幕臣/儒者/詩) K 2 4 8 8
- T1544 **勝商**(かつあき・鳥居とりい、別名;勝高/通称;強右衛門すねえもん)?-1575 戦国期;三河国宝飯郡の生、  
奥平信昌の足軽、1575(天正3/36歳?)家康側の長篠城を守る奥平貞昌(信昌)に参戦;  
城は武田勝頼軍に包囲、強右衛門は岡崎の家康に援軍を要請する使者に志願;  
包囲網突破;織田・徳川軍出陣、その朗報伝達のため帰城寸前武田軍に捕縛;  
援軍無しの情報を強要され寝返りと見せかけて逆に[援軍近し]と城に向かって叫ぶ、  
勝頼は怒り強右衛門を殺害(1775/天正3)、奥平貞昌軍は士気高くなり長篠城を防衛;  
援軍総大将信長はその忠義を讃え墓を建立、英雄とされ息子信商は禄百石;  
さらに信商は関ヶ原戦で京の安国寺恵瓊を捕縛;禄2百石となり子孫繁栄、  
逸話;強右衛門は死を覚悟で長篠城を脱出する際に次の辞世句を詠んだとされる、  
[我が君の命に代わる玉の緒の何いとひけむ武士ものぶの道];のち武士道の理想の象徴、  
(松平春嶽[古今百人一首]入;52)
- N1518 **勝明**(かつあき・長尾ながお、松江藩士土屋つちや左京2男)1651-1706<sup>56</sup> 美作津山藩家老長尾共勝の養子  
津山藩士;家老4千石を継嗣、藩の弊政を改め文治政策を推進、  
「作陽志」編纂を企画し江村宗晋らに委嘱;1671(元禄4)、  
1697藩主森家改易に当り対策に奔走、のち出雲に幽居;その後松江藩に5百石で出仕、  
[勝明(;名)の通称/法号]通称;隼人/伊織、法号;法性院
- N1519 **勝明**(かつあき・岸さし、通称;蔵助、勝寅男)1740/42-1815<sup>76/74</sup> 伊賀上野藩士・兵学者、藩の子弟教育  
1779「三物考」97「用草私言」、「伊賀考」「学問三要」「国風大意」「伊賀土産記」
- N1520 **克明**(かつあき・関せき、関基寧[源蔵]の養子)1768-1835<sup>68</sup> 江戸の書家;関基寧門;その養子となる

1795土浦藩主土屋英直にお目見;藩士;中小姓見習次席/書札方格/書札方列を歴任、  
 儒者として藩子弟の教育、「行書類纂」(息子思亮と編纂);広く流布、  
 山崎美成/曲亭馬琴/谷文晁と交流、荻生鳳鳴の義弟、  
 [克明(;)名)の字/通称/号]字;子徳/徳、通称;忠蔵、号;潢南こうなん

N1521 **克明**(かつあき・慶徳けいとく/中川、慶徳誠之のぶゆき男)?-? 江中期;尾張大曾禰の片山八幡神社神主、  
 吉見幸和に従学、「狭漏彦或問」「十種神宝弁」「神官偽計弁」著  
 [克明(;)名)の通称] 兵庫

S1585 **勝明**(かつあき・柴田しばた、勝延男)?-? 江後期旗本/幕臣、父早世/祖父勝房の養子、  
 1806家督嗣;12代柴田岩五郎/寄合/本所火事場見廻/寄合肝煎/本所目付/田安家家老、  
 西丸御書院番、1841御役御免;菊間縁類詰、従後下、48致仕;家督を息勝全に譲り隠居、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [これも又霞のひまに立ちにけり遠き春野のひばり毛の駒](大江戸倭歌:210春駒)  
 [勝明(;)名)の通称/号]通称;岩五郎(代々)/三左衛門/出雲守、隠居号;素楽

U1575 **勝顕**(かつあき・柴田しばた/本姓;平、通称;左門)1794-182835 土佐高知藩士;土佐藩家老、  
 国学;平田篤胤門、1806(文化3)家老/1810(文化7)家督嗣/1817(文化14)減禄失職

U1559 **克明**(かつあき・黒田くろだ、通称;与惣兵衛)1798-187174 伊予松山の富豪(亀屋);大年寄役/国学者

C1539 **勝明**(かつあき・板倉いたくら、字;子赫、勝尚かつなお男)1809-5749 上野安中藩主;1820襲封/43奏者番、  
 儒/経史;林檎宇てい/古賀侗庵門、先儒の著述蒐集;「甘雨亭叢書」編纂、1834「西征紀行」、  
 1836「東還紀行」37「綽山吟草」48「延佇集」57「稍似物語」「病中筆録」「仁斎先生伝」外多数、  
 [勝明(;)名)の幼名/号]幼名;鶴五郎/百助、号;甘雨/甘雨亭/節山/節山人、法号;智照院

N1522 **勝明**(かつあき・齋藤さいとう、通称;正五郎/別号;百花園)1813-94 仙台藩士/儒・経史;桜田虎門門、  
 国学、連歌;猪苗代謙道門、本草学;植物採集、農政/天文暦数/地理/北条流兵学、  
 「探海拾玉」「雲烟過眼録」著

T1568 **勝明**(かつあき・石丸いしまる、)? - ? 江後期;弘化嘉永1844-54頃伊予和気郡三島神社祠官、  
 歌人;賀茂季鷹門

克明(かつあき・高橋)	→	道斎(どうさい・高橋、儒者)	E 3 1 3 7
克明(かつあき・山崎)	→	九臯(きゅうこう・山崎やまさき、医者/儒)	M 1 6 5 1
克明(かつあき・百々)	→	俊徳(しゅんとく・百々どど、医者)	L 2 1 6 7
克明(かつあき・蛭田)	→	玄仙(げんせん・蛭田ひるた、産科医)	K 1 8 6 3
克明(かつあき・服部)	→	壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人)	M 1 9 9 8
克明(かつあき・大野木)	→	克明(かつあきら・大野木おおのぎ、藩士)	N 1 5 2 3
葛亮(かつあき・坂上)	→	葛亮(くずしげ・坂上さかのうえ、帯刀/歌)	C 1 7 4 3
勝明(かつあき・高野)	→	蘭亭(らんでい・高野、儒者/詩人)	4 8 0 9
勝明(かつあき・加藤)	→	雲堂(うんどう・加藤、空門子/俳人)	B 1 2 5 8
勝明(かつあき・瀬谷)	→	桐斎(とうさい・瀬谷せや、藩士/儒者)	E 3 1 2 3

N1523 **克明**(かつあきら・大野木おおのぎ、初名;俊資/字;子徳、葛巻久俊男)1655-172672 金沢藩士;人持組、  
 幼少より学を好み和漢典籍を涉獵、前田綱紀に出仕、儒、歌人、葛巻昌興の兄、  
 1710祖父姓の大野木に改む、  
 「閑窓記」「教家要語」「鑑戒談叢」「葛巻新蔵雜記」著、  
 「警語榜文」編/1683「和漢諸氏訓誡」/1716「山中湯治日記」21「日記」著、葛巻昌興の兄、  
 [克明の通称/] 忠三郎/平次郎/新蔵/舍人

活庵(かつあん・大鶴)	→	定香(さだか・大鶴おおつる、医者/詩人)	H 2 0 8 6
劫庵(かつあん)	→	直躬(なおみ・前田、藩士/歌人)	C 3 2 5 2

C1540 **勝家**(かついえ・柴田しばた、修理亮)1522-1583. 4. 24自刃62 安桃期武将、信長臣;越前領主、  
 賤ヶ岳で敗戦、越前北ノ庄で妻お市の方(信長妹/故浅井長政の妻)と自刃

克一(かついち・中川)	→	黄庵(こうあん・中川ながわ、儒者/詩)	H 1 9 2 8
克一(かついち・宇佐美)	→	樸仙(ぼくせん・宇佐美うさみ、医者/儒)	D 3 9 6 5
家通(かつう・藤原)	→	家通(かどう・藤原、頭綱男/歌人)	E 1 1 6 5
家通(かつう・藤原)	→	家通(かどう・藤原基重、忠基男/歌人)	1 1 6 3
雅通(かつう・源)	→	雅通(まさみち・源、丹波中将、廷臣/歌)	H 4 0 3 9

- 雅通(かつう・源) → 雅通(まさみち・源、久我内大臣、歌人) 4 0 2 0
- N1524 雄氏(かつうじ・土方ひじかた、幼名;智千代/彦三郎、雄久かつひさ男) 1583-1638 56 伊勢菰野藩初代藩主、  
尾張犬山の生/豊臣秀吉臣/徳川秀忠臣;1615大坂攻略参戦/37致仕、「愚問賢答」問、  
[雄氏の通称/法号]通称;李之助、法号;見性院
- 喝雲叟(かつうんそう) → 笑嶺(しょうれい;道号・宗訥;法諱、臨濟僧) M 2 2 0 0
- 葛栄(かつえい・狛) → 葛栄(かざひで・狛こま、楽人) M 1 5 4 3
- 葛永(かつえい・芝) → 葛永(ふじひさ・芝しば、楽人) C 3 8 6 2
- 勝右衛門(かつえもん・谷山) → 知春(ともはる・谷山、歌人) Q 3 1 3 1
- 勝右衛門(かつえもん・菅原) → 南涯(なんがい・菅かん、菅原、篆刻家) I 3 2 6 3
- 勝右衛門(かつえもん・石井) → 雨考(うこう・石井いし、俳人) C 1 2 2 0
- 勝右衛門(かつえもん・小林) → 葛古(かっこ・小林こばやし、俳人) C 1 5 4 3
- 勝右衛門(かつえもん・山田屋/黒田) → 橘樹園(きつじゆえん・早苗さなえ、歌/狂歌) L 1 6 4 6
- 勝右衛門(かつえもん・大原) → 利明(理明としあき・大原/会田、和算家) L 3 1 9 5
- 勝右衛門(初世かつえもん・鶴沢) → 清七(3世せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 4
- 勝右衛門尉(かつえもんじゆう・松田) → 政行(まさゆき・松田/源、武士/連歌) I 4 0 1 8
- 葛園(かつえん・栗田くりた) → 維良(これよし・栗田くりた/高野、郷土史家) O 1 9 9 9
- 葛園(かつえん・中台) → 惇(あつし・中台なかだい、藩士/儒者) E 1 0 6 2
- 1524 堅魚(かつお・石上いそのかみ朝臣)?-? 奈良期廷臣;719従五下、728年大伴旅人弔問の勅使、  
式部大輔/736正五上、万葉三期歌八1472「記夷城歌」著
- C1541 勝雄(かつお・古瀬ふるせの;号、姓;松本まつもと、名;保固)?-? 幕臣/田安家の臣、狂歌:橘洲門・四方連、  
号の古瀬勝雄は季節外れの鯉の意、1782橘州「狂歌若葉集」編纂参加;30首入、  
1785「狂歌天の川」、「徳和歌後万載集」2首入/「狂歌才蔵集」入  
[船出せしうれし涙の水まして明日は願はん天の川どめ](吾妻曲狂歌文庫)  
[古瀬勝雄(;号)の字/通称]字;伯厚、通称;亀三郎/三甫
- 松魚(かつお・歌川) → 国清(初世くにきよ・歌川、幕臣/絵師/流罪) C 1 7 7 2
- 勝雄(かつお・北角/成島) → 衡山(こうざん・成島なるしま、幕臣/漢学/歌) J 1 9 2 6
- 勝雄(かつお・小出) → 清蔵(せいぞう・船越ふなこし、藩士/勤王家) D 2 4 2 0
- 聒翁(かつおう・鶴飼) → 拙斎(せつさい・鶴飼うかい、藩士/攘夷派) K 2 4 9 9
- C1542 勝興(かつおき・柴田しばた、勝重男/本姓源) 1612-1682 71 母;織田長政女、幕臣;1632家督/書院番、  
先手鉄砲頭/80致仕、駿河薩埵さつた峠修復の地図作成、歌:1662「柴田勝興富士百首」著、  
[勝興の通称] 山三郎/三左衛門、法号;悠山
- T1541 勝興(かつおき・小豆沢あずさざわ、) 1706-1776 71歳 出雲松江の歌人;明珠庵釣月・澄月門、  
水災飢饉に私財を献じた篤実家、晩年;京住;武者小路実岳門、  
[勝興(;名)の通称/号]通称;浅右衛門、号;常悦じょうえつ/百忍庵/転幽斎
- T1516 勝興(かつおき・羽太はぶと) ?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[払ふとか見えてもやがて風の中に積りかへたる竹の雪かな](大江戸倭歌;冬1267)
- W1500 勝興(かつおき・八剣やつるぎ、) 1706-1776 71 上総木更津の八剣八幡神社宮司、国学者、  
養嗣子;神崎興壽おきなが、八剣勝重かつしげ(1676-1723/八剣八幡神社神主)の一族、  
[勝興(;名)の初名/通称]初名;勝成、通称;壱岐亮いきのすけ/石見正いわみのしょう
- V1549 雄興(かつおき・土方ひじかた、義苗よしたね長男) 1799-1838 40 母;田沼意致女/江戸の生、国学・歌人、  
1835(天保6)父隠居;伊勢菰野藩10代藩主、1836従五下主殿頭、藩校修文館創設、  
学問奨励/儉約令強化、正室;九鬼隆郷女、雄嘉・興文・伊東長裕室・土方久己室の父、  
父に先立ち1838(天保9)没、長男雄嘉が家督嗣、  
[雄興(;名)の幼名/通称]幼名;彦丸、通称;主殿とも/出雲守、法号;見童院
- H1593 勝興(かつおき・岩崎) 1814 - ?1867存 遠州浜松藩士、歌人・村田春門門、  
1851「内則」/67「富士のね集」著
- 勝興(かつおき・宇佐美) → 良賢(よしかた・宇佐美うさみ、兵学者) C 4 7 6 3
- 勝興(かつおき・秋月/上杉) → 治憲(はるのり・上杉鷹山、藩主/儒) G 3 6 7 1
- 勝興(かつおき・小野) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6

- 葛屋(かつおく・久木) → 政壽(まさひさ・久木ひさき、藩士/国学/歌) G 4 0 5 9  
 勝臣(かつおみ・藤原) → 勝臣(かちおむ・藤原、歌人) C 1 5 3 6  
 勝海(かつかい・岡崎) → 勝海(かすみ・岡崎おかさき、藩士/国学) U 1 5 0 0  
 黠外(かつがい;道号) → 愚中(ぐちゅう;法諱・黠外、曹洞僧) B 1 7 4 1
- F1540 学海(がつかい・依田よだ、名;朝宗、貞剛男)1833-190977 下総佐倉藩士/儒;藤森弘庵門、1864郷兵頭、  
 1865江戸藩邸留守居役、將軍助命など国事奔走、詩文、1856-1901「学海日録」著、  
 「壬戌封事」「聴濤園起止録」「談叢」「譚海」著、  
 [学海の字/通称]字;百川、通称;幸造/信造/七郎/右衛門二郎  
 学海(がつかい・下郷/千代倉)→ 亀洞(きどう・下郷、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7  
 学海(がつかい・大久保) → 鷲山(しゅうざん・大久保、藩士/儒者) H 2 1 4 7
- W1510 勝謙(かつかた・山崎やまさき、)1794-185259 出羽平鹿郡の久保田(秋田)藩士/国学者;  
 久保田藩校明德館に修学/藩校国学教授、勘定役/銅山役を歴任、1852(嘉永5)没、  
 [勝謙(;)名)の字/通称/号]字;子益、通称;藤四郎/主殿とのも、号;詩瘦
- S1597 勝賢(かつかた・余語よご/本姓;菅原、通称;金八郎)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [鶯の声ものどかに此ごろは木毎の花のかげに鳴くなり](大江戸倭歌;春94/鶯鳴梅)
- 活庵主人(かつかつあんしゅじん)→ 直猷(なおみち・樫田かした、儒者) C 3 2 5 6  
 活々井(かつかつせい、活々士)→ 旧室(きゅうしつ・笠家/活井い、俳人) C 1 6 0 6  
 活々坊(かつかつぼう) → 旧室(きゅうしつ・笠家/活井い、俳人) C 1 6 0 6  
 葛起(かつき・芝) → 葛起(ふじおき・芝しば、楽人) C 3 8 4 0
- N1525 勝吉(かつきち・前原) ? - ? 俳人;1679「苧くそ頭巾おくそざきん」編;蝶々子一門の句集  
 勝吉(かつきち・村越) → 道伴(どうはん・村越、幕臣/記録) G 3 1 9 7  
 勝吉(かつきち・木村) → 蓬萊(ほうらい・木村きむら、儒者/詩人) C 3 9 6 6
- N1526 勝清(かつきよ・板倉いたくら、初名;重清/通称百助、泰円公、重同男)1706-8075 磐城泉藩主;1717襲封、  
 1735若年寄/46遠州相良転封/49上野安中藩主、69老中、「板倉佐渡守等書状写」著
- T1588 勝清(かつきよ・尾関おせき、)17786-184467 備前岡山藩士、国学・歌人;萩原広道・平賀元義門、  
 詩歌に長ず/能書家、  
 [勝清(;)名)の通称/号]通称;平九郎、号;五楽/南岡
- N1527 勝清(かつきよ・黒川くろかわ、別名;勝匡、)1780-185677 下野都賀郡壬生宿の雄琴明神社の社司、  
 国学;1802本居大平・春庭門、1814「神祇官長吉田卜部麻臣由来書」著  
 [勝清(;)名)の通称]通称;右近/豊前正
- U1562 勝清(かつきよ・小林こばやし、)1806-1888483 越後蒲原郡の大庄屋、高橋領、  
 国学・歌;橘守部門/書;屋代弘賢、  
 [勝清(;)名)の字/通称/号]字;廉夫、通称;亀六郎/九右衛門/森之進、号;勉所
- T1578 克清(かつきよ・内海うつみ/旧姓;田村/本姓;中臣、)1820-6546 伊勢度会郡の国学者;足代弘訓門、  
 [克清(;)名)の初名/通称]初名;延清、通称;只輔/久輔/駒三郎  
 克清(かつきよ・寺尾) → 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、儒者/詩人) J 1 5 5 1  
 勝潔(かつきよ・板倉/中嶋)→ 隆功(たかこと・中嶋、幕臣;領主/日記) L 2 6 8 7  
 夏玉(かつぎよ・嶺りょう) → 梅山(ばいざん・山領やまりょう/やまみね、藩士/儒者) B 3 6 3 0  
 夏玉堂(かつぎよくどう) → 迂斎(うさい・三浦みうら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
 蠮屈居(かつくつきよ・古賀)→ 侗庵(とうあん・古賀、儒者) 3 1 0 2  
 蠮屈子(かつくつきよ・安東)→ 侗庵(とうあん・安東、儒者) 3 1 7 7  
 勝熊(かつぐま・松永) → 貞徳(ていとく・松永、歌学者/俳人) 3 0 0 8
- F1539 葛溪(かつけい;矢入、名;藤雄)?-? 江中期駿河の詩人、稲川「思旧漫録」記事入、  
 上京、書;烏石(1699-1779)門、詩;熱海賦、誹諧を嗜む/阮を鼓し歌う;自由奔放な生き方  
 鶴溪(かつけい) → 末茂(すえしげ・福島/度会、神職/儒者) B 2 3 1 7  
 覚憲(かつけん・壺坂僧正)→ 覚憲(かくけん、興福寺別当) J 1 5 7 0  
 覚頭(かつけん、土御門) → 覚頭(かくけん、天台僧) J 1 5 7 1  
 覚兼(かつけん・上井うあい) → 覚兼(かくけん、諏訪、城主/連歌) B 1 5 4 4  
 確軒(かつけん・林) → 確軒(かくけん・林、儒者/詩) E 1 5 6 6

- 喝玄(かつげん;法諱) → 大虚(だいきよ;道号・喝玄、曹洞僧) J 2 6 6 6  
 葛元(かつげん・芝) → 葛元(ふじもと・芝しば、楽人) C 3 8 6 6  
 学賢(がっけん・魏) → 学賢(がくけん・魏ぎ、詩人) S 1 5 0 6  
 楽軒(がっけん・飯田) → 楽軒(がくけん・飯田いだ、藩士/儒者) J 1 5 7 6
- V1559 **勝子**(かつこ・古川ふるかわ、旧姓;池田)1704-33**早世30歳** 備中下道郡新本の薬種業古川護次の妻、  
 正辰まさとき(古松軒こしょうけん/1726-1807/地誌家)の母、国学・歌人  
 息子正辰 → 古松軒(こしょうけん・古川/橘、蘭学/地理) 1 9 3 3
- N1528 **勝子**(かつこ・小津おづ、剃髮号;慧勝えかつ、村田豊商女)1705-68**64** 松坂人、小津定利妻、本居宣長の母、  
 1762夫没後信濃善光寺で剃髮、「小津勝子書簡」著、  
 [勝子の法号] 清誉光雲恵勝法尼
- C1543 **葛古**(かっこ/くずふる・小林こばやし、名;正美、五郎一の長男)1793-1880**88** 信州北佐久郡大井村の俳人;  
 宮本虎杖こじょう(天姥てんぼ)門;俳号虎嶺庵梅喬、1815葛三門;俳号葛古、鈴木道彦門、  
 帰郷後に里正を務める/私塾を開設、1823「筑紫みやげ」編、「うがひ水」「近世至賢標」著、  
 「五智まうで」「倭漢合運追加」著、1866(慶応2)「葛古発句集」著、  
 [葛古(;号)の字/通称/別号]字;嵯父いふ、通称;勝右衛門/四郎左衛門、  
 別号;虎嶺庵梅喬、水篋家/無用
- T1517 **かつ子**(かつこ・山名やまな) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [山賤がかよひなれにし道をだに踏みたがふまで積る雪かな]、  
 (大江戸倭歌;冬1289/樵路雪)
- V1570 **勝子**(かつこ・増山ますやま、藩主正寧女)1820-1911**長寿91** 伊勢長島藩6代藩主の娘、歌人、  
 養子の伊勢長島藩7代藩主増山正修(1820-1869/庄内藩主酒井忠器男)の正室、  
 夫は1847日光祭祀奉行/65若年寄、4男4女の母、息子正方が廃嫡/幕臣増山正同まさとの養母、  
 1869(明治4)夫没後;法華院、正同が家督嗣、  
 [勝子(;名)の号]深雪/三雪子、法号;法華院
- V1576 **勝子**(かつこ・松田まつだ、森田利八女)1826-98**73** 江戸の酒屋の生/国学・歌人;佐々木弘綱門、  
 1837(12歳)因幡鳥取藩奥詰;江戸藩邸の藩主池田斉訓夫人に出仕、  
 松田宗英むねひで(信楽代官多羅尾家臣/?-1871)と結婚;近江甲賀郡住;師範学校などの教官、  
 女子教育の振興に尽力、1898(明治31)没(1897没72歳説あり)
- V1511 **かつ子**(勝子かつこ・土井どい)1836-1915**80** 丹後舞鶴の歌人;尾崎栄夫しお・須川信行門
- U1589 **勝子**(かつこ・伊達だて、初名;道子/於勝の方、松岡時良女)1837-1909**73** 歌人、  
 陸奥仙台藩13代藩主伊達慶邦よしくに(1825-74)の側室、伊達宗基・邦宗の母
- U1538 **かつ子**(かつこ・神崎かんだき、旧姓;福家)1844-1909**66** 讃岐高松藩士神崎資訓すけのりの妻、  
 国学;夫門  
 夫 → 資訓(すけのり・神崎かんだき/荘野、藩士/国学) I 2 3 3 2  
 葛子(かつこ→さきこ・松平) → 葛子(さきこ・松平まつだいら、藩主夫人/歌) N 2 0 2 2  
 葛子(かつこ→くずこ・吉野) → 葛子(くずこ・吉野よしの・吉の、狂歌) 1 7 5 0  
 月湖(がっこ、医僧) → 月湖(げっこ・潤徳斎、入明僧) H 1 8 0 0  
 学古(がっこ・円山) → 学古(がくこ・円山、儒/医者) J 1 5 7 7
- F1541 **鶴阜**(かつこう・小栗おぐり/本姓平、名;元愷/字;子佐/通称;七右衛門)1707-66**60** 若狭小浜儒者・程朱、  
 詩;柳川滄洲門、小浜で講説業/小浜藩儒?、「鶴阜詩集」著、「鶴阜先生遺稿」  
 勝阜(かつこう・日下部) → 勝阜(かつしか・かつたか・日下部くさかべ/奈佐、幕臣/国学) N 1 5 3 7  
 確平斎(かつこさい) → 南屏(なんぺい・座光寺さこうじ、儒/医者) J 3 2 4 0  
 羯鼓次郎(かつこじろう) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1  
 勝五郎(かつごろう・北) → 栄親(ひでちか・北きた、武将/軍記作者) D 3 7 1 8  
 勝五郎(かつごろう・池田) → 光仲(みつなか・池田いけだ、藩主/国学・歌) E 4 1 1 2  
 勝五郎(かつごろう・篠崎) → 三伯(さんぱく・篠崎しのさき、幕府医者) N 2 0 5 0  
 勝五郎(かつごろう・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3  
 勝五郎(かつごろう・喜多) → 親章(ちかあき・喜多きた/飯田、維親養子/国学) M 2 8 4 3  
 克五郎(かつごろう・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9

- F1542 **葛才**(かっさい、丁子屋7世)? - 1778 駿府安部川俳人;吏登門、葛人の兄、1783葛人「ものの親」入
- N1530 **筈斎**(かっさい・国島くにしま、名;宏、山沢次右衛門男) 1769-1826<sup>58</sup> 長門豊浦藩士、  
藩命で国島滄浪の養嗣となる、儒;蒲生貞固/小田済川門、遊学後藩校敬業館教授/侍講、  
「角島筆談」著、  
[筈斎の字/通称/別号]字;子長、通称;伝右衛門、別号;竹舌
- S1550 **葛斎**(かっさい・末守、通称;文兵衛)?-? 江後期安藝豊田郡南方村の俳人、  
[騎りかけの暎まげ拭ふや霧の中](短冊/のりかけは乗掛馬;荷をつけ旅人を乗せる駄馬)
- 葛才(かっさい) → 周竹(2世しゅうちく・平尾、俳人・蓼太門) I 2 1 0 8  
 葛斎(かっさい・関根) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6  
 葛斎(かっさい・今泉) → 恒丸(つねまる・今泉いまいずみ、俳人) D 2 9 8 0  
 活斎(かっさい・服部) → 範忠(のりただ・服部はっとり、医者/本草学) G 3 5 4 1  
 活斎(かっさい) → 是綱(ぜもう・活斎かっさい、俳人) E 2 4 7 5  
 聒斎(かっさい・鶴飼) → 拙斎(せつさい・鶴飼うかい、藩士/攘夷派) K 2 4 9 9  
 勝左衛門(かつざえもん・竹原) → 惟成(これなり・竹原、藩士/故実家;歌) O 1 9 6 2  
 勝左衛門(かつざえもん・鈴木) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学者/歌人) 2 1 1 2  
 勝左衛門(かつざえもん・篠木) → 信筋(のぶよ・篠木ささき/藤原、幕臣/歌) G 3 5 9 2  
 勝左衛門(かつざえもん・岩永) → 良頭(よしあき・岩永いわなが、国学者) L 4 7 6 9
- T1532 **勝貞**(かつさだ・安部あべ、旧姓;山県)?-1794 安部和貞の養子/長門萩藩士、和学者、  
[勝貞(;名)の別名/通称]初名;武貞、通称;忠之進/新左衛門
- T1532 **勝貞**(かつさだ・安部あべ、旧姓;山県)?-1794 安倍和貞の養子/長門萩藩士、和学者、  
[霜ふれど神や守らん冬枯れもしらぬみ垣の松の操は](寒松;萩の歌人)  
[勝貞(;名)の別名/通称]初名;武貞、通称;忠之進/新左衛門
- T1542 **勝貞**(かつさだ・小豆沢あずさざわ、)?-? 江後期;文化1804-18頃出雲意宇郡の歌人、  
国学・歌;清水古博さひろ(有慶/小豆沢良恭あずさわよしやす門)門、  
[勝貞(;名)の通称]通称;与一右衛門/与一郎/恵右衛門
- N1531 **勝定**(かつさだ・松平まつだいら、別名;晴正)?-1861 幕臣;書院番/家定の小姓/1851小姓頭取/先手弓頭、  
1849「弘化四年紅葉山御参詣之節御鏡餅御用相勤候節之留」、「日光一件」著、  
[勝定の通称] 忠左衛門/靱負佐/市正/大内記/縫殿頭
- N1532 **克楨**(かつさだ・神谷かみや、字;伯劣) 1788-1871<sup>84</sup> 尾張藩士;1811家督/23近衛基前室維学心院侍目付、  
京に住;故実/算学/本草学/画に通ず、蔵書家、「馬之凶」、「雑書」編、1856「蝦夷海隅談」著、  
[克楨(;名)の通称/号]通称;信太郎/喜左衛門、号;三園/蛙類斎あきょうさい
- N1533 **勝貞**(かつさだ・板倉いたくら、法号;芳俊院、勝喜男) 1801-49<sup>49</sup> 備中庭瀬藩主;1832襲封、撰津守、  
狂歌;四方歌垣[鹿都部真顔]門、「江之嶋詣之記」著、  
四方側判者の歌垣綾浪あやなみと同一?
- V1595 **克貞**(かつさだ・村瀬むらせ、通称;孫右衛門/号;楽波) 1803-83<sup>81</sup> 信濃飯田藩士、国学者/歌人、  
歌;村澤徳風のりかぜ門、須田清子きよこ(1829-1912/歌人)の父  
勝定(かつさだ・中川) → 景山(けいざん・中川なかがわ、藩士/詩歌) F 1 8 7 8
- N1534 **勝三郎**(かつさぶろう;通称・菅野すがの)?-? 江後期仙台藩士/1794頃江戸留守居、御城使、  
「封内忠孝之者書状」編
- 勝三郎(かつさぶろう・中村) → 政長(まさなが・中村なかむら、能役者) F 4 0 1 8  
 勝三郎(かつさぶろう・豊嶋) → 新四郎(初世しんしろう・姉川、歌舞伎役者) E 2 2 6 7  
 勝三郎(かつさぶろう・中村) → 勘三郎(8世かんだぶろう・中村、歌舞伎役者) D 1 5 7 4  
 勝三郎(かつさぶろう・安藤/司馬) → 江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学) 1 9 9 1  
 勝三郎(かつさぶろう・新庄) → 直容(なおかつ・新庄しんじょう、幕臣/歌) K 3 2 4 4  
 勝三郎(かつさぶろう・橋村) → 正代(まさよ・橋村はしむら/度会、神職/国学) R 4 0 6 4  
 勝三郎(かつさぶろう・伊沢) → 文谷(ぶんこく・伊沢いざわ、藩士/書画) F 3 8 2 5  
 勝三郎(かつさぶろう・楊井) → 松雄(まつお・楊井やない、藩士/国学者) P 4 0 2 4  
 勝三郎(かつさぶろう・小木曾) → 常春(つねはる・小木曾おぎぞ/島地、藩士/歌人) F 2 9 3 6  
 勝三郎(かつさぶろう・小西) → 長喬(ながたか・小西こにし/井沢、歌人) M 3 2 0 8
- C1544 **葛三**(かつさん・倉田くらた、名;覃ふかし) 1762-1818<sup>57</sup> 信州埴科郡松代の商家鼠屋の次男、

松代藩主真田家の家臣、俳人；天明1781-89頃宮本虎杖(天姥てんぼ)門、  
寛政初1789-頃加舎白雄門、以後長翠・春鴻らの後見を得て春秋庵/鳴立庵/虎杖庵を継承、  
人柄は[近日西行]と評される、1792「誹諧名家録」/95-7「春秋稿」6・7編、95「衣更着集」編、  
1801「風やらい」編、01「可那鱸」04「きのえね」06「頓字のあと」著、07「くさかね集」編、  
1815「豆から日記」、「葛三句集」(葛三没後に雉啄編)、  
[梅が香や暮るれば星のあらはるる](葛三句集)、  
[葛三(;号)の通称/別号]通称；久右衛門、

別号；朽仏・黙齋・騎鯨/奇鯨・秋暮園・春秋庵3世・鳴立庵しぎたつあん5世・虎杖庵こじょうあん2世

H1578 **葛山**(かつさん・星野ほしの、名；常富/当富、純堅男/本姓平)1773-1812<sup>40</sup> 信濃高遠藩士/1790近習、  
側用人/郡代、儒者；中根東平/坂本天山門、妻；天山女、子弟教育、1790「高遠記集成」編、  
1809「国郡管轄考」12「田制沿革考」、「武学拾粹」「国郡沿革考」「葛三隨筆」著、  
[葛山の字/通称]字；伯有、通称；蓐

N1535 **葛山**(かつさん・三浦みくら、名；貞充/大年、竜山男)1794-1854<sup>61</sup> 羽前新庄藩士/儒者；家学、  
江戸で昌平黌に修学、「葛三遺稿」、  
[葛山の字/通称]字；千秋、通称；良佐/寛右衛門

葛山(かつさん；法号) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7

喝山(かつさん・春海) → 痴漸(ちぜん・春海はるみ、茶人/鑑定/商家) N 2 8 3 5

S1577 **月山**(がつさん；法諱) ? - ? 江前期摂津の多田院ただのいの別当、  
多田院；970年多田(源)満仲が創設し源氏の菩提所となった兵庫県川西市にあった寺、  
俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[罪障さいやうの山やくづるゝ仏名会](手鑑/

12月19日より3日間三世諸仏の名号を誦し罪障を懺悔する禁中の法会)

月山(がつさん・菱川) → 月山(げつさん・菱川、儒者) E 1 8 7 7

葛山散人(かつさんさんじん) → 為篤(ためあつ・葛山くずやま・かざらやま/坂、藩士/地誌) S 2 6 3 1

W1525 **勝次**(かつじ・新妻にいうま、) ? - ? 江前期；上方の武士/歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]8首入、

[小山田に雁のふみおく跡をだにしぼしもとめず返すますらを](林葉累塵；春120)、  
[あづまより都にのぼる時道にてよめる、

ふじのねは更にもいはじいつとてか清見が崎の波の白雪](同集；雑1075)

N1536 **嘉津次**(かつじ・島田しまだ、名；貞孚、郷右衛門男)1755-1819<sup>65</sup> 熊本藩士/1783兄没のため家督、  
1785下益城郡代当分/89町奉行/1808大奉行/13中老；財政農政改革/17致仕、儒；蕪孤山門、  
1812「旧章略記」15「堀殿行状」著/16泰紀原編「孤山先生遺稿」再編、「撫松園遺稿」、  
[嘉津次(通称)の号] 撫松/撫松園

勝治(勝次かつじ・山田) → 梅村(ばいそん・山田やまだ、儒者/詩人) B 3 6 7 7

勝次(克次かつじ・青柳) → 種信(たねのぶ・青柳、藩士/国学者) R 2 6 9 3

勝次(かつじ・古屋) → 作左衛門(さくざえもん・古屋、儒/蘭学/幕臣) E 2 0 5 3

勝次(かつじ・松本) → 光清(みつきよ・松本まつもと、歌人) K 4 1 5 7

甲子庵(かつしあん・長野) → 馬貞(ばてい・長野ながの、医者/俳人) F 3 6 3 4

S1541 **かつしか**(；組連) ? - ? 武蔵葛西の雑俳の組連、

取次；1746「雲鼓評万句合」入、取次例；[石尊せきそんへ来て口の減る男伊達](万句合)

(前句；右も左もおそろしい山/伊達男も大山詣での難所では無口になる)

N1537 **勝臯**(かつしか・かつたか・日下部くさべ/奈佐、初名；勝美かつよし/勝躬、日下部勝英男)1745-99<sup>55</sup> 幕臣；  
1791兄勝岑の嗣；家督/西丸伺候、国学；山岡浚明門、古典考証、1773「疑斎」；広成批判、  
1775「いなむしろ」91「古語拾遺攷異」、「国号考」「山吹日記」「弘仁考」「通信考」著、  
「和国称呼考」「国造国司考」「山吹日記」著、

[勝臯の通称/号]通称；富之助/久左衛門、号；隅東、法号；自静じじょう院

葛飾蟹子丸(かつしかかにこまる) → 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃかにこまる、幕臣/狂歌) G 3 8 3 8

葛飾偶人(かつしかぐうじん) → 南北(なんぼく・東西庵、戯作/狂歌) 3 2 3 4

葛飾山人(かつしかさんじん) → 是心軒(初世ぜしんけん・一露、華道家) K 2 4 6 2

葛飾蕉門(かつしかじょうもん) → 素丸(2世そまる・溝口、幕臣/俳人) E 2 5 3 6

- R1595 **葛飾奈つみ** (かつしかのなつみ) ?- ? 狂歌;1787「才蔵集」入:  
 [ふる小袖ときほとゝぎす洗濯の盥のたがもかけたかと鳴](才蔵集)  
 勝鹿真間娘子(かつしかのままのおとめ) → 真間手児名(ままでのごな) 4 0 3 7  
 葛飾文々舎(かつしかぶんぶんしゃ) → 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃかにこまる、幕臣/狂歌) G 3 8 3 8
- C1545 **勝重** (かつしげ・板倉いたくら、好重男) 1545-1624<sup>80</sup> 三河額田郡出身/幼少時出家;中島村永安寺住僧、  
 父・弟の討死;1581家康の命で還俗/幕臣;1601京所司代;公家諸法度など制定、  
 1620致仕/京堀河に閑居、「京都諸掟書」著、  
 [勝重の通称/号]通称;甚平/四郎右衛門、号;香誉宗哲(;出家号)
- N1538 **勝重** (かつしげ・岡部、伊丹康勝3男) 1637-1717<sup>81</sup> 幕臣;家綱の小姓/1653父の遺領から2620石知行、  
 岡部と改姓、1675(延宝3)勘定奉行/1684(貞享元)山田奉行、従五下/駿河守、  
 1688「宇治年寄就訴論申渡儀ニ付テノ書状」著、  
 [勝重の通称]長吉/左近/覚左衛門、法号;廓円、息勝友の時伊丹に復姓
- N1539 **勝重** (かつしげ・堀内、通称;伝右衛門) ?-? 江前期熊本藩士・1666歩使番/中小姓/吟味奉行、  
 1702討入後の赤穂浪士を藩主細川家預りのため請取人となる、06致仕、  
 「義人遺事」編/「義士附録」「堀内伝右衛門覚書」「旦夕覚書」著
- N1540 **勝繁** (かつしげ・山角やかまど、通称;内記、昌長男) 1673-1730<sup>58</sup> 幕臣;1693大番/1700家督/01桐間番、  
 一時貶斥/1704大番に復帰;大坂城守衛、先祖定勝「小田原日記」書写校訂
- N1541 **勝重** (かつしげ・八剣やつるぎ/本姓藤原) 1676-1723<sup>48</sup> 上総望陀郡木更津の八剣八幡宮神主/正六位、  
 国学者;荷田春満門、1704「中臣祓句投」著、  
 [勝重の通称] 織部正おりのしょう/伊勢守いせのかみ
- N1542 **勝重** (かつしげ・若山わかやま、通称;弥太夫) ?-? 江中期阿波徳島藩の三木流兵学砲術師範、  
 「営陣巻」「攻城巻」「築城真贖」「権謀巻図説第三」著
- V1531 **勝重** (かつしげ・西尾にしお、) 1785-1850<sup>66</sup> 河内安宿部郡の豪農、歌人;尾崎雅嘉門、  
 雅嘉没後;1831(天保2)熊谷直好門、  
 家集「辰の冬詠草」、「天保三年辰のきさらぎ和歌詠草」編、  
 [勝重(;名)の通称/号]通称;兵右衛門、号;松齋
- S1582 **勝成** (かつしげ・松平まつだいら;本姓源/のち久松ひさまつ;本姓菅原、高松藩主松平頼恕3男) 1832-1912<sup>81</sup>歳、  
 母;浅田家女の正林院、伊予松山藩主松平勝善の養嗣子;1856(安政3)家督継嗣;  
 松山藩主/正三位/刑部大輔/式部大輔/侍従/信濃守/隠岐守/左近少将、  
 1860神奈川警衛/将軍家茂に供奉/64第1次長州征伐の一番手出兵、  
 第2次出兵時に占領した大島で配下兵が住民に狼藉;長州の恨みを買う;  
 1866謝罪の大使を大島に派遣するも松山藩の苦境の遠因となる、67隠居;  
 藩主の養子定昭が鳥羽伏見戦の梅田出兵で朝廷より蟄居を受ける;勝成が藩主再任、  
 土佐藩山内家による松山城進駐;恭順、1868維新後菅原[橘]姓の久松に改姓、1869藩知事、  
 東京に没/法号;夏裕院、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(姓;松平/本姓;源)、  
 [春寒み朝いの床のおきうきも忘るばかりに鶯の鳴く](大江戸倭歌;春89/朝鶯)  
 正室;松平定通女の令姫(清亮院)/継室;酒井忠学女の鋼姫かたひめ(1841-63/純光院/歌人)、  
 勝重(かつしげ・武村) → 森(しん・武村たけむら、儒者) E 2 2 9 2  
 勝重(かつしげ・塙) → 重義(しげよし・塙はなわ、藩士/攘夷論) T 2 1 1 7  
 甲子山人(かつしさんじん) → 文良(ぶんりょう・星野ほしの、藩抱絵師) G 3 8 7 5  
 甲子次郎(甲子二郎かつしじろう・水野) → 忠徳(ただのり・水野、幕臣/外交) Q 2 6 4 6  
 甲子太郎(かつしたろう・鈴木/伊東) → 武明(たけあき・伊東/鈴木、国学/剣術) O 2 6 2 2  
 甲子太郎(かつしたろう・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7  
 甲子麻呂(かつしまる・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
- F1543 **滑寿** (かつしゅ) ?- ? 医者;漢方、「十四経絡發揮」著
- 1523 **活所** (かつしよ;号・那波なば/祐、名;信吉/方/舩こ) 1595-1648<sup>54</sup> 播磨姫路の豪農素封家の生、  
 上京;儒;藤原星窩門/程朱学・藤門四天王の1(羅山・尺吾・杏庵と)、  
 1623肥後熊本藩主加藤広忠に出仕;1630致仕/帰京、1634紀州藩主徳川頼宣の儒臣、  
 「寛永諸家系図伝」編纂のため江戸に招聘;眼病のため固辞、帰京、  
 「通俗四書註音考」「老荘叢話」「鬼簿便覧」、随筆「活所備忘録」「活所備明録」「桜譜」、

「東山道紀行」「帝王曆数図」「活所稿」「老莊叢話」、詩文「活所詩文」「聯句長篇」著、  
木活字本「白氏文集」著(のち北宋刊本の旧伝として中国四部叢刊入)、「活所遺藁」10巻、  
[活所の字/通称]字;道円、通称;平八、木庵もくあんの父

- N1543 **勝女**(かつじよ/かつじよ、紙子問屋忠助女?)?-? 駿河府中(静岡)の俳人;籠細工職人の家の生、  
西鶴「日本永代蔵」三「紙子身袋の破れ時」の忠助の娘(破産後親に孝行;江戸の富者と婚)?、  
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、  
[天人の白粉おろい箱か富士の雪](俳諧女哥仙)
- T1526 **かつ女**(かつじよ) ? - ? 江後期;歌人、幕臣蜂屋光世家の人?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[万代の秋を重ねて照らすかな身を安くにの月の光は](大江戸倭歌;雑2022/月前祝)  
歌津女(かづじよ・花安) → 松江子(まつえこ・花安はなやす、歌人/書) R 4 0 8 3
- N1544 **葛松**(かつしょう) ? - ? 江戸の俳人、  
1773馬卯「双猿路談そうえんろだん」入;3世湖十中心、  
[露しもや宿の月日の暈かきの下](双猿路談)
- N1545 **葛城**(かつじょう・柘植つげ、名;常熙、竜洲男)1804-1774or8071or77 河内国分村の儒者;  
1819京の頼山陽門、医者;1827小石元瑞門、29帰郷;医業に専念、  
大和高取藩医に招聘;藩主に時局につき進言、詩社白鷗吟社入;詩会を主催、  
立教館を設立;郷里の子弟教育、  
「救荒私言」「傷寒論古義」「老子訓釈」「医案」著/「究理堂備用製薬帳秘」編、  
[葛城の字/通称]字;君績、通称;卓馬
- N1546 **克讓**(かつじょう・津久井つひ、通称;文讓)1808-7063 上州前橋の人/江戸で儒;亀田綾瀬門、医を修学、  
1841江戸浅草に産科を開業、1844帰郷して医を開業/詩人、「道聴録」「報諾集」著  
妻;磯子(助産婦;のち群馬県産婆会長)、息子;文讓(;名)  
克讓(かつじょう→こくじょう;法諱) → 克讓(こくじょう;法諱、真宗僧/詩歌) C 1 9 3 6  
葛松居(かつしょうきよ) → 露牛(ろぎゅう・宮崎みやざき、商家/俳人) 5 2 6 7  
葛松子(かつしょうし) → 杜哉(とさい・大貫、俳人) L 3 1 7 8  
豁如軒(かつじょけん) → 晴潭(せいたん・舟橋ふなはし、儒者/詩人) B 2 4 7 2  
勝四郎(かつしろう・堀田) → 花山亭笑馬(かざんていしやうま/-しやうば、戯作) F 1 5 0 8
- N1547 **勝次郎**(かつじろう・中条ちゆうじょう、名;澄友/字;思行/号;竜山)1800-4647 讃岐林田生/高松藩士、  
儒学/暦学を修学、武術家;劍術/拳法;新柔術を創始、「冬至筮占諸執行」著  
勝次郎(かつじろう・大沢) → 信豊(のぶとよ・大澤、幕臣) C 3 5 4 4  
勝次郎(かつじろう・堀尾) → 秀斎(しゅうさい・堀尾、医/儒/神道) X 2 1 2 8  
勝次郎(かつじろう・川口/渋川) → 正陽(まさてる・渋川/川口、幕臣) E 4 0 2 4  
勝次郎(かつじろう・永田) → 重継(しげつぐ・永田ながた、幕臣) Z 2 1 6 0  
勝次郎(かつじろう・高麗屋) → 交来(こうらい・武田、茶屋/傭書家/合巻) L 1 9 5 2  
勝次郎(かつじろう・鶴沢) → 清七(せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 2  
勝次郎(かつじろう・曲淵) → 景山(けいざん・曲淵まがりぶち、幕臣/奉行) N 1 8 4 2  
勝次郎(かつじろう・植松) → 是勝(ぜしやう・植松うえまつ/中村、和算家) K 2 4 6 0  
勝次郎(かつじろう・小川) → 香魚(かうぎよ・小川おがわ、農業/国学) Q 1 9 4 3  
勝次郎(かつじろう・幸田) → 草臣(くさおみ・幸田こうだ、国学/歌人) E 1 7 1 8  
勝次郎(かつじろう・佐々木) → 古信(ひさのぶ・佐々木ささき、藩士/歌人) J 3 7 6 3  
勝次郎(かつじろう・東尾) → 美雄(よしお・東尾ひがしお、国学者/歌) O 4 7 7 1  
勝治郎(かつじろう・中村) → 国香(くにか・中村、儒者/郷土史家) B 1 7 4 8  
勝次郎(かつじろう・青柳) → 種信(たねのぶ・青柳、藩士/国学者) R 2 6 9 3
- C1546 **葛人**(かつじん・小島こじま、通称;武左衛門)1751-8737 江戸の生/駿府安部川の俳人;蓼太門、  
1779「物の親」編/87「桑のねがい」著、  
[葛人の別号] 松柯亭/水荃廬、丁子屋8世、葛才かつさいの弟
- F1544 **關仁軒**(かつじんけん) ? - ? 浄瑠璃作者;1787下風と合作「安徳天皇兵器貢」著
- H1549 **活水**(かつすい・熊谷くまがい、名;立設/通称;永庵)?-1655 京の人/儒;堀杏庵きやうあん門/尾張藩儒、  
京と尾張を往復して講説、「蒙求鈔説」「列子口義」「莊子口義頭書」「扶桑名勝詩」著、

荔齋れいさいの父

- 活水(かつすい・浅石) → 長安(ながやす・浅石あさい、軍学) G 3 2 2 0
- V1524 勝祐(かつすけ・中村なかむら、) 1805-1891<sup>87</sup> 近江野洲郡の庄屋、歌人; [鳩のうみ] 入、  
[勝祐(;)名)の通称/屋号]通称; 清右衛門、屋号; 大清
- 勝祐(かつすけ・大関) → 良永(よしなが・宇佐美うさみ/大関、兵学者) F 4 7 2 8
- 勝介(かつすけ・吉田) → 豊文(とよふみ・吉田よしだ、藩士/国学) W 3 1 9 5
- 勝助(かつすけ・芝屋) → 芝叟(しそう・司馬、永富/雄崎、浄瑠璃/歌舞伎作者) E 2 1 4 6
- 勝助(かつすけ・伊勢屋) → 静廬(せいろう・北、国学/歌、狂歌) D 2 4 2 3
- 勝助(かつすけ・遠藤) → 鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者) H 1 5 2 9
- 勝助(かつすけ・牧) → 蔭路(かげみち・牧まき、国学/歌) V 1 5 6 8
- 勝澄(かつすみ・山崎) → 岡臥(こうが・山崎、藩士/軍学/俳人) H 1 9 8 2
- 葛生(かつせい・斎藤) → 明敏(あきとし・齋藤さいとう、藩士/歌人) H 1 0 6 6
- 喝石(かつせき・寺田) → 無禅(むぜん・寺田てらだ、書家/儒) 4 2 7 9
- 葛仙(かつせん) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0
- 葛仙翁(かつせんおう) → 一蜂(いっぽう・河曲かわむ、俳人) B 1 1 6 6
- 喝禅道和(かつぜんどうわ) → 道和(どうわ; 法諱・喝禅、黄檗渡来僧) I 3 1 5 2
- 葛鼠(かつそ) → 綾足(あやたり・建部、国学/俳/歌) 1 0 2 8
- 喝祖(かつそ; 号) → 一音(いちおん、噯居士はなびのこじ、俳人) B 1 1 1 5
- 勝三(かつそう・小笠原) → 昨雲(さくうん; 入道号・小笠原、兵学者) H 2 0 2 2
- 勝造(かつぞう・井上) → 井月(せいげつ・井上いのうえ、浪人/俳人) B 2 4 1 8
- 勝蔵(かつぞう・山崎) → 忠央(ただなか・山崎やまさき、藩士/儒者) Q 2 6 2 6
- 勝蔵(かつぞう・大塚) → 同庵(どうあん・大塚おおか、蘭学/医者) 3 1 9 3
- 勝蔵(かつぞう・津阪) → 木長(ぼくちよう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3
- 勝蔵(かつぞう・佐野) → 正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0
- 勝蔵(かつぞう・植松) → 是勝(ぜしょう・植松うえまつ/中村、和算家) K 2 4 6 0
- 勝蔵(かつぞう・里見) → 夢羅久(むらく: 初世・朝寝房、落語家) D 4 2 1 2
- 勝蔵(かつぞう・粉川屋) → 春信(はるのぶ・一色いっしき、商家/国学) J 3 6 3 9
- 勝蔵(かつぞう・山口) → 養生(よしなり・山口、国学者) P 4 7 8 2
- 勝蔵(かつぞう・菱屋/鎌田) → 一窓(いつそう・鎌田かまた、心学者) D 1 1 7 8
- 勝蔵(かつぞう・小野) → 鶴山(かくざん・小野、儒者) H 1 5 2 7
- 喝祖坊(かつそぼう) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4
- N1548 勝阜(かつたか・井深いぶか、通称九郎兵衛、勝輔男) 1696-1768<sup>73</sup> 会津藩士/和算家。「方円伝」著
- V1560 勝孝(かつたか・別府べつふ、) ? - 1827? 江後期; 伊勢津の国学者・歌; 本居春庭(1763-1828) 門、  
国学: 富樫広蔭(1793-1873) 門、1819(文政2) 賀茂真淵「伊勢物語古意」の写本、  
[勝孝(;)名)の通称] 連三郎/次郎右衛門
- N1549 克孝(かつたか・石塚いづか、通称六郎兵衛) 1808-43<sup>36</sup> 庄内藩士/和算家; 庄司伴蔵門、  
1836江戸で研鑽、1843印旛沼開削の場所検分頭取; 同地で疫病没、  
1836「石塚六郎兵衛算術」38「時習算題」著、「階梯天生法」著、「算法切磋解義」編
- 勝高(かつたか・鳥居) → 勝商(かつあき・鳥居とりい、戦国期武人) T 1 5 4 4
- 勝孝(かつたか・北島) → 勝孝(かつり・北島きたじま、神職/国学) U 1 5 5 0
- 勝阜(かつたか・奈佐) → 勝阜(かつしか・日下部くさかべ/奈佐、幕臣/国学) N 1 5 3 7
- 勝敏(かつたか・大竹) → 勝敏(かつひろ/かつたか・大竹、幕臣/歌) S 1 5 7 9
- 藤鷹(かつたか→とうよう・中山) → 城山(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩) S 2 2 6 0
- 且隆(かつたか・片桐) → 且昭(かつてる・片桐かたざり、幕臣) N 1 5 5 4
- N1550 勝彪(かつたけ・板倉いたくら、字; 形卿、勝固男) 1779-1850<sup>72</sup> 肥前島原藩士; 1809家督/家老職、  
藩政参与、武芸; 竹内流槍術の奥義; 同流再興、1848致仕、歌; 鳥山光胤/外山光実門、  
「候梅亭集」「丹波紀行」「富士紀行」、1812「竹内流秘伝之巻」17「竹内流免許之巻」著、  
[勝彪の幼名/通称/号] 幼名: 隼之助、通称; 八右衛門、号; 候梅/楽山
- N1551 勝武(かつたけ・戸田とだ、通称; 清太夫) 1650-1724<sup>75</sup> 金沢藩士; 1685家督/御普請奉行/御先筒頭、  
前田吉徳御守御用、「御国絵図16ヶ村之義=付被仰達候趣」著、養嗣子; 守勝もりかつ

- W1552 **勝忠**(かつただ・山本<sup>まもと</sup>/本姓;藤原、阿野実頭4男)1608-5447 母;ト部兼治女/公業の弟、  
 廷臣;1622左京大夫、正四下/44左中将/46(正保3)従三位/48(慶安元/41歳)参議、  
 1652正三位/54(承応3)辞任;没、  
 歌;1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加(父阿野実頭・兄阿野公業と)、  
 [逢ふまでとかけて頼みし玉の緒のこよひうれしき新枕かな](後鳥羽院忌;64/初逢恋)
- N1552 **克忠**(かつただ・大塚<sup>おおつか</sup>、名;頭/義知、松<sup>しょう</sup>処<sup>しよ</sup>男)?-1778 佐賀藩士/儒者;父門/父に先立ち没、  
 「克忠遺稿」
- V1579 **勝督**(かつただ・的場<sup>まとは</sup>、)1758-184184 山城淀藩士、国学/歌人;小沢蘆庵・村田春門門、  
 勝美<sup>かつよし</sup>の父、  
 [勝督(;)名の初名/通称/号]初名;勝秀、通称;勇太郎/喜内/源太夫/連太夫、号;良山  
 克忠(かつただ・石川) → 篤記(あつき・石川いしかわ、国学者) E 1 0 5 4
- C1547 **勝胤**(かつたね・広橋<sup>ひろはし</sup>、初名;兼胤<sup>かねたね</sup>、兼頼男)1715-8167 母;松平忠周女、江中期廷臣;  
 1738参議、1749権大納言/75従一位/76准大臣、1779勝胤と改名、賀茂・武家伝奏、  
 歌人;職仁親王門、日記「八槐記」「東行之日記」、1749「大嘗会次第并風俗御屏風和歌」、  
 「兼胤記」「都督雑鈔」「手習道指南」外著数、法号;恭徳院、伊光の父、  
 富士谷御杖<sup>みつえ</sup>の歌の師  
 勝太夫(かつたゆ・足代) → 弘魚(ひろな・足代<sup>あしろ</sup>/度会、神職/歌) G 3 7 5 7
- W1507 **勝太郎**(かつたろう・柳田<sup>やなぎだ</sup>、名;重遠<sup>じげ</sup>と、小右衛門男)1835-68戦死34 陸奥会津藩士、国学/歌人、  
 一刀流の剣法に長ず;豪侠慷慨の士、藩主の京都守護職に随い上京;伏見敗戦後脱藩、  
 柳田理記と改名;幕府軍古屋隊に衝鋒隊頭として上州梁田にて敗戦;自刎、  
 [そよと吹く風の便りを聞くなれば花は都に散るとこそ知れ]、  
 [勝太郎(;)通称]の別通称]虎松/理記  
 勝太郎(かつたろう・青柳/長野) → 種正(たねまさ・長野、歌人) S 2 6 0 6  
 勝太郎(かつたろう・飛田) → 逸民(いつみん・飛田とびた、儒者) H 1 1 9 6  
 勝太郎(かつたろう・司馬) → 遠湖(えんこ・司馬しば、儒者) E 1 3 6 9  
 勝太郎(かつたろう・中村) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1  
 勝太郎(かつたろう・河原) → 政心(せいしん・河原、藩士/砲術/礼法) I 2 4 9 1  
 勝太郎(かつたろう・白石) → 千別(ちわき・白石/小野、幕臣/歌人) K 2 8 5 3  
 勝太郎(かつたろう・小笠原) → 貞道(さだみち・小笠原、藩士/文筆家) J 2 0 7 8  
 勝太郎(かつたろう・山県) → 通政(みちまさ・山県/河野、藩士/勤王) C 4 1 5 6  
 勝太郎(かつたろう・木原) → 清香(きよか・木原きはら/永安、藩士/歌) U 1 6 0 4  
 葛覃(かつたん・伊藤) → 長秋(ながあき・伊藤、書家) D 3 2 0 9  
 葛覃(かつたん・池尻) → 始(はじめ・池尻いけじり、儒者/勤王) E 3 6 4 2  
 葛潭(かつたん・藤田) → 雅言(まさこと・藤田ふじた、藩士/国学者) S 4 0 3 1  
 葛覃居(かつたんきよ) → 玉瀾(ぎょくらん・徳山、町、大雅妻、絵師/歌人) P 1 6 4 0  
 台近(かつちか・金森) → 頼錦(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳) I 4 7 5 7  
 勝千代(かつちよ・武田) → 信玄(しんげん・武田、武将/戦国大名) D 2 2 9 8  
 勝千代(かつちよ・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5  
 葛鎮(かつちん・芝) → 葛鎮(ふじつね・芝しば/芝崎、雅楽/洋楽) I 3 8 3 4  
 豁通(かつつう・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1  
 瀾通仏性禅師(かつつうぶつしょうぜんじ) → 大空(だいくう;道号・玄虎、曹洞僧) J 2 6 7 3
- N1553 **克紹**(かつつぐ・小原<sup>おはら</sup>、字;子緒、慶山[霞光]男)?-1777? 長崎の儒者、絵師;父門、地誌家、  
 1770「長崎志続編」編、  
 [克紹の通称/号]通称;勘八、号;巴山/敬斎/敬修斎、法号;克紹巴山<sup>こくしょうはざん</sup>
- U1504 **勝綱**(かつつな・奥野<sup>おくの</sup>、号;寸松館)1757-181660 江戸の生/近江彦根住、  
 歌;小林義兄門/天文;浅野北水門、歌;[彦根歌人伝・亀]入  
 雄綱(かつつな・真名<sup>まな</sup>介<sup>すけ</sup>) → 黙霖(もくりん・宇都宮<sup>うつのみや</sup>、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0
- N1554 **且昭**(かつてる・片桐<sup>かたぎり</sup>、別名;且隆<sup>かつたか</sup>、為元男)1644?-168845 幕臣;1662兄為次早世のため相続、  
 寄合、1680「羽賀寺本奉納人麿和歌」84「片桐家由緒書」著、  
 [且昭の通称]通称;又七郎、法号;性海

- V1502 **勝映**(かつてる・立花たちばな、通称;金左衛門)1768-1852<sup>85</sup> 陸奥盛岡の国学者;三輪家入門
- N1555 **勝映**(かつてる・西郷さいごう)1779-1828<sup>50</sup> 駿河田中藩士/小姓・目付・町奉行、弓/馬兵法、和漢学、俳人;神谷峨月/4世完来門、句会雲溪連主宰、1822「俳諧葛葉」著、  
「完梁句集」「完梁序文集」「灯雪齋評月次句合集」著、  
[勝映の通称/号]通称;小市、号;灯雪齋/完梁
- 勝照(かつてる・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0  
 勝輝(かつてる・野沢) → 弘道(こうどう・野沢のざわ、藩士/兵法家) K 1 9 8 2  
 喝伝(かつでん;道号・衍灯)→ 衍灯(えんとう;法諱・喝伝、黄檗僧) F 1 3 2 5
- N1556 **勝任**(かつとう・板倉いたくら、通称;富之助/兵庫、勝里男)1736-66<sup>31</sup> 福島藩主;1765兄勝承の嗣、歌、江戸住;1752「板倉勝任詠草」著
- 勝任(かつとう・浅井) → 晴霞(きゆうか・浅井、儒者) M 1 6 3 7
- H1582 **活堂**(かつどう・丸山まるやま[母方姓]/修姓;山、名;可澄よしづみ、田代乗久2男)1657-1731<sup>75</sup> 水戸藩士、常陸久慈郡の生;母の旧姓[丸山]を称す、儒者;津田閑斎(信貞)門/神道;今井桐軒(順)門、彰考館入;1683初代管庫/出納役;57年間/光圀の命で[大日本史]史料蒐集に全国踏査、大日本史編纂事業参加、光圀の命で1690-1711「花押藪」(正・続)/1692「諸家系図纂」30巻編、「本朝姓氏類纂」「諸家系図纂」編/「筑紫巡遊日録」「活堂随筆」「可澄筆筆」「奥羽道記」著、「奥羽道記」「泰伯論」外著多数、丸山乗春のりはるの父、  
[活堂(;号)の字/通称/別号]字;仲活、通称;雲泉/雲平/運平、別号;混斎
- N1557 **活堂**(かつどう・今村いまむら、名;忠実、了庵男)?-1861<sup>早世</sup> 上州伊勢崎詩人;寺門静軒門、「活堂遺稿」
- N1558 **活道**(かつどう;通称・渡辺わたなべ)?-? 江後期江戸の医者;華岡青洲門、「甘露亭漫筆」著
- 瞎道(かつどう;道号) → 本光(ほんこう;法諱・瞎道、曹洞僧) F 3 9 3 2  
 活堂(かつどう・吉田) → 令世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6  
 活堂(かつどう・江馬) → 藤渠(とうきよ・江馬えま、藩医/本草学) C 3 1 7 4
- C1548 **活東子**(かつとうし・岩本いわもと/初姓;萩原、岩本蛙鷹かわづまる[達磨屋五一]養子)1841-1916<sup>76</sup> 江戸商人、神田の紙屋徳八方勤務/1863書肆達磨屋の養子/別家書肆二三屋を芝日陰町に開店、伝記;1856「戯作者六家撰」、1857-63叢書「燕石十種」編、66「武江年表補正」、「まのあたり」、  
[活東子の通称/屋号]通称;忠次郎/三七/三二/2世達磨屋佐七、屋号;達磨屋/二三屋
- T1567 **勝通**(かつとお・石河いこ、通称;求女/求馬、勝栄かつひさ男)?-1703 江戸幕臣、勝延(1686-1748)の兄、弟勝延が養子となり家督嗣、国学
- 勝脱(かつとき・牛込) → 重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3
- N1559 **勝才**(かつとし・辻つじ、通称;官太夫、勝規男)?-1730 筑後久留米藩士、船手組総頭役;洗切支配6代目、和漢学/詩文、「久留米府志」「近代将士伝」著
- V1513 **勝利**(かつとし・所ところ/本姓;源、)1712-1773<sup>62</sup> 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、  
[勝利(;名)の初名/通称]初名;具昭、通称;藤内とうない
- N1560 **勝隼**(克隼かつとし・野沢のざわ、別名;一隼/通称隼太、弘道養嗣子)?-? 江後期伊予松山藩士、兵法;同藩源家古法伝達者(;1807初伝/19皆伝/34-49師位)、「八幡殿奥儀之一伝」著
- U1546 **克敏**(かつとし・木村きむら、旧姓;長野)1792-1851<sup>60</sup> 伊予西条の国学者/歌人、  
[克敏(;名)の字/通称/号]字;士訥、通称;謙助/郁右衛門、号;力山
- T1595 **克敏**(かつとし・大野木おおのぎ、克貞2男)1843-64<sup>切腹</sup> 加賀金沢藩士/国学;高木有制ありのり門、勤王家;1864(元治元)叔父大野木源蔵克正と上洛;長州藩のために策動/金沢で自家禁錮、玉井勘解由邸にて切腹、  
[克敏(;名)の通称]通称;仲三郎
- 勝俊(かつとし・木下) → 長嘯子(ちやうしやうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3  
 勝敏(かつとし・辛島) → 並樹(なみき・辛島からしま、藩士/神職) L 3 2 6 6  
 克俊(かつとし・高橋) → 竹中(ちくちゆう・高橋、儒者) D 2 8 4 5  
 克敏(かつとし・名越) → 南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者) I 3 2 8 3  
 勝富(かつとも・庄司) → 道恕齋(どうじょさい、新吉原名主/随筆) F 3 1 5 4
- T1536 **勝具**(かつとも・秋田あきた/本姓;藤原、三五左衛門男)?-? 江中期天明1781-89頃;越前福井藩士、1742御小姓/50大番/55中奥筆頭/58父隠居;家督嗣;書院番/65書院番一番筆頭、

- 1767御使番;役料百石/70御徒頭/74御側物頭/80御目付助/82御広式御用人介、  
1789江戸御先物頭、国学/歌、  
[勝具(;名)の通称]通称;孫七/八左衛門、勝徴かつともの兄
- C1549 **勝徴**(かつとも・秋田あきた/本姓;藤原、幼名一学、三五左衛門男)?-? 江中期福井藩士/1775出仕、  
1786御使番、国学・歌;村上影面門、「帝陵考」著、勝具かつともの弟
- V1555 **克友**(かつとも・藤田ふじた、旧姓;田村、)1830-53**早世**24 伊勢度会郡の国学者、  
[克友(;名)の別名/通称]別名:広治/克知、通称;三郎/与右衛門  
勝知(かつとも・中村 不能斎(ふのうさい・中村、藩士/儒者) D 3 8 6 2  
勝豊(かつとも・亀田) → 小春(しょうしゅん・亀田、薬種業/俳人) T 2 2 0 2
- N1561 **勝名**(かつな・堀ほり、別名;完/字;君綽、勝行男)1716-93**78** 肥後熊本藩士;1733家督/小姓頭・用人、  
1752大奉行/56中老/65家老;藩主を助け藩政改革/奉行所に権限/藩校時習館開設、  
家集「呉淞園歌集」、「御刑法草書附例」著、  
[勝名の通称/号]通称;平太左衛門、号:巢雲、法号;瑞雲院
- V1518 **勝称**(かつな・中島なかじま、)1790-1855**66** 京の廷臣;近衛家内人;堀川近衛家屋敷住、  
歌人;香川景樹門、1841(天保12)隠居;剃髪;ノ翁べつおうと称す、  
[勝称(;名)の通称/号]通称;司書/ノ翁べつおう、号;柿園
- N1562 **勝尚**(かつなお・板倉いたくら、字;中行、綽山しゃくざん、勝政男/勝意養子)?-1820 上野安中藩主;  
1805勝意の跡を襲封、詩文、林述斎と交流、「綽山吟草」、「水雲問答」著、  
[勝尚の幼名/通称/号]幼名;鶴五郎/百助、通称;甚八郎、号;綽山/裕山堂/白雲山人  
葛直(かつなお・中嶋) → 随流(ずいりゅう・中嶋、俳人) 2 3 0 4  
勝直(かつなお・近藤) → 寡斎(かさい・近藤こんどう、藩士/儒/教育)H 1 5 4 4  
勝直(かつなお・中嶋) → 随流(ずいりゅう;号・中嶋、俳人) 2 3 0 4
- N1563 **勝長**(かつなが・大岩おおいわ、通称;嘉蔵/号;石鼓)1796-1865**70** 岩代会津藩士/国学;塙保己一門、  
医学寮師範、陣鼓、「尋温雑記」著、法号;秀賢院
- N1564 **勝長**(かつなが・山添やまぞえ、通称栄左衛門)?-? 江後期阿波徳島の国学者;本居大平門、  
1814「吹上の記」著
- N1565 **勝長**(かつなが・甘露寺かんろじ、法号;讓運、愛長男/本姓藤原)1828-70**43** 廷臣/1864蔵人頭/65左中弁、  
1868参議/左大弁/従三位、1862「氏院別当之事」、「春日祭辨要」「勝長朝臣記」「南曹雑誌」著  
勝栄(かつなが・窪田) → 清音((きよね・窪田くぼた、幕臣/武道) Q 1 6 0 9  
克長(かつなが・生野) → 臨犀(りんさい・生野いくの、儒者/教育) K 4 9 3 0
- N1566 **勝成**(かつなり・水野みずの、幼名国松、忠重男)1564-1651**88** 三河武将;1579家康の臣/諸所従軍、  
小牧長久手戦で父(刈谷城主)の勸気、1599まで流浪;和解/秀吉臣/1600家督;刈谷城主、  
大和郡山藩主/備後福山藩主に転封;福山築城/殖産興業;蘭草綿花栽培奨励/1639致仕、  
「長久手合戦記」「勝成記」著、  
[勝成の通称/法名]通称;藤十郎/六左衛門、法名;宗休、法号;徳勝院/大機院
- N1567 **勝生**(かつなり・由比ゆい、正勝男)1636-1719**84** 金沢藩士/1661家督/大小将組/77会所奉行、  
1691世子吉徳傳役/95足軽頭/13退隠、読書/文筆家:1701「袂草」19「懐恵夜話」著、  
「五書拔書」「江金往還」「由比五書拔書」「由比勝生発句集」著、  
[勝生の通称/号]通称;長次郎/三之丞/五郎左衛門/新五郎、号;暫留ざんりゅう
- U1573 **勝成**(かつなり・桜井さくらい、)? - 1753 近江彦根藩家老正木家の家臣、国学・歌人、  
歌;[彦根歌人伝・鶴]入、  
[勝成(;名)の字/通称]字;保跣、通称;他右衛門
- N1569 **克成**(かつなり・田村たむら、字;義仲/通称雄右衛門、正明男)?-? 日向高鍋藩士/儒;父門、  
1825藩校明倫堂教授;闇斎学信奉/33藩総奉行;藩政参画、「五経新注欄外書」著  
勝也(かつなり・飯塚) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7  
勝成(かつなり→かつしげ・松平) → 勝成(かつしげ・松平/久松、藩主/歌)  
勝登(かつなり・牛込) → 重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3  
勝鳴(かつなり・秋山) → 白賁堂(はくひどう・秋山、藩儒) D 3 6 8 4
- C1550 **葛南**(かつなん・横谷よこや、名;友直/字;子信)1726-1806**81** 大和五条儒者;小林肅翁門、  
上京;経学を修得、1763高辻氏侍読/1805帰郷;代官池田氏の王膳館教授、

中井竹山/履軒と親交、「葛南遺稿」

- 勝女(かつによ) → 勝女(かつじよ/かつによ、駿河府中の俳人) N 1 5 4 3
- 葛根(かつね・高須) → 葛根(つなね/くづね・高須、歌学) B 2 9 1 8
- 葛野(かつぬ・千葉) → 葛野(かどの・千葉、国学) 1 5 7 1
- 葛根(かつね・高須) → 葛根(つなね/くづね・高須、醸造業/国学) B 2 9 1 8
- 括囊(かつのう・留守) → 希斎(きさい・留守るす/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2
- 括囊(かつのう・鷹司) → 輔照(すけひろ・鷹司/藤原、関白/攘夷論) C 2 3 6 1
- 括囊庵(かつのうあん) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人) D 4 9 3 3
- 括囊院(かつのういん) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1
- 括囊斎(かつのうさい・大関) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1
- 活囊子(かつのうし・横井) → 時庸(ときもち・横井/井、藩士/地誌) K 3 1 1 4
- 括囊小隠(かつのうしょういん) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0
- 括囊道人(かつのうどうじん) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7
- 勝之進(かつのしん・児山) → 紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行) E 3 5 6 8
- 勝之進(かつのしん・井上) → 井月(せいげつ・井上いづえ、浪人/俳人) B 2 4 1 8
- 勝之進(かつのしん・片岡) → 芳香(よしか・片岡かたおか、藩士/歌人) M 4 7 2 0
- 勝之進(かつのしん・小林) → 延孝(のぶたか・小林こばやし/度会/出口、神職/国学) I 3 5 4 1
- 勝之介(かつのすけ・豊嶋) → 新四郎(初世しんしろう・姉川、歌舞伎役者) E 2 2 6 7
- 勝之助(かつのすけ・久世) → 重之(しげゆき・久世くぜ/源、藩主/漢学) T 2 1 0 0
- 勝之助(かつのすけ・久世) → 広誉(ひろやす・久世くぜ/源、藩主) F 3 7 0 3
- 勝之助(かつのすけ・渡辺) → 定斎(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士/儒者) J 2 2 1 0
- 勝之助(かつのすけ・岩淵/蘆野) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3
- 勝之助(かつのすけ・岡) → 熊嶽(ゆうがく・岡おか、絵師) B 4 6 0 4
- 勝之助(かつのすけ・力石) → 重遠(しげとお・力石ちからいし、幕臣/歌人) P 2 1 5 0
- 勝之助(かつのすけ・大久保) → 忠泰(ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/国学) W 2 6 1 0
- 勝之助(かつのすけ・新庄) → 直賢(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 0
- F1545 勝延(かつのぶ・田付たつけ) ? - ? 伊勢俳人、1683三千風と俳筵:「日本行脚文集」入
- N1570 勝延(かつのぶ・上杉うえすぎ、通称式部、藩主綱憲男)?-? 江前期米沢の人/歌・俳人、  
「奉夏日詠初学百首和歌并並百句発句」著
- U1528 勝延(かつのぶ・勝野かつの、通称;五太夫)1666-1745<sup>80</sup> 近江彦根藩士/国学者・歌人  
歌;[近江歌人伝・亀]入
- T1565 勝延(かつのぶ・石河いしこ、勝栄かつひさ男)1686-1748<sup>63</sup> 江戸幕臣;勝通かつとおの弟;のち養子、国学、  
御書院番、  
[勝延(;名)の初名/通称]初名;光通みつとお、  
通称;庄之助(父と同)/佐兵衛/清左衛門/忠左衛門
- N1571 勝信(かつのぶ・近藤こんどう) ? - ? 江中期1716-36頃絵師・肉筆美人画、  
1723「吉原むかし絵本」著
- N1572 克信(かつのぶ・狩野かのう、号;洞寿[洞樹]、波信(洞琳)男/本姓藤原)?-1777 将軍家絵師、  
1767「活花百瓶図」画、法号;石門院
- N1573 勝信(かつのぶ・溝口みぞぐち、通称佐兵衛)?-? 江後期金沢藩士/和算家:日下誠門、  
1809「雄山門弟愛宕奉額算題解」34「小供遊算法記」37「関流算法町見術」著、  
1846「溝口勝信之八算教授」、「和田後家書状写」「円内累円術」著
- 勝宣(かつのぶ・的場まとは、旧姓;磯谷)1818-90<sup>73</sup> 丹波篠山の生/山城淀藩士的場勝美かつよしの養子、  
国学/歌人、勝秀の父、  
[勝宣(;名)の初名/通称]初名;茂樹、通称;小十郎/矢左衛門
- N1574 勝信(かつのぶ・石田いしだ、通称丹波介)?-? 江後期1865-68頃京九条建仁寺町の儒者、  
1867「天賜御文具由緒書之写」著
- U1568 勝信(かつのぶ・佐久間さくま、)1842-66<sup>獄死25</sup> 豊前英彦山座主大僧正高千穂教有きょうゆうの家人、  
国学;原田種信門、1864(文久4)英彦山ひこさん内での尊攘活動で捕縛;66(慶応2)獄中死、  
豊前田川郡の出身

- 勝信(かつのぶ・梁田) → 毅斎(きさい・梁田やなだ、儒者) F 1 6 3 5  
 勝信(かつのぶ・千家) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2  
 勝信(かつのぶ・久永) → 眞事(まこと・久永ひさなが、幕臣/歌人) 4 0 7 7  
 勝信(かつのぶ・鈴木) → 亮(あきら・鈴木すずき/土濃塚、国学者) H 1 0 7 5  
 勝陳(かつのぶ・広橋) → 胤定(たねさだ・広橋、廷臣/記録/歌) R 2 6 7 8  
 勝範(かつのぶ・柴田) → 蛙水(2世あすい・柴田、俳人) E 1 0 4 5
- V1523 **克則**(かつのり・中村なかむら、) 1639-1683 45 近江彦根藩士、和学者/歌人; [彦根歌人伝・亀] 入、  
 [克則(;名)の初名/通称] 初名; 克寛かつひろ、通称; 千太郎
- V1528 **勝紀**(かつのり・成瀬なるせ/本姓; 藤原、) 1696-1744 49 近江彦根藩士、歌人; [彦根歌人伝・亀] 入、  
 [勝紀(;名)の通称] 所平/所右衛門/九右衛門
- N1575 **勝義**(かつのり・水野みずの、通称; 鎌三郎、幕臣勝英男/兄勝美の養子) ?-?1796 前没 武術家、  
 1778「類聚弓馬日記」、「高麗流馬書」「矢開聞書」著
- N1576 **勝伯**(かつのり・杉山すぎやま、通称; 啓助) ?-? 江後期伊勢山田の国学者、「小内人常祀雑録」著
- V1553 **勝準**(かつのり・福岡ふくおか、旧姓; 児玉) ?-1803 加賀江沼郡の大聖寺藩士; 先弓頭、国学者、  
 [勝準(;名)の字/通称/号] 字: 子弥、通称; 藤之助/丹蔵、号; 東郭
- T1599 **克典**(かつのり・岡おか、通称; 勇三郎) 1809-62 54 備中倉敷の商家; 坂口屋/国学者
- N1577 **勝則**(かつのり・永井ながい、初名; 勝考、丹治勝友男) 1832-82 51 松山藩士; 1854家督/60物頭・中老、  
 1864家老、/68戊辰戦争松山二番隊長; 戦功で毛利名授与される、「在勤日記」「陣中日記」著、  
 [勝則の通称] 莊太郎/文治郎/右衛門/丹治(父の継承)、毛利元太夫広明/毛利元一郎
- U1550 **勝孝**(かつのり・北島きたじま、通称; 眞主、重孝男) 1832-1910 79 出雲出雲郡の神職、国学; 本居内遠門  
 勝憲(かつのり・藤原) → 勝賢(しょうけん; 法諱、真言醍醐寺僧) I 2 2 3 6  
 勝則(かつのり・牧原) → 其彦(きりゅう・牧原まさはら、俳人) Q 1 6 5 0  
 勝徳(かつのり・梁田) → 毅斎(きさい・梁田やなだ、儒者) F 1 6 3 5  
 勝乗(かつのり・榊原) → 政邦(まさくに・榊原/源、藩主/歌人) C 4 0 3 7
- H1583 **葛坡**(かっぱ・高こう、名; 峻、改姓; 王) 1724-76 53 伊勢の漢学者/崇禎乱を避け明より渡来の子孫、  
 下総葛飾住/儒; 石島筑波門、京で講説、1752「漱石斎小艸録」70「弇州尺牘えんしゅうせきとく国字解」、  
 1771「大学国字解」、72「春秋左氏伝直音」校訂/73「葛坡山人杖杜だいと集」著、  
 [葛坡の字/通称/別号] 字; 伯起/維岳/道昂どうこう、通称; 嘉右衛門/小左衛門、別号; 伊斎
- N1578 **葛陂**(葛坡かっぱ・山口やまぐち、名; 文煥/字; 士章/別号; 玄亭) ?-? 江後期江戸橋町の詩人、  
 「葛陂詩稿」「山口玄亭上書」著  
 勝八郎(かつはちろう・伊地知) → 重張(しげはる・伊地知いちち、藩士/記録) S 2 1 2 5  
 活潑童子(かっぱつどうじ) → 筋笥(せつか・黒沢くろさわ、藩士/儒者) E 2 4 0 5  
 勝春(かつはる・高野) → 百里(ひゃくり・高野、魚問屋/俳人) E 3 7 8 3
- V1536 **勝彦**(かつひこ・袴田はかまだ/本姓; 藤原、勝文男?) 1778-1848 71 遠江城飼郡赤土村の農業、国学者、  
 国学/歌; 栗田士満・1827(文政10)本居春庭門、1825頃中山吉埴よしたねの月例歌会に参加、  
 [勝彦(;名)の通称/号] 通称; 友三郎、号; 扇田
- W1504 **克彦**(かつひこ・安井やすい、通称; 佐太郎、) 1795-1864 70 播磨宍粟郡の酒造業、国学者、克文の父  
 克彦(かつひこ・妻木) → 貞彦(さだひこ・妻木つまき、国学・神道家) J 2 0 3 9
- N1579 **勝久**(かつひさ・尼子あまこ、通称; 孫四郎、新宮党尼子誠久男) 1553-1578 自刃 26 戦国武将、  
 初め東福寺僧、1566晴久の富田城陥落/68還俗; 旧臣山中鹿之助らと尼子家再興を図る、  
 1569出雲回復、新山城を本拠; 1570布山戦で毛利氏に敗戦、  
 1573信長の支援で因幡に蜂起; 鎮圧される、  
 秀吉の支援で播磨上月入城; 1578上月城の戦で降伏/自刃、鹿之助らは捕虜、  
 後世に尼子十勇士物として陰徳太平記など軍記読本に脚色
- W1528 **勝久**(かつひさ・広沢ひろさわ、) ?- ? 江前期; 上方の歌人、  
 1670下河辺長流[林葉累塵集] 入、  
 [明けばまたいかに分けましょもすがらかりねの山につもる白雪](林葉累塵; 雑1074)
- T1566 **勝栄**(かつひさ・石河いしに/旧姓; 吉田、) ?-1701 江戸幕臣; 御書院番、国学者、勝通かつとお・勝延の父、  
 [勝栄(;名)の通称] 庄之助/左兵衛/喜左衛門
- T1560 **勝古**(かつひさ・池田いけだ/本姓; 橘、通称; 莊次郎) 1843- 遠江浜松笠井村の里正、

笠井村在住の商家池田庄三郎家の生;油・綿・米等の売買を営み市場参画/村役にも進出、  
兄庄三郎勝道かつみちと共に浜松藩主庇護の下で規模拡大、維新時の遠州報国隊の資金調達、  
国学/歌;有賀豊秋・平田篤胤門

勝久かつひさ・梅園) → 実緋(さねつな)・梅園/藤原、廷臣/歌) K 2 0 9 9

勝久(かつひさ)・神田) → 白龍子(はくりゅう)・神田、兵学/談義本) E 3 6 0 8

勝敵(かつひさ)・大竹) → 勝敵(かつひろ/かつたか)・大竹、幕臣/歌) S 1 5 7 9

N1580 勝秀(かつひで)・山屋やまや、勝興男)?-1763or16 陸奥盛岡藩士/御側役兼帯感情頭、和漢学に精通、  
「円子記」著、  
[勝秀の通称/号]通称;説字/勘齋/字八郎、号;紅山

T1589 勝栄(かつひで)・尾関おせき、旧姓;石田)1845-68早世24 備前岡山藩士尾関勝清の養子;岡山藩士、  
歌人;上田及淵門/国学;平田鉄胤門、  
[勝栄(;名)の通称]平吉

勝秀(かつひで)・北川) → 尚亭(しょうてい)・北川/寺西、藩士/儒者) U 2 2 3 8

勝秀(かつひで)・的場) → 勝督(かつただ)・的場まとは、藩士/歌人) V 1 5 7 9

勝仁親王(かつひとしんのう)) → 後柏原天皇(ごかしわばらてんのう)、歌人/連歌) C 1 9 2 6

勝姫(かつひめ)・前田) → 千間子(ちまこ)・前田、藩主の室/歌人) F 2 8 3 9

V1543 勝平(かつひら)・林はやし、又左衛門男)?-? 江中期元文1736-41頃;越前福井藩士;国学者、  
1741(元文6)父隠居;家督嗣/大番役、110石(役料百石)、1742(寛保2)御手廻/47御供目付、  
1751(宝暦元)御水主頭/67持物頭格・靈岸島目付兼帯/69(明和6)江戸表目付長袴格、  
1767(明和7)御新番頭、  
[勝平(;名)の通称]又左衛門(父の称を継嗣)

勝平(かつひら)・潮見) → 清麿(きよとも)・潮見しおみ、神職/国学) U 1 6 4 7

N1581 克寛(かつひろ)・大野木おおのぎ、通称;左膳/隼人/新蔵、克明かつあきら男)1699-175456 金沢藩士;大小将、  
小松城番/奏者番、「雑纂録」「雑観談叢」「大野木克寛日記」著

S1579 勝敵(かつひろ/かつひさ/かつたか)・大竹おおたけ、通称;長左衛門)?-? 江中期幕臣;進上取次番、歌;烏丸家門、  
1798刊石野広通「霞関集」入、  
[わりなしや枕たづぬる物ごしの声もまちかき小簾こすの隔は](霞関;恋720/聞声恋)

N1582 克寛(かつひろ)・久野くの、字;仲裕、号;元[玄]亀齋)?-? 江後期江戸古銭研究者、1796「弄銭奇鑑」著、  
1799「皇朝銭図」編/1807「銭幣考遺」07「銭幣考遺図象」編、「増定孔方図鑑」著

克寛(かつひろ)・中村) → 克則(かつのり)・中村なかむら、藩士/歌人) V 1 5 2 3

勝弘(かつひろ)・中村) → 竹香齋(ちくこうさい)・中村、儒者) C 2 8 9 9

勝弘(かつひろ)・高橋) → 東阜(とうふう)・高橋、商家/書家/俳人) D 3 1 8 3

葛伏庵(かつふくあん)) → 熊文(くまぶん)・生駒/土師はじ維熊、国学) D 1 7 4 3

S1581 勝房(かつふさ)・高橋たかはし) ? - ? 江後期紀伊和歌山の国学者;本居大平門、  
大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[小女等をとめらが着けせる衣の紫の色なつかしき藤の花かも](八十浦;773)

N1583 勝房(かつふさ)・高井たかい/本姓;藤原)1794-186572 上州群馬郡大類村の神職、俳人;逸淵門、  
1856「皇朝御覽こうちようごきやう極秘大事」59「神代正語籤」著、  
[勝房の通称/号]通称;佐衛門太夫明鏡、号;平花庵/心足

勝房(かつふさ)・雄崎/尼弥) → 貞右(ていゆう)・玉雲齋、商家/狂歌) 3 0 0 2

勝房(かつふさ)・贅川) → 勝己(かつみ)・贅川えかわ、歌人)

勝房(かつふさ)・野沢) → 弘道(こうどう)・野沢のざわ、藩士/兵法家) K 1 9 8 2

活仏上人(かつぶつしょうにん)) → 高演(こうえん)、法諱、真言醍醐寺僧) H 1 9 6 6

V1519 勝文(かつふみ)・中瀬なかせ/本姓;秦、中瀬以勝男)1772-180130 伊勢度会郡の国学者;本居宣長門  
[勝文(;名)の通称]左金吾

U1536 勝文(かつふみ)・河合かわい、)1821-187757 筑前福岡藩士、国学;平田鉄胤門、  
[勝文(;名)の通称/号]通称;茂左衛門、号;茂山

V1537 勝文(かつふみ)・袴田はかまだ、通称;太郎助)1735-181177 遠江城飼郡赤土村の農業、国学者、  
国学;栗田士満門、勝彦の父?

W1505 克文(かつふみ)・安井やすい、克彦長男)1826-7651 播磨宍粟郡の酒造業、国学者、

[克文(；名)の通称] 鹿次郎

勝文(かつぶみ・坪内/松平) → 定以(さだゆき・松平、幕臣/歌人) K 2 0 1 6  
勝文(かつぶみ・林) → 信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官) B 3 5 6 8  
勝文(かつぶみ・塙) → 一瓢(いっぴょう・塙はなわ、儒者) H 1 1 7 6  
葛粉(かつぶみ/くずこ・石川) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5  
勝平(かつへい・片桐) → 嘉保(よしやす・片桐かたざり、藩士/暦算家) H 4 7 7 9  
滑平(かつへい・大河原) → 亀文(きぶん・大河原おおがわら、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1

N1584 **勝兵衛**(かつべえ・北沢きたざわ) 1793-1869 77 信濃伊那生/1808孤島村酒造業北沢家の養嗣子、  
江戸で心学；曾根守愚門/帰郷；高遠藩内に心学を普及、藩財政の改革参画、  
「勤慎録」「積善録」著

勝兵衛(かつべえ・正木/三浦) → 為春(ためはる・三浦/正木、藩士/俳人) 2 6 7 1  
勝兵衛(かつべえ・永岡) → 久忠(ひさただ・永岡ながおか、藩士/馬術家) B 3 7 2 9  
勝兵衛(かつべえ・辻) → 紀耕(のりただ・辻つじ、農業/商家/歌人) J 3 5 1 7  
合浦(がっほ・北溟、読本) → 兎月(とげつ・手塚、俳人) L 3 1 6 4  
括峰(かつほう・人見) → 鶴山(かくざん・人見ひとみ、幕臣/儒詩) B 1 5 4 9  
栝峰(かつほう・野/人見) → 桃源(とうげん・人見、鶴山男/幕府儒官) D 3 1 4 2  
闊芳(かつほう・小堀) → 水翁(すいおう・小堀、藩士/泳術/書) E 2 3 2 0

S1534 **活鵬**(かつぼう) ? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」入、  
[数照らす窓のほたるに酔ふむすめ](二葉之松；273)

N1585 **勝馬**(かつま・蔭山かげやま) 1766- 1837 72 阿波美馬の生/徳島藩士、郷土史、  
「阿陽武勇記」著

U1503 **勝間**(加都麻かつま・沖おき) 1831-1923 長寿 93歳 安藝広島藩士、国学；末田種守(道麿)・大國隆正門、  
[勝間(；名)の号]号；古眼/真鍮/誠恐

勝馬(かつま・平井) → 復斎(ふくさい・平井、藩士/儒者) B 3 8 5 5  
勝馬(かつま・佐伯) → 淳信(あつのぶ・佐伯さえき、神職/国学/歌) H 1 0 6 2  
嘉津間(嘉津馬かつま・高山) → 寅吉(とらきち・高山、天狗小僧、国学) R 3 1 7 2  
葛麻庵(かつまあん) → 角丈(かくじょう・真宗僧・俳人) K 1 5 0 7  
活埋道人(かつまいどうじん) → 斉雲(さいうん；道号・道棟；法諱、黄檗僧) N 2 0 1 9

F1546 **勝政**(かつまさ・生松いくまつ) ? - ? 江前期大阪平野住の談林俳人；梅盛門、  
1673西鶴「生玉万句」第十歳暮発句等入/77以仙「難波千句」入、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[髪置やかゝれとてしも姥心](難波色紙；57/男女3歳冬11月15日初蓄髪し髻を結う、  
祝儀とはいえ3年間養育した乳母にとっては手放し難い；  
後撰集；1240遍昭/たらちめはかかれとてしもむば玉の我が黒髪を撫でずやありけむ、  
剃髪の時の詠/たらちめはここでは母)

N1586 **勝政**(かつまさ・木村きむら、通称；団四郎) 1674-1748 75 江戸兵法家/源家古法；大江元氏門、  
石上流軍用故実；鷹巢正義門、諸武術/諸流兵法修学、書画/彫刻/医術に通ず、  
伊予松山藩兵法師範、「幽冥論」著、「東巷先生遺書」、  
[勝政の号] 東巷/紫陽花散人/光山素隠子、法号；光山院、若狭佐柿城主木村定光の子孫

N1587 **克正**(かつまさ・中村なかむら、別名；重好/幼名長松) 1679-1751 73 金沢藩士/1692出仕/98奥小姓、  
1710奥小姓番頭/定番頭/47致仕、1721「石之名詮議留書」、「中村典膳覚書」著、  
1725「松雲公御夜話」(前田綱紀談話)編、46「松雲公御夜話追加」編、  
[克正の通称/号]通称；宇兵衛/典膳、号；已朽いきゅう

F1547 **勝政**(かつまさ・水谷みづたに) ? - ? 備中の人；備中松山城主水野家の流れを汲む、  
京で生育/淡路島に住、1749-52随筆「聞継物語ききつぎものがたり」(3巻)著

N1588 **勝当**(かつまさ・松平まつだいら、字；承卿/号；金台、尾張藩主宗勝男) 1737-1801 65 美濃高須藩主/義裕嗣、  
1795襲封/武芸；武器製作に精通、「兵械考証」「明画略譜」「和漢画人小伝」著

T1503 **勝正**(かつまさ・宇佐美うさみ) ? - ? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[行く春のなごりもそひてをしきかな花よりなれし有明の月]、

(大江戸倭歌;春366/暮春月)

- T1594 **克正**(かつまさ・大野木おのおのぎ、) 1827-8054 加賀金沢藩士/国学;高木有制ありのり門、藩主前田斉泰嗣子慶寧よしやすに出仕;側小姓/側役、1864(元治元)禁門変に慶寧に退京を進言;斉泰の命で能登島へ流刑/1868赦免、のち神官、[克正(;)名)の通称] 外三郎/源蔵、大野木克敏の叔父
- V1522 **克正**(かつまさ・中松なかまつ、旧姓;中村) 1829-7850 紀伊田辺藩士、国学者;熊代くましろ繁里門、[克正(;)名)の通称] 庫之助くらのすけ
- V1508 **勝昌**(かつまさ・津田つだ、通称;庫太) ?-1877 筑後久留米藩士、国学;中村水城(1838-1908)門  
勝正(かつまさ・不破/高瀬) → 遊山(ゆうざん・高瀬、藩士/歌) B 4 6 9 5  
勝正(かつまさ・黒川) → 豊麿(とよまる・黒川くろかわ、神職/国学) V 3 1 0 9  
勝政(かつまさ・生駒) → 等寿(とうじゅ・生駒いこま、藩士/絵師) E 3 1 8 5  
勝政(かつまさ・山崎) → 玩水軒(がんすいけん・山崎、儒・陽明学者) R 1 5 1 4  
勝政(かつまさ・吉田/溝口) → 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6  
勝政(かつまさ・榊原) → 香庵(こうあん・榊原さかきばら、藩士/記録) H 1 9 1 8  
勝匡(かつまさ・黒川) → 勝清(かつきよ・黒川くろかわ、神職/国学) N 1 5 2 7  
克昌(かつまさ・堤) → 梅通(ばいつう・堤つみ、俳人) B 3 6 8 2  
克昌(かつまさ・馬場) → 仲達(ちゅうたつ・馬場ばば、幕臣/本草家) G 2 8 6 3
- N1589 **克復**(かつまた・今井いまい) 1820- 1911長寿92 大阪天満の町年寄の家/1833(14歳)与力となる、歌人;中島広足門、能/茶/香道に通ず、1845「弘化乙巳紀行草稿」著、[克復の通称/号]通称;喜左衛門/与左衛門、号;松軒  
勝間田兵衛佐(かつまたひょうえのすけ) → 顕仲(あきなか・藤原、廷臣/歌人) 1 0 0 7  
勝間呂(かつまろ・七条) → 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌) G 3 8 3 0  
勝麻呂(かつまろ・三宅、日本紀略) → 藤麻呂(ふじまろ・三宅臣、国史選録) 3 8 0 7  
勝麻呂(かつまろ・高辻) → 家長(いえなが・高辻たかつじ、廷臣) E 1 1 9 0  
勝麻呂(かつまろ・千家) → 尊茂(たかしげ・千家せんげ、国学者/歌人) X 2 6 8 0  
勝麿(かつまろ・本多) → 秀如(しゅうによ;法諱、真宗誠照寺派僧) Y 2 1 1 7  
勝麿(かつまろ・小泉) → 勝善(かつよし・小泉こいずみ/岸田、神職/国学) S 1 5 8 7  
勝丸(かつまろ・檜垣) → 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6  
葛満(かつまん・芝) → 葛永(ふじひさ・芝しば、楽人) C 3 8 6 2
- C1552 **かつみ**(賀徒見かつみ・藤原ふじわら、藤賀徒見ふじがのかつみ、かつみの命婦) ?-? 平安中期女房歌人、元良もとよし親王[943没]・良岑義方よしかたと交渉、歌人;後撰511、[夕暮は松にもかゝる白露のおくる朝あしたや消えは果つらむ](後撰;恋511/返歌)、元良親王の贈歌;来くや来やと待つ夕暮と今はとて帰る朝あしたといづれまされり)
- C1553 **勝己**(勝己かつみ・贄川にえかわ、初名;勝房、号;蓬松庵) 1744-182380 信濃筑摩郡贄川宿本陣、歌人;香川景柄かげもと・桃沢夢宅門・香川景樹門、木曾谷桂園派の中核、正興の祖父  
[勝己(;)名)の通称]通称:嘉助/勝己法師
- U1500 **勝海**(かつみ・岡崎おかざき、) ? - ? 筑前福岡藩士、国学者;青柳種信(1766-1835)門、本居大平と交流、  
[勝海(;)名)の通称/号]通称;文右衛門、号;葵園
- V1500 **克巳**(かつみ・只野ただの、) 1808- 187063 陸奥仙台の国学者、  
[克巳(;)名)の通称/号]通称;欽吾、号;櫟軒れきけん/樗斎/武曲  
勝見(かつみ・小谷) → 芳蔭(よしかげ・小谷こたに、神職/国学者) M 4 7 7 4  
嘉都美(かつみ・小河内) → 殷教(ただのり・小河内こごうち、藩士/国学) W 2 6 9 9  
活実(かつみ・人見) → 雪江(せつこう・人見、儒/詩人) K 2 4 8 8  
勝美(勝躬かつみ・日下部) → 勝臯(かつしか・かつたか・日下部くさかべ/奈佐、幕臣/国学) N 1 5 3 7
- T1561 **勝道**(かつみち・池田いけだ/本姓;橘、通称;庄三郎) ?-? 江戸幕末期;遠江笠井村在住の商家、歴代池田庄三郎を名乗り油・綿・米等の売買を営み市場参画/村役にも進出、弟庄次郎勝古かつひさと共に浜松藩主庇護の下で規模拡大、維新時の遠州報国隊の資金調達、国学;平田鉄胤門、芳蘇寺の庫裏を一人で寄進  
克通(かつみち・小倉) → 三省(さんせい・小倉、藩士/儒者;南学) 2 0 5 3

- C1554 **勝光**(かつみつ・日野ひの、法号;唯称院、政光男/本姓藤原)1429-76**毒殺?48** 廷臣;1434(6歳)家督、1450参議/76左大臣/従一位/將軍義政室富子の兄;権勢と蓄財、押大臣と称される、没直後から医師竹田昭慶の毒殺説が流布、歌;1475「日野贈内大臣(政光)33回忌品経和歌」著、「日野勝光以下一門和歌短冊」「日野勝光輝資詠草並歌切」著  
勝己法師(かつみほうし) → 勝己(勝巳かつみ・贅川にえかわ、宿場本陣/歌) C 1 5 5 3
- N1590 **月明**(かつみょう;法諱・具覚;字、初法諱;日周、三条実冬男?)1386-1440**55** 日蓮僧;京妙本字日霽門、1403受戒、1393妙法寺5世・法眼/1413僧正;異例の昇進に叡山大衆が騒動;妙本寺破却、1416妙本寺再建;宗派對立起こる、1411「護国利生論」、1420「正像末三時之行相」著
- I1500 **葛民**(かつみん) ? - ? 大阪の俳人、1691賀子「蓮実」4句入、  
[春の日にきらきらみゆる都哉](蓮実;171)  
葛民(かつみん・人見) → 鶴山(かくざん・人見ひとみ、幕臣/儒詩) B 1 5 4 9  
勝以(かつもち・荒木) → 又兵衛(またべゑ・岩佐/藤原/荒木、絵師) J 4 0 5 5
- F1548 **勝元**(かつもと・細川、持之男/本姓源)1430-73**44** 武将;1442家督、山名持豊(宗全)の女婿、摂津丹波讃岐土佐の守護/1445以後3度の管領/義父宗全と対立;1467義政を擁立し応仁乱、東軍の将となり西軍の宗全と拮抗;戦乱長期化し病死、参禅;京竜安寺・丹波竜興寺創建、1453「君慎」、歌;幕府歌会参加、医書「壺蘭集」、連歌;1464?盛長「熊野法楽千句」参、新菟2句入  
[勝元の幼名/通称]幼名聡明丸、通称;六郎、法名;竜安寺宗宝仁栄
- C1555 **且元**(かつもと・片桐かたぎり、直貞男/本姓源)1556-1615**60** 近江浅井の武将;秀吉臣、戦功;賤ヶ岳七本槍、摂津茨木領主/秀頼の傅(後見)/1601大和立田藩初代藩主、1614方広寺鐘名事件で淀君により排斥、大阪城退去;のち家康により加増、1602「須磨寺奉加帳」著、  
[且元の別名]初名;助作、直倫なおとも/直盛/且盛、法号;顕孝院
- N1591 **勝基**(かつもと・西川にしかわ、通称甚左衛門)?-? 江前期和算家;大橋清行門、1684「算法指南」著
- N1592 **勝元**(かつもと・長尾ながお、正孝男)?-? 江後期讃岐高松藩士/公子松平頼該の記室、1849「和田津備渴船実記」著、弟の柏四郎を養嗣子、  
[勝元の通称/号]通称;織衛、号;藻城/武史/松渡
- V1505 **勝盛**(かつもり・谷口たにぐち、旧姓;谷梅)1716-64**49** 近江彦根藩士/歌人;秋岡千里門、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[勝盛(;名)の通称/号]通称;文左衛門、号;亀寿/雲谷山人  
勝守(かつもり・外山) → 光和(みつかず・外山とやま/藤原、廷臣) D 4 1 2 0  
葛野(かつや・千葉) → 葛野(かどの・千葉、国学・歌) 1 5 7 1  
勝弥(かつや・三輪) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6  
勝弥(かつや・檜垣) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7  
勝弥(かつや・葛西) → 正房(まさふさ・葛西かさい、国学者) O 4 0 7 4  
勝弥(かつや・工藤) → 巖治(いわじ・工藤くどう、藩士/洋学) I 1 1 4 1  
勝弥(かつや・野村) → 有信(ありのぶ・野村のむら/竹村、国老/歌) I 1 0 2 4  
葛野王(かつやおう) → 葛野王(かどののおおきみ、大友皇子男/詩人) C 1 5 6 0
- N1593 **勝康**(かつやす・阿川あがわ、法名;真牧しんぼく)1456-? 1534**存** 武将;大内家の雑掌、連歌作者;1513赤間関連歌会催、1529知恩院出家/1534「義隆真牧等山何百韻」
- W1519 **勝之**(かつゆき・伊丹いたみ/本姓;源、) ?-? 江前期;上方の武士/歌人、  
[天の戸の明くればやがて新玉の春の光の空にのどけき](忠能[難波捨草]春3)
- T1569 **勝行**(かつゆき・板倉いたくら、備中松山藩主板倉勝澄4男)1752-1773**早世22** 1766板倉勝任の養嗣子、陸奥福島藩主、従五下/備中守、大坂加番/倭約を奨励、正室・子なし、国学;賀茂真淵門、上野安中藩主板倉勝清5男の勝矩が家督嗣、  
[勝行(;名)の通称]安之丞/蔵人/備中守
- N1594 **勝之**(かつゆき・関せき、小山静麿2男、)1793-1857**65** 母;江戸木挽町万屋七郎兵衛女、江戸の生、1797(5歳)父没、父出身の豊後日出藩の城下に住/儒;1807帆足万里門、万里十哲の1、のち大阪の関居易斎門;塾生を指導/師没後関家を嗣ぐ;関居易斎の養子、1832日出藩士;大坂蔵屋敷留守居役に登用/34家老に抜擢/1854致仕、「四書註」著、

[勝之(；名)の幼名/字/通称/号]幼名:初之助/小太郎、字:子克、通称:準平/素平、号:蕉川、  
法号:靖恭院、讚蔵の父

- R1567 **勝幸**(かつゆき・山下やました、通称:鋼之助かたのすけ) ?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[しばしだにはなたぬ君が太刀となりて限りなきよをとものにへなまし]、  
(大江戸倭歌;恋1605/寄太刀恋、女の立場で)
- N1595 **克征**(かつゆき・大野木おおのぎ、克貞男) ?-? 幕末期;加賀金沢藩士、克敏(1843生)の兄、  
「公事場之定文録」著  
克之(かつゆき・長崎) → 四郎右衛門(しろえもん・船橋屋ふなばしや、商家/教育) V 2 2 4 3  
勝之(かつゆき・神戸) → 兼郁(けんいく・猪苗代/神戸、連歌) B 1 8 2 6  
勝之(かつゆき・長坂/小笠原) → 午橋(ごきょう・小笠原、儒者/詩) G 1 9 4 5  
勝之(かつゆき・増井) → 玄覧(げんらん・増井ますい、儒者/詩) F 1 8 0 1  
勝行(かつゆき;名) → 良尚法親王(りょうしょうほつしんのう、天台曼珠院中興) I 4 9 1 8
- N1596 **勝世**(かつよ・柴田しばた、通称:長五郎) 1768頃?-1848 80余歳/一説57歳 土佐藩士/京留守居役、  
国学/歌人、「鸚鵡草紙」著  
葛葉窠(かつようか) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8
- N1597 **勝吉**(かつよし・前原まえばら、通称安右衛門、勝次男) ?-? 江前期上州桐生天満宮神主;1661-73頃家督、  
俳人、1679「苧くそ頭巾」編
- N1598 **勝吉**(かつよし・井村いむら) ? - ? 江中期1704-36頃京の染物師/絵師、  
1712「風流雛形大成」、18「絵本稽古帳」、「丹前雛形」著
- F1549 **勝義**(かつよし・小野おの/本姓源) 1742-1804 63 京所司代組与力/歌人;小沢蘆庵門;四天王の1、  
歌学/加藤千蔭と交流;千蔭「答小野勝義書おのかつよしにこたふるふみ」あり、  
「小沢のながれ」編、「若葉集」入、  
[勝義の通称/号]通称:元太郎、号:自然斎、法号:瑞竜院
- U1554 **遂良**(かつよし・熊野くまの、通称:孫左衛門) ?-1810 江中後期宝暦1751-64頃;長門萩藩士;手本役、  
萩藩連歌衆、[いつはあれど秋こそわきて増りけれ月の桂の花の光は]([萩の歌人]入)、  
1778(宝永7)8月中秋の箕腰山荘歌会参加の遂亮と同一?  
[霧霞雲路にまがふ海原は幾重かたちし波のある島](遂亮:藍島萃靄/[萩の歌人]入)
- N1599 **勝喜**(かつよし・板倉いたくら/本姓;源、勝興男) 1765-1842 78 備中庭瀬藩主;1785兄勝志の嗣、  
国学;平田篤胤門、1803隠居、1790「板倉重矩著用甲冑記」著、  
[勝喜の通称/法号]通称:利次[二]郎としじろう/織部佑/主水佑、法号;心月院
- 01500 **勝義**(かつよし・上杉うえすぎ、勝熙男/勝定養子、本姓藤原) 1792-1858 67 米沢新田藩主;1815襲封、  
駿河/佐渡守、1842致仕、「詩稿」「好古堂隨筆」著、  
[勝義の幼名/号]幼名:勝文、号:好古堂/恬養軒(てんようけん)
- 01501 **勝由**(かつよし・伊与田いよだ、通称:宗茂) ?-? 江後期;三条西御家流香道家;飯田政宣門、  
「御家流組香集」編、「御家流香志」「御家流香道百ヶ条」「香道五月雨之記」著
- 01502 **勝美**(かつよし・的場まとば、通称:連助、勝督かつただ2男) 1798-1877 80 山城淀藩士/国学者・歌;父門、  
維新後;中教正、琴子の父、勝宣(かつのぶ)の養父、  
1857「飾馬考」著、「飾馬名義考」「五十音発揮立式」著
- 01503 **勝義**(かつよし・豊田とよだ、通称:伊三郎/号;有年) 1817-77 61 伊勢津藩士/和算;村田恒光門、  
諸所遊歴、藩に召還;伊賀上野詰/西洋算法に通ず、  
1842「算法楕円解」、「豊田算題集」「点竄初学解」著
- S1583 **勝敬**(かつよし・土方ひじかた/本姓;源、通称:八十郎やそろう) ?-? 幕臣;従五下/出雲守、  
1862火付盗賊改方頭、小普請支配/1865(元治2)浦賀奉行;1500石/役料千石、  
1867浦賀警備の郷兵220取立の許可、68新政府により奉行所明渡(最後の浦賀奉行)、  
歌人;紅葉の絵合の判を主催、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻佐代子さよこも入集)、  
[咲くと見し夢もうれしき手枕にまさしくかをる風の梅が香]、  
(大江戸倭歌;春127/梅薫枕)  
[進め駒進めわが駒君がため追行く猪鹿けふはのがさじ](同;雑1832、  
小金が原御鹿狩に追ひかけ騎馬のうちに加り侍りて)

- S1587 **勝善**(かつよし・小泉こいづみ/旧姓;岸田)1836-1870<sup>35</sup> 江後期;神職/武蔵品川大明神神主、神楽を相伝、  
 国学;平田鉄胤門、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [梢よりこぼるる露やそめにけん同じみどりのもりの下草](大江戸倭歌;夏565杜夏草)  
 [勝善(;名)の別名/通称]別名;勝麿かつまろ、通称;帯刀
- U1544 **勝誼**(かつよし・木野戸きと、旧姓;豊田)1833-98<sup>66</sup> 伊予大洲の浅間神社祠官、国学者、勝隆の父、  
 [勝誼(;名)の通称]寿吉/玄寿
- 勝美(かつよし・日下部) → 勝臯(かつしか・かつたか・日下部くさかべ/奈佐、幕臣/国学) N 1 5 3 7  
 勝吉(かつよし・村越) → 道伴(道半どうはん・村越むらこし、幕臣) G 3 1 9 7  
 勝喜(かつよし・亀田) → 鶴山(かくざん・亀田かめだ、商人/詩人) J 1 5 9 2  
 勝良(かつよし・正木) → 輝雄(てるお・正木まさき、兵学者) C 3 0 7 1  
 勝良(かつよし・玉木) → 勝良(かつら・玉木、商家/歌人) V 1 5 0 6  
 勝宜(かつよし・中川) → 千尋(ちひろ・中川ながわ、藩士/国学) N 2 8 1 4
- U1580 **勝従**(かつより・薄田すすきだ、通称;兵右衛門)1827-69<sup>43</sup> 備前岡山藩士、国学者;平田鉄胤門  
 勝順(かつより・小堀) → 永頼(ながより・小堀、藩士/詩人) G 3 2 5 7  
 勝従(かつより→ますゆき・上野) → 厩谷(きゅうこく・上野うえの、儒者) M 1 6 5 8  
 台頼(かつより・金森) → 頼錦(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳) I 4 7 5 7
- V1506 **勝良**(かつら・玉木たまき/田巻、)1790-1841<sup>52</sup> 越後新潟の廻船問屋、歌人;良寛と交流、  
 [勝良(;名)の通称/号]通称;彦兵衛/元吉、号;観月園/月の屋
- かつら(・山名) → さく(・山名やまな/広江、文筆/歌人) H 2 0 2 0  
 葛羅井(かつらい) → 誼斎(ぎさい・小林こばやし、俳人) K 1 6 5 2  
 葛城(かつらぎ・柘植) → 葛城(かつじょう・柘植つげ、医者/詩人) N 1 5 4 5  
 葛城山人(かつらぎざんじん、葛城尊者) → 慈雲(じうん;字、飲光おんこう、真言僧) 2 1 0 2  
 葛城小仙(かつらぎしょうせん) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
 葛城翁(かつらぎおう、葛城山人) → 宗賢(そうけん・服部はつとり、医者/藩政) H 2 5 0 6  
 葛城王(かつらぎのおおきみ) → 諸兄(もろえ・橘、廷臣/歌人) 4 4 3 0  
 葛城襲津彦(かつらぎのそつびこ) → 其津彦(そつびこ) E 2 5 0 3  
 葛城皇子(かつらぎのみこ) → 天智天皇(てんちてんのう、近江朝) 3 0 1 2
- 1569 **鬘児**(かつらこ) ? - ? 万葉集の伝説歌3789・三人の男に求婚され入水
- 1570 **桂子**(かつらこ・横山よこやま、大村成富女、横山敬明の妻)1800-1855<sup>56</sup> 江戸深川生/歌人;本間游清門、  
 伊予吉田藩主夫人伊達満喜子の侍女/歌;本間游清門、1820横山平馬と結婚、  
 横山由清よしかよの養母、詠歌「月前紅葉」が仁孝天皇の目にとまる;  
 1831「桂子」名を賜り女官に採用;散位、  
 家集「桂の花」(1861刊)、1839「かつらのえだ」著、「江戸名所歌」編、「露の朝顔」著、  
 [あかぬかな月すむ夜半に散る紅葉かつらの花のこちのみして](月前紅葉)、  
 [桂子の名/別号]名;みち/みち子/三千/三千子、別号;月の屋/月舎つきみや/天香
- 桂親王(かつらしんのう) → 重明親王(しげあきらしんのう、醍醐天皇皇子) 2 1 0 9  
 香木園(桂園かつらその) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 桂大納言(かつらだいごん) → 光頼(みつより・藤原、歌人) F 4 1 2 5  
 桂大納言(かつらだいごん) → 経信(つねのぶ・源、廷臣/詩歌/管絃) 2 9 1 1  
 桂内親王(かつらないしんのう) → 伊豆内親王(いとないしんのう、業平母/歌) B 1 1 7 1
- T1506 **桂尼**(かつらに) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 横山桂子かつらこと同一?  
 [松の火の木木の若葉にうつれるを鹿のこがるる秋とこそ見め]、  
 (大江戸倭歌;夏572/照射)、  
 [思ふ事笠にぬひてん有馬菅ありますげすげなき人の着てもみるがに](同;恋1566)
- 桂の吉(桂乃吉かつらのきち) → 十輔(十介じゅうすけ・並木、歌舞伎作者) 2 1 4 6  
 香木園(かつらのその/桂園) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 桂親王(かつらのみこ) → 貞保親王(さだやすしんのう・南宮、管絃) C 2 0 5 9  
 桂内親王(かつらのみこ) → 孚子内親王(ふしないしんのう、歌人) C 3 8 5 2  
 桂内親王のわらわ → 孚子内親王家童女(ふしないしんのうけのわらわ) C 3 8 5 3

- 桂宮(かつらのみや、桂内親王)→ 孚子内親王(ふしないしんのう) C 3 8 5 2  
桂宮(かつらのみや) → 智仁親王(としひとしんのう、歌/連歌) N 3 1 5 5  
桂宮(かつらのみや) → 智忠親王(としただしんのう、智仁親王男、歌) M 3 1 7 5  
騫樹觀(かつらのや) → 正令(まさのり・戸沢とざわ、藩主/歌人) G 4 0 2 4  
桂舎(かつらのや) → 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9  
桂舎(かつらのや) → 茂景(しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌) O 2 1 3 2  
桂之舎(かつらのや) → 煌(あきら・三宅みやけ、国学者/歌人) L 1 0 5 4  
桂之屋(かつらのや) → 操貞(そうてい・松本まつもと、国学/歌人) L 2 5 1 3  
桂廼舎(かつらのや) → 輝声(てるな・大河内/松平、藩主/歌) B 3 0 4 6  
桂廼舎(かつらのや) → 星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者) H 2 4 9 7  
桂廼舎(かつらのや) → 豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌) U 3 1 7 1  
かつらの屋(かつらのや) → 真事(まこと・久永、幕臣/歌人) 4 0 7 7  
一貫彦(かつらひこ・杉山) → 宜袁(よしなが・杉山すぎやま、家老/郷土史) F 4 7 3 0  
桂坊(かつらぼう) → 沾山(せんざん・初世内田、俳人) F 2 4 5 1  
桂坊(かつらぼう) → 風石(ふうせき・宮地みやじ、藩士/俳人) 3 8 8 5
- H1587 桂まゆずみ(かつらまゆずみ、木村屋安兵衛)?-? 江戸神田御台所町住/3世桂林堂、狂歌;才蔵集1首入、  
[しづのめも早苗とるには行儀よくならぶや菅の小笠原流]  
桂眉住(2世かつらまゆずみ) → 風月庵眉住(ふうげつあんまゆずみ、狂歌作者) 3 8 5 0
- T1520 葛満(かつらまる・杉浦すぎうら、菅満すがまる男) 1785-1839<sup>55</sup> 遠江浜松諏訪神社神職;大祝継嗣、  
伊勢守、のち家督は比隈歴(ひくまろ/菅満の養子)が継嗣、  
桂満(かつらまる・片岡) → 寛光(ひろみつ・片岡/所、名主/国学/歌) H 3 7 4 1  
桂歴(かつらまる・橋村) → 宜益(ぎえき、臨濟僧/国学) U 1 6 0 7  
葛山散人(かつらやまさんじん) → 為篤(ためあつ・葛山かつらやま/坂、藩士/地誌/歌) S 2 6 3 1
- C1556 可都里(葛里かつり・五味ごみ) 1743-1817<sup>75</sup> 甲斐巨摩郡藤田村の俳人;關更門、  
化政期甲州俳壇主導、国学者/歌も詠む、  
1789(天明6)春日昌預ら甲斐歌人の「駿河国庵原郡蒲原郷稚宮代明神奉納十二首」に参加、  
1788「農おとこ」98「なゝとり」編、「葛里句集」(;弟蟹守/椿胎編)、  
[可都里(;)名の別名/通称/別号]別名;益雄ますお、通称;宗蔵/宗伍、  
別号;葛里/葛履/蕪庵/雪亭/鶏之舎/鶏鳴館  
活理道者(かつりどうしや) → 要中(ようちゅう;道号・通玄、黄檗僧) B 4 7 4 6  
活了(かつりよう;字) → 日純(にちじゆん;法諱・専光院、日蓮僧) C 3 3 2 7  
葛良(かつりよう・珠城) → 葛良(くずよし・珠城たまき、陪臣/国学) E 1 7 3 3  
葛亮(かつりよう・坂上) → 葛亮(くずよし・坂上さかのうえ、帯刀/歌) C 1 7 4 3  
月林(がつりん;道号) → 月林(げつりん・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
- 01504 葛廬(かつろ・林はやし、名;信明/信如/懲、高麗長好男/林晋軒養子) 1671-1734<sup>64</sup> 幕府儒官;  
1676家督嗣、1692小納戸/93小姓/94蟄居/95赦免/96儒者/1729致仕、  
「葛廬詩集」「葛廬文集」「林家蠡海集」「詩道捷徑」「新修鷹経和解」「平城小伝」著、  
「葛廬遺集」、  
[葛廬の字/通称/別号]字;利生/翼成、通称;又右衛門、  
別号;学軒/谷飲、剃髮後;春益、諡号;温謙
- 01505 葛路(かつろ・伊藤いとう、別号;払袖楼・曲額仙、楚石坊男)?-? 江戸後期俳人・父楚石坊門、  
1820「楚石坊評月次句合」編  
父 → 楚石坊(そせきぼう・伊藤、俳人) J 2 5 9 7  
葛廬(かつろ・天野) → 政徳(まさのり・天野/藤原、幕臣/歌人) G 4 0 1 2  
瞎驢(かつろ;号) → 宗純(そうじゆん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1  
喝浪(かつろう;道号) → 方浄(ほうじよう;法諱・喝浪、黄檗僧) B 3 9 7 5
- S1559 柯庭(かてい・中瀬なかせ/本姓;松下、名;長徳ながのり、豊長の長男) 1688-1768<sup>81</sup> 肥後熊本藩士;番頭、  
禄千二百石、儒者;朱子学、能書家、藪慎庵と交流、住江滄浪の兄、  
[柯庭(;)号]の通称/別号]通称;助之允、別号;文山
- H1550 霞亭(かてい・土岐とき/本姓武田/修姓武、名;欽尹よしただ、篠田好雅男) 1733-93<sup>61</sup> 京医者;

土岐元肅の養嗣子、妙法院宮出仕;医官/1762法橋、  
漢学/詩文;宇野明霞門、藪内流茶;安富常通門、  
「霞亭詩稿」「百言談」「蒙求国字解」「王弼州えんしゅう対選」著、  
[霞亭の字/通称/別号]字;聖耕、通称;元信、別号;霞窓/自休

- I1519 **嘉廷**(かてい) ? - ? 江中期江戸俳人;其角座点者、  
1752「江戸十余歌仙」入/1754竹翁「童の的」点句入、
- O1506 **可亭**(かてい) ? - ? 大阪の雑俳点者、1782虎風「場付鼻あぶら」入
- C1557 **花亭**(かてい・岡本おかもと、名;成/正成、莊藏政苗男) 1767-1850<sup>84</sup> 母;鈴木平兵衛女、詩;南宮大湫門、  
幕臣・1794(寛政6)父の跡継嗣/勘定奉行下役;1818貨幣改鑄を建議;水野忠成により左遷、  
小普請支配、1837(天保8)水野忠邦により信濃中野代官に抜擢、領民の救済で民心を得る、  
1839勘定吟味役/41諸大夫/42(天保13)勘定奉行;勝手方/43鎗奉行・近江守、詩人、  
菅茶山と交流;その肖像画に賛(黄葉夕陽村舎詩に交友詩入)、矢部定謙・羽倉簡堂と交流、  
「論狼の逸話」「享余一鬻」「信山唸稿」「贈答詩鈔」「花亭詩集」、「花亭先生詩鈔」著、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[木枯のさそはずともいつまでか散らで有るべき軒のもみぢ葉](大江戸倭歌;秋968)、  
[道知らぬ老の歩みに位山のぼるべしとは思ひかけきや]、  
(同;2055/諸大夫になりし時に/75歳、この歌に川村修就ながただの返歌がある、  
[七十の老のあゆみにくらゐ山たどらでのぼる道はやすしな]同;雑2056;修就)  
[花亭(;号)の字/通称/別号]字;子省/王汝、通称;忠次郎/近江守、  
別号;豊洲/醒翁/詩痴/江州/括囊道人/括囊老人
- F1552 **霞亭**(かてい・北条ほうじょう、名;襄/讓、道有男) 1780-1823<sup>44</sup> 志摩的矢医家/1797上京;  
儒詩;皆川淇園門、1802江戸;昌平覺出/1808宇治山田林崎文庫長/11京嵯峨隱棲、  
1813備後の菅茶山廉塾の都講、1819福山藩校弘道館出仕/21江戸藩邸儒官兼奥詰、  
1806「霞亭摘藁」10「霞亭涉筆」、1812「嵯峨樵歌」/20「薇山三観」「霞亭二稿」著、  
「帰省詩囊」「歳寒堂詩集」「古今和歌集註」著、  
[霞亭の字/通称/別号]字;子讓/士讓/景陽、通称;讓四郎、別号;天放生、法号;歳寒院
- O1507 **霞亭**(かてい・室田むろた/脇坂/修姓藤とう、名;弘、斉藤雀亭男) ?-? 江後期兵庫医者;室田坤山養嗣子、  
詩文/俳/書画、1815「霞亭詩鈔」著、「藤霞亭とうかてい遺稿」、  
[霞亭の字/通称/別号]字;光美、通称;養軒、別号;梧園
- O1508 **可庭**(かてい・坂さか、別号;百八筵) ?-? 江後期1848-54頃富山俳人、1849「袖舂しゅうほん集」編
- O1509 **可亭**(かてい・羽倉はくら、伏見稻荷祠官羽倉延年男) 1799-1887<sup>89</sup> 同族目代羽倉信賢に養育;  
その後家督嗣、幼少時京の篆刻家;細川林谷門、1812(14歳)従五下/駿河守、  
1815非蔵人十八権目代、22致仕、  
各地遊歴、経学・書;村瀬栲亭門/画・篆刻;僧月峯門、のち画;岡本豊彦門、売書売印で生計、  
詩;江戸の大窪詩仏門、維新後有栖川宮熾仁親王の寵遇を得;宮内庁に御璽・山水画を納入  
1880「天潢清流」画、「可亭印譜」著、  
[可亭(;号)の名/字/別号]名;良信、字;子文、別号;亦可草堂えきかそうどう
- 可亭(かてい・三井/黒木) → 千之(ちゆき・黒木くろき、眼科医) H 2 8 0 3  
可貞(かてい・萩原) → 貞起(さだおき・萩原はぎわら、商家/歌人) F 2 0 2 4  
可貞(かてい・船越) → 祐文(ゆうぶん;法諱、坊官/歌人) H 4 6 5 0  
柯亭(かてい・川地) → 義裕(よしひろ・川地かわち、藩士/歌人) M 4 7 3 2  
柯亭(かてい・竹田/武田) → 晨正(とくまさ・竹田/武田たけだ、商家/歌) V 3 1 6 9  
佳丁(かてい・轍) → 心祇(しんぎ・轍、魚貫、俳人) D 2 2 7 6  
佳貞(かてい・南) → 佳貞(よしさだ・南みなみ、国学者/歌人) P 4 7 3 5  
花亭(かてい・船曳) → 大滋(おおしげ・船曳ふなぶき、和国学/歌人) E 1 4 1 1  
花隄(かてい・宮北) → 直方(なおかた・宮北みやきた、藩士/漢学) P 3 2 0 0  
華汀(かてい・北) → 仲利(なかつし・北きた貞卿、詩人) E 3 2 7 5  
華亭(かてい・白井) → 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師) P 1 5 5 9  
果亭(かてい・平賀) → 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8  
果亭(かてい・高尾) → 吉(きち・高尾たかお、国学者) U 1 6 6 0

- 訶提(かてい) → 訶提(かだい;法諱、真宗本願寺派僧) M 1 5 9 1  
 葭汀(かてい・関) → 政方(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌) 4 0 0 6  
 霞亭(かてい・岡崎) → 鶴亭(こくてい・岡崎おかざき、儒者/詩文) F 1 9 5 7  
 霞亭(かてい・宋) → 紫石(しせき・宋そう、楠木、絵師) E 2 1 3 1  
 蝸亭(かてい・大原) → 観山(かんざん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5  
 嘉貞(かてい・石川) → 魯庵(ろあん・石川いしかわ/水野、藩儒) 5 2 1 3  
 夏鼎(かてい・井上) → 夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 7 0 8  
 賀邸(かてい・内山) → 椿軒(ちんけん・内山、儒/狂歌) K 2 8 6 8  
 雅定(かてい・源) → 雅定(まささだ・源、廷臣/故実/歌人) C 4 0 5 2  
 花蹄軒(かていけん) → 桜三(おうさん・吉村、俳人) C 1 4 2 3  
 華亭道人(かていどうじん) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
- 01510 **可笛**(鹿笛かてき・太田おおた、名;忠重)1752-1815<sup>64</sup> 日向城ヶ崎の俳人;塘雨/蝶夢/瓦全門、  
 1798「芭蕉翁三等三文」編、足馬の父、  
 [可笛の通称/別号]通称;恒助/七左衛門、別号;鹿笛/五明/萩庵/七斎  
 柯笛(かてき) → 農業(ときなり・武田たけだ、商家/村政/俳人) V 3 1 7 0  
 花笛斎(かてきさい) → 仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人) F 2 4 0 3  
 勘解由小路(かでのこうじ/かげゆのこうじ;号) → 経房(つねふさ・藤原、廷臣/歌人/日記) D 2 9 5 7  
 勘解由小路(かでのこうじ/かげゆのこうじ;称) → 経朝(つねとも・世尊寺/藤原、能書/歌人) C 2 9 6 9  
 勘解由小路殿(かでのこうじどの/かげゆのこうじどの) → 義淳(よしまさ・斯波しば、武将/歌人) G 4 7 9 6  
 勘解由小路中納言(かでのこうじのちゆうなごん/かげゆのこうじ-) → 覚如(かくによ・宗昭、真宗本願寺3世) B 1 5 7 0
- F1554 **花天**(かてん・森本もりもと、蟻道男)?-? 俳人、1712「鉢扣はちたつき」;叔父長父[億麿]と共編  
 1714月尋「伊丹発句合」参加;才麿判、  
 [蜘蛛もの巣に梅一片のひかりかな](伊丹発句合;三番)
- C1558 **花顛**(かてん・三熊/密熊みくま、名;思孝、字;介堂/海棠/海堂)1730-94<sup>65</sup> 京鳴滝絵師;長崎の月湖門、  
 桜花画、俳諧、蝶夢と親交、1785「桜花袖鑑」、1790「近世崎人伝」正編の画、1793「吉野枝折」、  
 1793「続近世崎人伝」(花顛草稿;98蒿蹊加筆;妹の露香画)、1786蝶夢「遠江の記」の序、  
 [花顛の通称/別号]通称;主計かづえ/正新、別号;花顛居士  
 花顛(かてん・古賀) → 穀堂(こくどう・古賀こが、藩士/儒者/詩) C 1 9 3 9  
 可転(かてん) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4  
 嘉典(かてん・菊池) → 嘉典(よしのり・菊池きくち、神職/教育) F 4 7 8 4
- 01511 **嘉田**(かでん・中村なかむら、名;咸一/字;士徳、慶明男)1777-1830<sup>54</sup> 肥前嘉田村儒者;佐賀藩校入学、  
 古賀精里門、1795詩文局/1801士籍;弘道館教諭/25助教、「花竹堂詩文鈔」「経義随筆」著、  
 [嘉田の通称/別号]通称;一之助、別号;白崖/花竹堂  
 嘉伝(嘉典かでん;字) → 日悦(にちえつ;法諱、日蓮僧) 3 3 6 9  
 嘉伝(かでん・村井) → 多治満(たじま・村井むらい、藩士/砲術家) O 2 6 9 7  
 雅典(かてん・浦野) → 雅典(まさのり・浦野うらの、藩士/国学/歌) O 4 0 0 4  
 雅典(かてん・飛鳥井) → 雅典(まさのり・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) G 4 0 2 8
- 01512 **下田翁**(かでんおう;号・姓;蘆沢あしざわ、名;武卿/字;一甫/通称三蔵)?-? 江戸期陸奥盛岡藩士、  
 儒者;「易説」著
- 01513 **嘉伝太**(かでんた・塚村つかむら、名;崇たかし、高久男)1742-99<sup>58</sup> 備中浅口郡鴨方村の里正、  
 詩歌;西山拙斎門、「剥復はくふく録」(社会情勢史料集)/「民教家訓」「生財論」著、  
 [嘉伝太の字/通称]字;子徳、通称;嘉伝太/嘉平  
 花奴(かど) → 曙覧(あけみ・橘/正玄、商人/国学/歌) 1 0 1 4  
 華奴(かど・愛敬) → 四山(しざん、愛敬あいぎょう、藩儒者/詩人) T 2 1 6 0  
 賀度(かど・真下/原) → 左右助(そうすけ・原/真下/松本、和算家) I 2 5 1 4
- 01514 **可透**(かとう;法諱・祖関;号)1682-1734<sup>53</sup> 備前の天台僧;賢原・光謙霊空門、  
 近江明德寺無動寺住、1705比叡山宝珠院住持/25光謙より具足戒、  
 1724「審問雑録」26「大戒決疑編」31「軽重儀」著
- 1525 **河東**(初世かとう・十寸見ますみ、伊藤、天満屋藤左衛門男)1684-1725<sup>42</sup> 江戸日本橋魚商;  
 遊興に耽り破産/浄瑠璃太夫;江戸半太夫門/1716河東節を創始/17市村座で評判、

作曲:「松の内」「神楽獅子忍びの段」など、1719「鳩鳥」編、俳諧、  
[十寸見河東(；号)の名/通称/別号]名;藤十郎、通称;天満屋藤十郎、  
別号;十寸見堂/河部屋/手欄干

- 01515 **霞東**(かとう) ? - ? 大阪俳人:1776几董「続明鳥」17句/道立「写経社集」3句入、  
1776樗良「月の夜」1句/77蕪村「夜半楽」1句入、  
[いかのぼり都の空の曇かな](続明鳥;甲18/長安春色;李白「寓言三首」の句、  
ここは日本の京の春景色)
- F1555 **佳棠**(かとう・田中たなか、通称:庄兵衛)?-? 京の書肆汲古堂の主人/俳人・蕪村門、  
1775(安永4)9月夜半亭月次会に初出、「蕪村句集」刊、  
1782蕪村「花鳥篇」4句入/83維駒「五車反古」4句入、  
[米かしぐ水にとぼしや山桜](花鳥篇;18/水汲みは谷まで下りる;幻住庵記の佛)
- 01516 **可董**(かとう・蓑内みのうち、通称;九蔵/別号;浣華園)?-1803 京の俳人、1797「はなもよひ」編、  
1800「新たますり集」編
- 01517 **荷豆**(かとう・加藤かとう、名;道亮)?-? 江後期1818-30頃尾張名古屋富田町の商人、  
俳人、1819「俳諧満寿鏡」編、  
[荷豆の通称/別号]通称;柴屋三郎右衛門、別号;看竜舎/如竹斎
- C1559 **荷塘**(かとう;号・遠山とおやま、字;一圭)1795-1831<sup>37</sup> 陸前石巻僧;1811信州で出家、遍歴/儒;淡窓門、  
長崎崇福寺住/唐話・音曲を修得、江戸で教授、亀井昭陽/朝川善庵/大窪詩仏らと交流、  
「胡言漢語」編/「諺解校注西廂記」「嫦娥じょうが清韻」「黄口雑字類篇」著、  
[荷塘の法諱/別号]法諱;松陀/円陀、別号;荷塘道人・一嚙いっきやく道人
- 01518 **花陶**(かとう・高橋たかはし、宗紹/田堂)?-? 近江坂本の俳人;法眼、1831「二郡之春湖」編  
禾刀(かとう) → 玄真(げんしん・斎藤、医者/俳人) E 1 8 1 8  
花濤(かとう・白日園) → 寛至(ひろゆき・浜中まなか、国学者/歌) K 3 7 6 5  
河東(かとう) → 太白(たいはく;道号・真玄、臨濟僧/詩文) K 2 6 9 6  
河東(9世かとう・十寸見) → 可慶(かけい・十寸見ますみ、河東節太夫) K 1 5 7 3  
嘉冬(かとう・瀬尾) → 柳斎(りゅうさい・瀬尾妹尾せのお/藤原、古銭学) E 4 9 0 7  
嘉当(かとう・福田) → 金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9  
嘉当(かとう・那須) → 嘉当(よしまさ・那須なす、国学者) O 4 7 0 8  
嘉董(かとう・有馬) → 泰寛(やすひろ・有馬ありま、藩家老/国学) F 4 5 2 2
- F1556 **嘉嗣**(かどう) ? - ? 信徳門の俳人、  
1694信徳「雛形」序・歌仙入・1702鷺水「若るびす」入
- H1551 **果堂**(かどう・南合なんごう、名;琦、蘭室男)1799-1863<sup>65</sup> 岩代白河の儒・折衷学;父門、  
朱子学;広瀬蒙斎門、白河藩儒;1820扈從勤/学頭勤、23藩主松平家移封で伊勢桑名住;学頭、  
1850桑名藩校立教館教授、画;根本愚洲門、「錐刺録」著、「果堂遺稿」、  
[果堂の字/通称/別号]字;圭叔/圭卿/希韓、通称;竜橋/彦左衛門、  
別号;長風楼/頑石幽人
- 01519 **華堂**(かどう・喜田きだ、名;景静/静)1802-79<sup>78</sup> 美濃今須絵師;京の岸駒/岸岱門、尾張藩絵師、  
「青坂山妙応寺縁起」画、  
[華堂の字/別号]字;伯寿、別号;竹石居/半舟翁、法号;静翁道光
- 01520 **花堂**(華堂かどう・松尾まつお)?-? 山城伏見の人、  
「大坂湊口新田細見図」/1837「増補登船独案内」著
- 01521 **霞洞**(かどう・市川いちかわ、名;徳/通称;斎、別号;復堂)1815-90<sup>76</sup> 儒者、紀伊和歌山藩校授読、  
1850-52「盃簪吟社集」編
- 01522 **葭堂**(かどう・岡田おかだ、寛蔵)?-? 江戸末期越後俳人、1865「俳諧正義談」著  
可道(かどう・宇井) → 可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0  
可道(かどう・三瓶) → 可道(よしみち・三瓶みかめ、陪臣/和学) P 4 7 3 1  
花洞(かどう・前田) → 道通(どうつう・前田、医者) G 3 1 5 5  
華堂(かどう・八木) → 雕(あきら・八木やぎ、藩士/官僚/詩歌) I 1 0 5 7  
霞洞(霞堂かどう・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8  
霞洞(かどう・藤田) → 正伯(せいはく・藤田ふじた、医者/詩/書) J 2 4 4 1

- 柯堂(かどう、二夜庵) → 黄年(おうねん、俳人) C 1 4 6 1  
 夏道(かどう・浅野) → 夏道(なつみち・浅野あさの、歌人) K 3 2 8 1  
 歌堂(柯堂かどう・井上) → 文雄(ふみお・井上、医者/歌人) 3 8 2 6  
 稼堂(かどう・成島) → 筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者) D 2 8 0 7  
 S1536 我等(がどう) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息ふたいき」入、  
 [緘とち足すもつらし遊女の客日記](二息/売れっ子ほど悲しい)  
 雅冬(がどう)すべて → 雅冬(まさふゆ)  
 我童(がどう;俳名) → 仁左衛門(7世にざえもん・片岡、歌舞伎役者) 3 3 1 6  
 我童(我当がどう;俳名) → 仁左衛門(7世にざえもん・片岡、歌舞伎役者) 3 3 1 7  
 夏冬庵(かどうあん) → 左明(さめい、松露庵2世、俳人) D 2 0 9 5  
 我等菴(がどうあん) → 素閑(そかん・我等菴、俳人) D 2 5 4 3  
 華桃園(かどうえん、立机後の号) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7  
 花桐官(かどうかん・生駒) → 春秀(はるひで・生駒いこま/山本、神職/医者) J 3 6 6 3  
 河東散人(かどうさんじん) → 疎安(そあん・久須美/久須見、茶人) F 2 5 8 1  
 嘉藤治(かどうじ・大坊) → 正忠(まさただ・大坊たいぼう/山崎、藩士) Q 4 0 6 4  
 莪堂主人(がどうしゅじん) → 公毅(こうき・井岡いのおか、医者) I 1 9 2 0  
 嘉藤太(かどうた・篠沢) → 久敬(ひさたか・篠沢しのざわ、藩士/和漢学) B 3 7 2 4  
 門吉(かどきち・半田) → 門吉(もんきち/かどきち・半田、藩士/討幕論) I 4 4 1 8  
 F1557 可徳(かどく) ? - ? 江戸山手住の武士/1667「やっこはいかい」著:定興ていこう評  
 E1560 可得(かどく) ? - ? 江中期;僧/俳人、  
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、[敲いても推しても見たり菊の門](伊丹発句合;秋)  
 荷徳(かどく・田中) → 荷徳(もちり・田中たなか、藩士/国学) K 4 4 2 7  
 雅徳(がどく・松本) → 雅徳(まさり・松本まつもと、藩士/歌人) S 4 0 7 7  
 歌読車夫(かどくしゃぶ) → 春友(はるとも・河本かわもと、国学者) K 3 6 0 2  
 蝌蚪子(かとし) → 玄魚(げんぎょ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4  
 R1596 門田伊奈波(かどたのいなば) ? - ? 上州高崎の狂歌作者;1787「才蔵集」入;  
 江戸の門田稲葉と同一?、  
 [富士よりも鷹よりもなほ身にとりてかたじけなすの苗の進物](才蔵集)  
 門田稲葉(かどたいなば) → 稲葉(いなば・門田かどた/寺井、狂歌/国学/1777-1830) K 1 1 1 4  
 1571 葛野(かどの/かげの;号・千葉ちば/本姓;平、大蔵屋伝兵衛男) 1800-5556 信州飯田商家/飯田藩御用達、  
 国学・歌:植松有信・植松茂岳・伴信友・服部菅雄・本居春庭・田中大秀門、  
 1838江戸で開塾;吉岡信之/岩瀬涼仙らの師、「科野の家苞」、家集「千葉拾林」著、  
 「白禱生随筆」「ささめこと」著、「贈太政大臣歌集」編、「糸のぬひめ」「希言拭古」著、  
 「旧事記詞の玉衣」「建久百首解」「ちまたの知るべ」「玉の緒糸口」著、女婿;城子高靱、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [水無瀬川ゆふべは霧の面影に霞みそめたる月の静けさ](大江戸倭歌;186/名所春月)、  
 [葛野の字/通称/別号]字;希言/中道/三輝さんき、通称;鶯蔵/哲太郎/又三郎/正[庄]右衛門、  
 別号;葛農かどの/蔦つたの舎/白禱園はくどうえん/白檀しらかし園/檀園かしぞの、屋号;大蔵屋  
 C1560 葛野王(かどののおおきみ、大友皇子男) 1619-170587 母;十市皇女、治部卿/式部卿、弓削皇子を叱責、  
 漢学/書画/詩人;懐風藻2首(春日翫鶯梅/遊龍門山)  
 S1500 角満丸(かどのまんまる) ? - ? 狂歌作者;1787「才蔵集」入;390  
 [わが思ふ君にはなれて煎餅のかた思ひなる身ぞこがれける](才蔵集;390)  
 門部(かどべ・大原真人) → 門部王(かどべのおおきみ) 1 5 2 6  
 門兵衛(かどべえ・越智) → 通輔(みちすけ・越智おち、藩士/歌人) I 4 1 3 1  
 1526 門部王(かどべのおおきみ、大原真人おおはらのまひと、河内王男/長皇子の孫) ?-745 廷臣;719伊勢守・按察使、  
 724出雲守、728頃聖武近侍;風流侍従の1、729朱雀門歌垣の頭/732弾正尹;自宅で集宴、  
 732右京大夫/734賜姓;大原真人/737従四上/大蔵卿、高安王たかやすのおおきみの弟、  
 万葉三期歌人5首;310/326/371/536/1013(732年自宅集宴歌)、  
 [あらかじめ君来まさむと知らませば門にやどにも玉敷かましを](万葉;六1013)  
 ☆続日本紀に別人の門部王(高市皇子男/長屋王の弟)がいる

門真左衛門入道(かどまさえもんじゅうどう)→ 寂意(じやくい、室町幕臣/連歌) G 2 1 0 6

門真彈正忠入道(かどまだんじょうちゅうじゅうどう、門真霜台入道)→

→ 寂真(じやくしん、門真/伴経清、寂意男、室町幕臣/歌) G 2 1 2 6

門真彈正(かどまだんじょう) → 周清(ちかきよ・伴とも/門真、寂真男、歌人) 2 8 7 7

C1561 角丸(かどまる・吉田よしだ) ? - ? 江中期江戸浄瑠璃作者/人形遣、1775-85松貫四の助作、1775「恋娘昔八丈」76「色揚瀬川染」83「内百番富士太鼓」85「伽羅先代萩」著

C1562 鹿取(かとり・朝野あさの宿禰/朝臣、吏幹、忍海原おしのみはら連鷹取男) 774-843 70 大和の生/廷臣、叔父朝野宿禰道長養子、大学寮修学;文章生/802遣唐使准録事;804空海・最澄らと入唐:805帰国/810天皇侍講、833参議/藏人頭/左大弁・民部卿/842朝臣賜姓/詩・文華秀麗6首、「内裏式」「日本後紀」編纂に参加

可都里(かとり→かつり) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6

01523 花遁(かんとん・松永まつなが、名;一豊かざとよ/豊、徳右衛門篤男) 1782-1848 67 博多の豪商/詩・釈曇栄門、月形鶴窠しょうかの詩風を慕う、化政期1804-30頃の博多詩壇で活躍、歌:香川景樹門、橋梁架設/孤児収容に尽力、華道、1842「花遁散人詩鈔」著、「石城唱和集」編、頼山陽と交流、[花遁(;号)の字/通称/別号]字;子登、通称;宗助/徳右衛門/徳兵衛、別号;花遁山人/花遁散人/蕉隠/竜門

嘉敦(かんとん・荒井) → 嘉敦(よしあつ・荒井あらい、神社研究) C 4 7 1 0

嘉遯(かんとん・朝川あさかわ) → 同斎(どうさい・朝川あさかわ、儒者) E 3 1 4 4

嘉遯(かんとん・葛西) → 昌丕(まさひろ・葛西かさい、国学/救民策) O 4 0 7 5

雅敦(かんとん・飛鳥井) → 雅敦(まさあつ・飛鳥井あすかい/藤原、廷臣/歌/連歌) B 4 0 1 3

雅敦(かんとん・正宗) → 雅敦(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6

花遁山人(花遁散人かんとんさんじん) → 花遁(かんとん・松永まつなが、商家/詩) O 1 5 2 3

可南(かな・貞松尼) → 可南女(かなじよ、去来妻、俳人) C 1 5 6 4

加内(かない・黒川) → 滝津(たきつ・黒川くろかわ、歌人) N 2 6 8 8

柯内(かない・吉井) → 貞栄(さだひで・吉井よしひ、商家/国学者) P 2 0 7 9

歌内(かない・宮古路) → 正伝(しょうでん・春富士はるふじ、浄瑠璃) R 2 2 5 1

嘉内(かない・森) → 共之(ともゆき・森、医者/漢学) Q 3 1 7 9

嘉内(かない・森) → 貞温(さだはる・森もり、神職/国学) N 2 0 2 6

嘉内(かない・藤田) → 鷗洲(おうしゅう・藤田ふじた、詩人) C 1 4 4 7

嘉内(かない・石原) → 文樵(ぶんしょう・石原いしはら、俳人) F 3 8 7 5

F1558 適(かなう・源、融とおるの孫、昇のぼる男)?-? 平安前期廷臣;内匠頭、家運は衰微、歌僧安法あんぼうの父、

V1556 適(かなう・藤田ふじた、) 1812 - 1870 59 備中窪屋郡の絵師、備中浅口郡住、国学・歌;神職の小野春発はるおき門、南画絵師、[適(;名)の通称/号]通称;護三郎、号;柑谷/天楽道人/海月道人

叶(かなう・市川) → 叶(かのう・市川いちかわ、考証家) P 1 5 1 4

F1559 鼎(かなえ・小河) ? - ? 尾張藩士/儒詩・細井平洲門/尾張藩校教授、1809平洲先生墓誌:「嚶鳴館遺稿」入

01524 鼎(かなえ・岡おか、別名;鼎信/通称;定太郎/号;研水)?-1831 70 余歳 伊予宇和島藩士、儒者;頼春水/尾藤二洲門/昌平覺出、1794藩校教授、「耕獵録」編/「擬答人書」「答問愚言」、「話児録」「修堤事録」「寛政異学禁関係文書」著

01525 鼎(かなえ・喜多村きたむら、字;玉鉉)?-? 江後期薩摩藩侍医/医:中神琴溪門、精神病研究、国学にも精通、1817「吐法論」著、[鼎の通称/号]通称;俊宅/良宅、号;静園/元静堂

T1571 鼎(かなえ・今木いまき、隆圭たかかど長男)?-1852 江後期;信濃伊那郡知久町の医者;父を継嗣、歌人;父門/福住清風(1778-1848、伊那歌壇の中心)門

01526 鼎(かなえ・森もり、字;伯享/通称;喜右衛門) 1791-1850 60 近江膳所藩士/藩校遵義堂頭取/教授、物頭役/郡奉行、儒;1805皆川淇園門/天山流砲術、「火硝製造論」編

01527 鼎(かなえ・佐野さの、名;断かなえ、別通称;貞助/貞輔、小右衛門男) 1831?-77 47? 駿河水戸島の郷土、江戸で高島流砲術;下曾根信敦門/塾頭、1854金沢藩に招聘;西洋砲術師範方棟取役、

1860遣米使節に従僕として随行/61遣欧使に随行/62金沢藩組頭;軍制改革、  
維新後兵部省/共立学校創設;英語教授、1860「航海日記」、「客窓雜記」著

鼎(かなえ)	→	鼎(てい、俳人)	3 0 1 7
鼎(かなえ・宇野)	→	明霞(めいか・宇野うの、儒者)	4 3 0 7
鼎(かなえ・岩瀬)	→	鼎(てい・岩瀬、儒者/仏教)	3 0 1 8
鼎(かなえ・大野)	→	拙斎(せつさい・大野おおの、儒/医者)	E 2 4 3 2
鼎(かなえ・岡井)	→	赤城(せきじょう・岡井おかい、藩士/儒者)	D 2 4 5 4
鼎(かなえ・喜多村/川合)	→	大壑(たいがく・川合かわい、儒者)	J 2 6 4 5
鼎(かなえ・加藤)	→	雲堂(うんどう・加藤、空門子/俳人)	B 1 2 5 8
鼎(かなえ・津川)	→	鼎(てい・津川つがわ、儒者/詩人)	3 0 1 9
鼎(かなえ・朝川)	→	善庵(ぜんあん・朝川、儒者)	2 4 2 4
鼎(嘉奈衛かなえ・秦)	→	滄浪(そうろう・秦はた、儒者)	D 2 5 2 6
鼎(かなえ・山井)	→	崑崙(こんろん・山井やまのい/大神、儒者)	G 1 9 6 9
鼎(かなえ・青柳)	→	高鞆(たかとも・青柳、国学/歌)	D 2 6 2 8
鼎(かなえ・津下/島村)	→	鼎甫(ていほ・島村しまむら、医者/翻訳)	B 3 0 6 7
鼎(かなえ・河合)	→	道臣(ひろおみ・河合、家老/詩歌)	F 3 7 6 1
鼎(かなえ・小野)	→	杜陵(とりょう・小野おの、藩士/儒詩)	R 3 1 9 1
鼎(かなえ・古屋)	→	愛日斎(あいじつさい・古屋ふるや、儒/漢学)	C 1 0 1 8
鼎(かなえ・藤田)	→	鷗洲(おうしゅう・藤田ふじた、詩人)	C 1 4 4 7
鼎(かなえ・佐久間)	→	華邨(かそん・佐久間さくま、儒者/詩人)	M 1 5 8 6
鼎(かなえ・重富)	→	繩山(じょうざん・重富しげとみ、藩士/儒者)	J 2 2 3 6
鼎(かなえ・小林)	→	鼎輔(ていすけ・小林、幕臣/洋学)	B 3 0 3 1
鼎(かなえ・西村)	→	茂樹(しげき・西村にしむら、兵学/洋学)	C 2 1 1 6
鼎(かなえ・進藤)	→	周人(しゅうじん・進藤しんどう、藩医/詩歌)	X 2 1 6 3
鼎(かなえ・杉生)	→	方策(ほうさく・杉生すぎう、蘭医者)	3 9 9 7
鼎(かなえ・深尾)	→	重先(しげもと・深尾、藩士/国事/日記)	S 2 1 9 4
鼎(かなえ・森)	→	良敬(りょうけい・森もり、藩絵師)	M 4 9 3 1
鼎(かなえ・福田)	→	理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算)	4 9 9 4
鼎(かなえ・岡田)	→	光大(みつひろ・岡田おかだ、故実家)	E 4 1 7 5
鼎(かなえ・大久保)	→	忠督(ただまさ・大久保おおくぼ、藩士/国学)	W 2 6 0 9
可苗(かなえ・伊吹)	→	正邦(まさくに・伊吹いぶき/源、藩士/歌人)	N 4 0 4 3

- 01528 **可名生**(かなお・町野まちの/本姓;三善、通称;与左衛門、号;庸礼)1779-? 筑後柳川藩士、  
1810-30江戸留守居、1833幼い藩主のため調書撰進/藩政関与、国益思想を主唱、  
最上徳内/横井小楠/吉田松陰と交流、1842「御国家損益本義」44「国家勘定録」著
- 01529 **金生**(かなお;通称・土屋つちや、名;附明、愛親男)1831-9262 信濃須坂藩士/御側役;藩政改革で失脚、  
版籍奉還で伊那県出仕、測量術に精通;野尻長野間の引水を企画、  
「算則解義」著、「算法浅問拙解」編
- V1516 **金雄**(かなお・中尾なかお、旧姓;豊島)1834-9663 讃岐阿野郡山内村の神職/国学者、  
[金雄(;名)の初名/通称/号]初名;安豊、通称;伊豆守、号;春嶺
- G1591 **金岡**(かなおか・笠かさ) ? - ? 平安初期仁徳天皇時代の絵師、  
837御所の絵を描く、歌;拾遺352、  
[浪の上うへに見えし小島の島隠しまくれ行く空もなし君に別れて]  
(笠金岡が唐もろこしに渡り侍りける時妻めの長歌ながうた詠みて侍ける返し)
- 01530 **金岡**(かなおか・巨勢こせ) ? - ? 平安前期唐絵様式絵:巨勢派祖、廷臣;従五下采女正、  
869?道真依頼の「神泉苑図」/880大学寮孔子像/885「基経五十賀屏風絵」画、  
「出雲大社古絵図」画、唐絵から大和絵への転換期の画風、相覧そらみの父  
国字垣歌志久(かながきかしく)→歌志久(かしく・国字垣かながき、狂歌/俳諧歌)L 1 5 7 8  
金沢于閣(かなざわうかく)→星臯(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩)B 2 4 4 5
- C1564 **可南女**(かなじよ・貞松尼、向井去来[1651-1704]の妻)?-? 1735存 京の俳人・蕉門、もと遊女?、  
去来との間に登美・多美の2女あり、1691「猿蓑」入;

[罌粟けし咲や雛の小袖の虫はらひ]

彼方(かなた・村氏) → 彼方(おちかた・村氏そんし、万葉歌人) 1 4 8 6

金太理(かなたり・神宅みやげ) → 全太理(まさたり・神宅臣、出雲風土記) D 4 0 6 7

鉄門(かなと・船曳) → 磐主(いぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4

01531 金丸(かなまる・堀部ほりべ、通称; 弥兵衛) 1627-1703切腹77 赤穂藩江戸留守居役/1697致仕、兵法; 長槍に長ず、1702義士中最年長で討入(75歳)、「堀部弥兵衛金丸私記」著、討入び参加した安兵衛武庸たけつねの養父

1527 金村(かなむら・笠朝臣かさのあそみ)?- ? 715-33存 奈良期元正・聖武朝715-733頃の宮廷歌人、行幸従駕の歌多い; 車持千年・山部赤人よりも最初に置かれる; 評価が高かったか、六位?、万葉三期: 長8首・短22首(364-67/543-48/907-12/920-22/928-930/935-37以下)、金村歌集(散佚)所出; 長3首・短12首、玉葉514/1227風945、[塩津山うち越えゆけば我が乗れる馬そつまづく家恋ふらしも](万葉; 三365、塩津山; 近江伊香郡塩津浜から越前敦賀越えの山/越前の塩を大津へ運ぶための名)

01532 要人(かなめ/かなと・池田いけだ、号; 白翁/白鳳明) 1709-8779 備前岡山藩士/1756中老; 禄2千石、俳人; 廬元坊門、1770「大元命義」著、応宇の師、岡山藩士池田信兄のぶえ(通称; 要人/歌人/守之助男)との関係?

V1532 要人(かなめ/かなと・西林しげよし、神主の忠盛2男) 1764-182864 備中川上郡福地しろちの神職、神道・国学; 本田清成齋門、上京; 国学修学/1804(文化元)帰郷; 母の生家の日名村の神職、備中神楽を創始; 従来の荒神神楽に京の諸芸能と記紀・古今集歌を挿入し演劇的にする、神話劇の神代神楽を創作(大蛇退治・岩戸開き・国譲りの3編構成)、福地しろち邸内の大椿(神楽の椿)が有名、[要人(名)の通称/号]通称; 識衣亮、号; 国橋こつきょう

01533 要(かなめ・大久保おおくぼ、名; 親/親賢/親春、親修男) 1798-1859獄死62 土浦藩士/1818出仕、兵法家; 竹中澹斎/平山潜門/1837藩校郁文館兵学教授/50ロシア提督プチャーチンと交渉、將軍継嗣問題・徳川斉昭副將軍計画等一連の急進運動参画; 安政6年の大獄に座す; 獄死、「正気堂叢書」「土浦藩士大久保要雜纂」著、母; 山口小野右衛門女の多喜、[要の字/別通称/号]字; 子信、別通称; 李之助/黙之助、号; 靖斎/拙堂/愛日楼/玄武堂/正気堂/拙斎

要(かなめ・衣笠) → 守由(もりよし・衣笠きぬがさ/東、絵師/歌) J 4 4 9 0

要(かなめ・矢田) → 豊矩(とよのり・竹内たけうち、和算家) R 3 1 4 7

要(かなめ・千葉) → 逸斎(いつさい・千葉ちば、藩士/儒者) E 1 1 1 9

要(かなめ・岡沢) → 公平(きんひら・岡沢おかざわ、藩士/歌人) T 1 6 8 3

要人(かなめ・伊藤) → 祐像(すけかた・伊藤いとう、禊教伝道/歌) L 2 3 3 5

01534 河南(かなん) ?- ? 江戸俳人、1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入; 3世湖十中心 [立つ鳥にちからの見ゆる柳かな](双猿路談)

河南(かなん) → 仏頂(ぶつちよう、臨濟僧/芭蕉参禅の師) D 3 8 3 8

化南庵(かなんあん) → 仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人) F 2 4 0 3

河南散人(かなんさんじん) → 染子(せんし・そめこ・一応亭、河南散人、談義本作者) F 2 4 6 8

可二(かに・井上蟹翁) → 景明(かげあき・井上いのうえ、国学/歌人) T 1 5 4 9

F1560 蟹雄(かにお・文鎮舎) ?- ? 狂歌師・葛飾連、1826文々舎「略画職人尽」入

F1561 蟹子丸(かにこまる・裏堀うらぼりの、文々舎の父か?) ?-? 狂歌作者、後万載集2首入、[朝顔はまことに日にしほるれど又ひびひびに新たにぞ咲く](243)

蟹子丸(初世かにこまる・文々舎ぶんぶんしゃ・勝飾) → 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃ、狂歌) G 3 8 3 8

蟹子丸(2世かにこまる・文々舎) → 文々舎蟹子丸(2世ぶんぶんしゃ、狂歌) G 3 8 3 9

蟹瀬のふすしのや(かにせのふすしのや) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5

蟹蔵(かにぞう・浪岡/並木) → 黒蔵主(くろぞうす、浄瑠璃作者、雑俳) C 1 9 3 8

F1562 蟹貫(かにつら・蘆原あしむら) ?- ? 大阪狂歌作者、1800松好斎「戯場楽屋図会」入

蟹殿(かにどの→かいでん) → 洞々(とうとう・高橋、俳人) G 3 1 7 9

蟹の菴(かにのお) → 清纓(せいせい・川村かわむら、国学者) O 2 4 0 7

可仁の舎(かにのや) → 周平(かねひら・木俣きまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5

- C1565 **蟹丸** (かまゐ・蘆原あしから、通称; 為斎、別号; 雌雄軒) ?-? 寛政文化1789-1818頃大阪の狂歌作者、混沌軒国丸(玉雲斎貞右)門/のち丸派中の一分脈の中心、1807「蘆の角」著/07「狂歌浪花菅笠」編、「職人歌合の中」編、「増補狂歌拾葉集」編  
蟹麿(かまゐ・殿村/大神) → 常久(つねひさ・殿村/大神、国学/本草) D 2 9 3 9
- C1566 **蟹守** (かにもり・五味ごみ・別号; 蕪庵2世/鷹園、可都里かり弟) ?-1836 70余歳 甲斐藤田村俳人; 關更門、1818葛里追善「花の跡」編、21「俳諧歴木集」25「新編俳諧文集」26「俳諧続久努木集」編、1832「葛里句集」椿胎と共編、[蟹守(;号)の通称]五郎左衛門
- F1566 **蟹守** (蟹守かにもり・今泉いまいづみ、初名; 則才、英繩男) 1818-9881 肥前佐嘉郡与賀町生/小城鍋島藩士、国学・歌; 千種有功・本居内遠門、のち家塾を開き子弟教育/勤王の志、佐賀長瀬に住、大願寺に没、妻; イソ子、川上実相院に碑(門弟建立)、「樟葉十家歌集」「類題白縫しらぬい集」「鳳鳴和歌集」「明倫百人一首」、「鞆屋どものや詠草」著 [梅野山月立ちのぼれ河上のやなせに落つる鮎の数見ん](川上峽の詠)、[蟹守(;名)の通称/号]通称; 隼太はやた/御蒼生みたま・御民、号; 黎樹園/舩隣居ひりに/桜処、家号; 鞆の屋  
蟹守(かにもり・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1  
我入(がにゅう・入我亭、戯財録作) → 正三(しょうざ・二世並木) M 2 1 7 7  
→ 五瓶(初世ごへい・並木) 1 9 4 0
- U1571 **兼** (かね・座光寺ざこうじ、) 1720- 1765 46 信濃伊那郡の山吹領主座光寺為忠(1720-84)の妻、歌人; 澄月門(夫と同門)、久ひさ(養子為明の妻/歌人)の母  
矩(かね・丹羽/徳川) → 準子(のりこ・徳川とくがわ、矩姫、丹波/歌) J 3 5 3 0  
加禰(かね・谷) → 亀野(かめの・谷たに/岩田、真潮妹/歌人) V 1 5 0 4  
かね(・矢部) → 正子(まさこ・矢部やべ/大平、歌/書) C 4 0 4 6
- 01535 **兼秋** (かねあき・豊原とよはら、清秋男/竜秋の兄) 1287-1333 47 鎌倉後期の楽人(笙の家)、1297(11歳)一者豊原脩秋が勅勘を受けたため童体のまま一者となる、1331(元弘元)後醍醐天皇の南都遷幸に従駕/従五上・左近将監、「每息譜」「十三帖譜」「太食調曲譜」著
- C1567 **兼頭** (かねあき・広橋ひろはし/本姓; 藤原、綱光男) 1449-7931 母; 藤原満親女、室町期廷臣; 1477参議、1479(文明11)従三位・権中納言、敷奏・武家伝奏・南都伝奏を歴任、応仁・文明の乱後の公武調停・復興に尽力、1476-79(文明8-11)「兼頭卿記」著、歌人; 1468から幕府歌会参加/1472から宮中歌会参加、1479崇徳院法楽百首出詠 [兼頭(;名)の法号] 照室恵寂
- 01536 **兼章** (かねあき・ト部うらべ[家名; 吉田]、吉田兼敬男) 1677-1709 33 神職、母; 花園実満女、1686元服/侍従、98左兵衛権佐/正四下、「天禄三年日記」著、神号; 神性靈神、
- V1515 **兼章** (かねあき・富永とみなが、) ? - ? 江後期; 紀伊和歌y間藩士; 中奥頭役、国学/歌; 本居内遠うちとお(1792-1855)門、[兼章(;名)の通称/号]通称; 武之助/茂之助、号; 温斎  
兼明(かねあきら・源) → 兼朝(かねとも・源、歌人) C 1 5 8 8  
周表(かねあきら・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
- 1528 **兼明親王** (かねあきらしんのう、醍醐天皇代16皇子) 914-987 74 母; 藤原菅根女の淑姫、平安期: 920源賜姓、臣籍; 944参議/967従にい/大納言/971左大臣/977(貞元2)関白藤原兼通により親王に復す、二品中務卿の閑職に追われる; この憤懣を著述; 「菟裘賦」/その後嵯峨山荘に隠棲、986中務卿を辞任、詩歌人/能書家、「日本往生極楽記」執筆に助言、文粹; 詩多数・扶桑集入、「金玉積伝集」「金玉積伝兼明親王諸額書次第集」「人麿赤人伝」「唯一神道御正体勧請式」著、後拾遺1首: 1154(のち常山紀談の太田道灌[持資もちすけ]の山吹の逸話に出る歌)、[七重八重花は咲けども山吹のみのひとつだになきぞあやしき](後拾遺: 雑1154、小倉住の頃雨の日蓑借る人に山吹の枝を折りとらせ、のちその山吹の心を問うので贈る、貸すべき蓑がなかったのだと打ち明ける歌)  
[兼明親王(;名)の字/通称]字; 兼光、通称; 前中書王/小倉親王/御子左大臣/嵯峨の隠君子 ☆後の中書(中務の唐名)王は具平親王; 共に詩文の才を發揮したため並称される
- C1568 **兼敦** (かねあつ・ト部うらべ[家名; 吉田]、神号; 神烈靈神、兼熙かねひろ男) 1368-1408 41 南北室町期; 神職、

治部卿、正四下/神祇大副、歌人;二条為重門、飛鳥井雅縁・斯波義将・経賢・堯尋と交流、  
「諸神記」「神道大意」「日本紀神系図」「日本紀神代卷秘抄」「三種神器伝」著、  
「兼敦朝臣記」著、「吉田家日次記」(1345-1403兼豊・兼熙・兼敦3代の日記)、  
歌人;1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]2首出詠/新続古今643、  
[有明の残るもうすき庭の面にそれかとばかりおける初霜](新続古;冬643)  
[宮みする宿の軒端のあやめ草なほ千代までと神やひかまし]、  
(高田明神百首;27/檐ひさし菖蒲)

1559 兼家(かねいえ・藤原ふじわら、師輔3男)929-99062 摂関太政大臣歴任、母;藤原経邦女の盛子、  
伊尹・兼道の弟/安子(村上天皇中宮)の兄、侍従/右兵衛佐/少納言/兵部大輔/左京大夫/  
春宮亮/蔵人頭/左近中将/中納言/右大将大納言/968従三位/右大臣/986従一位摂政、  
989太政大臣/990関白/病のため出家、室;藤原中正女の時姫、妻;藤原倫寧女・国章女など、  
兄兼通との確執や円融・花山天皇を圧力謀略で退位・外孫懐仁親王(一条天皇)を即位など  
豪腕な政略家(;大鏡・蜻蛉に逸話)、一門の制覇を図る、  
歌人;960内裏歌合/966内裏前裁合参加、古今六帖・万代集・夫木抄入、  
勅撰16首;拾遺(574;長歌/575)後拾(472/813/822/824)新古(1447/1648)新勅(2首)以下、  
[わが恋は春の山辺につけてしを燃え出でて君が目にも見えなむ](後拾遺;恋822/贈歌、  
藤原倫寧女[道綱の母]の返歌;

春の野につくる思ひのあまたあればいづれを君が燃ゆとかは見ん)

[兼家(;名)の法名/通称]法名;如実、通称;法興院摂政/東三条殿/大入道殿、

息子 → 道隆(みちたか・藤原/中関白、953-995) B 4 1 6 9

→ 道兼(みちかね・藤原/栗田関白、961-995) B 4 1 3 8

→ 道長(みちなが・藤原/御堂関白、966-1027) 4 1 1 3

→ 道綱(みちつな・藤原/傳大納言、955-1020) 4 1 0 9

息女 → 超子(ちゆうし・藤原/三条天皇の母、?-982) 2 8 3 8

→ 詮子(せんし・東三条院/一条天皇の母、962-1001) F 2 4 6 1

→ 綏子(すいし/やすこ・藤原/尚侍/三条天皇女御、974-1004) 2 3 3 5

周磐(かねいわ・井土) → 学圃(がくほ・井土いど/喜多岡、藩儒) H 1 5 3 7

C1569 兼氏(かねうじ・源みなもと、有長男)?-1278 鎌倉期廷臣;正四下左近将監/日向守/春宮少進、  
母;藤原惟頼女、兼康の弟、歌;御子左派、続古今撰集時に光俊を訪問し為家の不興をかう、  
続拾遺集の和歌所開闔;1278撰集編纂中に没(井蛙抄)、  
1261住吉社歌合/玉津島社歌合参加、万代集/現存六帖/秋風集/閑月集/拾遺風体集入、  
勅撰59首;続古(1436)続拾(5首;153/475/1124/1231/1251)新後撰(8首)玉葉(418)、  
続千(12首)続後拾遺(8首)風雅(2首)新千載(12首)新拾(4首)新後拾(4首)新続古(2首)、  
[有明の月にぞ頼む郭公いひしばかりの契ならねど](続拾遺;夏153/待郭公)  
[兼氏の法名] 蓮月/蓮目

兼枝(かねえだ・吉田) → 兼致(かねむね・吉田/卜部、神職) F 1 5 3 3

C1570 兼雄(かねお・吉田よしだ/本姓;卜部、別名;良延よしのぶ、卜部兼章かねあき男)1705-8783 母;清閑寺熙定女、  
京の神職;神祇管領長上、1732従三位/38神祇権大副/47大蔵卿/69正二位、  
宝暦安永1751-81頃吉田神道が仏説と融合しているのに反発;神道改革;垂下神道導入;  
学館開設(松岡雄淵を学頭に招聘)、家伝の神楽岡文庫の書写補修に尽力、良俱の父、  
1725「神道印形記」41「神楽伝書」72「三元鈔」、「法楽詠草綴」「神道大意」外著多数、  
[兼雄(;初名)の幼名/神号]幼名;万丸、神号;専源霊神

T1507 兼雄(かねお・関根せきね) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[晴れぬなりなごりすすしくおく露の玉田横野をすぐるゆふだち]、

(大江戸倭歌集;夏617/野夕立)

U1561 金生(かねお・小金丸こがねまる、旧姓;澄川、)1839-190870 筑前福岡の国学者、歌;大隈言道門、  
[金生(;名)の通称/号]通称;桂二郎、号;種董/麗水舎

金雄(かねお・中尾) → 金雄(かねお・中尾なかお/豊島、神職/国学) V 1 5 1 6

01537 兼丘(かねおか/かねたか・伊集院いじゅういん、通称覚左衛門)?-1774 薩摩藩士/大坂留守居役、

御勝手方御用人、歌；風早公雄門/茶道；千家流、1761「独双紙」著

兼音(かねおと・東儀) → 俊昞(としあき・東儀とうぎ、楽人) L 3 1 9 3

01538 兼起(かねおき・ト部うらべ[家名；吉田]、吉田兼英男) 1618-5740 母；通仙院瑞兢女、

神職；神祇管領長上、1645従五下神祇少副、のち刑部大輔、1650-55「ト部兼起日記」著、  
[兼起(；名)の幼名/別名/神号]幼名；万徳丸、別号；兼里/兼任かねとう、神号；泰神靈神

01539 兼香(かねか・かねよし・一条いちじょう/本姓藤原、鷹司房輔男/一条兼輝養子) 1692-175160 江中期廷臣；

1704従三位/26右大臣/32従一位、37(元文2)関白・左大臣/46太政大臣、書、歌に通ず、  
「兼香公記」「兼香公記別記」「伊勢例幣次第」「大嘗会次第」「水無瀬宮御奉納御法楽」外著多、  
歌；1723「十五夜詩歌御会」48「延享五年正月御会始」52「宝暦二年公宴御会始」外御会多数、  
[兼香(；名)の法号]法号；後田成寺、

兼員(かねかず・今井) → 宗久(そうきゅう・今井、商家納屋衆/茶人) B 2 5 0 1

C1571 兼方(かねかた・秦はた、武方たけかた男) 1036-? 1109存 平安後期廷臣；左近将監/撰関や院の隨身/六位、

舞に長ず；神楽の人長を務める/歌人；後拾遺集の異名「小鯨集」の名付親逸話(袋草紙入)、  
古今集「引折の日」説；奥義抄入、

金葉集(Ⅱ524/Ⅲ517)、宇治拾遺卷二兼久は兼方の誤、兼久の父、1109(天仁2)出家、

[昨年こそ見しに色も変らず咲きにけり花こそものは思はざりけれ](金葉；雑524、

後三条院没の翌年春の盛りの花を詠)

C1572 懐方(兼方/懐賢/兼賢かねかた・やすかた・ト部うらべ、兼文かねふみ男) ?-? 鎌倉期弘安嘉元1278-1308頃神職、

正四下神祇権大副/平野社預、平野ト部家の家学(神道)を集大成、「釈日本紀」父と共編

01540 兼賢(かねかた・広橋ひろはし、総光ふさみつ男/本姓；藤原) 1595-166975 江前期廷臣；1619参議/33権大納言、

1660従一位/61准大臣、法号；後如雲院円誉照寂、綏光やすみつの父、

1618「内侍所御神楽申沙汰記」25「内内輩御杯参之作法」30「明正院御即位記」、

1634「兼賢公記」35「摂政兼退かねとお(昭良あきよし)公亭和歌会始記」、「百首和歌」「兼賢公雑記」、

「兼賢公改元符案並御教書」外著多数

兼賢(かねかた・岡本) → 経賢(つねかた・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 4 8

C1573 兼勝(かねかつ・広橋ひろはし、一字名；喬/貢、国光男/本姓；藤原) 1558-162265 母；日野輝資女、

安桃江前期廷臣；1580参議/従三位、1597権大納言/1618内大臣/20従一位、武家伝奏、

秀次文事に参加、総光ふさみつの父、1601「白馬節会次第-慶長六」、「年号難陳詞章」著、

歌人；1570月次会/79天正七年内裏歌合参加、

連歌；1600何人百韻/03玄仍と千句/04昌琢と百韻など/西咲・喬等漢和聯句

F1567 兼勝(かねかつ・上坂かみさか、通称勘兵衛、家号；菱屋/著屋めどきや) ?-? 京の書肆/易具類の売買、漢学、

1723「通俗台湾軍談」、25「文字合」37「惶根草」著、

[兼勝の号] 収翠/萍水へいすい散人/向陽堂/霊著軒れいしけん、

参考 同族の人 → 尹勝(ただかつ・上坂、著屋勘兵衛、書肆) P 2 6 3 9

01541 兼廉(かねかた・広橋ひろはし、法号；心誉貞寂、貞光男/本姓；藤原) 1678-172447 江中期廷臣；1706参議、

1719権大納言、1700「兼廉卿記」「兼廉卿山門大会参向記」、「東山院御凶事記」著

01542 金木(かねき・かなき・山本やまもと、初名；直躬/通称大隅) 1826-190681 遠江伊谷村の出身、

神職；石川依平門、国学・歌；小栗広伴・富樫博蔭門、富士浅間・伊豆雲見神社を崇拝；

雲見講結成、憂国の士；1868報国隊に従軍、

1846「富士まうで」、60-78「山本金木日記」、「社方取締之記」著

嘉根吉(かねきち・三浦) → 正子(まさつぐ・三浦/朝比奈、幕臣) D 4 0 9 3

01543 兼清(かねきよ・大隅おおすみ、一治男/本姓；藤原) ?-? 宮中料理方；代々供御・御厨子所預、大隅守、

1505厨子所小頭、1521「公方様御元服二重調進」著

01544 兼潔(かねきよ・醍醐だいで/本姓；藤原、後名；経胤、法号；妙観寺、冬熙ふゆひろ男) 1717-8165 江中期廷臣、

母；平義真女、冬基の孫、一条兼香の猶子、1729従三位/60従一位/1778右大臣、

1747「立太后記」、「延享立后記」著

01545 包清(かねきよ・立石たていし、通称；弥左衛門) ?-? 江後期越中富山藩士、前田利保の家臣、

1850「泉貨逸品」編、1852「逸品拾遺」著

兼清(かねきよ・吉田[ト部]) → 慈遍(じへん；法諱、天台僧/神道家) F 2 1 6 4

兼清(かねきよ・諏訪) → 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1

- C1574 **懐国** (かねくに・やすくに・もとくに・藤原ふじわら、親尹男) 1341-7434 南北期廷臣;越前・備前守/式部丞・右馬助、徳大寺家の家人/従五上、歌;1367中殿歌会/69応安二年内裏和歌/95「九月十三夜御会」参加、新続古今(761)、「愚管記」入、  
[我が君の千世のかざしとみるからに今日こそ桜色もそひけれ](新続古;七賀761)、  
[あくがれていづくも同じ月よとや待つ人はなき野辺をとほまし](応安内裏和歌;51)
- 01546 **兼邦** (かねくに・ト部うらべ[家名;吉田]、兼名男) ?-? 戦国期;文明1469-87頃神職、吉田兼俱の兄弟、歌人、1486「ト部兼邦百首」「兼邦百首歌抄」、「神祇百首」著  
兼邦(かねくに・ト部/清水谷) → 公壽(きんひさ・清水谷、廷臣/記録) R 1 6 6 9  
兼邦(かねくに・下村) → 春坡(しゅんぱ・下村しもむら、商家/俳人) K 2 1 3 8
- C1575 **懐邦親王** (かねくにしんのう・初名;懐成かねなり・のち説成かねなり、後村上天皇第6皇子) ?-? 1425存 南朝、南北一室町期、上野太守、歌人、新葉集4首(174/293/458/891)、  
[一声もをしほの山の郭公神代もかくやつれなかりけん](新葉;夏174)
- S1580 **兼子** (かねこ・田安たやす、幼名;脩姫、法号;仙寿院) 1756-182065 田安宗武の女(養女)、出羽庄内藩主酒井忠徳(ただのり1755-1812)の妻、歌人:1798石野広通「霞関集」入、  
[夕暮はみかさそふかとたき浪に鳴きたつ蟬の声ぞ涼しき](霞関;夏330)
- 01547 **周子** (かねこ・鍋島なべしま、小城藩主鍋島直員女) 1761-183474 肥前白石邑主鍋島直賢の妻、歌人;正親町おごまぢ実連門、「名花園和歌集」著  
[周子(;名)の号] 松園/名花園、(剃髪後;)仙妙院尼
- T1510 **かね子** (かねこ・山岡やまおか) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[雲はみなはらひつくして秋風に月澄みのぼる峰の松原](大江戸倭歌;秋867/峰月)
- U1590 **包子** (かねこ・伊達だて、別名;阿鉦おつる/晴子、旧姓;岩間) 1833-9159 歌人、陸奥仙台藩13代藩主伊達慶邦よしくに(1825-74)の側室  
周子(かねこ・島津) → 斉興室(なりおきのしつ・島津しまう/池田、弥姫/和漢学) H 3 2 1 2  
兼子(かねこ・藤原) → 讃岐典侍(さぬきのすけ) 2 0 3 0  
懐子(かねこ、藤原伊尹女) → 懐子(かいし、冷泉帝女御/歌人) S 1 5 0 1
- S1560 **かねさだ** (・中原なかはら) ? - ? 平安後期廷臣;九州の国司か?  
1050-54(永承5-天喜2)頃「太宰大貳源資通けみり卿家歌合」参加;後葉集入集、  
[初雪の降れるあしたのいへみこそうとき人にも見せまほしけれ](後葉集;218)
- 01548 **兼貞** (かねさだ・源みなもと;光孝流、文綱男) ?-? 平安後期歌人;1091左近中将藤原宗通歌合参加、命婦乳母(みょうぶのめと・憲子)の甥の子、  
[山里はふりつむ雪にとぢられてまきの板戸も開けぞわづらふ](宗通歌合;七番雪右14)
- 01549 **兼貞** (かねさだ・平たいら) ? - ? 連歌、菟玖波集2句入、  
[現うつとて夢にかはれる事もなし](菟;十五雑1481/前句;今またいつの昔なるらむ)
- I1520 **兼定** (かねさだ・一条いちじょう、房基男/本姓;藤原) 1543-8543 母;源義鑑女、戦国期廷臣;  
1552左少将/非参議/58土佐国司、長宗我部元親に逐われ豊後大友氏を頼る、  
1573左中将/権中納言/従三位/出家、伊予に渡り旧領奪回を企画;旧臣に討たれた、  
狂歌:1666行風「古今夷曲集」入、  
[雨により田蓑の島の見物に笠を召さいで濡れしつらゆき](古今夷曲集;九雑)  
(本歌;紀貫之「雨により田蓑の島を今日行けど名には隠れぬものにぞありける」  
[古今集十七918;難波の田蓑の島の歌])
- 01550 **兼定** (かねさだ・英保あは、白泉軒、兼重男) ?-? 安桃期1573-92頃播州飾東郡英保の歌人、  
「古哥雑哥小夜枕」;兄兼行かねゆきと共著
- V1535 **金定** (かねさだ・野呂のろ、) 1845- 190662 伊勢三重郡の儒者;菰野藩学校[修文館]に修学、経書;南川定軒門/文学;津藩儒土井牙髻ごうが門/医;稻生村の渥美玄碩門、  
医術;京の外科医高階丹後守門、歌;村井長央・中村良顕門、1870藩学校頭道館典籍で講師、  
1875(明治8)教部省下の教導職;神宮権少講義、  
[金定(;名)の初名/号]初名;脩徳、号;重溪  
金定(きんてい・野呂) → 金定(かねさだ・野呂のろ、儒者/医/歌人) V 1 5 3 5

- 兼貞(かねさだ・安倍) → 直貞(なおさだ・安倍あべ、和学者) K 3 2 7 0  
 兼貞(かねさだ・吉田) → 蘭香(らんこう・吉田よしだ、絵師) C 4 8 0 1
- F1568 兼郷(兼卿かねさと・広橋ひろはし/本姓;藤原、兼宣かねのぶ男) 1401-46/46 室町期廷臣;文章道出身/蔵人頭、  
 1425参議/28従三位権中納言/33院執権/日野家の家督相続、37出仕停止/従二位、  
 事に連座;毒殺か?、貞兼・兼暁の兄、綱光の父、「故実条々」「義教公大納言拝賀雑事記」著  
 1429「義教公石清水八間宮御詣記草」、歌人;1434永享百首入、「永享度大嘗会和歌」参加、  
 [兼郷(;名)の通称/法号/法名]通称;日野中納言、法号;観斎道寂、法名;観寂、道号;道斉
- S1599 兼郷(かねさと・堤つみ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [甲斐が嶺ねの雪げににごる此のごろは月もみがかぬ玉川の水]、  
 (大江戸倭歌;春183/河春月)
- 兼里(かねさと・ト部/吉田) → 兼起(かねおき・ト部うらべ/吉田、神職) O 1 5 3 8
- 1529 兼実(かねざね・九条くじょう/本姓;藤原、藤原忠通男/母;加賀[藤原仲光女]) 1149-1207/59 九条家の祖、  
 従一位/1186摂政/91関白/太政大臣、96土御門通親と抗争;失脚、  
 1202法然の戒師で出家;円証、歌人;清輔・俊成門、慈円の兄/妻;藤原季行女・藤原頼輔女、  
 後鳥羽天皇中宮任子(宜秋門院)・良通(内大臣)・良経(摂政)・良平(太政大臣)・  
 良円(大僧正)・良尋・良快(大僧正)・良恵の父、  
 1178-81治承右大臣家(兼実)百首・右大臣家歌合主催、日記「玉葉」、「安元改元定記」著、  
 「摂政神斎法」編、「除目録」「改元部類記」「神祇五十首和歌」「任子立后記」著、雲葉集入、  
 勅撰60首;千載(15首8/60/160169以下)新古今(11首231/280/322以下)新勅(7首)以下  
 [霞しく春のしほぢを見渡せばみどりをわくる沖つ白浪](千載;春8/  
 右大臣の時の家の歌合に霞の歌)、  
 [兼実の法名/通称]法名;円証、通称;月輪殿/後法性寺殿/後法性寺入道前関白太政大臣、
- 懷実(かねざね・藤原) → 経尹(つねまさ/ただ・藤原、歌人) D 2 9 6 4
- 01551 兼茂(かねしげ・ト部うらべ[家名;吉田]、神号;神敬霊神、兼貞男) ?-? 鎌倉前期神職;正四上神祇大副、  
 1198神祇伯業資王の家司;1211大嘗会拔穂使、「吉田兼茂朝臣下知按」、兼直かねおの父
- 01552 兼繁(かねしげ・ト部うらべ[家名;吉田]、通称;猪熊刑部、兼豊男) ?-? 1374存 南北期京の平野社僧、  
 正四上/平野社権預、1366神祇大副、正四上、歌/連歌:良基邸月次和歌会参加、菟玖波2句入、  
 兼熙かねひろの兄、  
 [降る雪に日もくれ竹の枝垂れて](菟:雑1205/前句;鳥のとまりやタベなるらん)
- 01553 兼茂(かねしげ・広橋ひろはし、法号;照応愍寂、綏光やすみつ男/本姓;藤原) 1636-87/52 廷臣;1656蔵人頭、  
 1658右大弁/59病気により致仕、「法皇次第」/1628「寛永五年正月五日叙位小折紙」著、  
 弟の貞光が嗣子
- T1521 金重(かねしげ・新井あり) 1805?- ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 1882(明治15)上州高崎石神社の獅子頭制作の田中村彫物師新井金重(78歳)と同一?、  
 [みずの音松の嵐のたのしさはうき世の人のしらぬ住かぞ]、  
 (大江戸倭歌;雑1714/幽居有余楽)
- H1502 兼季(かねすえ・藤原ふじわら、忠親男) 1179-? 廷臣;忠親「山槐記」入(8.19)
- C1577 兼季(かねすえ・今出川いまでがわ、菊亭、法号;覚静かくじょう、西園寺実兼男) 1281-1339/59 今出川家の祖、  
 母;藤原孝泰女の孝子(家女房少納言局/三条局)、兄公頭(公)の嗣、鎌倉南北期廷臣、  
 侍従/左中将/蔵人頭/春宮権亮、1299(正安元)参議/従三位/1300正三位/  
 1301左衛門督/檢非違使別当/02(正安4)権中納言/1305従二位/09正二位、  
 1315(正和4)権大納言//春宮権大夫/19右近大将/大納言/1322(元亨2)右大臣/23辞任、  
 1327後院別当/29従一位/32(正慶元)太政大臣;33(元弘3)後醍醐天皇建武新政により停止、  
 [前右大臣]の称、1338出家/39(延元4/暦応2)没、西園寺公衡・今出川公頭の弟、  
 妻;兄右大臣西園寺公頭女、実尹・尹季・女子(妙菊)の父、[法名];覚静、  
 琵琶の名手;崇光院の師、京極派歌人、1315京極為兼「詠法華経和歌」参加、続現葉集入、  
 徒然草70段;琵琶牧馬ばくばの逸話入、  
 勅撰11首;新後撰(431/527)玉(6首)続千(6首)続後拾(837)風(3首)新拾(689)、  
 [あさぼらけ晴れゆく山の秋露に色みえそむる峯のもみぢ葉]、

(新後撰;秋431/東宮権大夫兼季)、

[むらくもをはらふ三笠の山風にあめのしたてる月ぞさやけき](詠法華経歌;44)

- 1530 **兼輔**(かねすけ・藤原ふじら、堤中納言/京極中納言、利基男)877-933<sup>57</sup> 廷臣;921参議/930中納言、右衛門督、歌人;従兄弟定方と貫之・躬恒らを庇護、清正父、913内裏菊合参加、「兼輔集」、勅撰57首;古今(4首391/417/749/1014)後撰(24首17/46-)新古(7首576-)新勅(4首)以下、[みかの原わきて流るるいづみ川いつみきとてか恋しかるらむ]

(新古996/古今六帖には「よみ人知らず」/兼輔集にはない)

[人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に惑ひぬるかな](子故の闇;後撰集1102)、

息女桑子を思つての歌 → 桑子(そう・藤原、堤中納言御息所/歌人)H 2 5 5 3

- C1578 **兼資**(かねすけ・源みなもと;文徳源氏、初名;遠資、惟正男)960-1002<sup>43</sup> 母;藤原守義女or国章女、平安中期廷臣;薩摩・美濃・伊予守/正四下、左馬権頭、良吏と評判、1000自邸に東三条院詮子の遷御、1202(長保4)出家;即日没、歌人;風雅集74詞書;赤染衛門と贈答、本朝文粹;大江以言「遊女を見る」に記事、[手もとたゆく折りてぞきつる梅の花もの思ひしれともに見んとて](風雅;春74詞書、倫子春日参詣に随従し梅花を車に挿す時に赤染衛門に贈歌、赤染の返歌;74 山がくれにはほへる花の色よりも折りける人の心をぞ見る)

- W1514 **兼亮**(かねすけ・吉田よしだ/本姓;藤原、笠間藩士吉田之貫の長男)1640-1703<sup>切腹</sup>64 母;貝賀左門女、1645浅野家の赤穂移封に伴い吉田家も随従、家督嗣;播磨赤穂藩士;足軽頭、甲州流軍学;近藤正純・正憲法門/槍術;水沼久太夫門、歌人;金勝入道こんざにゅうどう慶安門、1663(寛文3)熊井新八女と結婚;九助・成重・兼貞・兼直(伝内)・さん・すえの4男2女の父、1686浅野家飛領の播磨加東郡の郡代;知行200石役料50石、1701(元禄14)浅野長矩刃傷事件;赤穂藩改易、大石良雄派で活動;遠林寺で藩残務整理、播磨三木町に移住、1702江戸で情報収集/討入;赤穂浪士47士の1、裏門隊大将大石良金の後見/吉良義央殺害後に大石の命で富森正因と共に大目付に出頭、大石良雄と共に熊本藩主細川綱利下屋敷にお預、1703(元禄16)切腹、[兼亮(;名)の通称/号/変名]通称;忠左衛門、号;新月庵/白砂、変名;田口一真/篠崎太郎兵衛、戒名;刃仲光剣信士

- 01554 **包輔**(かねすけ・多田ただ、別通称;包助)?-? 江後期淡路洲本の占卜家、屋代弘賢の依頼で「淡路国風俗問状答」のため調査、1832「方鑿秘竅全書」著

- 01555 **金助**(かねすけ・荒井あり、号;玉泉堂/洗金甫)?-1866 1857箱館奉行支配調役並;石狩場所経営担当、石炭石油を発見/石狩に学館・武芸道場を建設/樺太開拓を担当/1863箱館詰/64室蘭詰、「玉泉堂閑話」「フクロウ物語」著

- S1589 **周祐**(かねすけ・井原いはら/本姓;今井)1815-80<sup>66</sup> 先祖は今井平六;信濃飯田に移住;井原姓、国学者・歌;岩崎長世(1807-79)門、同門の桜井光章・井村守泰・井伊いとらと交流、[周祐(;名)の通称/法号]通称;五郎平、法号;広大院

兼右(かねすけ) → 兼右(かねみぎ・吉田、神道) D 1 5 0 7

兼翼(かねすけ・周布) → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革) F 4 0 4 8

兼輔(かねすけ・松殿) → 通輔(道輔みちすけ・松殿まつどの/藤原、廷臣/歌) B 4 1 6 4

- 1572 **兼澄**(かねすけ・源みなもと;光孝流、別名;兼隆、信孝男)955?-1015?<sup>61?</sup> 平安中期廷臣;東宮帯刀、蔵人/左衛門尉、若狭・加賀守/従五上、公忠の孫、大中臣能宣の女嬪、命婦乳母の父、歌人;伯父信明(36歌仙)・叔父観清・勝観・寛祐も勅撰歌人、姻戚の能宣・輔親父子と親交、歌人;1001(長保3)東三条院四十賀屏風歌に詠進、1003左大臣道長歌合参加、1004一条天皇松尾社行幸和歌参加/06道長に書籍千余巻献上/12大嘗会主基屏風歌詠進、家集「兼澄集」、清原元輔・曾禰好忠・安法・藤原長能・実方と交流、1007-09後十五番歌合入、勅撰12首;拾遺(594)後拾遺(7首;20/88/428-)金葉(Ⅲ389)続後拾(627)新後拾(847/901)、続詞花集2首入、

[大淀おほよのみそぎ幾世になりぬらん神さびにたる浦の姫松](拾遺;神楽歌594、

983年8月1日頃の恒徳公[藤原為光]障子絵歌)

[春のうちは塵り積もるとも清めせじ花にけがるる宿と言はれむ]、

(後十五番歌合;十番左19)

- 息女 憲子 → 命婦乳母(みょうぶのめのと・源憲子、陽明門院乳母/歌人) G 4 1 6 7
- V1538 甲子三(かねぞう・萩原はぎわら、号;花鳥庵) 1864-? 上総武射郡松尾町の八田琴平神社外32神社社掌、国学者
- C1579 兼孝(かねたか・源みなもと、和泉守の時長男)?-? 鎌倉期廷臣;大膳大夫/四位、忠孝・兼広の父、讃岐守兼教の孫、歌;新後撰1545、  
[別れにしものちの三年みとせの春の月面影かすむ夜半はぞかなしき](新後撰;雑1545、父時長没後3年の春に妹の許に贈る歌)
- C1580 兼高(兼隆かねたか・藤原ふじわら、長方男) 1179-1239 61 母;江口の遊女の木姫(or隠岐守師高女)、平安後期-鎌倉期廷臣;1214殿上にて勘解由次官平宗宣と乱闘事件;土佐に配流、1229赦免;1237従三位/38参議/正三位、  
詩歌人;1213内裏詩歌合参加(詩;兼隆名)/和漢兼作集入、新勅撰513、  
[暁ぞなほうきものと知られにし都を出でし有明の空](新勅;羈旅513、土佐にて)
- 01556 兼孝(かねたか・九条くじょう/本姓藤原、二条晴良男) 1553-1636 84 九条植通たねみちの養嗣子、廷臣;1574右大臣/76左大臣/78関白/氏長者/1600関白再任/従一位准三宮/04致仕・出家、有職故実家/古典に精通、「花鳥余情註」「河海註」「装束抄付隨身方」著、  
[兼孝の号] 大麓/後月輪、法名;円性玖山
- 01557 包髷(かねたか・神尾かみお、忠易男) 1685-1754 70 幕臣;1702御勘定、諸国を巡見/1752致仕、1732「四民格致重宝記」著、  
[包髷の通称/号]通称;市三郎/十郎左衛門、号;精翁
- W1555 兼隆(かねたか・野々山ののやま/本姓源、初名;数馬、小浜昌隆2男) 1693-1772 80 野々山兼政の養嗣子、幕臣;御書院番・屋敷改勤務、1757(宝暦7)將軍綱吉養女で島津継室室竹姫(浄岸院)の用人、歌人;武者小路家門、石野広道[霞関集]初撰入、  
[法のりの水たえせぬ三井みるの古寺ふるでらに朝夕鐘の声響くらし](霞関集初撰/古寺鐘)
- C1581 兼隆(かねたか・吉田よしだ/本姓;卜部、後名;良俱よしとも、兼雄[良延]2男) 1739-96 58 母;本多忠統女、神職;神祇管領長上、1764神祇権大副/66従三位/96正二位、兄兼兄早世のため家督相続、卜部良連の父、歌;「兼隆詠草」/1752-5「卜部兼隆日記」、「日本書紀神代抄」「中臣祓鈔」著、「日本紀神武卷抄」「三元十八神道行事口伝次第」「神籬四重大事」著、  
[兼隆(;初名)の神号] 後豊神靈神
- 01558 包高(かねたか・立花たちばな、通称;兵衛ひょうえ) 1743-1812 70 筑後三池藩主立花家の一門、三池藩士、1806藩主移封により磐城下手渡藩士/筆頭家老;陣屋建設・条目布達、1789「立花家譜」編
- 01559 兼恭(かねたか/かねのり・市川いちかわ、医者文徴3男) 1818-99 82 安藝広島島の医者;高良斎/緒方洪庵門、さらに杉田成卿門、洋学;佐久間象山門、福井藩に招聘;藩士/幕府に招聘;天文台和解御用、開成所教授、1865幕臣に列す;大番格砲兵差図役頭取勤方、  
維新後;京都大阪の兵学校教授/洋字活版を創始;ドイツ語研究に着手、1853「遠西武器図略」訳、「星学航海地誌」訳、  
[兼恭(;名)の字/通称/号]字;敬叔、通称;三輔/岩之進/斎宮/逸吉、号;苧齋ちよさい/浮天齋
- U1543 兼高(かねたか・木下きのした、) 1822-1871 50 信濃伊那郡山本村の七久里ななくり神社祠官、国学;平田鉄胤門、  
[兼高(;名)の通称]文吾/豊後
- T1573 包高(かねたか・宇井うい、通称;出羽守、包教かねのり男) 1827-? 母;蔦つた、下総香取郡の神職/国学;父門、郷社熊野神社神主;代々神主世襲、維新後;祠官と改称、神道教導職、妻;石毛石見守の長女  
兼丘(かねたか・伊集院) → 兼丘(かねおか/かねたか・伊集院いじゅういん、藩士/歌人) O 1 5 3 7  
兼隆(かねたか・源) → 兼澄(かねずみ・源みなもと、廷臣/歌人) 1 5 7 2  
兼隆(かねたか・蛭田/見坊) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7  
兼孝(かねたか・林) → 元碩(げんせき・林はやし、心学者) K 1 8 5 4
- C1582 兼忠(かねただ・鷹司たかつかさ、号;歓喜園[苑]院、兼平男/本姓;藤原) 1262-1301 40 母;家女房の弁局、兄基忠の猶子、廷臣;1272従三位/81従一位/91左大臣/96関白・氏長者/98摂政/1301出家、「とはずがたり」に逸話、冬経らの父、歌;玉葉2308、  
[亡き人を花ゆゑけふはしのびてもものちの春をばわれも頼まず](玉葉;雑2308、近衛関白逝去後参籠し年久しくなる頃花歌を詠む)

- 01560 **金忠**(かねただ・梅津うめづ/本姓;藤原、幼名:時忠、敬忠男)1671-1725<sup>55</sup> 出羽秋田藩家老、軍学;梅津利忠門、「**大国講義**」「**孫子**」著、忠致ただむねの父、  
[金忠(;)名)の字/通称/号]字;伯雉、通称;桃之助/藤太夫、  
号;隣松亭/昏庵/富春山人/富山仙人、法号;了明昏庵
- U1576 **周忠**(かねただ・島田しまだ/本姓;源、) ?-1883 京の呉服・両替商;蛭子屋、国学者、  
狂歌師菊廼屋さくのや真恵美まへみ(1795-1850)の子孫、  
[周忠(;)名)の通称/屋号]通称;八郎左衛門、屋号;蛭子屋  
周忠(かねただ・島田) → 真恵美(まへみ・菊廼屋さくのや、商家/狂歌師) 4 0 4 4  
懐忠(かねただ・藤原) → 懐忠(ちかただ/かねただ・藤原ふじわら、大納言) 0 2 8 1 0
- G1581 **兼忠**(・源) **母の乳母**(かねただのははのめのと、在原季方女?) ?-? 平安前期女房/左近少将真忠の妻?、  
源兼忠は貞元親王男、源兼忠母は太政大臣藤原基経女/枇杷左大臣仲平の妹/貞元親王の妻、  
歌、後撰1187、  
[結び置きし形見のこだになかりせば何に忍しのぶの草を摘ままし](後撰;雑1187、  
兼忠母[仲平妹]没後に兼忠と娘を枇杷の家にする時に添える歌/籠と子を掛る)
- C1583 **兼胤**(かねたね・源みなもと、民部少輔源行長男) ?-? 鎌倉期廷臣;右馬頭、  
歌人:1296関白近衛家基の死去の哀悼歌(続千載2067)、続現葉集入、  
勅撰4首;玉葉(1199)続千(1140/2067)新千載(2334)、  
[遠山の麓になびく夕煙里あるかたのしるべなりけり](玉葉;旅歌1199)
- C1576 **鍊胤**(鉄胤かねたね・平田ひらた/初姓;碧川、別名;篤実/篤真) 1799-1880/2?82/84? 伊予新谷の国学者、  
平田篤胤門/篤胤女おとうと結婚;婿養子、江戸住;篤胤の活動補助;平田学の普及尽力、  
1862秋田藩士、1834「毀誉相半書きよほうはんしよ」、「**耘業余録**」「**飛め許と**」「**平田翁一代略記**」著、  
[鍊胤の通称/号]通称;内蔵介くらのすけ、号;伊吹舎/大角、碧川好尚の兄、延胤のぶたねの父  
兼胤(かねたね・広橋) → 勝胤(かつたね・広橋ひろはし、廷臣/歌人) C 1 5 4 7  
兼為(かねたね・山本) → 経為(つねたね・山本たまと、神職/国学) G 2 9 6 8
- H1506 **兼親**(かねちか・源みなもと、季長男) 1157-1198<sup>42</sup> 平安後期鎌倉期廷臣;定家「**明月記**」入
- 01561 **兼親**(かねちか・中山なかやま、法号;後光恩院明空、篤親あつちか男/本姓;藤原) 1684-1734<sup>51</sup> 廷臣;  
1706参議、1719権大納言/34従一位准大臣、1705「**中山兼親公記**」著
- U1508 **兼親**(かねちか・甲斐かい、通称;有雄) 1829-1909<sup>81</sup> 肥後阿蘇郡の国学者  
兼親(かねちか・源) → 良空(りょうくう;法諱、廷臣/法印/琵琶) H 4 9 1 3  
兼親(かねちか・周布) → 五郎左衛門(ごろうざえもん・周布すぶ、藩士) P 1 9 0 7
- 01562 **兼嗣**(かねつぐ・近衛このえ/本姓;藤原、通称;後六条摂政、道嗣みちつぐ男) 1360-88<sup>早世</sup> 29 南北期廷臣、  
母;洞院実夏女(実は洞院実世女)、1368従三位/75内大臣/78右大臣/79従一位、  
1387(嘉慶元)摂政/氏長者、1383「**除目次第**:弘和三年」編
- C1584 **兼統**(かねつぐ・直江なおえ、幼名;与六/別名;重光、樋口兼豊男) 1560-1619<sup>60</sup> 越後坂戸城の生/武将、  
母;直江親綱女/1581母方の与板城主直江家を相続、上杉景勝家臣、檢地惣奉行/蔵入地奉行、  
1598米沢城代;藩政に尽力、朝鮮書籍を整備;「**禅林文庫**」、銅活字の直江版「**文選**」刊行、  
「**直江教書**」「**亀岡文殊寺詩歌**」「**景勝家法**」「**軍論之卷**」「**軍法**」著、「**景勝軍法**」編、  
[兼統(;)名)の号]号;鉤齋こうさい、法号;達三全智居士
- 01563 **兼次**(かねつぐ・樋口ひぐち、通称;平兵衛尉) ?-? 江前期伊勢桑名和算家、1670「**根源記算法直解**」著
- C1585 **兼綱**(かねつな・藤原ふじわら、道兼男) 988-1058<sup>71</sup> 母;藤原遠量女or国光女、父没後叔父道綱の養子、  
平安中期廷臣;1014蔵人頭;在任間もなく免職、のち左近中将/太皇太后宮亮/越前守、  
正四下、紀伊守在任中に没、歌:寂超「**後葉集**」(162;一書かねつな名)入、  
勅撰;後拾遺(983)、  
[待つことのあるとや人の思ふらん心にもあらでながらふる身を](後拾遺集;十七983)  
[心からあだなる風に打ちなびき今朝は露けき女郎花かな](後葉集;秋162)  
女むすめも歌人 → 兼綱娘(かねつなのむすめ・藤原)
- 01564 **懐綱**(かねつな・藤原ふじわら、懐遠男) ?-? 平安後期後白河院蔵人/主殿助従五上、懐能かねよしの兄、  
歌人;1170住吉社歌合/72広田社歌合参加、  
[月影を雪かと思れば住吉すみよしのあけの玉垣色もかくれず](住吉歌合;廿一番右42)
- C1586 **兼綱**(かねつな・広橋ひろはし[家名;勘解由小路かげゆこうじ]、広橋光業の長男/本姓;藤原) 1315-81<sup>67</sup> 廷臣、

母;藤原俊輔女、1355参議、75権大納言/従一位/81外戚のため准大臣、儀同三司、贈左大臣、仲光の父、養女;崇賢門院仲子(後円融天皇の母)、  
「建来記」「御幸類記」/1356「文和五年日記」「延文改元定記」、「兼綱公記」外著多数、  
歌人;「永徳百首」入、勅撰6首;新千載(1339)新後拾遺(144/452/1554)、  
新続古今368(儀同三司名)/755(瑞雲院贈左大臣;日野仲業の歌か)、  
[聞きなれし心づくしもいまは身のゆふべをよそに松風ぞ吹く];(新千;恋1339)、  
[兼綱の通称/号]通称;瑞雲院贈左大臣、号;儀同三司、法名;志寂/法号;瑞雲院  
参考 → 忠業(ただなり・日野、瑞雲院贈左大臣) F 2 6 4 7

兼綱(かねつな) → 顕兼(あきかね・源、歌人) 1 0 0 3

S1562 兼綱女(かねつなのむすめ・藤原ふじわら)?-? 紀伊守兼綱[988-1058]の女、平安中後期歌人、  
寂超「後葉集」入、

[見てもなほあかぬ涙をおそぶればいつをか袖のかわくまにせん](後葉集;恋377、  
おそぶるは押してゆさぶる意)

01565 兼経(かねつね・藤原ふじわら、忠雅[1124-1193]男)?-? 平安後期鎌倉前期廷臣;散位、右少将、  
歌;1200(正治2)石清水若宮歌合参加、

[葛城かづらきやたかまの山の花の春よ所にはいづら峰の白雲](若宮歌合;桜廿六番右)、  
参照 → 忠雅(ただまさ・藤原、太政大臣、歌人) Q 2 6 7 8

S1563 かねつね(・姓不詳;後葉集350)?-? 平安後期廷臣/歌人、一書;藤原憲繩名、  
後葉集162の歌人;[藤原かねつね]は→ 兼綱(かねつな・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 1 5 8 5

[頼めつつ来ぬものゆゑにまつ島やをじまのあまの袖濡らすらん](後葉集;恋350)

C1587 兼経(かねつね・近衛このえ、家実男/本姓藤原) 1210-5950 母;藤原季定女、廷臣;1231右大臣/35左大臣、  
1237摂政/氏長者/40太政大臣/42関白/47摂政/57出家、「岡屋関白記」「四条院即位記」著、  
歌人;自邸で百首歌催行、勅撰12首;続後撰618/1113続古221/677続拾351玉(4首)以下、

[思ひきやつゆの命の消えぬまに又も雲井の月を見むとは]、  
(続後撰;雑1113/宝治元年[1247]再び摂政となり直廬にいて月を詠む)、  
[兼経の通称/法名]通称;岡屋殿/岡屋おかの関白/岡屋入道前摂政太政大臣、法名;真理  
かねつね(・藤原、後葉集162)→ 兼綱(かねつな・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 1 5 8 5

兼経家民部卿(かねつねけのみんぶきょう・近衛)→ 民部卿(みんぶのきょう、歌人) G 4 1 9 0

兼貫(かねつら・日野西) → 勝貫(まさつら・日野西ひのし/藤原、廷臣/記録) E 4 0 2 1

兼連(かねつら・吉田) → 兼敬(かねゆき・吉田/卜部うらべ、神職) D 1 5 1 8

兼連(かねつら・飯尾) → 元行(もとゆき・飯尾いのお/三善、幕臣/歌) E 4 4 5 5

01566 兼輝(かねてる・一条いちじょう/本姓;藤原、教輔男) 1652-170554 廷臣;1661従三位/77右大臣、82関白、  
氏長者/1687摂政/89関白;90辞任/94従一位、1670-99「兼輝公記」「兼輝公記別記」著、  
1688「貴布禰社奉納百首和歌」編/「装束鈔」「立后次第」「大嘗会節会次第」外記録多数、  
1702定基・宗恒に命じ「類聚雑要抄」六卷本写本を作成;「円成寺殿類聚抄」、  
一条家文庫「桃華坊」を充実、

[兼輝(;名)の前名/法号]前名;内房/冬経、法号;円成寺

鉄門(かねと・船曳) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4

01567 兼任(かねとう・秦はた) ? - ? 室町期廷臣;左近府生、

歌;1443(嘉吉3)一条兼良「前摂政家歌合」参加  
[春来ぬとけさや鳴くらん昨日までよそに思ひし谷の鶯](前摂政歌合;初春十四番右28)

兼任(かねとう・卜部/吉田)→ 兼起(かねおき・卜部うらべ/吉田、神職) O 1 5 3 8

01568 周任(かねとう・田沢たざわ、通称;宗川、仲舒なかの男)?-1857 幕臣;医学館儒学教授、父仲舒と「文篋」編、  
仲舒述「祝詞解」校訂、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[夕まぐれ妻待ちわびて鳴く鹿の声聞くだにも秋はかなしき](大江戸倭歌;秋769/夕鹿)

兼遐(かねとお・一条) → 昭良(あきよし・一条、廷臣/歌/連歌) E 1 0 0 6

H1503 兼時(かねとき・安倍あべ、兼吉男) 1086-115368 1150-59藤原通憲(信西)「本朝世紀」入

01569 兼時(かねとき・楊梅やまもも、兼高男/本姓;藤原)?-?早世 南北期;北朝廷臣;左中將、

歌人;1370-71崇光院御会「仙洞歌合」参加、

[かきくらし降るとはすれどあは雪の消えやすきにぞ春は知らるる]、

(仙洞歌合; 春天象十番左19)

- U1537 **周辰**(かねとき・河窪かむぼ/本姓; 源;) 1705-8379 近江犬上郡の歌人; 沢村維頭(琴所きんしよ)門、  
歌; [彦根歌人伝・鶴]入、  
[周辰(;名)の通称] 二郎八じろはち  
兼時(かねとき・大中臣) → 経茂(つねしげ・大中臣/正真院、神職) C 2 9 2 0  
兼時(かねとき・向井) → 去来(きよらい・向井むかい、俳人) 1 6 5 4
- F1570 **兼俊**(かねとし・源みなもと、経宗男)?-? 平安歌人、母方の祖母:伊勢大輔、1123「撰津集」入  
母; → 兼俊母(かねとしのはは・源、歌人) F 1 5 7 1
- 01570 **兼俊**(かねとし・ト部うらべ、兼政男) 1076-112954 平安後期神職; 正四下神祇少副、亀トに精通、  
「兼俊亀ト抄」著
- W1553 **兼俊**(かねとし・水無瀬みなせ、権中納言氏成男) 1593-165664 氏成の嗣/廷臣; 左中将、  
1628(寛永5)従三位/左兵衛督兼任/31(寛永8)参議/32踏歌外弁/37正三位/38従二位、  
1644参議辞任/48(正保5)権中納言; 49辞任、56(明暦2)没、  
代々書家/将棋の駒銘[水無瀬駒]印、[慶安手鑑]に筆跡入、  
1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加、  
[行く舟のならひはかなしけふもまたあはれいつくの浪枕せん](後鳥羽院忌; 70/海路)  
桜井兼里・町尻貝英・氏信・兼祐の父
- 01571 **兼利**(かねとし・諏訪すわ、初名; 兼清) 1614-8774 薩摩藩士/1624藩主家久小姓/物奉行/大坂蔵奉行、  
吟味役、1649藩主の世子島津綱久の守役; 江戸で側近の士として歌を指導、  
のち旅家老/地頭/家老となる、1671致仕/79隠居、歌人:岡本宗好門/禅; 鈴木正三門、  
1680(延宝8)山本春正の求めにより京の新玉津島社一万首和歌を奉納、  
「諏訪兼利歌集」「員外千首和歌集」「喫茶活法奥集」著、  
[兼利(;名)の通称/号]通称; 空右衛門、号; 荒田翁/老蜚子ろうへんし/夢現叟/庵弘子、  
法号; 不伝院  
兼敏(かねとし・吉田) → 兼俱(かねとも・吉田/ト部、神職/吉田神道大成) 1 5 3 1  
金利(かねとし・三谷) → 金利(きんり・三谷むたに、俳人) S 1 6 6 8
- F1571 **兼俊母**(かねとしのはは・源みなもと、高階成順女/母; 伊勢大輔)?-? 平安後期歌人/源経宗の妻:兼俊出産、  
姉は神祇伯康資王の母、歌人; 橘為仲や姉康資王母との贈答歌(後拾遺集)  
新撰朗詠集入、後拾遺(989・1133)、  
[にほひきや都の花は東路あづまぢに東風ちのかへしの風につけしは](後拾; 雑1133、  
東国にいる姉への贈歌、東風の返しの西風に花の香りを託す、  
返歌; 康資王母; 1134吹き返す東風のかへしは身にしみき都の花のしるべと思ふに)
- 01572 **兼富**(かねとみ・ト部うらべ[家名; 吉田]、兼熙男)?-1438 室町期神職; 吉田社預、神祇大副、  
1427正四位(没後1444従三位追贈)、「ト部兼富同兼名書状」、兼名かねなの父、  
[兼富(;名)の神号] 神度靈神
- W1502 **兼福**(かねとみ・薬丸やくまる、兼陳かねのぶ男) 1642-9352 薩摩鹿兒島藩士/示現流剣術家; 父門、  
細工奉行、兵具奉行就任の打診を断る、和学者、養子; 黒葛原周助忠長(実家に戻る)・  
薬丸次兵衛(早世)・黒葛原周次郎(薬丸兼慶/家督嗣)、  
[兼福(;名)の通称]新蔵/大炊兵衛・刑部左衛門(共に父の称)
- V1521 **兼留**(かねとめ・中原なかはら、) 1737-177236 備中玉島の商家、国学/歌; 武者小路家入門、  
[兼留(;名)の初名/通称/屋号]初名; 包留かねとめ、通称; 良蔵、屋号; 東綿屋
- C1588 **兼朝**(かねとも・源みなもと、兼明とも、定数or光教男)?-? 鎌倉期廷臣; 長門守五位、  
歌人; 寂延「御裳濯集」入、東に下向し富士山を詠む、  
勅撰5首; 1251成立「続後撰」(1039/1310)/続拾遺(1204)新後撰(1247)新千載(1041)、  
[ななそぢの春を我が身にかぞへつつ今年もはなにあひ見つるかな](続後撰; 雑1039)
- 01573 **兼友**(かねとも・ト部うらべ、兼時男)?-? 1233存 平野社の神職/正四下神祇大副/長門守、  
1233藤原定家を訪問(明月記入)、「神道秘釈」著
- 1531 **兼俱**(かねとも・吉田よしだ/本姓:ト部うらべ、初名兼敏、ト部兼名男) 1435-151177 神職; 神祇管領長上、  
神祇大副/吉田社社務/唯一宗源神道主唱(; 神祇伯白川家に対抗); 吉田神道を大成、

- 1484「八雲神詠伝」/84「古今集秘伝叢書」/1504「靈源集」、「蘊奥記」「諸社根源記」外著多数、  
[兼俱の神号] 神竜大明神、兼致/清原宣賢の父
- H1566 **包知**(かねとも・浅田あさだ/旧姓;坂野)1734-1801<sup>68</sup> 越前金津の商家/歌;兄坂野宗春(致知むねとも)門、  
[包知(;名)の通称/屋号/法号]通称;弥兵衛、屋号;平野屋、法号;教受
- 01574 **金朝**(かねとも・茂呂もろ/本姓;源;字;仲竜)1783-1847<sup>65</sup> 江戸本所柳島の絵師;狩野洞雲門/法橋、  
歌も嗜む、1827「許我道の記」著、  
[金朝(;名)の号] 蓬雲/蓬雪/五岳  
兼友(かねとも・望月) → 長孝(ながよし・望月、歌人) 3 2 2 2
- C1589 **兼豊**(かねとよ・ト部うらべ[家名;吉田]、ト部兼夏男)1305-76<sup>72</sup> 鎌倉南北期神職;正四上/神祇大副、  
吉田社預、兼繁かねしげ/兼熙かねひろの父、  
1338「兼豊記抄」著、1362「宮主秘事口伝」編/75「大嘗会次第」著、  
「吉田家日次記」(1345-1403兼豊・兼熙・兼敦3代の日記)、  
[兼豊(;名)の神号] 神恭霊神
- 01575 **兼豊**(かねとよ・水無瀬みなせ、法号;宝林院、則俊男)1653-1705<sup>53</sup> 伯父氏信の養子/廷臣;1695参議、  
従二位、「東路紀行」著  
兼豊(かねよし・門村) → 兼豊(けんぼう/かねよし・門村かどむら、絵師/俳人) D 1 8 0 5  
兼虎(かねとら・波多) → 嵩山(すうざん・波多/波田/秦、儒者) B 2 3 0 0
- N1529 **兼名**(かねな・ト部うらべ[家名;吉田]、神号;神恩霊神、兼富男)?-1460 吉田社神主/1452従三位、  
1453神祇大副、1457正三位/60従二位、  
「ト部兼富同兼名書状等」「神社正宗秘要」著、吉田兼俱かねともの父
- 01576 **兼魚**(かねな・ト部うらべ[家名;猪熊]、初名;兼村、兼古男)1620-? 神祇大副/正四下/平野社預、  
藤井兼充の父、1670「奉幣両段次第」著、「ト部家神道雑秘抄」「春日社記」著、  
「日本書紀神代卷諸大事」「日本書紀神代卷深秘」著
- T1556 **兼魚**(かねな・猪熊いのくま/本姓;ト部、千倉ちくら男)?-? 寛文1661-73頃;讃岐高松郡の国学者、  
父の志を継ぎ国典の研究;水戸光圀の崇するところとなる
- C1590 **兼直**(かねなお・ト部うらべ[家名;吉田]、神号;神猷霊神、兼茂or兼貞男)?-? 平安鎌倉期神職;正四上、  
神祇大副/1206兼貞より譲渡;信濃権守となる、1206日本書紀書写/25古語拾遺書写、  
「神道大意」「神道大意抄」「神道大意講義」「神道大意二夜抄」「帝王系図」外著多数、  
兼藤の父、歌人;藤原定家を屢々訪問、1246春日若宮社歌合参加、檜葉集・雲葉集入、  
勅撰11首;新勅撰(570)続古(700/727)続拾(1410)風(895)新千(2360)新拾(806)以下、  
[あまつ風あめのやへくも吹きはらへはやあきらけき日のみかげ見む](新勅;神祇570、  
寛喜3[1231]伊勢勅使たてられ当日まで雨で宣旨承り本宮に籠り祈請し詠む)
- 01577 **兼仍**(かねなお・山井やまのい、桜井兼里2男)1671-1719 江前期京の廷臣;1708従三位/16正三位、  
1717治部卿、1701「伊勢貞国伝」著
- 1532 **兼仲**(かねなか・広橋ひろはし[家名;勘解由小路かげゆこうじ]、経光2男/本姓;藤原)1244-1308<sup>65</sup> 鎌倉期廷臣、  
母;藤原親実女、1292参議;日野家長者/93敷奏/権中納言/従二位、  
日記「勘仲記」「広橋家家記」、1279「興福寺上棟別記」88「大嘗会国郡ト定並改元勘文事」著、  
歌人;「正安度大嘗会和歌」入/新後撰1607、  
[榊とるみかみの山にゆふかけて祈るひつぎのなほやさかえむ](新後撰;賀歌1607、  
正安三年1301悠紀風俗神楽歌 三上山)
- 1573 **兼長**(かねなが・源みなもと、初名;重成、道成男)?-?1057<sup>存</sup> 母;平親信女or異母兄源則成女?、  
平安後期廷臣;正五下/右兵衛佐/備前・讃岐守、歌人;和歌六人党の1、  
1041弘徽殿女御歌合/49内裏歌合参加、  
1050高倉一宮祐子内親王家歌合最後の席を藤原経衡と競い服喪不参加;袋草紙に逸話、  
妻;備前典侍(びぜんのみすけ/源雅通女);晩年は妻に先立たれ出家?、  
後拾遺5首(46/376/483/538/1132)  
[たちはなれ沢辺になるる春駒はおのが影をや友と見るらん](後拾遺;46/弘徽殿歌合)
- C1591 **兼長**(かねなが・甘露寺かんのり、長卿男/本姓藤原)1357-1422<sup>66</sup> 南北/室町期廷臣;1382参議/右兵衛督、  
1384権中納言/92致仕/正二位/1409権大納言/10聴帯劔/11致仕/12按察使/22従一位
- 01578 **兼永**(かねなが・ト部うらべ[家名;吉田]、吉田兼俱男)1467-1536<sup>70</sup> 神職;1523神祇権大副/36丹波権守、

父より神道学を相伝/のち父と絶縁;嫡庶正統の争いの原因、天文法華の乱で横死、  
古典に精通;宣賢と共に家学を守る、「古語類要集」「唯一神道璽印」著、古事記書写

兼永(かねなが・山口/紀) → 安良(やすよし・山口やまくち、醸造業/国学) D 4 5 5 7

懐長(かねなが・藤原) → 懐能(かねよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) P 1 5 0 5

- 1533 懐良親王(かねながしんのう・かねよししんのう、後醍醐天皇皇子) 1329-83 55 母;御子左為道女?、式部卿/中務卿、  
1336南朝征西将軍(征夷大将軍);伊予忽那島に滞在/のち薩摩の谷山城に御所、  
1348肥後菊池に滞在/61太宰府に居を移す、1375頃将軍職を致仕/筑後矢部に退隠;同地没、  
歌人;新葉集1首(1276)入、李花集入、  
[日に添へてのがれんとのみ思ふ身にいとどうき世のことしげきかな]、  
(新葉;雑1276/建徳二年[1371]秋ころに中務卿宗良親王の許へ贈る歌)

金無(かねなし・大の鈍だいのどん、狂名) → 帰橋(ききょう・蓬莱山人) 1 6 9 3

- 01579 兼夏(かねなつ・ト部うらべ、神号;神貞霊神、兼益男)?-? 鎌倉期神職;神祇大副、古典の書写研究、  
1303「日本書紀神代卷」書写、「神道大意」「神道大意部類」著
- C1592 兼成(かねなり・水無瀬みなせ/本姓;藤原、初名;親氏、三条西公条2男) 1514-1602 89 母;甘露寺元長女、  
水無瀬英兼の養嗣子、1547従三位/80権中納言/85正二位/1600(慶長5)出家、  
歌人;1556実父公条の七十賀会参加/93着到和歌参加、95家康に伊勢物語を講義、  
1598自邸で歌会主催、養子親具と将棋の駒を製作;のち親具と不和、実子氏成が家督継嗣、  
「伊勢物語抄」「象碁纂凶部類抄」「将碁駒之記」「将碁馬日記」著、  
[兼成(;名)の通称/法名]通称;黄門、法名;慈興
- C1593 鐘成(かねなり・暁あかつき、木村きむら、名;明啓、和泉屋茂兵衛男) 1793-1860 68 大阪西横堀福井町の生、  
父は醤油所経営/庶出子のため分家2代目木村平八により養育;1807(15歳)で分家独立、  
大阪で土産物店・茶店経営、狂歌/戯作者;読本・滑稽本・洒落本/挿画/地誌、  
1806「消息千字文」、1814「嘶の苗」23「以呂波草紙」25「女熊坂朧夜草紙」、  
1836「天保山名所図会」55「浪花名所図会」56「兼葭堂雑録」60「淀川兩岸一覽」、  
「雲錦随筆」「芝翫雑劇集」「撰津名所図会大成」外著多数、  
1824式亭三馬遺稿読本「梅精奇談魁ばいせいきだんさきかけ草紙」序文(;木村繁雄名/歌川国安画)  
のち撰津西生郡難波村瑞竜寺門前住/剃髪後;味噌志留坊一禅と称す、  
1852還暦に勝翁と改号、  
[暁鐘成の別号/通称/別号]別名;繁雄、通称;弥四郎、号;鶏鳴舎暁晴/漫戲堂、  
鹿廼家真萩/味噌志留坊一禅/暁晴翁/手鍋庵/枸杞庵/鴛鴦亭主人/気野行成/困炉亭薫斎、  
法号;道観居士
- H1507 鐘成(2世かねなり・暁あかつき、安部あべ貞昌さだまさ)?-1860 滑稽・読本作者、一世門、
- H1508 鐘成(3世かねなり・暁あかつき、安藤昌太郎、芦友)?-1860 滑稽・読本作者、二世門
- H1588 金成(かねなり・方十園) ? - ? 狂歌、尾張酔竹連判者  
兼業(かねなり・ト部) → 良連(ながつら・ト部、神道家) E 3 2 5 9  
懐成親王(かねなりしんのう) → 懐邦親王(かねくにしんのう、新葉集歌人) C 1 5 7 5
- 01580 兼庭(かねにか・今井いまい、通称;官蔵/号;赤城) 1718-1780 63 武州児玉郡和算家、前橋藩士;算学、  
のち代官千種清右衛門の手代、「円理弧背術」/1764「明玄算法」編/「西洋曆諸表形記」著
- 01581 兼延(かねのぶ・ト部うらべ、神号;神誉霊神、好真男)?-?1004-12没 神職;949平野社預;父を継嗣、  
中宮宮主/東宮宮主/円融・一条天皇の大宮主を務める、1001神祇大副、  
吉田神道確立に尽力、「唯一神道名法要集」「行事伝秘要集」「元本宗源神霊図」著
- C1594 兼信(かねのぶ・花山院かざんいん、師信男/本姓;藤原) 1292?-? 母;藤原実盛女の権大納言典侍、  
鎌倉南北期廷臣;1310参議・正四下、15権中納言/17正二位、1343出家、  
歌人、続千載689/1794、  
[来ぬ人をけさはうらみじ我だにも跡つけがたき庭の白雪](続千載;冬689)、  
[兼信(;名)の法名]法名;覚円、
- 01582 兼宣(かねのぶ・広橋ひろはし/家名;勘解由小路かげゆこうじ、仲光男/本姓藤原) 1366-1429 64 廷臣、  
南北室町期;1388文章博士/蔵人頭/1400(応永7)参議/01敷奏/武家伝奏/権中納言従三位、  
1423従一位大納言/25准大臣;同日出家、贈内大臣、兼郷の父、伯母;崇賢門院仲子  
「兼宣公記」「中納言御会記」「広橋家家記」「義持公参宮記」「石清水御幸記」外記録多数、

歌;1407内裏九十番参加/1419「仙洞和歌御会記」著、  
[兼宣(;)名)の法名/法号]法名:常寂、法号;後瑞雲院

W1501 **兼陳**(かねのぶ・薬丸やくまる、兼利男)1607-1689<sup>83</sup> 薩摩藩士/薬丸壱岐守の孫、剣客;小太刀に長ず、  
剣術;示現流東郷重位門;五高弟の1で達人/1626(寛永3)示現流聞書誓諭奥書を授与  
1653(承応2)初代長崎御使人、刑部左衛門に改称/1659禄219石、兼福かねとみの父、和学者、  
(子孫薬丸兼武により薬丸自顕流祖とされるが兼陳自身の新流派組織の事実はない)、  
[兼陳(;)名)の初名/通称/号]初名;兼速、通称;大炊兵衛おおいひょうえ/刑部左衛門ぎょうぶざえもん、  
号;如水(;)隠居号)/如翠

01583 **兼陳**(かねのぶ・東儀とうぎ、兼溢男/本姓太秦うずまさ)1673-1754<sup>82</sup> 楽人;内匠頭、1739河内守/正四上、  
1733「万葉和漢考」、「東儀兼陳左舞之譜」著

C1595 **かね延**(兼延かねのぶ・おほ屋、大家おおや、名;網利)?-? 大阪の随筆家、1831「小窓漫録」著、  
1832「陶犬新書」著(;)和漢雅俗抄録)、32「年中狂詩」著(散佚)、  
[おほ屋かね延(;)号)の通称/別号]通称;加嶋屋藤十郎、別号;中洲漁叟

V1548 **周信**(かねのぶ・彦部ひこべ、知行ともゆき男)1824-73<sup>50</sup> 上野山田郡広沢の機業の家、学門/歌;父門、  
国学・歌人;橘守部門、  
[周信(;)名)の通称/号]通称;数馬(;)代々の称)/昇三、号;竹崗

周信(かねのぶ・狩野)	→	周信(ちかのぶ・狩野かのう、絵師)	L 2 8 1 5
兼延(かねのぶ・日下)	→	氏喜(うじよし・日下くさか、商家/教育)	C 1 2 8 3
兼信(かねのぶ・狩野)	→	洞春(とうしゅん・狩野、絵師)	F 3 1 0 7
兼陳(かねのぶ・広橋)	→	胤定(たねさだ・広橋、廷臣/記録/歌)	R 2 6 7 8
嘉禰宮(かねのみや)	→	貞敬親王(さだよししんのう・伏見宮、歌人)	K 2 0 3 4

C1597 **兼教**(かねのり・近衛このえ、関白基平男/本姓;藤原)1267-1336<sup>70</sup> 母;近衛兼経女、鎌倉後期廷臣;  
1283従三位/89正二位/90権大納言/1310従一位准大臣、  
歌人;玉葉4首(562/1931/2307/2388)、1315京極為兼催「詠法華経和歌」参加/藤葉とうよう集入、  
[鳴く鹿の声のしるべもかひぞなき道踏み迷ふ春日野の原](玉葉;秋562)、  
[つらくなる人の心のはてなれやあまのすむてふさとのしるべは](藤葉;恋549)、  
[兼教(;)名)の号] 猪隈一位入道

01584 **包教**(かねのり・横井よこい、通称;松伯)?-? 江後期幕臣;数寄屋頭、茶道:高田三節門、  
和算家:1794牛込浄輪寺境内の関孝和の碑建設に参加(本多利明・斎藤正順らと)、  
1780「整数術解」著  
1788(天明8)幕臣の成島衡山(峰雄)の駿河旅に餞歌;「富士日記」入の[包教]と同一?、  
[名に高き富士の白雪めづらしとかつみてかへる程をこそ待て](富士日記;包教名)

T1546 **謙則**(かねのり・荒本あらもと、)1751-1822<sup>72</sup> 伊予小松藩士、国学者、  
[謙則(;)名)の通称/号]通称;格右衛門、号;黙往/黙翁

T1572 **包教**(かねのり・宇井うい、本姓;穂積)1799-? 下総香取郡松沢村の郷社熊野神社神主、  
代々神主を世襲;包胤一包孝一包教一包高と続く、国学;平田篤胤門、  
妻;蔦つた(豊栄村飯倉の片岡佐兵衛女)、包高かねたかの父、  
[包教(;)名)の通称] 出羽守/上総介

U1557 **兼規**(かねのり・黒河内くろこうち、羽入義英2男)1803-68**自刃**<sup>65</sup> 陸奥会津藩士、代々居合の師範の家、  
居合術;黒河内治助兼博門;神夢想無楽流修得/師の養子となる;伝五郎兼規を名乗る、  
藩の指南役;藩士指導、稲上心妙流柔術・白井流手棒手裏剣術・穴沢流の薙刀術など修学、  
国学/歌;藩士沢田名垂なり(1775-1845)・野矢常方(1802-68)門、  
百太郎・百次郎・伸三郎の父、1852吉田松陰の会津訪問時に日新館を案内、  
晩年眼病で失明;1868負傷した百次郎を介錯;自ら自刃、百太郎の戦死、  
[兼規(;)名)の初名/通称]初名;儀信よしのぶ/通称;**伝五郎**でんごろう

01585 **鉄教**(かねのり・野沢のざわ、初名;亀鉄/通称主馬、中川富之進男)1814-75<sup>62</sup> 江戸神道家;鉄教みそぎきょう、  
:1835井上正鉄まさかね(1790-1849)門/40師が吐菩加美とおかみ神道を主唱/幕府による弾圧、  
1841幕府の弾圧を避け信州伊那に伊藤祐像と住/43正鉄の三宅島遠島後は各地に教導、  
1871吐菩加美講として認可/73禊教教団結成;公認、1860「中臣祓略解」著、  
師 → 正鉄(まさかね・井上/富田、神道家) C 4 0 1 7

- 同門 → 祐像(すけかた・伊藤いとう、禊教伝道/歌) L 2 3 3 5  
 兼宣(かねのり・広橋) → 兼宣(かねのぶ・広橋/勘解由小路、日記/歌人)  
 兼典(かねのり・桜山) → 典直(のりなお・桜山さくらやま、国学者) F 3 5 3 0  
 兼恭(かねのり・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9
- C1598 兼治(かねはる・小槻おづき/壬生みぶ、小槻匡遠ただとお男)?-1418 南北期廷臣;従四下/主殿頭/記録所勾当、  
 修理東大寺大仏長官/1366左大史(官務)/68備後守、量実かぜさねの弟、「兼治記」著、  
 1362「貞治改元定記」93「石清水放生会記」著、  
 兄量実著「応安改元定記」(1368刊)も兼治作か?、  
 歌人/勅撰3首;新後拾遺(997)新続古今(713/1925)、  
 [逢ふ事はなほかたをかの真葛まぐさ原うらみもはてずぬるる袖かな](新後拾;恋997)
- 01586 兼治(かねはる・吉田よしだ/本姓;卜部うらべ、神号;随神霊神、兼見かねみ男) 1565-1616 52 神職;神祇管領上、  
 1597左兵衛佐/正四下、1608「多武峯破裂兼治参向敬白祝詞」著
- 01587 兼晴(かねはる・九条くじょう、法号;後往生院、鷹司たかつかさ教平男) 1641-77 37 九条道房の養子/廷臣;  
 1648従三位/59正二位/64内大臣、65右大臣/71左大臣、  
 「延宝改元記」「御会始和歌」/1667「新院月次御会和歌」、「後往生院殿記」著
- C1599 兼久(かねひさ・秦はた、兼方かねかた男)?-? 平安後期廷臣;右近将監/左近衛府生;六位、  
 1094白河院隨身、神楽;父より人長役を継承、  
 歌;金葉(Ⅱ133/Ⅲ131)、宇治拾遺卷二兼久は父兼方の誤、  
 [おなじくはととのへてふけ菖蒲草あやめくさ五月雨たらば漏りもこそすれ]、  
 (金葉;夏133/五月五日にあやめ茸くを見て詠/五月雨と乱れを掛る)
- W1512 兼尚(かねひさ・山本やまもと/本姓;賀茂、兼致男) 1689-1750 62 京の中院家諸大夫、和学者、  
 兼庭・兼存・経為の父、  
 [兼尚(;名)の初名/通称]初名;龜寿、通称;刑部少輔ぎょうぶのしょう/備後守/志摩守
- V1571 説久(かねひさ・町尻まちじり/本姓;藤原、) 1715-83 69 京の廷臣;桃園天皇に出仕、  
 儒・垂加神道;竹内敬持(式部)門、右近衛権中将/1758(宝暦8)正三位;宝暦事件に連座;  
 幕府より処罰;閉門、1760(宝暦10)出家、  
 [説久(;名)の初名/号]初名;兼久、号;淡然、法名;如水
- U1530 兼寿(かねひさ・勝部かつべ、勝部源十郎兼唯2男) 1721-84 64 摂津武庫郡西宮の酒造業雑喉ご屋の生、  
 兼方かねまさの弟/酒商営む、絵師;櫛橋栄春齋門、1764(明和元)九条尚実より[如春齋]号を受、  
 以後[台賜如春齋]と署名/国学・歌;大田道雄・吉井良知・東向良達門、  
 「松楓に孔雀・松桜に孔雀図」「桐鳳凰孔雀図」「龍虎図屏風」画、  
 [兼寿(;名)の別名/通称/号]別名;典寿、通称;順蔵/源蔵、  
 号;容齋/如春齋じゆしゆんさい
- 兼久(かねひさ・今井) → 宗薫(そうくん・今井いまい、商家/茶/俳人) B 2 5 1 4
- 01588 兼秀(かねひで・広橋ひろはし[家名;勘解由小路かげゆこうじ]、守光男/本姓;藤原) 1506-67 62 母;広橋綱光女、  
 戦国期廷臣;1535(天文4)参議、1536権中納言;大内義隆への勅使/42権大納言/51従一位、  
 1557内大臣;出家(法名;釣寂)、武家・神宮・賀茂伝奏を務める、国光の父、  
 「兼秀公記」「弁官至要抄」「除秘抄」「除秘」「天文度改元愚記草」「県召除目短冊并袖書」著、  
 「口宣案集」編;外編著多数、連歌:1543白何百韻/52何船百韻など多数、  
 [兼秀(;名)の通称/法名/法号]通称;如雲院内大臣、法名;釣寂ちようじやく、法号;如雲院
- 兼仁(かねひと→ともひと) → 光格天皇(こうかくてんのう、歌人) 1 9 8 6  
 包秀(かねひで・岡野) → 放水(ほうすい・岡野、赤穂浪士/討入/俳) B 3 9 8 9  
 周仁(かねひと;親王) → 後陽成天皇(ごようぜいてんのう、古典/歌人) D 1 9 9 6  
 矩姫(かねひめ・徳川) → 準子(のりこ・徳川とくがわ、矩姫、丹波/歌) J 3 5 3 0
- D1500 兼平(かねひら・鷹司たかつかさ/本姓;藤原、近衛家実男) 1228-94 67 鷹司家の祖、母;藤原忠行女、  
 1252兄兼経を継承し摂政;氏長者/太政大臣/54関白/90出家、「とはすがたり」に逸話、  
 能書家、近衛兼経の弟/鷹司院長子(後堀河天皇中宮)の兄弟、  
 「称念院関白記」「照念院殿装束抄」「兼平公改元定記」著、歌人;1285貞子九十賀歌会参加、  
 勅撰4首;続拾遺(726)新後撰(1599)続後拾(1019)新千載(1678)、  
 [池水に松の千歳を映しても君にふたたびあふがうれしさ](続拾;賀726)

[兼平の号/法名]号;照念院/称念院、法名;覚理、

通称;摂政前太政大臣(;続拾)、照念院入道前関白太政大臣(;新後撰/続後拾/新千)

- U1545 **周平**(かねひら・木俣きまた/旧姓;正木、)1832-1914<sup>83</sup> 三河碧海郡生/国学:横須賀村福泉寺の公阿門、歌;冷泉為紀ためもと(1854-1905)門/国学;佐々木弘綱(1828-91)門、三河幡豆郡横須賀村の戸長、[周平(;名)の別名/字/通称/号]別名;親常/周益、字;子彰、通称;正三郎/賢蔵、号;薫泉/可仁の舎
- G1582 **兼平母**(かねひらのは・藤原定頼女/母;源濟政女)?-? 平安後期歌人、九条太政大臣藤原信長の妻、のち中納言藤原経季[1010-1086]の妻;経季との間に兼平[1108淡路守(中右記入)]を出産、後拾遺917/新勅撰928(勅撰2首共に夫信長の薄らぐ愛を歎く歌)、[すむ人のかれゆく宿はときわかず草木も秋の色にぞありける](後拾遺;917)、千載集の定頼女と同一? → 定頼女(さだよりのむすめ・藤原) C 2 0 7 1
- F1573 **兼弘**(かねひろ・高丘たかおか、高文)?-? 平安前期廷臣;漢詩、963「善秀才(道統)宅詩合」右方人
- D1501 **兼熙**(かねひろ・卜部うらべ・[家名;吉田/室町]、姓かばね;宿禰/朝臣、兼豊男)1348-1402<sup>55</sup> 神道吉田家祖、1375賜姓;朝臣、1385従三位/90正三位神祇大副、二条為重・松田貞秀・飛鳥井雅縁らと交流、1317「二十二社神号」、「一之宮記」兼熙卿記」著、「吉田家日次記」(1345-1403兼豊・兼熙・兼敦3代の日記)、歌人;1364-「一万首作者」入、1366年中行事歌合参加/1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]3首入、勅撰4首;新後拾(676)新続古(1745/1974/2111)、[待たれつる雲みのうへの時鳥今年かひある初音をぞ聞く](新後拾;676/昇殿許され詠)[兼熙(;名)の神号] 神光靈神
- D1502 **兼熙**(かねひろ・鷹司たかつかさ、法号;心空華院、房輔男/本姓藤原)1659-1725<sup>67</sup> 母;大江秀就女竹子、1665(7歳)叙爵昇殿/72権大納言/81内大臣/右大臣/左大臣/1703関白;氏長者/従一位、1707致仕、房熙ふさひろの養父、歌、書画に長ず、1687-90「聖廟御法楽和歌」参加、1701「太神宮御法楽千首和歌」/03「御会和歌」参加、「鷹司兼熙詠草」「鷹司兼熙墨蹟」著
- O1589 **包広**(かねひろ・前野まゑの、通称;大之丞)?-? 江後期伊勢一志郡小川村の国学者/歌人、1865?「伊勢国諸神考」、「伊勢国一志郡式社考」「幽蹟論」「国造本紀考説」「神祇略抄」著、「古事記上卷伝異考」「古事記序副詮」著
- S1591 **包弘**(かねひろ・野々山ののやま、通称;左衛門)?-? 江後期歌人;一橋家の執事(家令)、1845(弘化2)紀貫之没後900年忌に貫之の月字搦本を得て模刻;諸方の文人に贈る;返送された歌を「月字和歌集」に編纂;土佐松山寺に奉納、日野資枝・尾池春水を研究;[月字]については根岸鎮衛やすも「耳囊」卷八[貫之の書ける月字の事]に入、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[あくる夜やかぎりなるらん武蔵野の月にはさはるうき雲もなし](大江戸倭歌;秋896)
- V1551 **周碩**(かねひろ・広田のひろた、号;松窓)1839-1913<sup>75</sup> 備前岡山の歌人、国学・歌;岡直廬なり門
- 1534 **兼房**(かねふさ・藤原ふじわら、中納言兼隆男)1001-69<sup>69</sup> 母;源扶義女、関白道兼の孫、平安後期廷臣;備中守・播磨守・讃岐守・美作守・丹後守歴任/正四下、1018中宮権亮、官途は不遇なるが歌道への執心強く夢に人磨を見る、歌:1032賀陽院水閣歌合/49内裏歌合/50道雅障子絵合に参加、1054播磨守時代に歌合主催、能因・相模・出羽弁らと交遊、玄々集/新撰朗詠/続詞花5首/月詣/万代/秋風・雲葉集入集、勅撰17首;後拾遺(7首190/337/345/380以下)金(Ⅱ20/298/335)千(1097)新古(845)以下、[夏の夜はさてもや寝ぬとほとゝぎすふた声聞ける人に問はばや](後拾遺;夏190、寝ぬは打消、一声のみ聞いた人が二声聞いた人を羨む)
- W1549 **兼房**(かねふさ・藤原ふじわら、忠通10男;藤原北家)1153-1217<sup>65</sup> 母;家女房加賀局(藤原仲光女)、1163左少将/64左中将/66(仁安元/14歳)従三位/労績なく長く非参議左中将に留まる、1183年下の藤原頼実が先に権中納言就任し落胆/のち兄兼実の支援で兼房も権中納言;法成寺合戦で戦闘に巻入れ一時行方不明、1185(元暦2)権大納言/89大納言、1190(建久元)内大臣/従一位/91太政大臣;1196(建久7)政変で兄兼実失脚し兼房も辞任、1199出家/法号;定眞、歌人;雲葉集入、妻;藤原隆季女/藤原経宗女、兼良(権大納言)・道誉(権僧正)・兼円(法印)・道祐(法印)・女(尼/方丈殿)の父、

- [みかさ山おなじきふぢのいかなればきたにさすえのさかえますらん](雲葉;賀891)、  
[兼房の通称/号]九条兼房/禅林寺/禅林寺入道前太政大臣、号;高野・定眞
- W1509 **包房**(かねふさ・山口やまぐち、通称;藤三郎)?-1819 信濃筑摩郡の商家/飯田で呉服商;升屋、  
国学・歌;桃沢夢宅・滝田義制・香川景樹門、歌人、国雄(1807-48)の父  
兼藤(かねふじ・松殿) → 忠嗣(ただつぐ・松殿/藤原、大納言/歌) F 2 6 2 8
- D1503 **兼文**(かねふみ・ト部うらべ、兼直男/平野流のト部兼頼の養子)?-? 鎌倉中期神職、1266神祇権大副、  
正四上/兼方の父、平野ト部家の家学を大成;1274-5一条実経らに日本紀神代巻を講義;  
(のち息兼方が「新日本紀」編)/のち平野流は日本紀の家と称される、  
「天野社勘文」/1269「文永六年兼文宿禰勘文」70「石上神宮御事抄」著、  
1273「古事記裏書」(親房著?)、
- 01590 **兼文**(かねふみ・高橋たかはし、兼之は誤記)?-?1497存 越後弥彦社神主(代々神主)、  
「伊夜比古神社記」、「続縁起」著(弥彦叢書入)
- 01591 **兼文**(かねふみ・西村にしむら・城じょう)1829-9668 京本願寺の寺侍、古人墓碑収集/古書解題、偽書贋作家、  
「京都故事談」「画家墳墓記」著、1869「殉難全集」編(城兼文名;4部/歌詩俳句など)、  
「好古十種」編、「画事叢書」「画事襍談ざつだん」「画人伝補遺」著、  
1891「山城全州墓碑集銘大成」92「続群書一覽」
- D1504 **兼冬**(かねふゆ・一条、房通男)1529-1554早世26 母;一条冬良女、室町期廷臣;1547右大臣、  
1553関白左大臣、氏長者/画、歌、歌会参加、  
1544「世諺問答」、「新註文字鋤もじまい」著、連歌;1551何船百韻  
[兼冬の法号] 後円明寺/天岳行春  
錦文(かねぶん・金森) → 頼興(よりおき・金森かなもり/源、幕臣) I 4 7 4 5  
兼前(かねまえ→かねます・ト部)→ 兼前(かねます・ト部うらべ、神職/連歌) O 1 5 9 4
- 1574 **兼昌**(かねまさ・源みなもと、通称;撰津三郎、撰津守源俊輔男)?-? 1128存 廷臣;皇后宮少進;従五下、  
歌人;堀河院歌壇・藤原忠通家歌壇で活動、前斎院尾張の父、1128頃出家、  
1100源宰相中将家歌合/16「堀河院次郎(永久)百首」/18「忠通家歌合」/28「頭仲歌合」参加、  
1128「住吉社歌合」(;兼昌入道名)参加、後葉集・続詞花集・夫木集入、  
勅撰7首;金葉(270/472)詞花(54/112)千載(327)新勅(385)新千載(802)、  
[淡路島かよふ千鳥の鳴くこゑに幾夜寝覚めぬ須磨の関守](金葉;270/関路千鳥)、  
[冬の夜を旅の空にてあかしてや都に春のけさは来るらん](永久百首;5/元日春)
- F1574 **兼雅**(かねまさ・源) ? - ? 平安後期歌人、1169「宇治別業歌合」入
- H1504 **兼雅**(かねまさ・花山院かざいん、号;後花山院、太政大臣忠雅男/本姓;藤原)1148-120053、  
母;藤原家成女、平安鎌倉期廷臣、1165従三位・大納言/右大臣/98左大臣/従一位、  
1200(正治2)出家;2日後没、1189「大饗雜事」著、「猪隈関白記」入
- D1505 **兼将**(かねまさ・吉田よしだ) ? - ? 戦国期;1524「能本作者註文」著(350番;作者別)
- 01592 **兼当**(かねまさ・東儀とうぎ、兼年男/本姓;太秦うづまさ)1669-172961 楽人;左兵衛大尉、  
1706出羽守/正四下、1708「楽説録」著
- U1531 **兼方**(かねまさ・勝部かつべ、)1719-177557 撰津武庫郡西宮の大庄屋/酒造業雑喉ざこ屋主人、  
兼寿かねひさの兄、国学者・歌;太田道雄・吉井良知よしとも・東向良達門、  
[兼方(;名)の通称/屋号]通称;金太郎/源十郎、屋号;雑喉屋
- 01593 **兼政**(かねまさ・小出こいで、字;修喜/脩喜、利兵衛男)1797-186569 徳島藩/1805父没;紙方代官手代、  
和算宮城流;阿倍旗十郎門/1825致仕/関流;日下誠門/最上流;会田善左衛門門、  
円理学;和田寧門/消長法;安倍晴親門/暦算;1853渋川景佑門、1837徳島藩御蔵所手代勤向、  
ランデ天文書の翻訳作業、光教の養父、門弟;阿倍有清・福田理軒・彦坂範善ら、  
1836「測量法」42「円理算経」編、「天保新暦書」「安政新暦」「安政新書」/57「算道雑話」外多数、  
[兼政の通称/号]通称;長十郎、号;眉山、法号;修算院
- V1529 **周政**(かねまさ/ちかまさ・難波なんば、伝兵衛惟道長男)1811-8878 周防熊毛郡立野村の生/8歳;父没、  
三丘宍戸家の徳修館に修学/1825萩藩家老清水親知ちかともの家臣(陪臣)、1834立野に牧場開、  
1858(安政5)樟脳製造所設立;清水家財政支援、1862立野の自宅に私塾養義会場開設、  
1863領主親春の命で立野長徳寺境内に墓義場開設;主宰;文学・西洋銃陣・槍弓術を教育  
1864(元治元)四国艦隊下関砲撃事件に財産処分し献金/清水親知切腹後;清水親春の家臣、

幕長戦争では野勇隊を率いて大島口で戦闘、維新後；立野の自邸で詩歌・絵画の生活、  
向山文庫を設立公開、1888(明治21)立野に没、  
[みづ垣に生そふ木々の若葉にも十年のむかし忍ぶ今日かな](社頭新樹/[萩の歌人]入)、  
[周政(；名)の字/通称/号]字；以正、通称；正太郎/恒次郎/市蔵/伝兵衛(父の称)、  
号；七溪/楽如/更狂/雀水/中谷覃庵ちゆうこくたんあん

- H1505 **兼雅女**(かねまさのむすめ・藤原ふじわら、良通室)1170-? 兼実「玉葉」入
- 01594 **兼前**(かねます・ト部うらべ、兼員男)?-? 1366存/1374前に没 南北期京神職；平野社預/内蔵権頭/  
神祇権大副/正四上、兼遠の父、1359「美濃国第三宮因幡社本縁起」著、  
連歌；菟玖波集3句入、  
[月影の宿る清水を結びあけて](菟；四秋263/前句；夏なき風ぞまつに聞ゆる)  
金松(かねまつ・本間) → 菊堂(きくどう・本間ほんま、儒者) K 1 6 2 0  
金松(かねまつ・恩田) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4  
金松(かねまつ・八木) → 美庸(よしつね・八木やぎ、大庄屋/歌人) P 4 7 6 9  
金丸(かねまる→かなまる・堀部) → 金丸(かねまる・堀部、弥兵衛、赤穂浪士/討入) O 1 5 3 1  
金丸(かねまる・弭間) → 茂右衛門(もえもん・弭間はづま、芳風舎古梅/俳人) 4 4 6 1
- D1506 **兼三**(かねみ・藤原ふじわら、山陰男[or兄の遂長男?])?-? 905存 平安前期廷臣；従四下/陸奥守、  
歌；後撰集229、  
[織女たなばたも逢ふ夜ありけり天川あまのはこの渡りにはわたる瀬もなし](後撰；秋229、  
七日 女の許に遣す歌)
- 1535 **兼見**(かねみ・吉田よしだ/本姓；ト部うらべ、神号；豊神霊神、兼右かねみぎ男)1535-161076 神職；神祇管領上、  
1570家督/1573神祇大副/75右衛門督/従二位、兼治の父、92家督譲渡、梵舜(神道僧)の兄、  
後陽成天皇に日本書紀進講、「兼見卿記」「唯一神道大要」「神祇服忌令」著、1600「謡抄」注釈
- W1515 **兼海**(かねみ・吉田よしだ、通称；圭順、)1808-6457 長門の生、上野群馬郡で医業、  
国学・歌；橋本直香ただか門  
兼覧王(かねみおう) → 兼覧王(かねみのおおきみ・惟喬親王男) 1 5 7 5
- D1507 **兼右**(かねみぎ・かねすけ・吉田/本姓ト部うらべ、清原[船橋]宣賢のぶかた男)1516-7358 吉田(ト部)兼満養子、  
1525兼満出奔で家督相続(実父後見)/神職；神祇管領長上/1570神祇大副/従二位、  
右兵衛督、吉田神道を全国に拡大/組織化、歌学、「神道大意」「古今集灌頂口伝」、  
1533-72「兼右卿記」、58「神道猿楽秘伝」、「吉田兼右日録」「神詠鈔」「神道秘抄」外著多数、  
[兼右の神号] 唯神霊神/唯神院関叟宗一、兼見かねみ・神龍院梵舜ほんしゅんの父
- 1576 **兼通**(かねみち・藤原ふじわら、師輔2男/母；藤原経邦女盛子)925-97753 平安前期廷臣；940元服、  
967蔵人頭/従四上/969参議/従三位/中納言、伊尹の弟/兼家・中宮安子の兄、  
同母弟の兼家と激しい政争、972兄関白伊尹没に弟の大納言兼家を越え関白内大臣となる、  
974(天延2)太政大臣/次いで関白/975従一位、977病のため関白辞任；没後正一位追贈、  
着袴儀に紀貫之の贈歌[言にいでて心の内に知らるるは神の筋繩すぢなぬけるなりけり]、  
歌人；本院侍従との恋贈答(本院侍従集入)、  
勅撰8首；後拾500/新古1007/新勅638/続古今1229・1558/玉葉1529/続後拾839/新千1181、  
[逢坂の関とは聞けど走井の水をばえこそとゞめざりけれ]、  
(後拾遺；羈旅500/石山よりの帰途走井にて詠む)  
[兼通の通称/諡号]通称；堀河太政大臣/堀河殿、諡号；忠義公
- D1508 **懐通**(かねみち・もとみち・やすみち・藤原ふじわら、業尹なりた男)?-? 1345存 鎌倉末南北期廷臣；中宮権少進、  
伏見院上北面/内蔵権頭/従四下、1345出家(園太暦)、懐世かねよの弟/朝尹あさただの父、  
歌人；拾遺現藻集/藤葉集入、勅撰3首；風雅1559/新千載655/新後拾遺776、  
[雲のうへになれみし月ぞそしのぼるる我が世ふけゆく秋の涙に](風雅；雑1559)、  
[おのづからかよひし中のわすれ水たえてもなにと袖ぬらすらん](藤葉；恋602)
- 01595 **包徑**(かねみち・齋藤さいとう)?-? 江後期文政(1818-30)頃江戸和算家；会田安明門、  
最上流算法、「算法切磋解義」注
- U1547 **金宝**(かねみち・喜多きた)1843 - 1871早世29 近江八幡の酒造業、歌人；[鳩のうみ]入、  
[金宝(；名)の通称/号]通称；梅吉/弥一郎/三右衛門、号；赤城、屋号；鱸屋いとや  
金宝(きんぼう・喜多) → 金宝(かねみち・喜多きた、酒造業/歌人) U 1 5 4 7

金道(かねみち・山中/森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0

兼通(かねみち・入江) → 若水(じやくすい・入江、商家/詩人) G 2 1 3 1

- D1509 **兼光**(かねみつ・源みなもと、正明男)?- ? 966存 平安前期廷臣; 従五下/春宮少進/大蔵大輔、景明の父、歌人; 拾遺201(; 大井川の紅葉の歌)、  
[枝ながら見てを帰らんもみぢ葉は折らんほどにも散りもこそすれ](拾遺集三; 秋201)
- D1510 **兼光**(かねみつ・日野ひの、姉小路、資長男/本姓; 藤原、母; 源季兼女) 1145-9652 平安後期廷臣; 東宮学士、文章博士、高倉・後鳥羽両天皇侍読、1183参議/86権中納言/従二位、1196出家; 法名玄寂; 没、「姉言記」「兼光卿記」著、歌人; 1191若宮歌合/95経房歌合参加、勅撰3首; 千載1286/新古今754/新勅463、  
[三島木綿みしまゆふ肩にとりかけ神南備(かねび)の山のさか木をかざしにぞする]、  
(千載; 神祇1286、寿永元1182年11月24日安徳天皇大嘗会の主基方歌を献上、丹波国神南備山の神楽歌を詠/伊豆三島産の木綿で作った木綿襷が有名)
- 01596 **兼満**(かねみつ・ト部うらべ[家名; 吉田]、吉田兼致男) 1485-152844 神職; 吉田神道神祇管領長上、神祇権大副、吉田社預、1510平野社神主をめぐりト部兼永と争う、1523従三位、「十八箇秘伝」「神祇拾遺」著、  
[兼満(; 名)の神号] 後神竜霊神
- 01597 **兼光**(かねみつ・金沢(かねざわ)、通称角左衛門、屋号; 桶屋)?-? 江中期大坂堂島の船大工(代々造船業)、1761「和漢船用集」著(7代2百年の家伝の秘書)
- T1582 **兼参**(かねみつ・江尾えお、通称; 弘三郎) 1810-? 石見那賀郡の鉄山経営/国学; 平田鉄胤門、刀剣奉納「表銘; 石見國鍋石住江尾護國・安藝國住出雲大掾正光兩人作」;  
(裏銘; 天日隅宮奉納願主江尾兼参/嘉永五[1852]壬子年五月吉日)
- 01598 **葆光**(かねみつ・三田さんだ、別名; 礼本/喜六) 1825-190783 幕臣; 箱館奉行所支配組頭; 蝦夷開拓従事、1861欧米使節向山黄村随行、歌; 仲田顕忠/小林歌城/黒川真頼門、石州流鎮信派の茶人、和敬会「十六羅漢」の一人、「大幣おほぬさ辨妄」「櫨紅葉」「和歌入門」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(母の花朝尼(かちょう)にと入集)、  
[竹の子は皮の衣を脱ぎ捨てて涼しきかげに成りにけるかな](大江戸倭歌; 夏419新竹)、  
[古里の寝物語にいつかせん岩ほの枕苔のさむしろ](同; 雑1827/旅)、  
[葆光の通称/号]通称; 伊右衛門/伊兵衛、号; 櫨園
- U1583 **金満**(かねみつ・関山せきやま、通称; 鬼散太)?-? 薩摩鹿兒島常盤町の国学者、歌人; 八田知紀(1799-1873)門
- 兼満(かねみつ・久寿根) → 久寿根兼満(くすねのかねみつ、藩士/狂歌) B 1 7 3 9
- 兼光(かねみつ・齋藤) → 兼光(ひかり・齋藤、幕臣/本草家) 3 7 4 6
- 金光(かねみつ・吉野) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
- 1575 **兼覧王**(かねみのおおきみ、惟喬親王男)?-93260余歳 文徳天皇孫/侍従/中務大輔/民部大輔/山城守、神祇伯、弾正大弼/924宮内卿、正四下、歌人; 中古36歌仙の1、袋草紙; 兼盛との混同逸話、勅撰9首; 古今(5首237/298/398/457/779)・後撰(4首78/338/605/778)、  
[女郎花をみなへうしろめたくも見ゆるかな荒れたる宿にひとり立てれば]、  
(外出し人家の女郎花を見ての詠/独り住む女性を連想)
- G1583 **兼覧王母**(かねみのおおきみのはは、惟喬親王の妻)?-? 平安歌人、後撰14; [天福本は兼覧王女]
- G1584 **兼覧王女**(かねみのおおきみのむすめ)?- ? 平安期歌人、後撰14(; 天福本)  
[萌え出づる木この芽を見ても音ねをぞ泣くかれにし枝の春を知らねば](後撰; 春14、離れた男の許に庭の枯れ枝を付けて贈る歌/離れと枯れを掛る)
- 1577 **兼宗**(かねむね・中山、忠親男/本姓藤原) 1163-124280 母; 藤原光房女、鎌倉前期廷臣; 中山家2代、1193蔵人頭/1195(建久6)参議、権中納言/1211(建暦元)大納言/正二位/按察使兼帯、息子忠定を参議に申請し大納言を辞退; 1220(承久2)忠定解任; 父子の確執; 1233騒動、1235(嘉禎元)大隅の知行国主、1242(仁治3)没、箏・琵琶に通ず; 1194楽所別当、歌人; 1195民部卿家経房歌合参/93六百番/99御室五十首・1201千五番歌合参加、「古今問答」著、勅撰21首; 千載(329)新古(545/1769)新勅(5首)以下、雲葉集2首入、妻; 藤原重家女、忠定・仲親・良豪の父、  
[千五百番歌合に、

行く秋の形見なるべき紅葉ばもあすは時雨とふりやまがはむ] (新古;秋545)

[兼宗(;名)の通称]中山大納言/按察使兼宗

F1533 **兼致**(かねむね・吉田よしだ/本姓ト部うらべ、兼俱かねとも男)1458-9942 神職;神祇管領長上、1491神祇大副、1495左兵衛佐、父大成の唯一神道の秘伝の直授相承に尽力、  
1485「将大記」98「神代聞書」、「兼致朝臣記」「神祇齋場記」「文明五年記」「神事雑類抄」著、  
[兼致の初名/法名/神号]初名;兼枝、法名;蓮致、神号;神類靈神

U1591 **周宗**(かねむね・伊達だて、通称政千代、8代藩主斉村長男)1796-1812夭逝17 母;鷹司輔平女誠子のぶこ、江戸の生/仁孝天皇のはとこ、1796(寛政8)母没/父病没;生後間もなく9代仙台藩主、徳川家斉3女綾姫と婚約、養祖母の観心院が養育・補佐、藩政は中村景貞・大内義門が中心、藩内警護は一門の伊達村氏・村常・村幸が担当、1797百姓一揆発生、婚約者綾姫没、さらに藩士2千余人のさむらい一揆も計画される、1805観心院没;祖母正操院が養育掛、1806綾姫異母妹の浅姫と婚約、松平定信が後見人、08(文化5)露寇に警備兵派兵の幕命;蝦夷に総勢1700人派兵、1809疱瘡に罹り危篤;異母弟の徳三郎(斉宗)が藩主代行、1810(文化7)周宗と改名;隠居;大屋形様と称される;1812没/浅姫は松平齐承と結婚、(異説;疱瘡罹病後間もなく没;藩は3年間死を隠蔽し切抜け/幕府は大藩のため放置す)

T1598 **包宗**(かねむね・太田おた/本姓;甲斐かい、太田包光4男)1823-7553 豊前下毛郡平田村の城井神社社司、国学;渡辺重名門/1866藩主奥平家より独礼格を賜る/68高橋清臣反乱に連座;投獄2年、1873家督を養子盾臣に譲渡/教導職を辞任、中津六社の祠官荒巻家を継嗣、  
[包宗(;名)の初名/通称]初名;開、通称;権頭ごんのかみ/大隅介

兼村(かねむら・ト部) → 兼魚(かねう・ト部うらべ、神職) O 1 5 7 6

D1511 **兼茂**(かねもち・藤原ふじわら;北家良門流、利基4男)?-923 母;当麻松盛女、平安前期廷臣;897醍醐天皇の蔵人、播磨介/901従五下/904侍従/910右少将/916左近権中将/917従四下、918右近中将/919左兵衛督/922参議/従四下;陣座で飲酒中に中風で倒れのち没、兼輔の兄、歌人;921醍醐御時内裏菊合参加、秋風集入、勅撰3首;古今385/389・後撰655、[もろともになきてとどめよきりぎりす秋の別れは惜しくやはあらぬ]、(古今;離別385/藤原後蔭のちかげの唐物使として大宰府へ出発時の殿上での酒宴に)

V1572 **説望**(かねもち・町尻まちじり/本姓;藤原、説久かねひさ男)1738-8548 京の廷臣;桃園天皇に出仕、儒・垂加神道;竹内敬持(式部)門、右馬頭/正五下、1758(宝暦8)宝暦事件に父と共に連座;処罰;閉門、1760(宝暦10)出家;空応と号す、のち赦免され復職、1785(天明5)没、

[説望(;名)の初名/号]初名;兼望、号;閑月、法名;空応

G1585 **兼茂女**(かねもちのむすめ、藤原兼茂女、女房名;兵衛/兵衛命婦/兵衛の君)?-? 平安期の女房;琵琶/歌、元良親王・平兼盛と交渉、勅撰4首;後撰739/920/1032・拾遺1235、[夕されば我が身のみこそかなしけれいづれの方枕に枕定めむ](後撰;恋739、  
どの方向に寝ればあの人の夢が見られるか)

兼茂(かねもち・ト部) → 兼茂(かねしげ・吉田、神道) O 1 5 5 1

01599 **兼基**(かねもと・二条、良実男/本姓藤原)1268-133467 鎌倉後期廷臣;兄師忠養嗣子/1296左大臣、1298撰関/99太政大臣/1300関白/05致仕/08出家、母;坊門基信女、「宸筆御八講記」著  
[兼基の号] 中院/光明照[昭]院、法名;円空、道平・良冬・師基の父

V1586 **鉄幹**(かねもと・宮崎みやざき、通称;音人おとんど/号;雪叟)1840-192283 近江彦根藩士、書画/歌人、歌;[鴉のうみ]入

兼基(かねもと・藤原) → 冬長(ふゆなが・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 3 8 3 4

兼原(かねもと・吉田/ト部) → 量原(かずもと・町尻まちじり、廷臣/神道/記録) M 1 5 5 3

兼盛(かねもり・平) → 兼盛王(かねもりおう・平、歌人) 1 5 3 6

1536 **兼盛**(かねもり・平たいら;光孝流、篤行王3男)?-990 平安前期廷臣;興我王の孫、946従五下、950越前権守、臣籍;平賜姓、961山城介/966従五上/979駿河守、赤染衛門の実父(赤染の母との相論について袋草子上入)、歌人;多くの屏風歌を詠む、大和物語に逸話入、沙石集に忠見との逸話、「兼盛歌集」著、袋草紙に兼覧王との混同歌入、936「仙洞歌合」/960「天徳内裏歌合」参加、「子日行幸奉和歌序」著、大中臣能宣らと交流、和漢朗詠集・雲葉集(4首)・寂超「後葉集」(16首)/続詞花集などに入、

勅撰86首;後撰(3/578)拾遺(38首15/52/84/101/128/177/214/222/234/250/251以下)、  
後拾(18首7/50/97/109/110以下)詞(6首3/14/136以下)続後撰(23/34/790)以下、  
金葉Ⅲ(4首)、連歌:菟玖波集入、  
[しのぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで](拾遺622;天徳内裏歌合)  
[兼盛(;名)の通称]兼盛王/兼盛のおほ君

参考 → 忠見(ただみ・壬生) 2 6 3 2

兼盛王(かねもりおう・兼盛のおほ君)→兼盛(かねもり・平、廷臣/歌人) 1 5 3 6

D1512 兼盛弟(かねもりのおとうと・平たいら、篤行王男)?-? 平安前期廷臣/歌人、藤原実頼邸に出入、  
拾遺1050、  
[ひのもとに咲ける桜の色見れば人の国にもあらじとぞ思ふ](拾遺;雑春1050、  
清慎公藤原実頼家の家臣詰所の灯火のもとに桜花を挿しているのを詠む、  
灯の下と日本を掛る/人の国はここでは外国)

兼盛女(かねもりのむすめ・平)→ 赤染衛門(あかぞめえもん、赤染時用養女、歌人) 1 0 0 1

D1513 兼康(かねやす・源みなもと、有長男)?-? 母;藤原惟頼女、建長1249-56頃鎌倉期廷臣;  
従四下長門・但馬・美作守/右馬権頭を歴任/従五上?、兼氏の兄、親長・邦長の父、  
歌人;1232光明峯寺撰関家九条歌合/名所月歌合など参加、万代集・秋風集入、  
勅撰7首;続古今(1573)新後撰(1091)玉(1616)続千(156/1249)続後拾(368)新千(1190)、  
[ふりにけりわがもとゆひのその髪にみざりし色のあきの初霜](続古;雑1573/述懐)

D1514 兼泰(かねやす・源みなもと、兼朝男)?-? 鎌倉期廷臣;撰津守・兵庫頭/五位、  
歌人;藤原秀茂と贈答、現存六帖入、勅撰4首;続拾(1071/1165)新後撰(1407)新千載(578)、  
[うしとみし人よりもなほつれなきは忘らるる身の命なりけり](続拾遺;恋1071)

P1500 兼康(かねやす・丹波たんば、出家号;善恭、師康男or師兼男)?-? 室町期医者;典薬頭/左京大夫、  
「兼康咩秘伝」「兼康口科書」「口病針薬方」「丹波兼康口中秘伝」著

P1501 兼愷(かねやす・伊集院いじゅういん、剃髪号;潜龍) 1786-1855 70 大隅垂水領主島津家家臣/1830家老、  
歌;飛鳥井雅光門/茶華道に通ず、1835歌集「浪の藻屑」編、「垂水奇談」著

兼保(かねやす・広橋) → 輝資(てるすけ・日野/藤原、故実/連歌) C 3 0 7 6

鐘弥太(かねやた・手島) → 季隆(すえたか・手島てしま、兵法家) B 2 3 8 0

F1575 兼行(かねゆき・源みなもと、延幹のぶと男/清蔭の曾孫)?-? 平安後期廷臣;内匠頭/1072(延久4)大和守、  
正四下、能書家;父門、1051「永承六年内裏歌合」清書、万葉集写本、藤原頼通に重用書家、  
1051(永承6)内裏根合・56(天喜4)皇后宮寛子春秋歌合の清書(;袋草紙)、  
徒然草25段に無量寿院(法成寺阿弥陀堂)扉の兼行の書について入

D1515 兼行(かねゆき・楊梅やまもも、法名;兼蓮、親忠男/本姓;藤原) 1254-? 1317存 母;藤原為経女、  
忠兼猶子/廷臣;侍従/左兵衛督/1292従三位/持明院統近臣/94正三位/97民部卿、99従二位、  
1293内裏御会参加5首/1304(嘉元2)後深草上皇崩御;出家/楊梅と号す、  
1317伏見上皇死去;一品経供養に参加;以後不明、筆筭の名手、  
歌人;1292巖島社頭和歌参加/97八月十五夜歌合/99五種歌合/1300頃三十番歌合参加、  
1299-1106十八番歌合/1303仙洞五十番歌合/04乾元けんげん二年五月四日歌合参加、  
家集「兼行集」、勅撰18首;新後撰(783)玉葉(9首91/447/707以下)風雅(8首)、  
「春の深山路」「増鏡」に逸話入、伏見院新宰相の兄/俊兼・盛親の父、  
[かひなしや知られぬ中にながらへて心ひとつの頼みばかりは](新後撰;恋783)

W1551 兼幸(かねゆき・糺ただす、) ? - ? 南北期;武士?/歌人、  
1375頃細川頼之(1329-92)家奉納[大山祇神社百首]出詠、  
[みよしのの吉野の山はなほさえて花待ちどほにかかる白雲](大山祇百首;9/待花)、  
[月になほ惜しむ心をそへてけり待つほどよりもあけやすき空](同;23/夏月)

P1502 兼行(かねゆき・英保あぼ、芳蒿軒、兼重男)?-? 安桃期1573-92頃播州飾東郡英保の歌人、  
「古哥雑哥小夜枕」:弟兼定と共著

D1518 兼敬(かねゆき・吉田よしだ/本姓ト部うらべ、兼起男) 1653-1731 79 京の吉田神社の祠官/吉田家当主、  
母;飛鳥井雅章養女、1665(寛文5)諸社禰宜神主法度の発布により吉田家の権威確立、  
神祇管領長上;1687神祇権大副、従二位、神道家・歌人、妻;花園実満女、  
靈元・東山天皇に秘伝を講ず/幕府神道方;幕府に接近し家の安泰を図る、

- 1697(元禄10)兼敬と改名/1729正二位、日本書紀神代卷・中臣祓・六根清浄大祓を注釈、  
「兼敬詠草綴」「妙術抄」「塩釜社縁起」「石上神社記」「卜部兼敬日記」「神道大意」著、  
[兼敬の別名/神号] 初名;兼連かねつら、神号;妙応霊神、兼章・舟橋尚賢・兼祥の父
- P1503 **懐之**(かねゆき・狩谷かりや、字;少卿、掖斎えきさい男、屋号;津軽屋)1804-5653 江戸浅草米屋/1815家督嗣、  
和漢学者;父門、1815「孔方図鑑」、「新校正珍貨図鑑凡例」著  
兼之(かねゆき・森江/中井)→ 敬所(けいしよ・中井なかい、篆刻家) B 1 8 0 0  
周行(かねゆき・西依) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者) B 2 4 5 5
- P1504 **兼敬母**(かねゆきのは・吉田よしだ、卜部うらべ兼起妻、烏丸光賢女)?-? 歌人、1731夫兼起没(息兼敬5歳)、  
吉川惟足と吉田家秘法を伝承、「榮春院殿筆記」著
- G1586 **兼行女**(かねゆきのむすめ・楊梅やまもも兼行の女)?-? 鎌倉後期歌人、風雅1508/新千載1146、  
[たち花のかをりをりすずしく風立ちて軒端にはるる夕暮れの雨](風雅;雑1508)
- D1516 **懐世**(かねよ・もとよ・やすよ・藤原ふじわら、業尹なりただ男)?-? 鎌倉後期南北期廷臣;左近将監/刑部権大輔、  
従四下、懐通かねみちの兄、歌人;拾遺現藻集/続現葉集入、続千載1588/風雅1187、  
[かくばかりげにたえはてんつらさともしばしは知らで恨みざりしを](続千;恋1588)  
兼代(かねよ・東儀) → 康賢(やすかた・東儀とうぎ/太秦、廷臣;楽人) B 4 5 1 4
- P1505 **懐能**(かねよし・藤原ふじわら、改名;懐長、懐遠男)?-? 平安後期廷臣;後白河院蔵人/長門権守/従五上、  
大宮少進/歌:1172広田社歌合参加、懐綱かねつなの弟、  
[神垣やお前の浜の松がうれをふぶきにあらふ雪の白浪](広田歌合;社頭雪廿六番左51)
- D1517 **兼能**(かねよし・源みなもと、後名;隆宗たかね、通能男)?-? 平安末鎌倉初期廷臣;右兵衛佐/従五上、  
母;藤原為経女、歌人;新後拾遺835・991、  
[逢ふことにたへぬ心をくらぶればせめてはをしき名をやもらさん](新後拾;恋991)
- W1559 **兼能**(かねよし・藤原ふじわら、治部大輔家時男)?-? 平安末鎌倉初期廷臣;従五下、太皇太后宮大進、  
歌人;1116(永久4)参議実行六条宰相家歌合参加、  
[さらぬだにくる人もなきわがやどにあとたえまさるけさの白雪](実行歌合;十番雪)
- P1506 **兼義**(兼茂かねよし・佐竹さたけ/本姓源)?-1355(文和4)討死 南北期武家;室町幕臣、  
下野守(or下総守?)、1335. 3. 12入京した南軍と戦に没、義篤の孫、連歌;菟玖波集2句入、  
[おもかげは涙ながらも浮かびきて](菟;恋703/前句;そはぬ契の手まくらの夢)
- F1550 **兼義**(かねよし) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の神職、  
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、  
[春のいろにも梅はくれなゐ](熱田法楽;賦山何三裏6/桜は白松は緑だが梅は紅、  
前句;建照;花ひとり咲くかと松は青葉にて、  
枕草子「木の花はこきもうすきも紅梅」)
- 1537 **兼良**(かねよし/かねら・一条、経嗣男)1402-8180 室町中期1429左大臣/摂政/関白太政大臣、  
1453准三宮、母;東坊城秀長女、博学多才、歌学/古典学、二条派歌人、1434永享百首入、  
1443前摂政家歌合催/50後崇光院貞成催[宝徳二年仙洞歌合]判(飛鳥井雅世と)、  
1472「花鳥余情」、「歌林良材集」[梁塵案抄]「公事根源抄」[伊勢愚見抄]「文明一統記」、  
「小夜寝覚」[古今积积義]「古今集童蒙抄」[藤川の記]「令解新抄」[東斎随筆]「玉類抄」、  
「禁中秘訣」[雲井の春]「源氏物語秘抄」[源氏物語年立]外著多数、新菟玖18句入;発句6句、  
新続古今9首(序・110/305/604/1015/1231/1450/1827/1884/1921)、  
[咲きやらぬ花をまつちの山の端に人だのめなる春の白雲]、  
(新続古;春110/百首歌/待花、永享百首;124)、  
[兼良の号] 桃花翁/桃華叟/桃華老人/南華老人/三関老人/東斎、一条禅閣ぜんこう、  
法号;覚恵かくえ、諡号;後成恩寺ごじょうおんじ
- F1553 **謙叔**(兼叔かねよし・中川なかがわ、善兵衛男)1624-5835 伊予大洲の儒者;中江藤樹門、  
師の姪と結婚/1655岡山藩主に招聘され儒員/閑谷学校教授、「全人論」著、  
[謙叔(;名)の幼名/通称]幼名;熊、通称;権左衛門/権右衛門
- P1507 **兼由**(かねよし・久世くげ、村瀬むらせ信休男/久世弥一郎養子)1687-176579 紀伊藩士;奉行組同心、  
伊勢松阪の郷土史家/博学、1752「松坂権輿雑集」編(伊勢松阪の歴史書)、  
[兼由の通称/法号]通称;武兵衛/定右衛門、法号;知命院
- P1508 **抱義**(かねよし・新井あらい、初名;政養、小原政久男、新井成美養子)?-? 幕臣;1794相続;采地千石、

1795新井白石著書を幕府に献上、「新井家所蔵目録」編、  
「新井君美著述目録」「白石著書目録」編

- P1509 **兼善**(かねよし・二宮にのみや、兼智男)?-1825 豊後日出藩士;郡奉行/目付、和算/地誌、  
管内巡視中口碑伝説・名勝旧跡調査、「凶跡考」「開除式乗除数解」著、  
[兼善の通称/号]通称;六郎/文人、号;金華/伯達、法号;徳隣院
- P1510 **兼善**(かねよし・余目あまるめ、通称;権左衛門/号;桐廼舎)?-? 江戸後期陸前仙台の国学者・歌人、  
「梅廼下枝」著
- T1583 **金義**(かねよし・小川おがわ、)1814-1873<sup>60</sup> 周防徳山藩士/国学、俳諧・歌を嗜む、  
[金義(;名)の通称/号]通称;官蔵/与右衛門、号;亀齡
- U1598 **兼善**(かねよし・武内たけうち、旧姓;国方)1822-1903<sup>82</sup> 讃岐高松藩士、国学者、  
[兼善(;名)の通称]達次郎/与総
- V1594 **鉄善**(かねよし/てつぜん・村越むらこし、井上[安藤]真鉄まがね男)1825-1908<sup>84</sup> 江戸の神道家、  
井上正鉄まさかねの弟、兄正鉄(1790-1849)は禊教みそぎきょう教祖;幕府より嫌疑;三宅島配流;  
1849(嘉永2)正鉄没;鉄善は東宮千別ちかきらと吐菩加美とほかみ講/身禊)講社結成、  
1858(安政5)禊教の教主/1873大宮の氷川神社主典、大成たいせい教所属禊教を組織、  
(他方1876坂田鉄安らは神道本局所属惟神いしん教会禊社本院を組織;のち禊教)
- U1533 **包宜**(かねよし・金子かねこ、)1831-1920<sup>長寿90</sup> 上野沼田の神職;卜部兼通門/榛名神社15代社司、  
大成教大講義、1914大正天皇即位記念碑文執筆
- 兼好(かねよし・卜部) → 兼好(けんこう;法名・吉田、歌人/隨筆) 1 8 1 2  
兼良(かねよし・高野) → 立斎(りつさい・高野たかの、藩士/天文家) B 4 9 8 5  
兼敬(かねよし・吉田・卜部) → 兼敬(かねゆき・吉田/卜部、神道) D 1 5 1 8  
兼叔(謙叔かねよし・中川) → 謙叔(けんしゆく・中川、儒者) E 1 8 9 0 1  
兼香(かねよし・一条) → 兼香(かねか・一条/藤原/鷹司、太政大臣) O 1 5 3 9  
懷能(かねよし・藤原) → 業尹(なりただ・藤原、廷臣/歌人) H 3 2 5 3  
全善(かねよし・渋江) → 拙斎(ちゆうさい・渋江、医/儒者) G 2 8 0 9  
懷良親王(かねよししんのう) → 懷良親王(かねながしんのう、南朝將軍/歌) 1 5 3 3
- P1511 **兼從**(かねより・萩原はぎわら、神祇管領吉田兼治男/本姓;卜部)1588?-1660<sup>73</sup> 祖父吉田兼見の養子;  
萩原姓を名乗る、1599豊国神社社務/1615豊臣家滅亡;失職、  
義弟細川忠興により配流は赦免、吉田神道を研究、吉川惟足に吉田家道統を相伝、  
連歌;梵舜(兼見の弟)と親交、「神道大意私記」著、  
養嗣子;員從かづより(1645-1710)
- P1512 **兼頼**(かねより・東儀とうぎ、初名;兼益、兼延[兼足]男/本姓;太秦うずまさ)1632-1712<sup>81</sup> 天王寺方楽人、  
左京大進/修理亮/1691越前守/93正四下、笛の名手、「竜笛吹艶之事」著
- 兼頼(かねより・樋口) → 兼頼(けんらい・樋口、俳人) M 1 8 7 5  
兼良(かねら・一条) → 兼良(かねよし・一条・覺恵) 1 5 3 7
- P1513 **珂然**(かねん;法諱・真阿しんあ:字、号;寒叟、俗姓;松井)1669-1745<sup>77</sup> 大阪浄土僧;安福寺珂憶門・  
芝増上寺学寮;明誉門、大阪生玉法泉寺住;仏教史伝の編纂、1697「吉水実録」著、  
「元亨釈書索隠」「浄土伝燈録」、1713「浄宗護国篇成語考」14「小関蔵知津」外著多数
- 可年(かねん・宮下) → 弁覚(3世べんかく・宮下みやした、医者/歌) B 2 7 1 5  
佳年(かねん・三上) → 巢二(そうに・三上みかみ、商家/俳人) I 2 5 6 5  
遐年(かねん・松永) → 昌三(しょうぞう・松永尺五、儒者) 2 2 5 8
- P1514 **叶**(かのう・市川いちかわ、別名;是大)?-? 江後期考証家、陸前平沢村主高野治部家家臣、  
「井蛙談」「宮城郡燕沢之古碑文考」著
- P1515 **花農**(かのう・三田みた、名;道/字;公恕/別号;百華小隱)?-? 幕末期名古屋医者/花卉画、  
1864「小山画譜」著
- 叶(哥農かのう;号) → 燕斎(えんさい・堀田、旗本/川柳作者) B 1 3 7 5  
可能(かのう・古屋) → あや子(あやこ・古屋ふるや、歌人) I 1 0 3 9  
霞濃(かのう;画号) → 高厓(たかまさ・三井、商家/国学者/歌) N 2 6 1 9  
雅能(かのう・飛鳥井) → 雅能(まさよし・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) I 4 0 4 1  
賀名生先師(かのうせんし) → 仟遍(せんべん;法諱・性紹、真言僧) N 2 4 7 2

- 賀名生殿(かのうどの) → 後村上天皇(ごむらかみてんのう、南朝/歌人) D 1 9 9 1
- P1516 勸農衛(かのえ・中村なかむら/黒川くろかわ、名;智済) 1802-1858 57 下野中里村農家/江戸で医術修得、  
1830常陸谷田部藩医中村周圭の養子、谷田部藩主侍医、勝手元江戸元締;財政再建参画、  
二宮尊徳復興仕法の責任者/晩年に家老、1851「論草」著、  
[勸農衛かのえ(;通称)の別通称]別通称;元順/玄順、法号;勸進院
- 鹿野山住(かののやまずみ) → 鹿野山住(しかのやまずみ、狂歌) B 2 1 3 7
- 加之舎(かのや) → 吟江(ぎんこう・夏目なつめ、札差/俳人) H 1 6 8 6
- 裸之舎(かのや) → 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8
- 画俳軒(がはいけん) → 流宣(とものぶ・石川、絵師/浮世草子) Q 3 1 1 9
- 夏売炭団(かばいたどん) → 果園(かえん・佐久間、藩士/歌人) B 1 5 1 3
- 樺翁(かばおう・岩崎) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4
- 可博(かはく・蜂屋) → 可博(よしひろ・蜂屋はちや、藩の連歌師) O 4 7 5 4
- 何帛(かはく・立林) → 何帛(かげい・立林たてばやし、絵師) F 1 5 7 7
- 嘉伯(かはく・朝山/勝部) → 嘉伯(よしのり・朝山あさやま/勝部かつべ、神職/国学) F 4 7 9 3
- 雅伯(かはく・野崎) → 雅伯(まさのり・野崎のさき、藩士/郷土史) G 4 0 0 6
- 花麦庵(かばくあん) → 露牛(ろぎゅう・赤荻あかおぎ、俳人) 5 2 6 5
- P1517 鹿馬輔(かばすけ・正徳しょうとく)?- ? 江後期江戸狂歌作者/戯作者;馬琴門?、  
1799「猫謝羅子」著
- 蒲殿(かばどの) → 範頼(のりより・源、武将;平家追討) G 3 5 3 5
- H1589 花馬池月(かばのいけつき、姓名;山下やました藤兵衛)?-? 江戸四谷おし丁浦通りの狂歌作者、  
才蔵集2首、  
[相州の住ぢうきれものの初鯉けふ手に入れてさしみにぞする][才蔵集;125/初鯉、  
鯉を刀工に擬す/相模の刀工の名刀の如き品切れ気味の初鯉を手に入れた喜び]
- 蒲の冠者(かばのかんじゃ) → 範頼(のりより・源、武将;平家追討) G 3 5 3 5
- 加波羅山樵夫(かはらさんしょうふ) → 翠月(すいげつ・門脇かどわか、俳人) E 2 3 4 0
- 雅範(がはん・穎川/葉/盧) → 雅範(まさのり・穎川えがわ/葉/盧、通事) G 4 0 2 7
- 佳比(かひ・齋藤) → 多須久(たすく・齋藤さいとう、神職/国学) X 2 6 3 2
- P1518 我眉(がび) ?- ? 俳人;1694「炭俵」98「続猿蓑」各1句入、  
[足もともしらけて寒し冬の月][炭俵;下/月光で足もとも霜を置いた感]
- H1557 峨眉(がび・守屋もりや、名;煥明/字;秀緯、秀安男) 1693-1754 62 江戸医者;父門、  
儒;安藤東野・荻生徂徠門、1724大垣藩儒医、詩人、  
「牛門会雑稿」「峨眉詩稿」「磯湊往来」「間居集」「徂徠学則」著、  
[峨眉の通称/別号]通称;小十郎、別号;峨眉山人、物部守屋の末裔という
- F1578 峨眉(がび・秦はた) 1716 - 1791 76 三河儒者;南郭門、三河刈谷藩儒、滄浪そうろうの父
- P1519 峨眉(がび) ?- ? 俳人;三葉社中、1772几董「其の雪影」入
- P1520 峨眉(がび・近藤こんどう/本姓藤原、名;義鄰/正信) 1744-?1789-1800 頃没 京の儒者・書家;開塾、  
のち江戸住、播磨小野藩出仕/1778致仕、85越後椎谷藩出仕、  
1791小千谷へ移住;弘道館開;門弟指導、医事も行う、1794「峨眉先生文集」著、  
[峨眉の字/通称/別号]字;季徳/国宝、通称;正平、別号;峨眉山人
- T1504 賀備(がび・よしもと?・菅井すがい)?- ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[ほととぎす野越え山越え深草のまだ里なれぬ初音をぞ聞く]、  
(大江戸倭歌;夏433/尋聞郭公)
- 峨眉(がび、峨眉山人) → 熊文(くまぶん・生駒/土師はじ維熊、国学) D 1 7 4 3
- 娥眉庵(がびあん) → 文祇(ぶんぎ・雞田、戯作者/俳人) E 3 8 9 6
- 花庇陰(かひいん) → 茂枝(しげえ・竹村たけむら、国学者/歌人) B 2 1 9 2
- 峨眉山樵(がびさんしょう) → 孟文(たけふみ・武田たけだ、洋学者) O 2 6 7 2
- 峨眉山人(がびさんじん) → 峨眉(がび・守屋もりや、医者/儒者) H 1 5 5 7
- 峨眉山人(がびさんじん) → 峨眉(がび・近藤こんどう/藤原、儒者/書) P 1 5 2 0
- 峨眉山人(がびさんじん) → 峨眉丸(がびまる・月斎げっさい、絵師) P 1 5 2 1

- 峨眉山人(がびさんじん) → 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0  
 峨眉山人(がびさんじん) → 堯民(ぎょうみん・荒川/湯浅、藩士/医者) O 1 6 5 7  
 何必醇(かひつじゆん) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
 何尾亭(かびてい) → 童平(どうへい・井上いのうえ、酒造業/俳人) H 3 1 0 6
- 1538 鹿人(かひと・紀朝臣きのあそみ、紀女郎きのいらつめの父)?-? 奈良期廷臣; 聖武天皇の時代に活動、外従五上、  
 典鑄正/740(天平12)主殿頭とのもりのかみ/741大炊頭おおいのかみ、歌人; 万葉三期歌3首:990-1・1549、  
 [茂岡しげをかに神かむさび立ちて栄えたる千代ちよ松の木の年の知らなく](万葉; 六990、  
 大和跡見とみの茂岡の松の木の歌)
- 穎長(かびなが・多治比) → 穎長(えいと・多治比、平安前期詩人) E 1 3 2 2  
 加備廼舎(かびのや) → 賢直(よしなお・那須なす、藩士/絵師/歌) O 4 7 0 9
- P1521 峨眉丸(がびまる・月斎げっさい)?-? 江後期絵師: 烏文斎栄之門?、肉筆美人画、  
 1798「栄玉画鑑」1816「滑稽福笑」著  
 [月斎峨眉丸の別号] 峨眉山人/烏文斎うぶんさい、  
 牧墨僊と同一説あり → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、尾張絵師1775-1824) D 3 9 6 1
- P1522 可瓢(かひょう) ?-? 大阪俳人; 1691賀子「蓮実」3句/98「続猿蓑」入、  
 [蠅うちになるゝ雀の子飼こがひ哉](続猿蓑; 巻下/飼慣らされ蠅叩きの音にも驚かない)
- S1535 花表(かひょう) ?-? 俳人; 1691不角「二葉之松」入  
 [けふばかり配所の椎しの喰ひ納め](二葉之松; 238/赦免で帰郷の日の食事は感慨深い)
- 華瓢(かひょう・本間) → 光泰(みつやす・本間、商家/神職/国学) K 4 1 4 7  
 華表人(かひょうじん) → 支考(しこう・各務かがみ/村瀬、俳人) 2 1 1 9  
 画瓢坊(がひょうぼう) → 披雲(ひうん・俗仙庵、俳人) 3 7 0 0
- D1519 霞夫(かふ・芦田あしだ/堺屋六左衛門、馬圃/如々庵仏白、有橋男) 1749-8436 但馬出石醸造業、  
 俳人・蕪村門/蕪村の画のパトロン、1747青蘿と両吟歌仙、  
 句集「きくの主集」著、1776几董「続明鳥」6句入、  
 [嵯峨の小春都に近き心かな](続明鳥)、  
 父有橋 → 有橋(ゆうきつ・芦田、俳人) B 4 6 1 7  
 弟乙総 → 乙総(おとふさ・芦田、俳人) D 1 4 3 0  
 可布(かふ、可布庵) → 逸淵(いつえん・児玉/久米、俳人) B 1 1 3 4  
 雅夫(がふ・阪田) → 雅夫(まさお・阪田さかた、医者/国学) P 4 0 9 9  
 可布庵(かふあん) → 故厓(こがい・遠藤えんどう、俳人) L 1 9 8 5  
 歌舞庵(かぶあん) → 湖十(2世こじゅう、村瀬/深川、俳人) C 1 9 8 3
- P1524 可風(かふう・北川きたがわ、別号; 長等窓、文素の弟)?-1767 近江大津の俳人・雲裡門、  
 「滄浪居可風発句集」著、1768文素・可風兄弟の遺句集「鳩におの二声」(蝶夢編)の序
- D1520 下風(かふう・梅野うめ) ?-? 浄瑠璃作者・1786「彦山権現誓助剣」著  
 歌風(かふう・鈴木) → 八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人) G 4 5 0 5  
 華風(かふう) → 宣長(のりなが・本居、国学) 3 5 2 4  
 佳風(かふう・豊島) → 才尾(さいび・椎本しいのもと・豊島/志村、俳人) B 2 0 0 7
- P1525 鷺風(がふう) ?-? 京の俳人; 1691江水「元禄百人一句」目録入
- I1521 雅風(がふう) ?-? 京の俳人・淡々門、1728柳岡「万国燕」31句入、  
 [こけたが手柄なれや茸狩たけがり](万国燕; 26/すべてころんで痛い目のご褒美)  
 荷風子(かふうし; 号) → 円策(えんさく; 法諱、真宗大谷派僧) F 1 3 6 2  
 荷風亭(かふうてい) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9  
 株木(かぶき; 川柳号) → 羽左衛門(12世うざえもん・市村、歌舞伎作者俳優/川柳作者) B 1 2 9 1
- C1596 歌舞伎堂艶鏡(かぶきどうえんきやう)?-? 浮世絵絵師; 寛政八1796年の数ヶ月間のみの作品、  
 写楽風役者似顔絵7点のみ; 「三代市川八百蔵の梅玉丸」「初代市川男女蔵」画、  
 「二代目嵐龍蔵の金貸石部金吉」画など、  
 二代目中村重助じゅうすけと同一説(落合直成説)あり;  
 → 重助(2世じゅうすけ・中村、1749-1803/歌舞伎作者) H 2 1 8 1  
 歌舞伎工(かぶきのたくみ、狂歌後万載入) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1  
 過不及子(かぶきゆうし) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6

- P1526 **可復**(かふく・岡本おかもと、別名;秀常/可俊、通称官藏)1685-1722<sup>38</sup> 水戸藩士1701進士、  
1719「外国説略」著  
家副(かふく・池田) → 家副(いえずけ・池田いけだ、里正/歌人) J 1 1 9 0  
華不注山人(かふちゆうさんじん) → 伯斎(伯済はくさい・千村、藩士/儒) D 3 6 0 7
- F1527 **鹿仏**(かぶつ) ? - ? 江中期俳人;1774美角「ゑぼし桶」入、  
[寒菊や糺もみの俵に押し出され](ゑぼし桶;65/軒先まで積まれた俵に庭の菊は無視)
- F1579 **下物**(かぶつ・山川やまかわ) ? - 1800 大阪俳人/雑俳点者;椎本吾立門?、椎本4世を名乗る、  
歌舞伎評判記の編纂参加/料理書・噺本編纂、1757律中「耳勝手」入、初世嵐雛助の発句代作、  
1760「猷立筌」76「年忘噺角力」77「誹諧靨くぼ」編、82虎風「鼻あぶら」入、1801「誹諧浪花杖」編、  
[下物の別号]二斗庵、椎本四世、おろし藻、無尺舎主人念夢むしやくしやしゅじんねんむ、鶴十かくじゅうの師  
化仏(かぶつ→けぶつ・二宮) → 五礼(ごれい・二宮、眼科医/俳人) O 1 9 1 2  
歌仏庵(かぶつあん) → 雅長(まさなが・北原きたはら、藩士/歌) P 4 0 2 9  
化物園(かぶつえん→けぶつえん) → 徳成(とくじょう;法諱、真宗大谷派僧) L 3 1 0 0
- S1543 **かぶと**(;組連) ? - ? 江戸北八丁堀幸町の雑俳;川柳の組連、  
取次;1762・64・68「川柳評万句合」入;  
取次例:[看経かんきんの間々あひだあひだにうしろ向く](1762万句合/前句;うき世なりけり々々)、  
(お勤めの途中でも後ろ[現世]が気になる)  
鐙の舎(かぶらのや) → 稻雄(いなお・北原きたはら、国学者) I 1 1 0 4  
鐙廼舎(かぶらのや) → 万重(よろづえ・前沢まえざわ、国学者) P 4 7 0 5  
鐙矢檜垣(かぶらやのひがき) → 常良(つねよし・檜垣/度会、神職/歌人) E 2 9 2 0  
嘉文(かぶん・高尾) → 嘉文(よしふみ・高尾/今井、幕臣/和学) N 4 7 6 9  
雅文(がぶん・栗田) → 雅文(まさふみ・栗田くりた、商家/歌人) H 4 0 2 7  
華文軒(かぶんけん) → 敬房(たかふさ・中西/加賀屋、書肆/暦算家) N 2 6 1 3
- S1565 **荷平**(かへい・志津木しづき) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[礎きぬた以後夢覚ましけり煤払い](難波色紙;80/秋の夜の砧の音に妄執の夢を覚ます、  
以後年末の煤払いまで妄執は続く、  
謡曲「山姥」;千声万声の砧に声のしで打つはただ山姥が業なれや、  
雪を誘ひて山廻り廻り廻りて輪廻を離れぬ 妄執の雲の塵積つて山姥となれる)  
加平(かへい・神戸) → 盛矩(もりのり・神戸かんべ、藩士/刀剣鍛法) G 4 4 2 6  
嘉平(かへい・塚村) → 嘉伝太(かでんた・塚村つかむら、里正/歌) O 1 5 1 3  
嘉平(かへい・皆川) → 葵園(きえん・皆川みながわ、儒者) I 1 6 4 3  
嘉平(かへい・朝倉/小佐野) → 足穂(たるほ・日下田くさかだ/遠藤、歌人) T 2 6 0 6  
嘉平(かへい・大文字屋) → 愚仏(ぐぶつ・淤足齋おそくさい、書肆/狂詩) B 1 7 0 2  
嘉平(かへい・関口) → 黄山(こうざん・関口せきぐち、儒者/書家) G 1 9 3 4  
嘉平(かへい・小西) → 行敬(ゆきよし・小西こにし/広瀬、国学) G 4 6 8 1  
画餅(がへい・小松) → 百亀(ひゃつき・小松こまつ、薬屋/噺本) E 3 7 9 4  
雅平(画餅がへい・船坂) → 雅平(まさひら・船坂ふなさか、商家/和漢学) S 4 0 3 6  
荷乗庵(かへいあん) → 正矩(まさのり・河田かわだ、農家/心学者) G 4 0 0 2  
画餅居人(がへいこじ) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4  
加兵次(かへいじ・梅津) → 頓悦(とんえつ・梅津、歌舞伎関係/俳人) S 3 1 0 4  
加平次(かへいじ・本庄) → 白川(はくせん・本庄、商人/俳人) D 3 6 5 0  
嘉平次(かへいじ・石川) → 沢山人沢山(たくさんじんたくさん、狂歌) O 2 6 0 1  
嘉平次(かへいじ・河野) → 春察(しゅんさつ・河野こうの、儒者) K 2 1 7 8  
嘉平次(かへいじ・滝) → 昌応(すけまさ・滝たき、藩士/地誌) H 2 3 1 0  
嘉平次(かへいじ・安蔵) → 仲福(なかとみ・安蔵やすくら、里正/文筆家) E 3 2 9 1  
嘉平次(かへいじ・大久保) → 忠恕(たださと・大久保おおくぼ、旗本幕臣) U 2 6 8 6  
嘉平治(かへいじ・鶴海) → 一漁(初世いちりょう・鶴海つるみ、俳人) E 1 1 5 9  
嘉平治(かへいじ・岡) → 安定(やすさだ・岡おか、商家/本草/救荒) B 4 5 5 2  
嘉平治(かへいじ・熊野屋) → 休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4

- 嘉平治(かへいじ・高田) → 清兵衛(せいべえ・高田たかだ/堺屋、書肆) J 2 4 5 7  
 嘉平治(かへいじ・岡) → 安賢(やすかた・岡おか、商家/国学) F 4 5 5 5  
 嘉平治(かへいじ・河野) → 通儀(みちのり・河野こうの、町役/歌人) J 4 1 1 0  
 嘉平太(かへいた・土生) → 清雄(きよお・土生はぶ/三浦、藩士/国学) T 1 6 8 9  
 可弊泥園(かへいでいえん) → 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7  
 嘉平田舎(かへいでんしゃ、詠草作者) → 政方(まさかた・関、国学) 4 0 0 6
- P1528 **加兵衛**(かへえ・武宮たけみや、名;貞親、植木貞則男)?-1683 初め伊勢津藩主藤堂高虎に出仕;8百石、  
 のち備前岡山藩主池田忠雄に請われ武宮貞長の養嗣子;武宮流砲術家となる、  
 因幡鳥取藩主池田光仲から鉄砲20挺を預けられ藩内に砲術を広める;5百石、  
 幕府より招聘されたが応じず;1668隠居、1627「種島秘伝極意之書」、「我学秘伝」著、  
 [加兵衛(;通称)の号] 立夢/臼井右馬允うすいまいまのじょう
- P1529 **加兵衛**(かへえ・岩淵いわた、名;正義/実則)?-? 陸前仙台藩士/藩主宗村の馬術師範、  
 高麗流八条家馬術、1744「高麗流八条家之書」著
- P1530 **嘉兵衛**(かへえ・広沢ひろさわ、通称;本屋ほんや嘉兵衛)?-? 江中期大阪の書肆、  
 1724「類姓草画」29「女蒙求艶詞」著
- 嘉兵衛(かへえ・伊藤) → 祐清(すけきよ・伊藤いとう、藩士/文筆家) G 2 3 2 5  
 嘉兵衛(かへえ・山本) → 都童軒(とりゆうけん・山本、茶舗/狂歌) R 3 1 9 0  
 嘉兵衛(かへえ・北川) → 真顔(まがお・鹿都部、戯作/狂歌) 4 0 0 1  
 嘉兵衛(かへえ・中井/佐野) → 西山(ゆうざん・佐野さの/中井、藩儒) B 4 6 9 4  
 嘉兵衛(かへえ・天川) → 友親(ともちか・天川あまかわ、郷土史家) P 3 1 7 7  
 嘉兵衛(かへえ・土生) → 清雄(きよお・土生はぶ/三浦、藩士/国学) T 1 6 8 9  
 嘉兵衛(かへえ・国枝) → 平斎(へいさい・国枝くにえだ、俳人) 2 7 3 3  
 嘉兵衛(かへえ・宮島屋) → 晴助(初世春助はるすけ・奈河/豊、歌舞伎作者) 3 6 3 2  
 嘉兵衛(かへえ・植村) → 文楽軒(3世ぶんらくけん・植村、人形浄瑠璃) G 3 8 6 0  
 嘉兵衛(かへえ・佐野) → 皆雲(かいうん・佐野さの、儒者/詩) H 1 5 1 4  
 嘉兵衛(かへえ・関口/篠田) → 行休(こうきゅう・篠田/関口、書家) I 1 9 2 5  
 嘉兵衛(かへえ・高須) → 元尚(もとなお・高須たかす、醸造業/国学) D 4 4 4 3  
 嘉兵衛(かへえ・吉田/東油屋) → 永盛(ながもり・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 2 9  
 嘉兵衛(かへえ・後藤) → 鷲眠(ろみん・後藤ごとう、俳人) C 5 2 4 3  
 嘉兵衛(かへえ・若林屋) → 葦根(あしね・高須たかす、商家/歌人) H 1 0 9 3  
 嘉兵衛(かへえ・山田) → 惟孝(これたか・山田やまだ、薬舗/絵師/詩) R 1 9 4 8  
 嘉兵衛(かへえ・平野) → 昌伝(しょうでん・平野/惟任、天文/測量) L 2 2 1 1  
 嘉兵衛(かへえ・河村屋) → 広居(ひろやす・清水しみず、国学者) H 3 7 5 8  
 嘉兵衛(かへえ・山崎) → 繁平(しげひら・山崎やまさき、国学者) Z 2 1 9 7  
 加兵衛(嘉平かへえ・坪田) → 甘谷(かんこく・坪田、俳人) Q 1 5 4 8  
 加兵衛(嘉兵衛かへえ・永田) → 忠宜(ただよし・永田、藩士/音律研究) R 2 6 3 1  
 加兵衛(かへえ・江戸屋) → 路春(ろしゅん・角田、俳人/狂歌) B 5 2 8 6  
 加兵衛(かへえ・田中) → 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌) G 3 6 6 2  
 加兵衛(かへえ・山本) → 久頼(ひさより・山本、槍術師範) C 3 7 2 3  
 加兵衛(かへえ・角田) → 路春(ろしゅん・角田つのだ、俳人/狂歌) B 5 2 7 8  
 加兵衛(かへえ・宮川) → 頼安(よりやす・宮川みやがわ、藩士/国学) P 4 7 3 8  
 花癖(かへき) → 少汝(しょうじょ;号、小見山、真宗僧/俳人) T 2 2 1 4
- F1580 **加倍仲塗**(かべのなかぬり、通称;河合安右衛門)?-? 幕臣;御大工頭/赤坂丹波坂に住/狂歌;黒人門、  
 赤坂連・朱楽連、書に長ず/書家名;膝乗彝とうへい、1785「後万載集」/87「才蔵集」入、  
 [名に高き竹の林の鶯は七のかしこき人く鳥どりかも](才蔵集)、  
 (古今集読人しらず;1011 梅の花見にこそきつれ鶯の人く人くといとひしもをる)
- P1531 **賀部仲塗**(かべのなかぬり・清水虫右衛門)1769-1832<sup>64</sup> 江戸の石灰商、狂歌・赤良門、  
 「誘合宮里毛」著  
 可弁(かべん;号) → 剃心(せいしん;法諱、真宗大谷派僧) I 2 4 9 2
- D1521 **賀保**(かほ・よしやす・菊本) ? - ? 元禄期1688-1704頃大坂の地誌家、

- 1697「国花万葉記」(全国地誌)、「国花分明集」 「大日本名所記」 「唐絵画印伝」 「本朝画印伝」 著
- P1532 **稼圃**(かほ・大塚おつか、名; 孝威/孝感、嘉保男) 1723-180280 江戸儒者; 服部南郭門、孝綽たかやすの弟、田安家の家臣/3年で致仕、1765「瓊浦秘談」86「九親服属諺解」87「救時策」91「異学之辨」著、[稼圃の字/通称]字; 子儀、通称; 善助
- 可保(かほ・よしやす・森) → 忠洪(ただひろ・森もり、藩主/俳人) Q 2 6 6 8
- 可保(かほ・篠田) → 保(たもつ・篠田しのだ、藩士/歌人) X 2 6 4 8
- 花圃(かほ・沢田) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学) 3 2 2 3
- 家輔(かほ・花山院) → 家輔(いえすけ・花山院かざんいん、廷臣) E 1 1 8 3
- 佳保(かほ・今田) → 佳保(よしやす・今田いまだ、藩士/歌人) L 4 7 6 3
- 嘉甫(かほ・奥田) → 三角(さんかく、奥田おくだ、藩士/儒者) E 2 0 1 9
- 嘉保(かほ・片桐) → 嘉保(よしやす・片桐かたぎり、藩士/暦算家) H 4 7 7 9
- 嘉保(かほ・朝山) → 嘉保(よしやす・朝山あさやま/勝部、神職/歌) L 4 7 2 5
- 雅輔(がほ・多治) → 雅輔(まさすけ・多治、廷臣/歌) C 4 0 8 6
- 雅輔(がほ) → 水翁(すいおう、俳人) E 2 3 1 9
- 雅輔(がほ・太田) → 雅輔(まさすけ・太田おた、神職/国学/歌) O 4 0 5 0
- 嘉穂庵(かほあん/かすいあん) → 東作(とうさく・平秩へつ/平原屋、商家/狂歌) 3 1 1 3
- P1533 **佳方**(かほう・三好みよし、倒枕舎)?-? 江戸中期俳人; 淡々門、1750「之乎者」編/55「なつよもき」編
- F1581 **加峰**(かほう) ?-? 雑俳点者、1767丸窓「豆鉄炮」入
- R1592 **霞舫**(かほう・館たち、柳湾[1762-1844]男)?-? 絵師/儒者・詩、1831「柳湾漁唱二集」編録
- W1506 **花芳**(かほう; 法諱・安岡やすおか) 1823-190684 土佐幡多郡秋山村の真言宗種間たねま寺住僧、国学者、のち土佐安芸郡に住、[花芳の名] 俊栄・一為
- 嘉方(かほう・よしかた?・太田) → 子規(しき・太田おた、儒者; 韻学) P 2 1 9 7
- 嘉包(かほう・稲束) → 嘉包(よしかね・稲束いなづか/岡本、商家/記録) L 4 7 6 0
- 華峰(かほう・可部) → 赤瀬(あかに・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0
- 霞峯(かほう・渡辺) → 閑哉(かんさい・渡辺わたなべ、名主/農村開発) S 1 5 9 3
- 化鵬(かほう・栗本) → 匏庵(ほうあん・栗本、医者/幕臣) 3 9 1 1
- 家房(かほう・藤原) → 家房(いえふさ・藤原、廷臣/歌人) 1 1 6 0
- 家房(かほう・一条) → 家房(いえふさ・一条、廷臣) K 1 1 8 5
- 家房(かほう・清閑寺) → 家房(いえふさ・清閑寺せいかんじ、廷臣/連歌) E 1 1 9 9
- P1534 **雅宝**(がほう; 法諱、実報院、九条頭頼男) 1131-9060 真言僧; 1135-41頃出家/53勸修寺長吏、1161行海より伝法灌頂; 75実信に授与/83大僧都・86東大寺別当/90成宝に灌頂を授与、1161「承安五年灌頂日記私」86「成宝灌頂日記」、「類秘鈔」著
- P1535 **我宝**(がほう; 法諱・自性; 字、自性上人) 1239-131779 真言僧; 高野山定光院住/槇尾山西明寺学匠、西明寺内平等院心王院を復興/顕密学を究明、「自性記」「深秘抄」「知息鈔」「槇尾問答鈔」「自性和尚詩文稿」「我宝舍利供養式鈔」「七夜密談記」「真言四重禁戒秘事」外著多数 [白露のおのが姿をそのままに紅葉におけば暮れないの玉](一座行法肝要記入)
- D1522 **我峰**(がほう・木屋[; 屋号]、通称; 助八/半右衛門)?-1715 伊賀上野の俳人; 芭蕉門、家督継嗣後に半右衛門を称す、1691「続猿蓑」2句入、1694其角「枯尾花」・95浪化「有磯海」入、1698諷竹「淡路島」入、[草の戸や暑さを月に取りかへす](続猿蓑; 卷下/月光の差す頃やっど涼風)
- 鶯峰(がほう・林、春斎) → 春勝(はるかつ・林はやし、羅山男/儒者) 3 6 3 0
- 雅豊(がほう・飛鳥井) → 雅豊(まさとよ・飛鳥井・藤原、廷臣/歌) E 4 0 8 4
- 雅邦(がほう・大泉) → 雅邦(まさくに・大泉おおいずみ、藩士/歌/書) C 4 0 4 0
- 雅法(がほう・吉田/岸) → 汝裕(じょゆう・岸きし/吉田、幕臣/詩文) M 2 2 8 6
- 臥鵬(がほう) → 万和(まんわ、俳人) K 4 0 8 8
- 雅房(がほう・源) → 雅房(まさふさ・源/土御門、廷臣/蹴鞠) H 4 0 0 5
- 雅房(がほう・村上) → 雅房(まさふさ・村上むらかみ、武将) H 4 0 0 6
- 雅房(がほう・万里小路) → 雅房(まさふさ・万里小路までのこうじ、廷臣) H 4 0 0 8

- 芽宝(かぼう・中島) → 素蓮(それん・中島なかじま、俳人) E 2 5 5 7  
 佳峰園(かほうえん) → 等裁(とうさい・鳥越とりこえ、俳人) E 3 1 3 3  
 香京園(かほうえん) → 宣光(のぶみつ・寺部てらべ/大伴、神職/歌) G 3 5 4 4  
 何方子(かほうし) → 倫員(りんいん・藤村ふじむら、俳人) J 4 9 9 8
- D1523 嘉宝麿(かほうまる) ? - ? 醍醐寺報恩院稚児ちご、醍醐寺僧歌選定:  
 1305「続門葉和歌集」吠若麿ほえわかまると共撰
- P1536 夏北(かほく・梅川うめかわ/本姓;藤原、名;重高、屋号;奈良屋) 1799-1847 49 今日錦小路の銅版師、  
 古物調査;穂井田忠友門、1830「猫瞳寛窄辨」37「飢饉部類考」、「地震日記」「続扶桑鐘銘集」著、  
 [夏北の通称/別号]通称吉平、別号;凍淵、
- P1537 賀卜(かたかぼう・大村おおむら/大森、名;安秀/通称治左衛門)?-? 1648-88頃駿河長田村の刀工、  
 越後高田藩主松平家出仕;主家滅亡/江戸で刀鍛冶、1684「刀剣秘宝」、「日本刀鍛法秘書」著
- F1582 夏木(かほく) ? - ? 京住;俳・梅盛門、1681似春「芝肴」入  
 P1538 可卜(かほく) ? - ? 近江柏原俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
 D1524 歌木(かほく、哥木) ? - ? 京住;雑俳点者、1696円水「住吉おどり」入  
 P1539 鹿卜(かほく) ? - ? 京伏見俳・1783道立どうりゅう「写経社集」入  
 P1540 霞卜(かほく・島しま、名;瓊樹/字;子霞)?-1849 安藝広島の人、俳人・和切門、  
 1831和切「養花集」跋、1846「炭ふくべ」、「老松集」、  
 [元日や神の使に来る小鳥](1830「やまから」入)  
 [霞卜(:号)の通称/別号]通称;中島屋源兵衛、別号;一濤/残月/洗耳/大夢
- P1541 禾木(かほく、別号;三畝荘)?- ? 江後期1818-44頃江戸住俳人、1819「さゝゑほし」編、  
 1820「田舟集」「はなはた集」編、24「年籠集」29「芳艸集」編、31「今四歌仙」著  
 可朴(かほく・萩原) → 信芳(のぶよし・萩原はぎはら、和算家) E 3 5 0 1  
 嘉木(かほく・小島) → 嘉木(よしき・小島こじま/水原、陪臣/歌人) H 4 7 7 3
- F1583 雅木(かほく) ? - ? 俳人/息子吐山の追善に1719俳友の賀子が「松三尺」を編集  
 嘉木園(かほくえん) → 善武(よしたけ・唐木からき、国学/歌) M 4 7 2 7  
 花木亭(かほくてい) → 翠柳(すいりゅう・山中やまなか、雑俳点者) F 2 3 1 3  
 加保茶元成(かぼちやのもとなり) → 元成(もとなり・初世、狂歌) D 4 4 6 4  
 → 元成(もとなり・2世) → 南瓜宗園(なんかそうえん) I 3 2 5 8  
 → 元成(もとなり・3世) → 春馬(しゅんば・三亭) 2 1 6 5  
 釜喜(4世かまき、釜屋喜右衛門) → 徳成(とくなり・通用亭、狂歌/戯作) L 3 1 2 6  
 鎌吉(かまきち・窪田) → 信久(のぶひさ・窪田くぼた/間/園田、国学) I 3 5 2 8  
 鎌倉殿(かまくらどの) → 頼朝(よりとも・源、鎌倉初代将軍/歌) J 4 7 2 2  
 鎌倉右大臣(かまくらのうだいじん) → 実朝(さねとも・源、鎌倉3代将軍/歌人) 2 0 4 3  
 鎌倉大納言(かまくらのだいなごん) → 義詮(よしあきら・足利/源、2代将軍/歌) C 4 7 0 3
- F1584 鎌倉遠則(かまくらのとおのり) ? - ? 狂歌・1785刊「後万載集」2首入;  
 [やぶ入のたびたび茶屋であふ恋にのぼりつめたる箱ばしご哉]
- P1542 鎌子(かまこ・中臣なかとみ、姓は連、真人男)?-? 大和期540-71頃廷臣:祭祀を司る、  
 欽明天皇13年(552);百濟聖王の使者が仏像と経論を献上;仏像崇拜を蘇我稲目が賛成、  
 鎌子は物部御輿氏と共に反対、疫病発生は仏教の故とし仏像を難波堀江に廃棄、  
 「三元五大伝神録」著、黒田の父  
 鎌子(かまこ・中臣連なかとみのむらじ) → 鎌足(かまたり・藤原朝臣、廷臣/改新政治) 1 5 3 9  
 鎌三郎(かまさぶろう・水野) → 勝義(かつのり・水野みずの、武芸家) N 1 5 7 5  
 鎌三郎(かまさぶろう・榊原) → 可楽(4世からく・三笑亭、3世夢羅久、噺家) F 1 5 9 2  
 鎌次郎(かまじろう・高久) → 守静(もりしず・高久たかく、和算家) F 4 4 4 8  
 釜次郎(かまじろう・松平) → 康棟(やすたか・松平まつだいら、幕臣/歌人) 4 5 0 5  
 釜次郎(鎌二郎かまじろう・榎本) → 武揚(たけあき・榎本、幕臣/海軍) O 2 6 2 3  
 鎌田屋幸八(かまたやこうはち) → 杜水(とすい、俳人) O 3 1 2 6
- 1539 鎌足(かまたり・藤原朝臣ふじわらのあそみ、中臣御食子みけこ男) 614-669 56 大和廷臣、  
 母;大伴夫人、大和高市郡藤原の邸に生、644神祇伯;辞退し摂津三島に退去、  
 軽皇子(孝徳天皇)に接近/のち中大兄皇子(天智天皇)の近臣;

共謀し645蘇我蝦夷入鹿親子を滅亡/内臣となる、大化改新の政治の中心/654紫冠、  
655-61頃大紫冠を授与される/のち死の直前に大織冠の位・大臣位・藤原の賜姓を受ける、  
嫡室;鏡王女、「大織冠御啓白文」著、歌;万葉一期歌人;2首・94-95、「歌経標式」1首入、  
[我ははや安見児やすに得たり皆人の得かてにすといふ安見児得たり](万;95/采女を娶)  
[鎌足(名)の初姓名/字/称]初姓名;中臣連むらじ鎌子、字;仲郎、称;大織冠、  
定恵・不比等の父

釜之進(かまのしん・勝野) → 良順(よしより・勝野かつの/田宮、藩士/和漢学)M 4 7 2 2

F1585 鎌満(かままる・島川しまかわ、黒川盛隆男、改姓;島川) 1801-55地震圧死55 盛岡南部藩士;  
国学者;父門/有職故実;本間百里門、源氏物語研究/歌人、御納戸勘定奉行、用人、  
1855江戸勤番中;安政大地震に圧死、成一なりかづの父、  
1837彦磨返答「源氏爪印」、37「かいすて日記」39「玉波々規」、「島川鎌満自筆詠藻」、  
「棗廼木鎌満自筆詠藻」「棗廼木随筆」「島川鎌満歌集」「盛藩歌人詠草」「勿謂廼波奈」著、  
[鎌満の通称/号]通称;東市/三五/融機、号;棗の木、法号;円修院

釜屋(かまや;屋号) → 時成(ときなり・若井、戯作者) J 3 1 6 6

釜屋(かまや;屋号) → 徳成(とくなり・通用亭、狂歌師/戯作) L 3 1 2 6

釜喜(4世かまよし・かまき、釜屋喜右衛門) → 徳成(とくなり・通用亭、狂歌/戯作) L 3 1 2 6

禾磨(かまろ・安養寺) → 禾磨(のぎまる・安養寺あんようじ、儒/故実) H 3 5 2 0

可磨斎(かまろさい) → 願言(こげん・松本、榊柯男/医者/俳人) C 1 9 4 6

花満(かまん・桜井) → 広記(ひろのり・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 5

嘉満(かまん・飯盛) → 嘉満(よしみつ・飯盛いもり、藩陪臣/教育) L 4 7 4 9

瓦埴子(がまんし) → 玄通(げんつう・前田まえた、医者) L 1 8 4 6

W1560 紙(かみ・源みなもと) ? - ? 廷臣;左衛門督、歌人;新撰和歌髓脳・奥義抄入、  
袋草紙入;証歌(病を犯す類の瑕瑾の歌)和歌八病の同心病(同種語連続)の例歌に、  
源紙の歌;もじの注同じなれども義異りて妨げ無しと云々;  
[うたばうてひかばひかなん今夜さへあなことわりやねやではかへらじ]

神足(かみあし・埃宮) → 聖観(しょうかん:法諱、僧/国学) U 2 2 9 5

神五郎(かみごろう・三輪) → 大磨(おおまる・三輪みわ、神職/歌人) D 1 4 8 3

P1543 上坂某(かみさかなながし:名不詳)?-? 江戸期:謎蒐集、1728「新撰何曾遊び背紐うしろひも」著

神左衛門(かみざえもん・石田) → 一鼎(いっぺい・石田いしだ、儒者/詩文) H 1 1 6 4

神佑(かみすけ・猿谷) → 重嘉(しげよし・猿谷さるとに、国学者) O 2 1 6 5

上野阿闍梨(かみつけのあじり) → 宝心(ほうしん;法諱・浄蓮房、真言僧) B 3 9 8 1

上野僧都(かみつけのそうず) → 仙覚(せんかく、真言学僧) L 2 4 9 2

上宮聖徳皇子(かみつみやしょうこのみこ) → 聖徳太子(しょうとくたいし) 2 1 9 8

上宮聖徳皇子(かみつみやのしょうこのみこ) → 聖徳太子(しょうとくたいし、皇太子/摂政) Q 2 2 3 0

S1551 雷リ(かみなり、本名;藤枝ふじえだ雷蔵、通称;啓兵衛/別号;雷獣)?-? 江後期川柳作者;

1831五世川柳「新編柳多留初篇」所見(雷獣の号)/1844雷りに改号;「同40集」まで入、

1847「俳風新々柳樽」入、[口惜しい草履を胸でふみこたへ](新編柳多留;初篇)

紙屋(かみや) → 章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者) G 2 2 5 5

紙屋玄水(かみやげんすいん) → 玄水(げんすい・紙や、紙屋、俳人) E 1 8 2 0

紙屋新右衛門(かみやしんえもん) → 海丸(かいまる・溪藤舎、狂歌) J 1 5 0 7

加牟豆美庵(かむづみあん) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おぬま、商家/国学者) F 4 6 3 4

D1526 上道王(かむつじのおおきみ、穂積皇子男)?-727(神亀4) 広河女王の父、763五位

1540 巫部麻蘇娘子(かむなべのまそおとめ)?-? 万葉四期歌4首/四703-4/八1562:家持和歌/八1621、  
[我が背子を相見しその日今日までに我が衣手は乾ふる時もなし](万葉;703/男は家持?)

P1544 亀(かめ・桃沢ももさわ、松村理兵衛女)?-? 江中期;信濃伊那郡の名主桃沢匡道の妻、

歌人:依田梅山門、澄月門、夢宅(1738-1810)の母、伊那三才女の1 → 伊那三才女

T1551 亀(かめ・井上いのうえ、号;露秋) 1786-187489 江後期;歌人、長門萩藩士井上盛澄の妻

亀(かめ・久保/伊藤) → 妙春(みょうしゅん;号・伊藤/久保、文筆家) G 4 1 4 2

U1566 亀文(かめあや・香西こうさい、通称;鉄蔵/藤右衛門)?-?明治中期没 出雲松江藩士;安来茶屋番、  
国学・歌;中村守臣(1779-1854)・中村守手(1820-82)・森為泰ためひろ(1811-75)門、

のち皇學館教授、歌；村上忠順編[類題和歌玉藻集]入

- P1545 **蛸名**(かめい) ? - ? 江戸座宗匠；1745湖十「江戸廿歌仙」独吟歌仙入  
 下明(かめい・日下) → 雪中(せつちゅう・日下くさか、商家/俳人) E 2 4 5 5  
 家明(かめい・藤、) → 家明(いえあき・藤ふじ、神職/国学) K 1 1 6 2  
 嘉明(かめい・田原) → 嘉明(よしあき・田原たわら/坂、和算家/歌) B 4 7 8 7  
 嘉名(かめい・岩井) → 嘉名(よしな・岩井いわい、国学者) K 4 7 4 9  
 華明(花明かめい・為田) → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3  
 雅明(かめい・藤原) → 雅明(まさあき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 4 0 9 0  
 雅明(かめい・後藤/上田) → 古梅堂(こばいどう・上田/後藤、医者/詩) N 1 9 4 0  
 雅明(かめい・野崎) → 雅明(まさあき・野崎、藩士/儒者/地誌) B 4 0 0 0  
 荷銘庵(かめいあん) → 釣壺(ちようこ・吉弘、医者/俳人) I 2 8 1 6  
 亀井庵(かめいあん) → 基庸(もとつね・山本やまと、藩士/書家) D 4 4 1 7  
 亀井庵英夫(かめいあんえいふ) → 銀馬(ぎんば・立川たてかわ、嘶家/戯作者) I 1 6 2 1  
 亀石(かめいし・角院) → 角院亀石(かくいんのかめいし、童/歌人) W 1 5 4 6  
 花明園(かめいえん) → 菟庵(みやくあん・西村、名主/俳人/書) F 4 1 9 0  
 可名生(かめいせい・町野) → 可名生(かなお・町野、藩士/国益思想) O 1 5 2 8  
 雅明叟(かめいそう) → 三休子(さんきゅうし・梅花軒、上坂/中沢、藩士/隨筆) M 2 0 0 2  
 臥明楼(かめいろう) → 弘竜(こうりゅう、俳人/芭蕉句碑建立) L 1 9 5 8  
 亀右衛門(かめえもん・岡田) → 長十郎(4世ちようじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) I 2 8 7 8  
 亀右衛門(かめえもん・宮崎) → 言周(ことぶ・宮崎みやざき/加集かじお、藩士/郷土史家) N 1 9 3 2
- T1584 **亀雄**(かめお・小川おがわ、) ? - ? 江後期出羽久保田藩士/国学；平田鉄胤門、  
 勤王派；1864(元治元)藩主佐竹義堯の京都警衛の上洛を同志と建白、  
 藩主は幕府の威を恐れ尊王派を弾圧；勤王派の中心の平田延胤らと共に役職罷免
- P1546 **亀王**(かめおう) ? - ? 遊女、連歌；菟玖波1句入、  
 [我ははや奈良の都をすみすてゝ](菟；1427/前句；よそにのみきく大和言の葉、  
 前句の和歌の道に疎い意を大和方言に取りなす)  
 亀王(かめおう・聖教院) → 聖教院亀王(しょうきょういんのかめおう、童/歌) W 2 2 1 5  
 亀翁(かめおう) → 亀翁(きおう、俳人) F 1 6 0 4  
 亀岡(かめおか・中村) → 守臣(もりおみ・中村、国学者/歌) F 4 4 2 3  
 甲文丘(かめおか・中村) → 守手(もりて・中村/永井、守臣の養子/神職/国学/歌) F 4 4 8 7
- W1558 **亀菊**(かめぎく、) ? - ? 鎌倉期；舞妓(白拍子)/後鳥羽院側近の女房、  
 後鳥羽院の寵愛により摂津長江庄三百余町を拝領・父が刑部丞に(吾妻鏡・承久記)、  
 後鳥羽院隠岐配流の際に随従；播磨明石の浦で詠歌；  
 [月影はさこそ明石の浦なれど雲居の秋ぞなほもこひしき](承久記；下)  
 亀吉(かめきち・幸田) → 光隆(みつたか・幸田こうだ/度会、神職) D 4 1 7 4  
 亀吉(かめきち・中川) → 了清(りょうせい；法諱・中川、真言僧/歌) M 4 9 4 1  
 亀吉(かめきち・河合) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0  
 亀吉(かめきち・大館) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0  
 亀吉(かめきち・岡本) → 継業(つぐなり・岡本おかもと、藩士/歌人) F 2 9 4 7  
 亀吉(かめきち・若林) → 靖亭(せいいてい・若林友輔、藩士/詩人) J 2 4 2 6  
 亀吉(かめきち・神谷) → 元邦(もとくに・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 1  
 亀吉(かめきち・河路) → 光福(みつとみ・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 3  
 亀吉(かめきち・菊田) → 和平(かずひら・菊田きくた/小笠原、農家/国学/神職) U 1 5 4 8  
 亀吉(かめきち・佐野) → 友行(ともゆき・佐野さの、藩士/歌人) V 3 1 3 1  
 亀吉(かめきち・友安) → 盛敏(もりとし・友安ともやす、藩士/国学者) K 4 4 7 4  
 歌女吉(かめきち) → 女雷(めらい、2世都々一坊、落語家) 4 3 0 3  
 亀吉磨(かめきちまる・前田) → 葉庵(ようあん・前田/玉野、藩儒/医者) 4 7 5 5
- D1527 **亀子**(かめこ・安藤あんど、通称；今式部/阿元、山田道夢女) 1630-68<sup>39</sup> 丹波桑田郡中村歌人；父門、  
 1649安藤定為さだため[朴翁]の妻、為実ためざね/為章ためあきの母、後水尾院出仕、  
 「明王院等御所歌」著、「今式部家集」(没後1675息定実編纂)

- 夫;定為 → 定為(さだため・安藤あんど、歌人) I 2 0 4 9  
息;為実 → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6  
息;為章 → 為章(ためあき・安藤、国学/歌人) 2 6 5 4  
亀五郎(かめごろう・南部) → 利雄(としかつ・南部なんぶ、藩主/風流人) M 3 1 2 6  
亀五郎(かめごろう・清水) → 天地玄黄(てんちげんこう、狂歌作者) E 3 0 0 4  
亀五郎(かめごろう・佐野) → 義行(のりゆき・佐野さの、幕臣/文芸) G 3 5 1 3  
亀五郎(かめごろう・松平) → 貴強(たかます・松平まつだいら、幕臣/紀行) N 2 6 2 4  
亀五郎(かめごろう・武田) → 熟軒(じゅくけん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7  
亀五郎(かめごろう・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけたに、藩士/歌) L 3 7 5 2  
亀作(かめさく・工藤) → 直敏(なおとし・工藤どう、国学/神職) L 3 2 9 1  
亀三郎(かめさぶろう・松本) → 勝雄(かつお・古瀬ふるせの、幕臣/狂歌) C 1 5 4 1  
亀三郎(かめさぶろう・藤間) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5  
亀七(かめしち・広川) → 晴軒(せいけん・広川ひろかわ、商家/洋学者) I 2 4 0 1  
D1528 亀島檢校(かめしまけんぎょう) 1711-1793 83 野川流三絃、八橋流箏曲、-77「琴曲證歌集」著  
亀四郎(かめじろう・白禱山) → 春利(はるとし・白禱山かしやま、国学者) G 3 6 5 9  
亀次郎(かめじろう・福井) → 末美(すえよし・福井/度会/檜垣/久志本、神職) F 2 3 7 6  
亀次郎(かめじろう・岡田) → 長十郎(4世ちやうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) I 2 8 7 8  
亀次郎(かめじろう・川上) → 不白(ふはく・川上かわかみ、茶人/俳人) D 3 8 6 3  
亀次郎(かめじろう・菅沼) → 吉次(よしつぐ・菅沼すがぬま、藩士/歌人) N 4 7 4 5  
亀次郎(かめじろう・鳥居) → 清満(初世きよみつ・鳥居、絵師) D 1 6 6 5  
亀次郎(かめじろう・鳥居) → 清満(2世きよみつ・鳥居、初世の孫/絵師) D 1 6 6 6  
亀次郎(かめじろう・津田) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2  
亀次郎(かめじろう・今村) → 歌麿(うたまる・今村いまむら、歌人) E 1 2 5 3  
亀次郎(かめじろう・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2  
亀二郎(かめじろう・大黒屋) → 梅陰(ばいいん・大黒だいく、商人/儒者) 3 6 5 6  
亀二郎(かめじろう・吉川) → 経永(つねなが・吉川きつかわ、領主/国学) F 2 9 6 2  
P1547 亀助(かめすけ) 1679?- ? 俳人;1689「あら野」入(11歳で入集)、  
[立白たてりすに若草見たる明屋あきや哉](あら野;二/11歳)  
1541 亀輔(初世かめすけ・奈河ながわ) ?- ?寛政頃没 奈良商人/放蕩/1770-89頃上方歌伎作者/  
1771作者;正三門/73立作者;奈河系狂言作者の祖、時代物の確立;中古歌舞伎作者の祖、  
1775「競はなくらべ伊勢物語」76「伊賀越乗掛合羽」77「伽羅めいぼく先代萩」81「昔語二世佛」外著多、  
[亀輔の別号] 亀助/亀祐かめすけ、永長亭/遊泥居  
1542 亀祐(かめすけ・欽古堂きんこどう;号・土岐とき/中村) 1765-1837 73 伏見陶工、始め家業の人形作り、  
陶芸;奥田穎川門、丹波篠山藩御用陶工;王地山焼/代表作品「三彩牡丹文獅子耳香炉」、  
1830「陶器指南」著  
[欽古堂亀祐(号)の通称] 丹波屋/亀屋/丹亀、法号;陶鑑亀祐禅定門  
亀輔(2世かめすけ・奈河) → 篤助(とくすけ・初世・奈河、歌伎作者) 3 1 4 0  
亀助(かめすけ・春川) → 英笑(えいしょう・春川はるか、絵師) C 1 3 0 2  
亀助(かめすけ・青木) → 蓬洲(ほうしゅう・神屋かみや、戯作者/絵師) B 3 9 4 8  
亀蔵(かめぞう・大蔵) → 虎清(とらきよ・大蔵おおくら、狂言方宗家) R 3 1 7 3  
亀蔵(かめぞう・明石) → 景文(かげふみ・明石、儒者/歌人) B 1 5 9 4  
亀蔵(かめぞう・初世市村、「布袋」の所作事) → 羽左衛門(9世うたえもん) B 1 2 8 9  
亀蔵(かめぞう・二世市村) → 羽左衛門(10世うたえもん) B 1 2 9 0  
亀蔵(かめぞう・富本) → 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌) Y 2 6 4 3  
亀蔵(かめぞう・満田) → 懶斎(らんさい・満田みつだ、藩士/儒者) F 1 9 8 6  
亀太(かめた・桜井) → 直成(なおなり・桜井さくらい、国学/歌) N 3 2 2 5  
亀太郎(かめたろう・檜垣) → 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 7 6  
亀太郎(かめたろう・大蔵) → 永常(ながつね・大蔵おおくら、農政家) E 3 2 5 4  
亀太郎(かめたろう・城) → 武貞(たけさだ・城じょう、藩士/国学者) X 2 6 5 8  
亀太郎(かめたろう・加部) → 誠斎(せいさい・加部かべ、医者/儒者) I 2 4 2 5

- 亀太郎(かめたろう・尼子) → 久恒(ひさつね・尼子、藩士/国事奔走) B 3 7 4 1  
 亀太郎(かめたろう・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4  
 亀太郎(かめたろう・酒井) → 徳隣(のりちか・酒井さかい、幕臣/歌人) I 3 5 6 3  
 亀太郎(かめたろう・新井) → 道雄(みちお・新井あらい、国学/歌) L 4 1 0 9  
 亀太郎(かめたろう・岡) → 敬名(たかな・岡おか、藩士/歌人) W 2 6 2 4  
 亀太郎(かめたろう・中城) → 直楯(なおたて・中城なかじょう、水主/歌人) O 3 2 0 6  
 亀太郎(かめたろう・森下) → 景端(かげまさ・森下もりした/紀、藩士/宗教活動) V 1 5 9 8  
 加免太郎(かめたろう・真下/原) → 左右助(そうすけ・原/真下/松本、和算家) I 2 5 1 4  
 亀千代(かめちよ・松平) → 信祝(のぶとき・松平まつだいら、藩主/歌人) K 3 5 0 3  
 亀千代(かめちよ・宇野) → 士朗(しろう・宇野うの/宇、儒者) D 2 2 2 8  
 U1584 亀鶴(かめつる・仙田せんだ、通称;お亀)?-? 佐渡相川の地役人の娘、寛文1661-73頃の歌人、  
 幼少より古今集の歌を暗記/1665(寛文5)京から来た歌学者に源氏物語の講義を受ける、  
 のち江戸幕府大奥に出仕;早世  
 亀富(かめとみ・太田) → 之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人) G 4 6 6 9  
 亀友(かめとも・永井堂) → 亀友(きゆう・永井堂ながいどう、浮世草子作者) M 1 6 1 5  
 V1504 亀野(かめの・谷たに、別名;加禰/歌野、旧姓;岩田) 1729-1813<sup>85</sup> 土佐高知藩奥勤/歌人、  
 谷真潮の妹  
 亀之(かめの) → 亀之(きし、女流俳人) S 1 6 7 6  
 亀之丞(かめのじょう・飯室) → 昌符(まさあき・飯室いむろ、幕臣/儒者) 4 0 9 9  
 亀之進(かめのしん・吉川) → 経幹(つねまさ・吉川きかわ、領主/日記) D 2 9 7 8  
 亀之助(かめのすけ・倉田) → 績(いさお・倉田、儒者) F 1 1 4 7  
 亀之助(かめのすけ・北条) → 氏朝(うじとも・北条、藩主/歌人) 1 2 4 2  
 亀之助(かめのすけ・北条) → 氏貞(うじさだ・北条、氏朝男/藩主) C 1 2 6 9  
 亀之助(かめのすけ・加藤) → 泰衡(やすみち・加藤かとう、藩主) D 4 5 0 6  
 亀之助(かめのすけ・加藤) → 泰義(やすよし・加藤かとう、神道/藩主嫡子) F 4 5 8 2  
 亀之助(かめのすけ・井田) → 敬之(たかゆき・井田いだ、書家/篆刻) E 2 6 6 8  
 亀之助(かめのすけ・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
 亀之助(かめのすけ・西田) → 直養(なおかい・西田にしだ、国学/歌人) 3 2 8 1  
 亀之助(かめのすけ・間) → 直光(なおみつ・間はざま、藩士/和学) O 3 2 3 3  
 亀之助(かめのすけ・三井) → 高蔭(たかかげ・三井みつゐ、商家/国学) C 2 6 5 9  
 亀之助(かめのすけ・荒川) → 重行(しげゆき・荒川あらかわ、幕臣/国学) N 2 1 2 2  
 亀之助(かめのすけ・田中) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9  
 亀之助(かめのすけ・大藪) → 信親(のぶちか・大藪おおやぶ、藤原、神職/国学) H 3 5 7 6  
 亀之助(かめのすけ・伊藤) → 蘭溪(らんけい・伊藤いとう、儒者) B 4 8 9 0  
 亀之助(かめのすけ・尾見) → 緑塙(りよくお・尾見おみ、飯原、儒者/詩) J 4 9 7 4  
 亀之助(かめのすけ・酒井) → 忠興(ただおき・酒井さかい/戸田、幕臣/国学) X 2 6 3 4  
 亀之助(かめのすけ・熊谷) → 令徳(よしのり・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌) M 4 7 5 9  
 亀之助(かめのすけ・新井) → 道英(みちひで・新井あらい、国学/歌人) L 4 1 1 1  
 亀之助(かめのすけ・興石) → 守郷(もりさと・興石こしい/山本、神職/歌人) K 4 4 0 0  
 亀之輔(かめのすけ・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1  
 亀之介(かめのすけ・井伊) → 直澄(なおずみ・井伊い、藩主/歌人) K 3 2 9 6  
 亀之介(かめのすけ・畠山/新納) → 久仰(ひさのり・新納にいろ、藩家老) B 3 7 7 7  
 亀舎(かめのや・野津) → 基明(もとあき・野津のづ、藩士/軍学) B 4 4 9 9  
 亀ノ舎(かめのや・千家) → 之正(ゆきまさ・千家せんげ、神職/茶・歌人) G 4 6 9 5  
 亀治(かめはる・介川) → 通景(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文) B 4 1 3 1  
 亀治(かめはる・山口) → 襲明(よりあき・山口権三郎、国学/経済人) P 4 7 8 3  
 亀治(かめはる・吉松) → 萬齡(かずなが・吉松よしまつ、藩士/国学) W 1 5 1 6  
 亀彦(かめひこ・岩沢) → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8  
 亀文(かめふみ・大河原) → 亀文(きぶん・大河原おおがわら、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1  
 亀松(かめまつ・引頭いんとう/滝) → 鶴台(かくだい・滝たき、藩士/儒/国史) B 1 5 6 7

- 亀松 (かめまつ・島屋/橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7  
 亀松 (かめまつ・勝) → 夢酔(むすい・勝かつ/男谷、幕臣) 4 2 7 7  
 亀松 (かめまつ・長沢) → 正緒(まさお・長沢ながさわ、名主/歌人) R 4 0 2 7  
 亀丸 (かめまる・中山) → 俊彦(としひこ・中山なかやま、神職/国学) V 3 1 9 4  
 亀丸女 (かめまるじよ) → 禾月尼(かげつに・横田、俳人) L 1 5 0 3  
 甕麿 (瓶麿/甕万呂かめまる・夏目) → 甕麿(みかまる・夏目、国学/歌) 4 1 6 1  
 亀丸 (亀麻呂かめまる・大鳥居) → 信貫(しんかん・大鳥居/菅原、社僧/連歌) N 2 2 7 4  
 亀麿 (かめまる・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5  
 亀麿 (かめまる・万年舎) → 周蔵(しゅうぞう・亀屋かめや、本草家) X 2 1 8 7  
 亀麿 (かめまる・石山) → 基正(もとなお・石山いしやま、廷臣) J 4 4 2 6  
 亀麿 (かめまる・水間) → 大洲(おおくに・水間みずま、国学/歌) E 1 4 1 6  
 T1593 **亀基** (かめもと・大塚おおつか、旧姓;眞坂) 1678-1740<sup>63</sup> 近江彦根藩士、のち大坂住、  
 歌人;嵐正流門;彦根歌人伝・寿入、画;土佐光厚門、  
 [亀基(;名)の通称/号]通称;且右衛門、号;文章  
 亀弥 (かめや・座光寺) → 為明(ためあき・座光寺ざこうじ、旗本/歌人) X 2 6 3 0  
 亀屋 (かめや) → 亀丈(きじょう、俳人) K 1 6 9 2  
 亀屋周蔵 (かめやしゅうぞう) → 周蔵(しゅうぞう・亀屋かめや、本草家) X 2 1 8 7  
 亀山山人 (かめやまさんじん) → 養存(ようそん;法諱・徳巖;道号、曹洞僧) B 4 7 4 3  
 1578 **亀山天皇** (かめやまてんのう、名;恒仁、後嵯峨天皇皇子) 1249-1305<sup>57</sup> 大覚寺統祖、1258立太子、  
 1259(正元元)即位、母;西園寺実氏女桔子(かきこきつ)、兄;後深草院(持明院統)、  
 1274(文永11)讓位後天皇親政;兄と対立、大覚寺・持明院兩統対立に発展、  
 1279為氏に統拾遺集撰進宣下、1289出家/南禅寺創建、  
 歌/詩/管絃、1263弘長三年二月亀山殿御会(後嵯峨院仙洞御所亀山殿に亀山天皇行幸)、  
 1278「亀山院御集」1303「嘉元仙洞御百首」催、「亀山天皇宸翰和歌」「極楽直道抄」著、  
 勅撰106首;続古(11首29/57/297-)続拾(20首10/16-)新後撰(25首30/46-)以下、藤葉3首入、  
 [ももちどり今朝こそ来き鳴けささたけの大宮人に初音待たれて](続古;春29)、  
 [かくしつづ身はふりまさる宿にさへ年あたらしく春ぞ立ちける](嘉元百首;冒頭歌)、  
 [亀山天皇の法号/号]法号;金剛眼/金剛源/金剛覚、号;禅林寺殿  
 U1532 **亀代** (かめよ・金川かねがわ、波多野春樹(1768-1826)4女/楠田) ?-? 筑前鞍手郡の歌人/国学、  
 春郷はるさとの姉妹、  
 亀六郎 (かめろくろう・小林) → 勝清(かつきよ・小林こばやし、大庄屋/歌) U 1 5 6 2  
 F1587 **亀若丸** (かめわかまる) ? - ? 1418物語評論「源氏あらそひ」奥書  
 河面厚輔 (かめんのおつすけ) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
 加茂 (かも・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、国学/歌人) B 1 5 9 6  
 鹿毛 (かもう) → 其程(きてい・壺天楼別、俳人) L 1 6 5 5  
 臥孟 (がもう・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
 J3285 **何毛呉館内** (かもうごとうない、なにもくれとうない?;変名) ?-? 江後期;評判記者、  
 1844-48頃「当世奇談」著(;馬琴・守部・東条琴台らを批判)  
 鷺毛亭万年 (がもうていまんねん) → 巴扇堂(2世はせんどう、筆常持、狂歌師) E 3 6 7 5  
 1579 **蒲生娘子** (がもうのおとめ) ? - ? 万葉四期歌人、越中の遊行女婦あそびめ、  
 751年越中介内蔵忌寸縄麻呂の館の宴に参加:4232、4236-7(伝誦)、  
 [雪の山齋しま巖に植ゑたるなでしこは千代に咲かぬか君がかざしに]  
 (万葉;4232/内蔵縄麻呂が雪に重巖を彫って草花の作り物を挿すのを見て詠む)  
 加茂空観 (かまくらくわん) → 如実(にょじつ;法諱・空観、真言僧) F 3 3 9 3  
 加茂川十丈 (かまじゅうじょう) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6  
 賀茂女 (かまじよ) → 保憲女(やすのりのむすめ・賀茂かも、歌人) 4 5 2 4  
 賀茂上人 (かもしょうにん) → 源智(げんち;法諱、浄土僧) E 1 8 3 8  
 P1548 **鴨助** (かものすけ・鳥島とりしま) 1767-? 陸奥八戸の船頭/1787鳥島に漂着/脱出、  
 「漂流並無人島帰着之次第」著  
 1580 **賀茂女王** (かものおおきみ、長屋王の女) ?-? 母;安倍朝臣/万葉三期歌人、大伴三依と交渉、

万葉3首;556・565・1613

[筑紫船いまだも来こねばあらかじめ荒ぶる君を見るが悲しさ](万葉;556/

筑紫にいる三依よりへの贈歌/帰京前からつれなくされる恨み)

賀茂季鷹(かものすえたか、狂歌後万載入)→ 季鷹(すえたか、歌人) 2 3 0 6

加茂之助(かものすけ・蜂須賀)→ 吉武(よしたけ・蜂須賀はちすか/源、歌人) E 4 7 1 6

賀茂大納言(かものだいなごん)→ 実守(さねもり・洞院/藤原、南朝内大臣) L 2 0 4 3

賀茂女(かものむすめ、かもじよ)→ 保憲女(やすのりのむすめ、歌人) 4 5 2 4

T1538 掃部(かもん・浅原あさはら、)?-?

慶長1596-1615頃;越後直江津の神職、

直江津府中八幡宮の祠官/国学・地理・武道に長ず、

1598(慶長3)上杉景勝が会津転封後;門弟数名と越後国内の古書記録を蒐集;

「越後記録」編纂し新領主堀秀治に献上

掃部(嘉門かもん・小笠原)→ 信嶺(のぶみね・小笠原、武将/連歌) D 3 5 5 0

掃部(かもん・村上) → 武慶(武吉たけよし・村上、水軍武将) O 2 6 8 8

掃部(かもん・吉益) → 半笑斎(はんしょうさい・吉益よします/畠山、医者) I 3 6 0 1

掃部(かもん・谷村) → 光義(みつよし・谷村たにむら、神職/故実家) F 4 1 1 9

掃部(かもん・村瀬) → 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、儒者) 1 9 1 5

掃部(かもん・成瀬) → 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) H 4 0 9 5

掃部(かもん・江幡) → 通貞(みちさだ・江幡えばた、詩歌人) I 4 1 2 1

掃部(かもん・今井) → 成忠(しげただ・今井いまい、代官/国学者) N 2 1 4 3

掃部(かもん・横山) → 裕房(ひろふさ・横山よこやま、神職/歌人) L 3 7 8 7

掃部(かもん・上島) → 雅政(まさただ・上島うえじま、詩人) N 4 0 9 1

掃部(かもん・児玉) → 当行(まさゆき・児玉こだま、神職/国学) P 4 0 6 7

掃部(かもん・左八) → 定長(さだなが・左八さばち/藤波、神職/国学) O 2 0 5 3

掃部(かもん・柴田) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2

掃部(かもん・広田) → 正方(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学) S 4 0 1 9

掃部(かもん・並河) → 饒石(にぎし・並河なみかわ/高島、国学/歌) H 3 3 1 4

掃部(かもん・島田) → 久遠(ひさみち・島田しまだ、国学/歌人) J 3 7 8 0

掃部(加門/嘉門かもん・榎本) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4

夏門(かもん・赤井) → 水雄(みずお・赤井あかい、神職/国学者) 4 1 9 2

嘉門(かもん・能勢) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9

嘉門(かもん・古屋) → 眞章(さねあき・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8

嘉門(かもん・稲田) → 並雄(なみお・稲田いなだ、医者/国学/歌) K 3 2 2 0

加門(かもん・牛尾) → 旗峰(きほう・牛尾うしお、儒者) L 1 6 9 3

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直澄(なおすみ・井伊い、藩主/歌人) K 3 2 9 6

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直該(なおもり・井伊い直興/藩主/大老/歌) L 3 2 0 1

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直惟(なおぶ・井伊い/藤原、歌人) K 3 2 9 8

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直幸(直英なおひで・井伊い、藩主/大老) K 3 2 9 3

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直弼(なおすけ・井伊い、藩主/大老) B 3 2 3 9

掃部頭(かもんのかみ・井伊) → 直憲(なおり・井伊い、藩主/歌人) K 3 2 9 9

掃部頭(かもんのかみ・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1

掃部助(かもんのかみ・友田) → 興藤(おきふじ・友田、武将/連歌) C 1 4 9 8

掃部助(かもんのかみ・吉野) → 末益(すえます・吉野よしの、神職) F 2 3 6 4

掃部之助(かもんのかみ・菊池) → 正重(まさしげ・菊池さくち/藤原、神職/国学) P 4 0 2 2

夏野(かや・清原) → 夏野(なつ・清原真人、廷臣/律令/詩) G 3 2 7 0

可也(かや・羽倉) → 簡堂(かんどう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3

可也庵(かやあん) → 朝喬(ともたか・津軽、藩奉行/雑俳) P 3 1 6 4

榎園(かやぞの) → 武香(たけか・根岸ねざし、国学者) O 2 6 3 0

嘉弥太(かやた・飯盛) → 嘉満(よしみつ・飯盛いもり、藩陪臣/教育) L 4 7 4 9

P1549 萱根(かやね・時雨庵、本名;中里なかざと東吾)?-? 宇都宮の狂歌:飯盛門、1812「若緑岩代松」編

- 賀陽院(かやのいん) → 定(さだむ・源、嵯峨天皇皇子) F 2 0 5 5  
 高陽院(かやのいん、鳥羽皇后) → 泰子(やすこ、藤原忠実女、歌人) B 4 5 3 6  
 高陽院木綿四手(かやのいんのゆうして) → 木綿四手(ゆうして、女房・歌) C 4 6 2 2  
 草嬢(かやのおとめ) → 草嬢(くさのいらつめ、万葉歌人) 1 7 4 6  
 萱齋院(かやのさいいん) → 式子内親王(しきしないんのう、歌人) 2 1 0 7  
 萱舎(かやのや) → 東江(とうこう・沢田、儒者/書家) 3 1 1 0  
 萱舎(かやのや) → 養生(よしなり・山口、国学者) P 4 7 8 2  
 茅舎(かやのや/ぼうしゃ) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5  
 茅舎千寛(かやのやちひろ) → 千寛(ちひろ・茅舎かや、権田万次郎、藩士/狂歌) F 2 8 2 5  
 賀山山人(かやまさんじん) → 滄浪(そうろう・向井、藩士/儒/詩人) J 2 5 2 2  
 P1550 茅麿(かやまる・椎名いな) ? - ? 江戸後期1804-18頃上州大原本町俳人、  
 「つるひさ集」編  
 D1530 加友(かゆう・荒木あらき、別号;泰庵)?-1673 江戸両替町の医者、俳人・貞門、江戸五俳哲の1、  
 1660「絵空言えそらごと」編  
 D1529 加友(かゆう・春陽軒、般舟庵)?- ? 伊勢松坂の樹敬寺法樹院の住職、  
 俳人;杉本望一/貞徳門、1667「伊勢踊」編、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [風の音や年も半なかばになるひさご](手鑑)  
 P1551 加友(かゆう・駒井こまい) ? - ? 江戸の俳人;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 1691北枝「卯辰集」入;  
 [渦のまく花とめぐるうぐい哉](卯辰集)  
 S1539 霞融(かゆう) ? - ? 安藝の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入  
 S1512 霞友(かゆう) ? - ? 備後三原の俳人;野坡門、  
 1735師が霞友邸を訪問(野坡吟草入)、  
 [月に花に忘れぬ声やかた時雨](1752野坡追善「十三題」)  
 H1509 可由(かゆう) ? - ? 江中期俳人、  
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、  
 [兄御なり拝す翁にありき酒](しぐれの碑/兄油縁斎貞柳と弟貞峨に手向ける)  
 S1514 可友(かゆう) ? - ? 安藝小方の俳人;1782三叩「雪の臺」入、  
 1786關更「花供養」/89蝶夢「芭蕉門故人眞蹟」/95其両追善「さゝ栗の露」、蒼虬「花供養」入、  
 1799紫暁「常盤の香」/1803升六「癸亥発句集」入、  
 [合歡も又一風情なり月今宵](「常盤の香」)  
 P1552 佳雄(かゆう) ? - ? 江戸後期三河の俳人、「田舎双紙」編、  
 1807「此君集」「はつそら」編  
 F1588 華雄(かゆう、清賞堂) ? - ? 絵師;1850康工「俳諧百一集」再版画  
 可右(かゆう・松井) → 隆暢(たかのぶ・松井まつい、里正) Z 2 6 5 3  
 可祐(かゆう・俳名) → 南北(なんぼく・五世鶴屋、歌舞伎役作者) 3 2 3 5  
 可遊(かゆう・堀) → 麦水(ばくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9  
 可有(かゆう;初号・中島) → 兆如(ちやうじよ・中島、庄屋/俳人) I 2 8 8 9  
 可有(かゆう・呉陵軒) → 可有(あるべし・呉陵軒、川柳作者) 1 0 3 6  
 可有(かゆう・渡辺) → 為良(ためよし・渡辺わたなべ、商家/歌/俳) 2 7 4 4  
 何有(かゆう・宮原) → 直仰(なおゆき・宮原、藩士/医者) C 3 2 8 7  
 河雄(かゆう・岡田/鶉飼) → 貞義(さだよし・鶉飼/岡田/石部、神職) K 2 0 2 9  
 歌友(かゆう・五十嵐) → 武雄(たけお・五十嵐いがらし、藩士/歌) V 2 6 3 4  
 佳友(かゆう・椎名) → 秋村(あきむら・秋村しゅうそん・椎名、里正/詩人) X 2 1 9 7  
 佳友(かゆう・渡辺) → 盧舟(ろしゅう・渡辺わたなべ、地役人/俳人) B 5 2 7 0  
 佳雄(かゆう/よしお・土屋) → 牧亭駒人(ぼくていこまんど、狂歌/歌人) D 3 9 7 4  
 嘉雄(かゆう・宮内) → 嘉雄(よしお・宮内みやうち/吉川、和漢学/詩) P 4 7 3 6  
 嘉融(かゆう・伊藤) → 嘉融(よしゆき/よしなが・伊藤いとう/藤原、尊攘) B 4 7 7 3  
 嘉猷(かゆう・山田) → 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7  
 嘉猷(かゆう→よしのり・西門) → 蘭溪(らんけい・西門にしかど、医者/歌人) B 4 8 8 8

- 家熊(かゆう・林/梶原) → 舎熊(家熊いにくま・梶原、神職) 1 1 3 4
- S1518 臥熊(がゆう・隅屋すみや、名;正任) 1742-? 安藝加計の製鉄業/俳人、俳人杉葉の弟
- P1553 臥遊(がゆう・清水しみず、名;信) ?- ? 江後期1789-1801頃備前和気郡清水村の大庄屋、  
儒者;湯浅常山門/蕃山を崇拜、1811「熊沢先生事跡考」、「備前国執政大夫熊沢先生伝」著
- 雅雄(がゆう・内池) → 永年(ながとし・内池うちいけ、商業/国学) E 3 2 8 5
- 雅雄(がゆう・柿沼) → 雅雄(まさお・柿沼かきぬま/河内/源、神職) O 4 0 7 8
- 雅有(がゆう・飛鳥井) → 雅有(まさあり・飛鳥井/二条/藤原、廷臣/歌/蹴鞠) 4 0 0 5
- 臥遊(がゆう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
- 臥遊(がゆう・原) → 在中(ざいちゆう・原/平、絵師;原派祖) 2 0 9 5
- 何憂園(かゆうえん) → 竹軒(ちくけん・酒泉さかいづみ、儒/国史編纂) C 2 8 9 3
- 臥游軒(がゆうけん) → 錢塘(せんとう・萱野かやの、藩士/儒者/詩) M 2 4 9 9
- 臥遊斎(がゆうさい) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
- 何有仙史(かゆうせんし) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
- 河邑先生(かゆうせんせい) → 玄祐(げんゆう・河、漢学者/狂文) D 1 8 1 8
- 臥遊楼(がゆうろう) → 天山(てんざん・坂本/阪本、砲術家/詩) D 3 0 5 7
- 粥腹得心(かゆばらのとくしん・東都貧士) → 東作(とうさく・平秩へつ、狂歌/戯作) 3 1 1 3
- P1554 かよ(かよ女じよ・三浦みづら、樗良[1729-80]の妻) ?-? 俳人;1776樗良「月の夜」入、  
[萩が上月にこぼるゝ露白し](誹諧月の夜;26)
- S1588 かよ(かよ女じよ・鈴木すずき) 1737-1820 84歳 陸奥登米郡出身/伊達宗村女沛姫しげひめの侍女、  
国学/歌;畑中荷澤かたく(盛雄)門
- V1507 嘉代(かよ・千野ちの、高島藩家老の千野貞亮さだすけの長女) 1765?-1834 70? 信濃諏訪郡の歌人;  
桃沢夢宅門/のち香川景樹門、千野貞慎さだちかの姉
- T1508 かよ(かよ女じよ・阪さか) ?- ? 江後期歌人、幕府連歌師阪昌成の妻?、  
昌功利貞の母?、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;息子貞利と入集)、  
[手ならせばわが方にのみおとづる扇の風やねやのつまなる](大江戸倭歌;夏627)、  
かよ(・大武/井伊おかよ) → 量寿院(りやうじゆいん、井伊直中の母/歌) L 4 9 9 9
- 佳与(かよ・岡田) → 華陽(かよう・岡田おかだ、医者/詩) P 1 5 6 0
- 嘉代(かよ・嘉代姫・酒井) → 訓子(のりこ・酒井さかい、藩主妻/歌人) G 3 5 7 5
- 通小紋息人(かよいこものいきんど、狂名) → 雷蔵(3せらいぞう・市川、歌舞伎役者) D 4 8 3 2
- 河誉一道(かよいちどう;法名) → 靈順(れいじゆん;法諱、浄土僧) 5 1 3 8
- P1523 花葉(かよう) ?- ? 江前期俳人;1691「二葉之松」入  
[空下戸そらげに拍子の抜けて強ひぬ酒](二葉之松;425/下戸のふりした酒豪に形勢逆転)
- P1555 華陽(かよう・合田あいだ、名;恵とく/字;伯求、別号;泰溪) ?-? 江戸中期播州漢学者、  
1748「東方頌言」「韓槎埧篋集」著
- H1553 華陽(かよう・高橋たかはし/修姓高、名;閔慎びんしん/敏慎) 1752-1822 71 八丈島儒者:沢田東江門、江戸住、  
「本邦風雅集」「孝経証」、1805「論語人物証」06「論語証」12「中庸証」16「文辞考」外著多数、  
[華陽(;号)の名/字/通称/別号]名;閔慎びんしん/敏慎、字;昌卿、通称;八丈屋与市、  
別号;女護島
- P1557 禾葉(かよう・双雀庵そうじやくあん[初世]) ?-? 江後期江戸俳人、氷壺(2世双雀庵)の師、  
1839「禾葉七部集」編(:大梅だいまい跋)
- H1552 華陽(かよう・川村かわむら、名;栄寿/字;万年、安信男) 1736-84 49 江戸詩人:安達清河・井上金峨門、  
「華陽聞見志」「松風館集」「青梧園夜話」「青梧園詩稿」「青梧園漫筆」「遊日光山紀行」著、  
[華陽の通称/別号]通称;孫八、別号;松風館/青梧園/華陽居
- P1558 華陽(かよう・八田はった、名;繇よう、字;靖民) 1746 or 62?-1817 72/56 三河額田郡法性寺村儒者;  
井上金峨門、江戸浅草寺住:教授、1800「詩経古義解」14「大学説」、「華陽文章」「華陽雑誌」著、  
「童の道しるべ」「学庸説統」「論孟説統」「周易説統」「書経説統」著、  
[華陽の通称]通称;大二郎/太二郎/大次郎/泰次郎、法号;華陽道玄居士
- P1559 華陽(かよう・白井しらい、名;広/景広/実、字;士潤/伯華/白華) ?-1836 新潟儒者・亀田鵬斎門、  
絵師:岸駒門、1831「画乗要略」画、師岸駒の旧号華陽を授与された、  
[華陽の通称/別号] 通称;貞介、別号;華亭/梅泉

- P1560 **華陽**(かよう・岡田おかだ、名; 静黙/字; 子成、) 1770-1848 79 武州蕨医者・詩、医学書/農家心得を著作、  
「傷寒論」「傷寒論発明録」「傷寒論韻語図解」「素靈韻語図解」「金匱要略韻語図解」、  
「農家至宝記」「松響園方成」「松響園経験記」「松響園詩稿」外著多数、  
[華陽の通称/別号]通称; 静安/佳与、別号; 松響園/慮得斎/養生堂
- P1561 **可葉**(かよう・風姿園、浅井ゆき、政辰まさとき妻、中川善庸女) ?-? 江後期俳人、夫も俳人(福井藩士)
- |               |                           |           |
|---------------|---------------------------|-----------|
| 夫             | → 政辰(まさとき・浅井あさい、藩士/俳人)    | E 4 0 3 7 |
| 河陽(かよう・宇野)    | → 公幹(きみもと・宇野うの、藩士、国学)     | T 1 6 5 8 |
| 華陽(かよう・山根)    | → 清(きよし・山根、儒者)            | D 1 6 1 8 |
| 華陽(かよう・野田)    | → 中洲(ちゅうしゅう・野田、藩士/儒/詩文)   | G 2 8 1 9 |
| 華陽(かよう・本多)    | → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳)   | F 2 6 6 3 |
| 華陽(かよう・尾崎)    | → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人)     | 4 0 2 4   |
| 華陽(かよう・行徳)    | → 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者)  | Y 2 1 2 9 |
| 華陽(かよう・小野崎)   | → 尚甫(しょうほ・小野崎/田崎、藩士/詩)    | L 2 2 5 9 |
| 華陽(かよう・岡田)    | → 忠保(ただやす・岡田、歌人)          | E 2 6 5 4 |
| 華陽(かよう・前田)    | → 梅洞(ばいどう・前田、藩士/儒者/詩人)    | B 3 6 9 1 |
| 華陽(かよう・中台)    | → 元(はじめ・中台なかだい、藩士/儒者)     | E 3 6 4 3 |
| 華陽(かよう・岸)     | → 岸駒(がんとく; 通称、絵師)         | G 1 5 2 3 |
| 華陽(かよう・昌谷)    | → 千里(せんり・昌谷さかや、藩士/儒者)     | G 2 4 8 0 |
| 荷葉(かよう)       | → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人)      | F 3 6 1 6 |
| 華陽居(かようきょ・川村) | → 華陽(かよう・川村かわむら、詩人)       | H 1 5 5 2 |
| 華陽軒(かようけん)    | → 往寿(おうじゅう・魚住うおずみ/赤松、神職)  | C 1 4 4 5 |
| 華陽軒(かようけん)    | → 三柳(さんりゅう・中山なかやま、医者/俳人)  | E 2 0 8 1 |
| 花陽居士(かようこじ)   | → 炎洲(えんしゅう・雨森あめのもり、藩士/儒者) | E 1 3 9 0 |
| 華陽子(かようけし)    | → 三柳(さんりゅう・中山なかやま、医者/俳人)  | E 2 0 8 1 |
| 夏葉亭(かようてい)    | → 凉花(りょうか・、商家/俳人)         | G 4 9 6 6 |
- P1562 **峨洋堂**(かようどう、通称; 宮本屋みやもとや俊蔵、別号; 洋堂) ?-? 江後期大阪津村中之丁の読本作者、  
挿画、1808「会稽松の雪」著、宮本君山くんざんとの関係?
- |                  |                            |           |
|------------------|----------------------------|-----------|
| 峨洋堂主人(かようどうしゅじん) | → 君山(くんざん・宮本みやもと/宮、絵師)     | D 1 7 6 6 |
| 華陽道人(かようどうじん)    | → 董史(とうし・董文ただふみ・田内、歌人/教育者) | Q 2 6 7 6 |
| 華陽洞人(かようどうじん)    | → 明良(あきよし・田口、書肆/書誌学)       | E 1 0 1 0 |
- P1563 **嘉陽門院**(かようもんいん、後鳥羽院皇女礼子内親王) 1200-73 74 最後の斎院、鎌倉期; 女房歌人に越前  
嘉陽門院越前(かようもんいんのえつぜん) → 越前(えちぜん・嘉陽門院、歌人) 1 3 7 2  
嘉世右衛門(かよえもん・長坂/松森) → 胤保(たねやす・松森/長坂、藩士/博学) S 2 6 1 1  
かよ女(かよじょ) → かよ(樗良の妻、俳人) P 1 5 5 4  
かよ女(かよじょ) → かよ(阪貞利[昌功]の母、歌人)  
嘉代姫(かよひめ・松平/酒井) → 訓子(のりこ・酒井さかい、藩主妻/歌人) G 3 5 7 5
- F1589 **可頼**(からい・青地あおち) ? - ? 江前期京の俳人・貞徳門、  
1653貞徳「紅梅千句」1672重徳「塵塚」入( ; 季吟と両吟)、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[賑ふや菖蒲のぼりに町くだり](手鑑/菖蒲のほり; 端午の節句の紙幟の町並が続く)
- P1564 **何来**(からい・麦炊舎) 1717? - ? 大和初瀬の俳人、  
1779(安永8)六十賀集「梅津里集」自撰、  
1782蕪村「花鳥篇」入、  
[葛城かづらきやこゝも吉野の雲ちぎれ](花鳥篇; 花桜帖4/吉野の花の雲のちぎれ雲)
- |               |                          |           |
|---------------|--------------------------|-----------|
| 何来(花菜からい; 初号) | → 蓬山(ほうざん・花菜庵、俳人)        | B 3 9 0 6 |
| 花頼(からい・糊沢)    | → 花頼(はなより・糊沢くるみざわ/源、国学者) | K 3 6 1 3 |
| 雅頼(からい・源)     | → 雅頼(まさよし・源みなもと、廷臣/歌人)   | I 4 0 7 9 |
- F1590 **傘洩守**(からかさのしるがみ) ? - ? 尾張狂歌師、1785刊「後万載集」1首入;  
[投げて知るこのかはらけの音なきに麦の畠の地にみつるとは]
- H1554 **可楽**(河楽からく・松井まつい、喜兵衛男) 1643-1728 86 播磨山崎藩士/1678(延宝6)主家池田家断絶、  
浪人; 江戸住/儒詩/歌、1681岡山藩士/学督; 藩校学監/1705致仕、1728(享保13)没、

- 「詩法撮要和抄」「筑紫紀行」「南遊紀行」、1698「東行日記」1711「六友詩」18「文法要略」著、  
1720「桑韓唱酬集」21「東山日記」著、  
[可楽(号)の名/通称/別号]名;良直よなお、通称;七右衛門、別号;愚翁/幽軒
- P1565 **可楽**(からく・別号;信庵) ? - ? 江後期、京の俳人;鳳原門、  
1790「月華集」1807「五百羅漢」著
- 1543 **可楽**(初世からく・三笑亭さんしょうてい) 1777-1833 57 江戸馬喰町の生/中橋上槇木町住;櫛商人、  
1798えど下谷柳の稻荷社内の寄席で落語を演ず;噺(落語)家となり各地を巡る、  
1800江戸に帰り[咄の会]を開き、1804下谷孔雀茶屋で三題噺を開始、人気を博し落語創作、  
即興咄が得意;江戸席亭の祖、朝寝房夢楽・林屋正蔵・可楽2世の師、  
1804「東都眞衛」編/09「いさみにつき馬生るい三句佐理」23「江戸前新話」「江戸自慢」、  
1824「百の種」25「落噺可楽日記」28「流行噺の随筆」32「滑稽枯木の花」33「俳風東遊」外著多、  
[三笑亭可楽(;号)の通称/別号]通称;京屋又三郎/櫛屋又三郎、別号;山生亭花楽  
可楽(からく・2世三笑亭) → さん馬(さんば・2世、翁家初世) E 2 0 6 1  
可楽(からく・3世三笑亭) → さん馬(さんば・3世、翁家2世) E 2 0 6 2
- F1592 **可楽**(4世からく・三笑亭、可童、3世朝寝房夢羅久、榊原鎌三郎) ?-1857 噺家(落語);2世夢羅久門、  
1856夢羅久3世を襲名、二世可楽の養子
- S1549 **可洛**(からく・宮尾みやお) ? - ? 安藝阿賀の庄屋/如杉の一族、俳人;土方[1801-70]門、  
[よこす気はないによこれや春の雪](短冊)  
可楽(からく・岩間) → 宣道(のりみち・岩間いわま、藩士/歌人) F 3 5 8 6  
華洛(からく) → 如水(じょすい;号・瀝蛙;匿名) 2 2 1 1  
花洛(からく・酔狂庵) → 酔狂庵(すいきょうあん、浮世草子作者) 2 3 3 9  
嘉楽(からく・渡辺) → 羅月(らげつ・渡辺、藩士/詩/俳人) B 4 8 3 0  
可楽庵(からくあん) → 桃路(とうろく・可楽庵、俳人) I 3 1 4 7  
花洛庵(からくあん) → 一口(いっこう・花洛庵、川柳作者) C 1 1 7 6  
花洛隠士(からくいんし) → 音久(おんきゅう、浮世草子作者) B 1 4 2 4  
花雑隠儒(からくいんじゆ) → 貞斎(ていさい・毛利もうり、儒者) 3 0 8 0  
賀楽狂夫(がらくきやうぶ) → 経徳(つねのり・立入たてり、廷臣/記録) D 2 9 1 6  
花楽軒(からくけん) → 蝶々子(ちょうちょうし・神田、俳人) J 2 8 4 7
- F1593 **花楽散人**(からくさんじん、本名不詳) ?-? 1773「北里年中行事」著(:吉原風俗)  
我楽多堂(がらくたどう) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7  
我楽多老人(がらくたろうじん) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8  
花洛誹林(からくはいじん) → 雲峰(うんぼう・居初いそめ、俳人/戯作) B 1 2 2 2  
嘉楽門院(がらくもんいん) → 儀子(ぎし・典侍/南朝歌人) B 1 6 1 6  
からくり儀右衛門(からくりぎえもん) → 久重(ひさしげ・田中、細工師/発明) B 3 7 1 3  
唐衣橋洲(からごころもきしゅう) → 橋洲(きしゅう、小島恭従、狂歌作者) 1 6 2 2
- S1546 **からさき**(;組連) ? - ? 江戸芝の川柳の組連;  
取次;1778「川柳評万句合」入;  
取次例;[絵巻で見ては地獄のはうがおもしろい](78万句合/前句;見合せにけり々々)、  
(地獄極楽の絵巻/地獄絵には躍動感がある)  
空酒(からざけ・瓢) → 瓢空酒(ひさごのからざけ、狂歌作者) B 3 7 0 2
- F1594 **ガラシャ**(・細川ほそかわ/明智あけち、名;玉たま/玉姫、明智光秀女) 1564-1600 自害 37 細川忠興の妻、  
1582父が本能寺変を起し山崎で戦死、逆臣の娘として夫に丹後味土野に幽閉される、  
1584解放後も外出禁止;夫と疎遠/87キリシタンとなる、  
1600関ヶ原戦の時:人質としての大坂入城を拒否、  
石田光成軍の包囲のなか家老に胸を刺させて死す、  
辞世[散りぬべき時知りてこそ世の中は花は花なれ人は人なれ]  
からし屋(からしや) → 豊芥子(ほうかいし・石塚、商家/稀書収集) 3 9 5 2  
鳥大夫(からすだゆう) → 成元(なりもと/しげもと・橘、歌人) I 3 2 3 2  
鳥丸一位(からすまるいちい) → 資康(すけやす・裏松/日野/藤原、廷臣/歌) D 2 3 1 8
- U1596 **殷住**(からすみ・滝田たきた、通称;宗蔵) 1749-1809 61 信濃飯田藩士、歌人;桃沢夢宅門、

- きく(有制/義制よしのりの妻)の父、養子;須田義制
- P1566 **唐立**(からたち・江南亭、愚舎)?- ? 戯作者:十返舎一九門、狂歌作者、  
1818「落咄口取肴」25「伊勢物語」著  
唐成(からなり・岡辺) → 岡辺唐成(おかべのからなり、狂歌) D 1 4 5 6
- T1529 **唐橋**(からはし・) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[しのぶればそぞろに袖のぬるるかなおほけなかりし世世のふること]、  
(大江戸倭歌;雑1909)  
唐橋大僧正(からはしのだいそうじょう)→ 親巖(しんごん;法諱、真言僧) E 2 2 1 3  
唐丸(からまる・蔦つた、狂名)→ 重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋、書肆) 2 1 4 2  
唐丸(からまる・千柳亭) → 唐麿(からまる・千柳亭、錦織、医者/狂歌) F 1 5 9 6  
唐丸(からまる・富士、狂名)→ 梅花(ばいか・藤堂とうどう、儒詩/絵師) 3 6 7 8
- D1531 **可良麻呂**(からまる・倭文部しとりべ)?-? 755防人/常陸国、万葉廿4372(長歌)
- F1596 **唐麿**(からまる・千柳亭せんりゅうてい、姓;錦織にしごり)1788or93-186477/72 仙台藩医官;錦織家25世、  
母;千錦堂百綾(狂歌名)、紅裏服を許される、狂歌;母門/三陀羅法師門、狂歌宗匠;門人多、  
1819「狂歌陸奥百歌撰」編/28丘山「猿著聞集」3度入、30「狂歌柳条集」51「狂歌綾むしろ」編、  
1857「奥の海」61「狂歌五色墨」62「白露貫珠」「狂歌浅見どり」編、「狂歌金花集」編、  
[千柳亭唐麿の名/字/通称/別号]名;弘景、字:子徳、通称;即休、  
別号;千柳亭/綾彦あやひに/一葉/綾麿/唐丸/秋江/六勿園/梧容人/双星子、法号;無何有院
- F1598 **佳良麿**(からまる) ? - ? 江後期洒落本、1867「苦界船乗合咄くがいのりあいばなし」著  
菅江真澄の偽名説(旧説)は誤  
唐麿(唐丸からまる・文泉舎)→ 文泉舎唐丸(ぶんせんしゃからまる・狂歌作者) G 3 8 0 0  
唐麿(からまる・富士、狂名)→ 梅花(ばいか・藤堂とうどう、儒詩/絵師) 3 6 7 8
- H1555 **可懶**(からん・櫛田くしだ、名;漪い/字;文江、祐友男)1672-171544 儒者:貝原益軒門、福岡藩士、  
「東遊稿」「蛙鳴集」「遂初堂詩稿」著、「文江遺稿」、琴山きんざんの兄
- P1567 **尙嵐**(からん) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」入、  
[寺の庭を抜けて道なし蟬の声](其雪影;巻尾303)  
花藍(からん;俳号) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5  
可蘭(からん・春秋亭) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺、狂歌) 2 6 3 9  
鍵屋半右衛門、号;楽芳庵/霞爛  
霞爛(からん・矢倉) → 安々(やすさだ・矢倉やぐら、商家/歌人) G 4 5 9 2  
花藍齋(花蘭齋からんさい、絵師)→重政(2世しげまさ・北尾、北川美丸よしまる) S 2 1 6 5
- F1599 **伽藍堂**(がらんどう、時雨庵主人?)?-? 談義本 1771当世滑稽談義」著
- S1574 **可理**(かり・大橋おおはし) ? - ? 江前期加賀の俳人、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[月に星や千葉の湊の波の紋](手鑑/  
月星;千葉介を名乗った下総千葉宗家の家紋九曜星)  
家理(かり・花山院) → 家理(いえおさ・花山院かざんいん、廷臣) E 1 1 7 9  
柯理(かり・丸山/喜多川)→ 重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋つたや、書肆) 2 1 4 2  
花裡雨(かりう) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6  
花里翁(かりおう) → 弘泰(ひろやす・山崎やまさき、国学者/歌) H 3 7 5 7
- G1500 **借着行長**(かりぎのゆきなが、銅脈先生と関係?)?-? 洒落本作者、1799「阿蘭陀鏡」著  
嘉利作(かりさく・小川) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶) O 4 0 0 6
- D1532 **蒨田麻呂**(かりたまろ・坂上さかのうえ)728-78659 奈良期武將、田村麿の父、陸奥鎮守將軍  
嘉栗(かりつ・仙果亭) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井高業、狂歌) 2 2 8 7  
可立(かりつ・伊藤) → 可立(かりゅう・伊藤いとう、俳人) P 1 5 7 0  
刈主(かりぬし、狂歌) → 高利刈主(こうりのかりぬし) F 1 9 4 2  
雁廼舎(かりのや) → 棹好(とうこう・多田ただ、国学/歌人) V 3 1 5 9  
刈穂庵(かりほあん) → 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5
- R1599 **刈穂稻村**(かりほのいなむら) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;293/299/476

- [師走月 もち米をひやせし桶の水すみてあすの鏡をうつす月影](才蔵集;299)  
 刈穂舎(かりほのや) → 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5
- P1568 加柳(かりゅう) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲」4句/  
 1692助叟「俳諧新始ちようなはじめ」入、  
 [村雨を橋に乗り込む鶉舟うぶねかな](都曲;6/夕立を避けようとして橋に乗り上げた)
- P1569 瓜流(かりゅう) ? - ? 京の俳人;1772几董「其雪影」入、  
 [虚無僧の物いゝかける枯野哉](其雪影;巻尾396)
- G1501 可柳(かりゅう・愚性庵) ? - ? 河東節;3世藤十郎門、  
 1801「しのぶ草」-04「江戸節根元集」著
- S1516 荷笠(かりゅう) ? - ? 備後三原の俳人;  
 1790雅松「其みちのく」92騏道「新華摘」入、1800「庚申集」編、  
 三原歳旦集「庚申春帖」土芝らと共編/04「春興」共編、「良夜」編
- P1570 可立(かりゅう・伊藤いとう、通称;圭蔵、別号;閑涼軒)?-? 江末期陸中水沢の俳人、邑主伊達の家臣、  
 1833「蒼虬再帰郷集」編
- 家隆(かりゅう・藤原) → 家隆(いえたか・藤原、歌人) 1 1 0 2  
 華竜(かりゅう・宮田) → 五溪(ごけい・宮田みやた、藩儒/詩人) G 1 9 6 5  
 華竜(かりゅう・岩倉) → 具視(ともみ・岩倉/堀河、廷臣/公武合体) Q 3 1 6 2  
 下流(かりゅう・太一庵) → 太一庵(たいいちあん・下流かりゅう、俳人) B 2 6 0 2  
 嘉隆(かりゅう・小浜) → 嘉隆(よしたか・小浜、幕臣/俳人/狂歌) K 4 7 1 5  
 可隆(かりゅう・よしたか・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、役者/絵師) Q 1 6 1 7  
 可隆(かりゅう・木下) → 可隆(よしたか・木下きのした、医者/国学) M 4 7 3 4  
 可竜(かりゅう・三笑亭) → 正蔵(しょうぞう・林屋はやしや、嘶家/合巻作者) 2 2 6 4  
 何竜(かりゅう・武藤) → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8  
 何竜(かりゅう・梅本) → 薫(かおる・梅本うめもと、経師/歌・俳人) T 1 5 7 9  
 柯留(加笠かりゅう) → 農業(ときなり・武田たけだ、商家/村政/俳人) V 3 1 7 0  
 霞竜(かりゅう・大谷) → 尚古(しょうこ・大谷おおたに、儒者/俳人) I 2 2 6 8
- P1571 我柳(がりゅう・矢田やだ、与三吉男) 1813-7967 加賀津幡の俳人;梅室門、  
 1846「藁盒子わらごうし」55「ともぶえ集」編、  
 [我柳(;号)の別号] 蒼雪/一水庵/見風舎、法号;教徳院
- 画竜(がりゅう;法諱・恒山) → 恒山(こうざん;道号・画竜、曹洞僧) J 1 9 2 4  
 臥竜(がりゅう/がりよう;号) → 得照(とくしょう;法諱、真宗僧) K 3 1 9 8  
 臥竜(がりゅう・佐々木) → 文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家) F 3 8 4 0  
 臥竜(がりゅう・吉田) → 臥龍(がりよう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5  
 臥龍(がりゅう・田中) → 綏猷(すいぎ・田中/小森、儒者/勤王) E 4 5 6 6  
 雅竜(がりゅう;字) → 唯然(ゆいぜん;法諱・雅竜、天台学僧) 4 6 4 2  
 雅隆(がりゅう・藤原) → 雅隆(まさたか・藤原、廷臣/歌人) D 4 0 1 3  
 雅流園(がりゅうえん) → 弘器(ひろき・竜廻屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5  
 臥竜園梅麿(がりゅうえんうめまろ) → 梅麿(うめまろ・臥竜園がりようえん、狂歌渡辺氏) D 1 2 4 4  
 臥竜館(がりゅうかん/がりようかん) → 南陽(なんよう・菊池、儒者) 3 2 4 4  
 花笠外史(かりゅうがいし) → はながさがいし・双枕亭 → 文京(ぶんきやう・花笠はながさ、歌舞伎作/戯作) F 3 8 0 2
- 臥竜窟(がりゅうくつ) → 安竜(あんりゅう・永島、医者/引水工事) D 1 0 1 6  
 臥竜窟(がりゅうくつ) → 綏猷(すいぎ・田中/小森、儒者/勤王) E 4 5 6 6  
 臥竜斎(がりゅうさい) → 峻江(しゅんかう・橋たちばな、書家/文筆家) K 2 1 6 8  
 河流舎(かりゅうしゃ) → 能進(のうしん・河竹、歌舞伎作者) 3 5 4 1  
 臥竜亭(がりゅうてい) → 作庵(さくあん・生熊いくま、医者) N 2 0 7 9  
 下留老人(かりゅうろうじん) → 為霖(いりん;字・甘雨;法諱、曹洞僧) I 1 1 3 9  
 蝦侶(かりよ) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2  
 何慮庵(かりよあん) → 貞旭(ていきよく・岡、俳人) 3 0 6 1
- D1533 珈涼(かりよう・飯島いじま、別号;草婦人、喜田村雪翁女) 1696-177176 金沢俳人;希因門、  
 千代尼と親交、俳人飯島五五(阪尻屋八郎右衛門)の妻/のち出家;珈涼尼、1749「渡り鳥」編

- P1572 瓜涼(かりょう) ? - ? 播州高砂の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」入、  
[あけぼのや白浪かゝる雁のつら](月の夜;185)
- H1556 嘉陵(かりょう・若林わかばやし、名;懋つとむ/字;徳倫、重郷[藤兵衛]男)1759-1839<sup>81</sup> 武州秩父金沢村農家、  
江戸で儒者;井上錦峨門/折衷学修得、帰郷;開塾;子弟教育、「官職通典」、「嘉陵詩草」著、  
「王注周易国字解」「四書自解」「遊竜園雑著」「遊竜園詩文雑集」著、「遊竜園遺稿」、  
[嘉陵の通称/別号]通称;重太夫/十太夫、別号;遊竜園
- P1573 嘉陵(かりょう・村尾むらお、名;正靖まさのぶ、字;伯恭、通称源右衛門)1760-1841<sup>82</sup> 幕臣/徳川清水家家臣、  
御広敷用人/浜町の賜舎に住/のち麴町三番町に移住;遊行を楽しみ江戸近郊を精密踏査、  
1809「嘉陵腹議」「嘉陵腹議余話」/12「嘉陵紀行」18「花月吟二百首」著、28「梅乃志乎里」編、  
「江戸近郊道しるべ」「嘉陵十種癸集・天文怪異」著、
- P1574 荷了(かりょう・中島なかじま、通称;治兵衛、別号;八束庵)?-? 遠州浜名の俳人;鳳朗門、  
1835「松蘿集」/37「人にかたるな」編
- U1509 伽陵(かりょう;字/瑞伽;法諱)1793-1859<sup>67</sup> 尾張春日井郡の禅僧、  
信濃伊那郡竜門寺18世住職、国学;福住清風・植松茂岳・森広主門、  
[伽陵(;)の名/号]名;知門、号;如是/斗南軒
- 可量(かりょう・横関) → 可量(よしかず・横関よこせき、陪臣/歌人) P 4 7 9 6  
果了(かりょう・大竹) → 信政(のぶまさ・大竹おおたけ、幕臣/歌人) H 3 5 6 9  
歌築(かりょう・神野) → 易興(やすおき・神野じんの/かんの、藩士/国学) B 4 5 0 7  
花陵(かりょう・川辺) → 御楯(みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師) I 4 1 7 2  
華陵(かりょう・勝田) → 正履(せいり・勝田かつた、藩儒) J 2 4 7 8  
華梁(かりょう;法諱) → 華梁(けりょう;道号・霊重、曹洞僧、詩偈) H 1 8 4 2
- P1575 臥龍(がりょう・吉田よしだ、名;正敦/正郭、正幸男)1649-1725<sup>77</sup> 豊後臼杵藩士/1676家督、  
1686伏見藩邸留守職/大目付・郡奉行、禅/経学/詩文;賢巖・月潤・虚谷・高泉門、子弟教育、  
伊東仁斎と親交、藩主の「稲葉侯系伝」編纂、「耳学閑話」「容光録」「紫潭燃犀」「対字分類」、  
1707「勸請住吉記」10「豊後臼杵祇園宮記」、「文海採珠」「談夢筆記」、「臥龍先生詩文鈔」著、  
[臥龍の字/通称/別号]字;厖伯/厚甫、通称;弥太右衛門、別号;臥龍軒/無覚
- P1576 我亮(がりょう) ? - ? 大阪俳人;談林系、1704潮白「多美農草たみのぐさ」入
- P1577 莪陵(がりょう・西田にしだ、別号;云六斎うんろくさい)?-? 大阪俳人・淡々門、1760師より自邸を譲られた、  
1777「鸚鵡窟追善」「十載薦とせむら」編、西田久任ひさとの孫
- 雅良(がりょう・久我こが) → 具房(ともふさ・久我、権大納言/歌) Q 3 1 4 9  
雅亮(がりょう・源) → 雅亮(まさすけ・源みなもと、廷臣/装束故実) C 4 0 8 7  
雅亮(がりょう、俳名) → 徳三(とくそう・近松、歌舞伎作者) 3 1 4 1  
雅量(がりょう・飛鳥井) → 雅量(まさかず・飛鳥井/藤原、蹴鞠/歌) B 4 0 7 3  
臥竜(がりょう;号) → 得照(とくしょう;法諱、真宗僧/蘭学) K 3 1 9 8  
臥竜(がりょう・佐々木) → 文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家) F 3 8 4 0  
臥竜園(がりょうえん) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
臥竜園梅麿(がりょうえんうめまろ) → 梅麿(うめまろ・臥竜園がりょうえん、狂歌) D 1 2 4 4  
臥竜館(がりょうかん) → 南陽(なんよう・菊池、儒者) 3 2 4 4  
臥龍軒(がりょうけん) → 臥龍(がりょう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5  
花菱斎(かりょうさい) → 北雅(ほくが・葛飾かつしか/山寺、絵師) C 3 9 9 4  
臥竜斎(がりょうさい) → 峻江(しゅんこう・橋たちばな、書家/文筆家) K 2 1 6 8  
可涼亭(かりょうてい) → 定堅(さだかた・横田よこた/原、国学/歌人) P 2 0 7 7  
臥竜亭(がりょうてい) → 作庵(さくあん・生熊いくま、医者) N 2 0 7 9  
珈涼尼(かりょうに・草婦人) → 珈涼(かりょう・飯島、俳人) D 1 5 3 3
- P1578 嘉林(かりん・井上いのうえ) ? - ? 江中期;江戸芝口の和算家、  
1720「元解算法」「算法弧矢弦解」著
- 嘉林(かりん・高橋) → 健蔵(けんぞう・高橋、書家) K 1 8 7 0  
化霖(かりん;道号) → 化霖(けりん;道号・道竜;法諱、黄檗僧) H 1 8 4 3  
臥林(がりん;法号) → 定延(さだのぶ・久松ひさまつ、幕臣/歌人) Q 2 0 1 6  
臥輪(がりん・佐河田) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわだ/高階、歌/連歌) 4 0 1 5

- 花林院僧正(かりんいんのそうじょう) → 永縁(えいえん・ようえん、法相僧/歌人) 1 3 1 4  
歌林亭(かりんてい) → 秀隆(ひでたか・夏川なつかわ、藩士/歌人) K 3 7 4 5  
花林堂(かりんどう) → 紫旦(したん・花林堂、絵師) E 2 1 5 2  
嘉留(かる・荒川) → 蔦子(つたこ・荒川/日高、紀行文) 2 9 0 7
- 1558 軽大郎女(かるのおおいらつめ、衣通郎女そとおしのいらつめ、允恭天皇皇女)?-? 記紀歌謡作者:  
同母兄の木梨軽皇子と密通、伊予の湯に配流(記)/万葉集90に異伝;89左注、  
[君が往き日長くなりぬやまたづの迎へを行かむ待つには待たじ](古事記;下巻87、  
古事記では木梨軽皇子が配流され軽大郎女が伊予に追いく)
- 1557 軽太子(かるのひつぎのみこ、木梨軽皇子きなしのかるのみこ、允恭天皇第一皇子)?-?自害 記紀歌謡作者:  
同母妹軽大郎女と密通、古事記では伊予の湯に配流・  
日本書紀では弟穴穂御子(のちの安康天皇)に軍を起し自害、  
古事記允恭記78(長歌;志良宜歌しらげうた;琴歌譜は茲良宜歌とある)  
古事記85/89(;詠歌)[万葉3263(長歌)3264(反歌)]
- 軽皇子(珂瑠皇子かるのみこ) → 文武天皇(もんむてんのう) 4 4 3 8  
軽人(かるんど・紀) → 紀軽人(きのかるんど、狂歌) S 1 6 1 7
- P1579 花鈴(かれい) ? - ? 京の女流俳人;1691賀子「蓮実」入、  
[寒声かんごゑや螢過ぎての丸木橋](蓮実;421/夏に螢を追った橋で今は音曲の寒稽古)
- I1522 可令(かれい・赤松あかい、清水軒)1685-174864 京の俳人;鞭石門、1729隆志「俳諧草結」4句入、  
[佩をびものに玉はふえなん浜千鳥](草結;230/公卿礼装の玉佩/同音で玉が増るかなあ)
- 可怜(かれい・荻野/斎藤) → 彦磨(ひこまろ・斎藤/藤原、藩士/国学) 3 7 0 3  
花鈴(かれい・渡部) → 主税(ちから・渡部わたなべ、好事家/文筆) C 2 8 2 5  
花鈴院(華齡院よりながかれいいん;法号) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/俳/歌) 3 8 5 5  
華嶺道人(かれいどうじん) → 鳳潭(ほうたん・僧濬そうしゆん、華嚴僧) C 3 9 2 5  
枯木庵(かれきあん/こぼくあん) → 雲扇(うんせん・井上いのうえ、俳人) D 1 2 8 8  
瓦礫舎(がれきしゃ) → 朴巖(ぼくがん・尾張僧、書画会催) C 3 9 9 9  
瓦礫主人(がれきしゅじん) → 正澄(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学) D 4 0 1 0  
雅連(がれん・丸/平) → 雅連(まさつら・丸まろ/本姓;平、武将/連歌) E 4 0 1 9
- P1580 夏炉(かる) ? - ? 撰津南江村の俳人;1691賀子「蓮実」入、  
[あけぼのや塔のぐるりは杜若](蓮実;229)
- 歌路(かる) → 智月(ちげつ、山岡/河合、尼/俳人) E 2 8 0 2  
嘉路(かる・朝山) → 嘉路(よしみち・朝山あさやま/勝部、国学者) L 4 7 1 8  
蝸廬(かる;号) → 靈仙(れいせん;道号・真寿、黄檗僧) 5 1 4 8  
蝸廬庵(かるあん) → 和昂(わこう・源みなもと、歌人) 5 3 2 1  
夏炉庵(かるあん) → 耒首(らいしゅ・夏炉庵、文筆家) 4 8 5 3
- P1581 花朗(かるう・春鶯亭、久野ひさの、名;嘉恵、吉田保年女)1733-180371 筑紫琴名手、  
福岡藩家老久野無公の妻、俳人・蝶夢門(夫と入門)、夫追悼集「むこうほくしう」編
- 可楼(かるう・滝沢) → 羅文(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人) B 4 8 5 1  
雅朗(がるう・横浜) → 雅朗(まさあきら・横浜よこはま/浦野、歌人) T 4 0 6 7  
花楼庵遅木(かるうあんちぼく) → 遜庵(そんあん・鷹取たかとり、医者/插花) B 2 5 4 5  
何陋軒(かるうけん) → 秀邦(ひでくに・島川/倉田、藩士/和漢学) J 3 7 7 8  
閑適(かんてき・島川) → 秀邦(ひでくに・島川しまかわ/倉田、藩士/和漢学) J 3 7 7 8  
迦[伽]楼羅園(かるうらえん) → 浮生(ふしょう・北藤、俳人/俳論) C 3 8 8 6  
鹿六(かるく・植木) → 直枝(なおえ・植木うえき、藩士/国学) L 3 2 2 9  
嘉六(かるく・丹羽/木内) → 盤桓(ばんかん・丹羽にわ、藩士/国/書家) H 3 6 3 4  
嘉六(かるく・大野屋) → 松宇(しょうう・国枝くにえだ、商家/儒者) G 2 2 9 5  
嘉六(かるく・佐々木) → 成忠(しげただ・佐々木ささき/木下、国学/神職) O 2 1 5 0  
嘉六(かるく・長沢) → 保固(やすかた・長沢ながさわ、国学者) G 4 5 3 6  
嘉六(かるく・南城) → 蘆村(あしむら・南城なんじょう、和漢学者) I 1 0 1 9  
嘉六郎(かるくろう・八木) → 庭雅(ていが・八木やぎ、藩士/俳人) 3 0 4 4  
嘉六郎(かるくろう・吉田) → 利和(としかず・吉田よしだ、歌人) M 3 1 1 4

- W1522 **蝸廬齋**(かうさい) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
[秋の色もわが世も今は半天かざらの名にあふ月に昔かたらん](麓の塵;246/仲秋月)  
☆下里知足ちそく(蝸廬亭/1640-1704/尾張鳴海の俳人)と同一?  
茄廬山人(かろさんじん) → 泰道(たいどう・林はやし、俳人) B 2 6 9 3  
蝸廬亭(かろてい・下里) → 知足(ちそく・下里しもと、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1  
歌論庵(かろんあん) → 茂樹(しげき・川島/革島/林、幕臣/歌人) C 2 1 1 2  
河厚(かわあつ・津良) → 津良河厚(つらのかわあつ、狂歌作者) E 2 9 4 5
- D1534 **川相**(かわい・丈部はつせべ) ? - ? 遠江国山名郡/755防人、万葉廿4324、  
[遠江とへたほみ白羽しるはの磯と贅にへの浦と合ひてしあらば言ことも通かほはむ](万葉;4324、  
贅にへの浦;伊勢の津の辺の船が着く所か)  
川井金治(かわいきんじ・川合/河井) → 其堂(きどう・常盤井ときわい、歌舞伎作者) L 1 6 5 9
- G1503 **川井物梁**(かわいものやな、姓;河合かわい、名;正毅、別号;秋長堂) ?-? 中橋家の家臣、狂歌スヤ連に属す、  
徳和歌後万載集2首入、  
[夕立の雨に追れてにげ水の雲を霞が関の旅人](後万載;夏176/関夕立、雲を霞と逃げる、  
霞が関は江戸桜田門外の筑前黒田藩邸と安藝浅野藩邸の間の坂;桜の名所)
- T1563 **香穉**(かわか・池原いけはら、香祇2男) 1830-8455 肥前長崎の医者、国学者;1843岡山藩上田及淵門、  
柷園謙之の弟、吉田松陰に随行し大坂に赴く、有栖川宮の招聘で上京/勤王;彦根藩の獄囚、  
1856長崎帰郷;眼科医開業、本木昌造の活版所創業に援助;自分の原稿を木版出版、  
1876宮内省文学御用掛、国学;高崎正風門、1780天皇の東北巡幸に供奉、「みとのかず」著、  
[香穉(:名)の別名/字/通称/号]別名;香年/奎(すい/しゅん)、字;九万、通称;大之進/大所、  
号;日南
- S1584 **川蔭**(かわかげ・小山おやま/本姓;藤原) 1816-9681歳 肥後熊本藩士;郡代;飽田郡など/近習役4百石、  
国学者;長瀬真幸・中島広足門、画;矢野良敬・福田太華門/大和絵に長ず、歌;熊本歌壇重鎮、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[春雨は晴れし岡辺の朝露にぬれても萌ゆるはつ蕨かな](大江戸倭歌;春173)、  
[川蔭(:名)の別名/字/通称/号]別名;川景、字;士泉、通称;一太郎/晩年;多乎理たおり、  
号;聴雨ちやうう/栗園/栗屋/硯耕(硯耕堂)/酔月  
川上園(かわかみえん) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8  
川崎半仏(かわさきはんぶつ) → 大倉(たいそう・宮永、漢学者) K 2 6 5 5  
革山人(かわさんじん・かくさんじん) → 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、官吏/狂歌) C 3 0 5 6  
河七(かわしち・中村) → 其堂(きどう・常盤井ときわい、歌舞伎作者) L 1 6 5 9
- 1544 **川島皇子**(河嶋-かわしまのみこ、天智天皇皇子) 657-69135 母;忍海造小竜おたつ女、天武天皇皇子に伍す、  
六皇子の盟ちか参加、681詔により忍壁皇子ら12名と「帝紀及上古諸事の記定」編纂、  
686大津皇子の謀反を密告、浄大参位を授与、万葉二期歌人:34、詩;懐風藻3、  
[白波の浜松が枝の手向くさ幾世までにか年の経ぬらむ](万;34、山上憶良代作?、  
朱鳥四年689持統天皇紀伊行幸随行)  
参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよのきていしや)  
河丈紀(かわじょうき) → 風来(・河原、戯作者) B 3 8 0 8  
革上人(かわしょうにん) → 行円(ぎょうえん;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 2 5  
かはずの介(かわずのすけ) → 吹上氏かはずの介安方(ふきあげうじかわずのすけやすかた、吉原評判記) B 3 8 3 8  
かはづのや(かわずのや) → 正兄(まさえ・福住/大沢、名主/報徳思想) B 4 0 3 4  
蛙麿(かわずまろ・花廼屋/岩本) → 五一(ごいち・達磨屋、花廼屋、書肆) E 1 9 8 2  
蛙麿(かわずまろ;号) → 魯道(ろどう;法諱、曹洞僧/国学者) C 5 2 7 9  
蛙屋(かわずや) → 鸞太(らんたい・中村なかわら、俳人) C 4 8 8 9
- S1556 **河瀬檢校**(かわせけんぎょう、名;意一) ?-1762 江中期の平曲家;波多野檢校門、波多野流を継承、  
荻野檢校の師  
皮仙(かわせん) → 行円(ぎょうえん;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 2 5
- G1504 **河太郎**(かわたろう・河内屋太兵衛) ?-? 両替商、遊び好き奇人、「角丸」:川童一代記など入
- S1553 **河内**(かわち・かふち;組連) ? - ? 江中期江戸浅草の川柳の組連、  
取次;1762「川柳評万句合」入、

取次例;[焼餅のやうにむさしが申上げ](;1762万句合/前句;わけのよい事々々)、  
(大物浦での義経と静御前との別れの時の弁慶の諫言;謡曲・船弁慶)

河内(かわち・かふち・高丘・楽浪河内)	→ 河内(こうち・高丘)	B 1 9 7
河内(かわち・かふち・百合花・前斎宮河内)	→ 河内(こうち・百合花)	B 1 9 6 8
河内(かわち・檜垣)	→ 貞次(さだつぐ・檜垣ひがき/度会、神職)	I 2 0 5 7
河内(かわち・檜垣)	→ 貞晋(さだしげ・檜垣/度会、神職)	B 2 0 2 9
河内(かわち・疋田)	→ 河内(こうち、俳人)	K 1 9 7 0
河内(かわち・疋田)	→ 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、医/歌人)	F 2 8 4 0
河内(かわち・松岡)	→ 寛道(ひろみち・松岡まつおか、神職/教育)	H 3 7 3 1
河内(かわち・檜垣)	→ 常之(つねよし・つねひで・檜垣/度会、神職)	E 2 9 2 3
河内(かわち・中川)	→ 経高(つねたか・中川/荒木田、神職/歌)	C 2 9 3 7
河内(かわち・島田)	→ 秀秋(ひであき・島田しまだ/紀、神職/国学)	J 3 7 8 1
河内(かわち・沢田)	→ 泰綱(やすつな・沢田/荒木田/菌田、神職)	C 4 5 1 0
河内(かわち・佐竹)	→ 義術(よしやす・佐竹さたけ、城代)	N 4 7 0 5
河内(かわち・柿沼)	→ 広身(ひろみ・柿沼かきぬま/紀、神職/国学)	J 3 7 0 0
河内(かわち・山本)	→ 晟孝(あきたか・山本やまもと、神職/国学)	I 1 0 7 2
河内(かわち・水沢)	→ 清苗(きよなえ・水沢みずさわ、神職/国学)	V 1 6 3 9
河内(かわち・守山)	→ 広豊(ひろとよ・守山もりやま、神職/歌人)	L 3 7 5 0
河内大目(かわちだいもく)	→ 長憲(ながよし・大橋、歌人)	G 3 2 5 0

S1540 川千鳥(かわちどり;組連) ? - ? 江中期下総埴生の雑俳の組連、

取次;1746「雲鼓評万句合」入、取次例;[隣まで来て挑灯でうちはくたびれる](万句合)、  
(前句;もちっとの事もちっとの事/諺;[提灯で餅を春つく]の暗喩)

川内王(かわちのおおきみ)	→ 河内王(こうちのおおきみ、大和期廷臣)	B 1 9 7 0
河内女王(かわちのおおきみ)	→ 河内女王(こうちのおおきみ)	B 1 9 7 1
河内守(かわちのかみ・松田)	→ 頼久(よりひさ・松田まつだ、連歌作者)	J 4 7 5 1
河内守(かわちのかみ・藤木/賀茂)	→ 保行(やすつら・藤木ふじき/賀茂、神職)	C 4 5 1 2
河内守(かわちのかみ・秋田)	→ 俊季(としすえ・秋田あきた、藩主/歌)	T 3 1 9 6
河内守(かわちのかみ・坪内)	→ 保之(やすゆき・坪内つぼうち、幕臣/歌)	E 4 5 8 8
河内守(かわちのかみ・井上)	→ 正利(まさとし・井上いのうえ、藩主/歌人)	N 4 0 3 2
河内守(かわちのかみ・酒井)	→ 忠孝(ただたか・酒井さかい、藩主/和学者)	X 2 6 3 6
河内守(かわちのかみ・堀田)	→ 一輝(いっき・かずてる・堀田、幕臣/歌人)	B 1 1 3 6
河内守(かわちのかみ・新見)	→ 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌)	H 4 0 5 4
河内守(かわちのかみ・小笠原)	→ 長遠(ながとお・小笠原おがさわら/源、幕臣)	K 3 2 3 4
河内守(かわちのかみ・朝比奈)	→ 昌始(まさもと・朝比奈あさひな、幕臣)	N 4 0 1 5
河内守(かわちのかみ・岩城)	→ 隆韶(たかつぐ・岩城いわき/伊達、藩主/学問)	V 2 6 7 2
河内守(かわちのかみ・奥村)	→ 尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村おくむら、藩年寄/歌)	C 3 2 0 2
河内守(かわちのかみ・本多)	→ 忠貫(ただつら・本多/戸沢、藩主/詩)	P 2 6 9 1
河内守(かわちのかみ・井上)	→ 正春(まさはる・井上いのうえ、藩主/老中/歌)	N 4 0 3 3
河内守(かわちのかみ・松平)	→ 親貴(ちかとう・松平まつだいら、藩主/歌人)	L 2 8 5 7
河内守(かわちのかみ・佐野)	→ 千風(ちかぜ・佐野さの/藤原、神職/国学)	M 2 8 6 1
河内正(かわちのしょう・中野)	→ 泰行(やすゆき・中野なかの、神職/国学)	G 4 5 3 3
河内掾(かわちのじょう・山本)	→ 飛騨掾(ひだのじょう・山本、人形遣/浄瑠璃作者)	B 3 7 8 6
河内介(かわちのすけ・座田)	→ 太氏(ひろうじ・座田さいだ/賀茂、神職/歌)	F 3 7 5 7
河内介(かわちのすけ・田中)	→ 綏猷(やすみち・田中/小森、儒者/勤王)	E 4 5 6 6
河内大納言(かわちのだいながん)	→ 昇(のぼる・源、廷臣/歌人)	E 3 5 1 6
河内百枝娘子(かわちのもえおとめ)	→ 河内百枝娘子(こうちのもえおとめ)	B 1 9 7 2
河内良阿(かわちのりょうあ)	→ 良阿(りょうあ:法諱、時宗僧/連歌師)	F 4 9 9 7
河内屋嘉助(かわちやかすけ)	→ 嘉助(かすけ・河内屋かわちや、書肆)	M 1 5 2 0
河内屋喜兵衛(かわちやきへえ)	→ 喜兵衛(きへえ・河内屋・柳原、書肆)	L 1 6 8 7

W1561 川継(河継かわつぐ・氷上ひがみ、塩焼王男)?-? 母;不破内親王、奈良後期平安初期;

764(天平宝字8)父塩焼王は藤原仲麻呂乱で天皇擁立されようとするが殺害、  
769母不破内親王が称徳天皇呪詛の疑惑で皇族剥奪、妻;藤原法孝(浜成女)、井作の父?、  
779従五下/782(延暦元)従五下/因幡守;味方を集め平城宮に侵入し朝廷転覆の謀反;  
侵入した部下の大和乙人が捕縛され発覚;裏門より逃走中葛下郡で捕縛、  
伊豆三嶋に流罪/母と姉妹は淡路配流;左大弁大伴家持も連座(京外へ移住);川継に乱、  
805(延暦24)赦免/806(大同元)復位従五下/809典菓頭、812(弘仁3)伊豆守

- P1582 **川常**(かわつね・依田亭よだてい、名;川常/通称;栄次郎、依田信英男)1770-1850<sup>81</sup> 信濃佐久郡片倉の人、  
狂歌:鹿都部真顔門、佐久狂歌の中心的活動、「川常歌集」著  
川貫(かわつら・井出) → 井出川貫(いでのかつら、狂歌作者) D 1 1 8 7  
川中島少将(かわなかじまのしょうしょう) → 忠輝(ただてる・松平、藩主/歌人) P 2 6 9 2
- G1590 **河浪**(川浪かわなみ、東二条院半物ひがしにじょういんのはしたも)?? 鎌倉中期;東二条院(1232-1304)に出仕、  
琵琶/歌、新後撰1536;東二条院(後深草天皇中宮公子)の父西園寺実氏と贈答、  
[かきくもる涙もかなしいまさらになかばの月は袖にやどさじ](新後撰;十九1536)
- D1535 **河成**(かわなり・百濟くだら・本姓;余あぐり)782-835<sup>54</sup> 百濟からの渡来人の後裔/備中介/播磨介、  
武技に秀でる/山水・人物画;絵師の祖という、今昔物語に飛騨工ひだのたくみと競った逸話  
川成(かわなり・天保てんぽの) → 天保川成(てんぽのかわり、狂歌) E 3 0 6 6  
河乃辺乃翁(かわのべのおきな) → 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌) B 1 1 0 9  
川象(かわり・福田/藤原) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9  
河原(かわはら:号) → 実家(さねいえ・藤原、廷臣/歌人) C 2 0 8 8  
河原左大臣(かわはらのさだいじん) → 融(とおる・源、歌人) 3 1 3 0
- P1583 **川人**(かわひと・慈岳朝臣しげおかのあそみ、初姓;刀岐直)??-874 平安前期陰陽家:陰陽博士/陰陽頭/従五上、  
安藝権介、勅で吉野郡高山の蝗害を攘う祭祀を行う、  
文徳陵占定に地神の怒から遁術で逃れた逸話、  
871「六甲」、「宅肝経」、「金匱新経」、「新術遁甲書」、「世要動静経」、「指掌宿曜経」著  
革聖(かわひじり) → 行円(ぎょうえん;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 2 5
- H1592 **川辺鷲**(かわべのが、舟橋ふなばし、通称;幸左衛門)??-? 江戸狂歌;四方連、牛込住  
川辺気長(かわべのきなが;狂号) → 直胤(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家) P 2 6 7 9
- D1536 **河辺宮人**(かわべのみやひと) ? - ? 万葉三期歌人、姫島水死の娘の挽歌・228-  
河部屋(かわべや) → 河東(ますみかとう・十寸見、浄瑠璃太夫) 1 5 2 5  
蝙蝠磨(かわほりまる・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4  
河丸(かわまる・葉流軒) → 葉流軒河丸(よりりゅうけんかわまる、狂歌作者) B 4 7 6 3  
河邑先生(かわむらせんせい) → 玄佑(げんゆう・河、狂文) D 1 8 1 8
- 1581 **河村王**(かわむらのおおきみ・川村王と同人)??-? 万葉四期歌人、伝承歌十六3817-18
- H1590 **川面**(かわも・宮戸みやとの/唯我堂ゆいがどう、藤田眠庵)??-? 江戸日本橋狂歌、1787才蔵集1首:258、  
[ない袖をふる野の霜のかれ尾花ふつと吹出す風もおかしき]
- D1537 **川原**(かわら;姓) ? - ? 万葉三四期歌人、兵部省官人、万葉1737、  
[大滝を過ぎて夏箕なつみにそほり居て清き川瀬を見るがさやけさ](万葉;九1737、  
吉野の宮滝大滝を過ぎ菜摘の川辺に座る/そほるは寄り添う)  
瓦坂法印(かわらざかのほういん) → 家寛(けかん;法諱、天台僧/声明家) G 1 8 8 4
- H1591 **瓦鬼面**(かわらのおにづら、白倉しらくら、通称;伊右衛門)??-? 小石川の肴店、酒井侯の家士、  
狂歌作者;1787「才蔵集」1首入、  
[袖垣をゆふべの空のほし兜かるとげに卯花のおどし見ごとに](才蔵;112、  
垣を結ふと夕べ・空の星と星兜・垣の卯の花と鎧の卯花緘を掛る)
- G1505 **河原鬼守**(かわらのおにもり) ? - ? 狂歌;1785「後万載集」2首入;  
[入梅の日 けふからはさみだれん哥も発句とてまづ何山も雲にふし物]  
河原左大臣(かわらのさだいじん) → 融(とおる・源) 3 1 3 0
- P1584 **幹**(かん・戸田とだ、号;它石子たせきし)??-? 江前期京の文筆家:  
1687鎌倉に遊ぶ;1690「鎌倉紀行」著
- G1506 **簡**(かん・冢田つかた、大峯たいほう男)1778-1810<sup>33</sup> 父の著作を編纂:1794「大峯先生詩集」編、  
1803「大峯先生文集」編、父に先立ち没

- P1585 寛(かん・清村きよむら、通称;理三郎)?-? 江後期1789-1818頃常陸水戸の儒者;彰考館入、  
「武公慎終日録」著(;徳川治紀の葬儀記録)
- G1507 簡(かん・佐藤さとう) ? - ? 江末期儒者、  
1841東条一堂に従い「学範」初篇を筆録、「欺罔字義」著
- P1586 寛(かん・野村のむら) ? - ? 江後期加賀金沢藩士/改作奉行、「兎鷄網」著
- T1552 幹(かん・井上いのうえ) ? - 1871 佐渡の官吏/維新期の歌人;蔵田茂樹門、  
のち東京府大属、鈴木重峯序「島曲の古豆美」の跋文執筆、  
[幹(;名)の字/通称/号]字;土国、通称;大蔵、号;北洋/鶯所
- P1587 煥(煥かん・佐野さの、通称;文郎)?-1890 江後期阿波の儒者;齋藤鑾江門/塾頭、  
大和五条代官、「孝経蠡測」著
- P1588 貫(かん・墨江すみのおえ/修姓;墨、字;子習、屋号;住吉屋)?-? 江後期安藝広島商人、  
儒者;香川南浜門、音韻学修得、「翼醉談」編
- P1589 簡(かん・塚原つかはら、字;子功/士功)?-? 江末期明治期江戸本石町の和算家、  
「煎茶纂要」、1884「開花塵劫記」著、  
[簡の通称/号]通称;宗策、号;雪山
- 侃(かん・陳) → 陳侃(ちんかん、明国冊封使) G 2 8 9 7
- 侃(かん・奥山) → 源蔵(げんぞう・奥山おくやま、和算家) K 1 8 8 3
- 咸(かん・山中/桜間) → 青崖(せいがい・桜間さくらま/山中、絵師) H 2 4 7 5
- 坎(かん・加古) → 角洲(かくしゅう・加古かこ、医者) J 1 5 9 7
- 卷(かん・横山/小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9
- 幹(かん・仁科) → 白谷(はっこく・仁科、儒者) F 3 6 2 2
- 幹(かん・荻原) → 金石(きんせき・荻原おざわら/直江、俳人) R 1 6 2 9
- 幹(かん・中岡/豊島) → 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者) B 3 9 4 3
- 幹(かん・大田) → 英実(ひでざね・大田おおた、藩士/教育者) I 3 7 8 3
- 煥(かん・友野) → 霞舟(かしゅう・友野とももの、幕臣/詩人) C 1 5 1 1
- 煥(かん・あきら・中野) → 竜田(りゅうでん・中野、儒者) K 4 9 8 5
- 煥(かん・野村) → 藤陰(とういん・野村、儒者) B 3 1 0 8
- 煥(かん・大城) → 壺梁(こりょう・大城おおき、藩士/儒者) D 1 9 6 6
- 煥(かん・村井) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4
- 煥(かん・芥川) → 丹丘(たんきゅう・芥川、儒者/華音) I 2 6 0 5
- 煥(かん・小栗) → 常山(じょうざん・小栗おぐり/平、儒者) J 2 2 3 5
- 煥(かん/あきら・中野) → 竜田(りゅうでん・中野なかの、儒者/詩人) K 4 9 8 5
- 煥(かん・鉄) → 復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者) B 3 8 6 0
- 煥(かん・北条) → 竹潭(ちくたん・北条/伊勢、藩士/航海) D 2 8 4 3
- 煥(かん・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7
- 完(かん・堀) → 勝名(かつな・堀、家老;藩政改革/歌) N 1 5 6 1
- 完(寛かん・鳥羽/乙骨) → 耐軒(たいけん・乙骨おつこつ/鳥羽、儒/詩) B 2 6 3 0
- 完(かん・波多) → 完(またし・波多はた/秦/金原、国学者) J 4 0 4 3
- 完(かん・安井) → 滄洲(そうしゅう・安井、藩儒/息軒の父) B 2 5 8 4
- 完(かん・宮城) → 完(ひろし・宮城みやぎ、藩医者/歌人) L 3 7 4 2
- 浣(かん・源) → 浣(すすぐ・源、廷臣/歌人) 2 3 3 6
- 貫(かん・長山) → 樗園(ちよえん・長山、幕臣/海防) K 2 8 1 9
- 貫(かん・菊池) → 西崖(せいがい・菊池、藩士/神道研究) H 2 4 7 4
- 貫(かん・行徳) → 玉江(ぎよくこう・行徳ぎょうとく、絵師/篆刻) O 1 6 9 2
- 貫(かん・長山) → 樗園(ちよえん・長山ながやま、幕臣/海防論) K 2 8 1 9
- 貫(かん・宇都宮) → 有允(ゆういん・宇都宮うつのみや、修験/国事) G 4 6 6 1
- 貫(かん・衣関) → 順庵(じゅんあん・衣関きぬどめ、医者;眼科) M 2 1 1 2
- 寛(かん・上田) → 白水(はくすい・上田うねだ、儒/兵学) D 3 6 4 0
- 寛(かん・長川) → 華山(かざん・長川ながかわ、儒者) H 1 5 4 6
- 寛(かん・伊藤) → 菊圃(きくほ、伊藤いとう、儒者) K 1 6 2 6

寛(かん・下郷)	→	亀洞(きどう・千代倉家・下郷しもさと、詩/俳人)	B 1 6 5 7
寛(かん・羽仁)	→	寛(ひろし・羽仁はに、藩士/俳人)	L 3 7 5 4
寛(かん・川野辺)	→	寛(ひろし・川野辺/川辺、藩士/地誌)	F 3 7 8 6
寛(かん・渡辺)	→	寛(ひろし・渡辺、郷土史家)	F 3 7 8 7
寛(かん・山地)	→	蕉窓(しょうそう・山地/山路、儒者/詩)	T 2 2 9 9
寛(かん・長谷川)	→	寛(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育)	F 3 7 8 8
寛(かん・生方)	→	寛(ひろし・生方、書家)	F 3 7 9 0
寛(かん・和氣)	→	寛(ひろし・和氣、儒者)	F 3 7 9 1
寛(かん・立野)	→	寛(ひろし・立野たての、藩士)	F 3 7 9 2
寛(かん・安原)	→	方斎(ほうさい・安原やすはら、儒者)	3 9 8 1
寛(かん・大村)	→	寛(ひろし・大村、医者)	F 3 7 9 3
寛(かん・乙骨)	→	耐軒(たいけん・乙骨おつ、学頭/詩)	B 2 6 3 0
寛(かん・三浦)	→	九折(きゅうせつ・三浦/樋口、医者/詩)	M 1 6 7 4
寛(かん・金井)	→	草浪(くさなみ・聴風軒、狂歌作者)	C 1 7 3 9
寛(かん・森田)	→	月瀬(げつらい・森田もりた、医/漢学者)	H 1 8 4 0
寛(かん・森本)	→	沙鷗(さおう・森本/平、酒造業/俳人)	B 2 0 2 3
寛(かん・菊池)	→	巻石(けんせき・菊池まぐち、藩士)	K 1 8 4 7
寛(かん・北川)	→	素白(そはく・北川きたがわ、藩士/俳人)	K 2 5 3 5
寛(かん・浅田)	→	上山(じょうざん・浅田あさだ、儒者/詩/書)	J 2 2 3 8
寛(かん・池永)	→	楓村(ふうそん・池永いけなが、儒者/詩人)	3 8 9 2
寛(かん・北川)	→	素白(そはく・北川きたがわ、藩士/俳人)	K 2 5 3 5
寛(かん・堀内)	→	素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒)	K 2 5 2 0
寛(かん・鈴木)	→	宗観(そうかん・鈴木すずき、眼科医)	G 2 5 7 2
寛(かん・中村)	→	寛(ひろし・中村なかむら、酒造業/国学)	K 3 7 3 8
寛(かん・荘司)	→	健斎(けんさい・荘司/畠山、儒者/医者)	I 1 8 9 5
寛(幹かん・岡田)	→	輔幹(すけもと・岡田おかだ、藩士/儒者/詩)	H 2 3 1 3
寛(かん・斎藤)	→	笠山(りゅうざん・斎藤さいとう、藩校儒者)	E 4 9 2 6
寛(かん・小南)	→	栗斎(りつさい・小南こみなみ、藩儒)	B 4 9 9 2
寛(かん・大岡)	→	栗斎(りつさい・大岡おおおか、儒者)	B 4 9 9 5
寛(かん・田結/宮本)	→	元甫(元甫げんぼ・宮本/田結たゆい、蘭医)	M 1 8 2 7
寛(かん・佐々木/箕作)	→	省吾(しょうご・箕作みつくり/佐々木、洋学/地理)	J 2 2 7 2
寛(かん/ひろし・山田)	→	貞順(ていじゅん・山田やまだ、藩医)	B 3 0 1 5
寛(かん・三森)	→	幹雄(みきお・三森みつもり、俳人)	4 1 6 8
寛(かん・村上/河原)	→	翠城(すいじょう・河原/村上、儒者)	2 3 6 7
寛(完かん・今村)	→	蓮坡(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人)	B 5 1 3 1
寛(かん・井田)	→	信斎(しんさい・井田/田、漢学者)	O 2 2 5 0
寛(かん・坂上)	→	寛(ひろし・坂上さかがみ、国学・歌人)	J 3 7 7 1
寛(かん・河原田かわらだ)	→	春江(しゅんこう・河原田、藩士/儒者/兵学)	M 2 1 7 9
寛(かん・青山)	→	柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者)	C 4 9 6 8
寛(かん・中川)	→	寛(ひろし・中川なかがわ/光石、神職/歌人)	L 3 7 8 5
寛(かん・泉)	→	久寛(ひさひろ・泉いずみ、商家/国学/歌)	L 3 7 2 3
寛(かん・木村)	→	芳衡(よしひら・木村きむら/堀江、藩士/歌)	M 4 7 4 1
簡(かん・広瀬)	→	淡窓(たんそう・広瀬ひろせ、儒者)	2 6 9 3
簡(かん・江村)	→	毅庵(きあん・江村えむら、藩士/儒者)	I 1 6 4 2
簡(かん・本間)	→	菊堂(きくどう・本間ほんま、儒者)	K 1 6 2 0
簡(かん・仲島/角田)	→	九華(きゅうか・角田つのだ/仲島、藩士/儒者)	B 1 6 9 3
簡(かん・木口)	→	皜斎(こうさい・木口きぐち、藩士/儒者)	I 1 9 9 8
簡(かん・大泉/原)	→	松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士)	S 2 2 9 3
簡(かん・武井)	→	子廉(しれん・武井たけい、儒者)	D 2 2 2 4
簡(かん・萩野)	→	降雪(こうせつ・萩野はぎの、絵師)	K 1 9 1 7

簡(かん・宮地)	→	太仲(たいちゆう・宮地みやじ、医者/農学)	K 2 6 6 0
簡(かん・長沼)	→	采石(さいせき・長沼、藩士/国学者)	G 2 0 8 4
桓(かん・小池)	→	岷岡(こんこう・小池こいけ、儒者)	P 1 9 1 8
桓(かん・城戸)	→	広文(ひろぶみ・城戸きど、書家)	H 3 7 0 9
桓(かん・山崎)	→	北華(ほっか・山崎/平、医/俳人/戯作)	E 3 9 4 8
桓(寛かん・本城)	→	紫巖(しがん・本城ほんじょう、藩儒)	P 2 1 8 9
幹(かん・竹内)	→	玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医)	L 1 8 9 5
幹(かん・湯川)	→	麿洞(げいどう・湯川、1815-74、儒者)	E 1 8 9 3
環(かん・高橋)	→	一庵(いちあん・高橋たかはし、儒者)	F 1 1 9 5
環(かん・草加くさか)	→	白根(しらね・一文字、武士/狂歌作者)	D 2 2 1 8
環(かん/たまき・上田/中)	→	天游(てんゆう・中なか、医者/蘭学者)	E 3 0 4 5
環(かん・佐分利)	→	政一(まさかず・佐分利/佐分さぶり、家老)	B 4 0 8 2
環(かん/たまき・満山)	→	雷夏(らいか・満山みつやま、藩儒;教育者)	4 8 2 4
環(かん・坪井)	→	信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医)	2 2 6 5
環(かん・中井)	→	柚園(ゆうえん・中井なかい、儒者)	4 6 8 1
環(かん・竹内/岡崎)	→	千兮(せんけい・岡崎/竹内、俳人)	M 2 4 1 4
環(かん・森川)	→	宗円(そうえん・森川もりかわ/島本、医者)	2 5 7 3
環(かん・鈴木)	→	環(たまき・鈴木すずき、医者/国学)	X 2 6 7 3
環(かん・館松)	→	千足(ちたり・館松たてまつ、神職/国学/歌)	M 2 8 8 1
環(かん/たまき・中山)	→	手巻(たまき・中山なかやま、国学/名主)	Y 2 6 6 5
観(かん・荻生)	→	北溪(ほっけい・荻生/物部/物、儒者)	E 3 9 5 8
観(かん・林/北向)	→	雲竹(うんちく・北向きたむき/林/野田、書家)	D 1 2 9 5
観(かん・村瀬)	→	樸園(れきえん・村瀬むらせ、儒者)	5 1 7 2
観(かん→よくみ・内田)	→	五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文)	F 1 9 5 2
観(かん→よくみ・法道寺)	→	善(よし・法道寺、五観門和算家)	K 4 7 2 4
観(かん・金本)	→	摩斎(まさい・金本かなもと、儒者/詩)	B 4 0 2 4
監(かん・鷺津)	→	毅堂(きどう・鷺津わしづ、儒者)	G 1 6 0 1
監(かん・中沢)	→	智山(ちざん・中沢ながざわ、儒者/私塾)	E 2 8 2 8
冠(かん・内山)	→	青藍(せいらん・内山うちやま、儒者)	J 2 4 7 2
鑒(かん・尾本)	→	雪斎(せつさい・尾本おもと/大江、儒者)	L 2 4 0 0
鑑(かん・宇野)	→	士朗(しろう・宇野うの/宇、儒者)	D 2 2 2 8
鑑(かん・長村)	→	靖斎(せいさい・長村ながむら、藩士/儒者)	I 2 4 2 0
館(かん・桜井)	→	雪館(せつかん・桜井さくらい/桜、絵師)	K 2 4 7 9
かん(・佐久間)	→	立枝(たつえ・佐久間、歌人)	R 2 6 5 5
眼(がん)	→	素阿(そあ、素眼そがん/そげん、時宗僧/連歌)	2 5 3 4
岩(がん・西河)	→	岩(いわ・西河にしかわ、歌人)	K 1 1 8 3
崑(がん・久米)	→	崑(いわお・久米くめ、国学/歌/神職)	K 1 1 1 7
巖(がん)訓はすべて	→	巖(いわお)	

D1538 卷阿(かんあ・加藤かとう、名;既明/字;七文)?-1787 江戸俳人・柳居門、1766「真向翁」編、1772「おくやま椿」74「四方のあき」編/81「都の三保」著、「山畚やまもっこ」編、[卷阿の別号] 貫阿/如雪庵/如雪道人/方円居/浮亀庵

P1590 観阿(かんあ) ? - ? 江戸前期大和奈良の浄土宗愛染院住持、1656「本朝四度宗論記」著

P1591 観阿(かんあ;法諱、法諱:得法院、俗姓堀川)?-?1868頃没 京の真宗本願寺派専修寺住職・月珠門、「四部雜纂」編/「先哲講辯叢誌」「本願成就文一滄録」著

U1540 観阿(かんあ;法諱、) 1801 - 1861 河内額田郡の玄清寺22世住職、国学者

観阿(かんあ)	→	観阿弥(かんあみ、清次、能楽)	1 5 4 5
観阿(かんあ、権僧正)	→	伝雄(でんゆう・観阿、僧/詩歌)	E 3 0 4 8
観阿(かんあ;法名)	→	泰時(やすとき・北条ほうじょう/平、執権/歌)	4 5 2 6
観阿(かんあ)	→	吾扇(ごせん・中野なかの、俳人)	D 1 9 1 7

- 観阿(かんあ;号) → 大察(だいさつ;法諱・観阿、浄土僧) K 2 6 0 0  
 還阿(かんあ・暁譽) → 位産(いさん;法諱、浄土僧) F 1 1 5 5  
 喚阿(かんあ・白蓮社) → 信罔(しんがい;法諱、浄土僧) O 2 2 0 5  
 C1563 眼阿(がんあ) ? - ? 室後期時宗僧/連歌;  
 1482通直「大山祇社法楽連歌」(万句)/87宗祇「葉守千句(珠玉庵千句)」参  
 眼阿(がんあ) → 素阿(そあ、素眼そがん/そげん、時宗僧/連歌) 2 5 3 4  
 願阿(がんあ;号) → 恵頓(えとん;法諱、浄土僧) E 1 3 1 4  
 巖阿(がんあ・渡辺) → 質(ただす・渡辺わたなべ、医者/漢学) P 2 6 6 2  
 観阿居士(かんあこじ) → 以菴(いはく、歌人) B 1 1 8 3  
 1545 観阿彌(かんあみ、結崎ゆうさき・秦、名;清次、山田猿樂の美濃大夫養子) 1333-8452 能役者・作者、  
 観世大夫初世、大和猿樂四座の1;結崎座棟梁、謡に曲舞節を加えた新風の演技を創始/  
 物真似と歌舞を融合した能を著作、1374頃京今熊野興行;義満の面前で翁を舞う、  
 以後将軍抱役者の地位獲得、1384駿河浅間社演能;同地没、息子世阿弥と能楽の基礎確立、  
 能作品;「自然居士」「通小町」「卒塔婆小町」「百万」「江口」「金札」「求塚」等、  
 [観阿彌の通称/法名]幼名;観世丸、通称;観世三郎、法名;観阿弥陀仏  
 菅阿弥(かんあみ) → 年風(としかぜ/ねんふう・梅田、絵師/俳人) M 3 1 1 5  
 P1592 間庵(かんあん・安東あんど、名;守官、仕学斎しがくさい男) 1722-180382 筑後柳川藩儒、  
 儒;1740中村蘭林門、帰郷後藩主侍読/1789自邸に藩学問所設置;教授/92致仕、  
 「間庵詩文集」「離筵唱和」「間庵詩稿」「舜水先生安南節義物語」著、「仕学斎文集」編、  
 「間庵遺稿」、  
 [間庵の字/通称/別号]字;虞民、通称;幾治、別号;富春子  
 環庵(かんあん;号) → 天恕(てんじょ;法諱、浄土僧) D 3 0 7 9  
 寛庵(かんあん・田中) → 麗山(れいざん・田中たなか/源、漢学者) 5 1 3 0  
 鑑安(かんあん・朽網) → 宗歴(むねゆき・朽網くたみ/入田、武将) C 4 2 7 5  
 D1539 観意(かんい;法諱、俗名;斎藤基永、四郎左衛門、基高男) ?-? 鎌倉期京在任の武家;左衛門尉、  
 出家;僧/歌人/連歌、津守国助/大江頼重/藤原為家らと交流、基有/基任/基世/基明の父、  
 勅撰12首;続拾遺(674)新後撰(1087/1283/1384)玉(2048)続千(499/829/1448)、  
 続後拾(517/646)新千(757/1942)、  
 [夕暮は衣手寒き秋風にひとりや越えん白河の関](続拾;羈旅674)  
 D1540 寛伊(かんい;法諱、大納言僧正、鷹司伊平男) 1236-9560 鎌倉中期真言僧;兼恵門/山城安祥寺僧正、  
 1293権僧正/94東寺長者、歌人;「安撰和歌集」入、新拾遺1522、  
 [憑たのむぞよ御法の駒をすすめても跡に迷ふなをののふる道](新拾;釈教1522、  
 大僧正成恵に法流のことを申し置くとして詠む)  
 P1593 寛伊(かんい) ? - ? 鎌倉後期天台宗叡山阿闍梨/歌;「比叡社歌合」参加、  
 [花の色は霞む雲間にほのみえて朝日うつろふ春の山の端](比叡社歌合;七番左)  
 観意(かんい;法名) → 忠嗣(ただつぐ・松殿/藤原、大納言/歌) F 2 6 2 8  
 成一(かんいち/みないち?・中村) → 嘉田(かでん・中村なかむら、儒者) O 1 5 1 1  
 簡一(かんいち・周布すぶ) → 五郎左衛門(ころうざえもん・周布兼親、藩士) P 1 9 0 7  
 貫一(かんいち・佐藤) → 陶崖(とうがい・佐藤さとう、医者/陶工) C 3 1 0 1  
 寛一(かんいち・齋藤) → 寛一(ひろかず・齋藤さいとう/藤原、歌人) J 3 7 6 9  
 くわん一(かんいち・植山) → 梅之(ばいし・植山うえやま、検校/歌人) B 3 6 3 5  
 貫一斎(かんいちさい) → 佐久(すけひさ・松原まづら/佐藤、家老/故実) P 2 3 4 3  
 貫一郎(かんいちろう・片山) → 高岳(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学) L 2 6 6 3  
 貫一郎(かんいちろう・長沢) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3  
 貫一郎(かんいちろう・山崎) → 弓雄(ゆみお・山崎、国学者/教育) G 4 6 1 0  
 貫一郎(かんいちろう・砂川) → 義制(よしのり・砂川いさかわ/柴田、藩士/国学) L 4 7 5 1  
 勘一郎((かんいちろう・米屋) → 寛至(ひろゆき・浜中はまなか、国学者/歌) K 3 7 6 5  
 環一郎(かんいちろう・玉置) → 讓斎(じょうさい・玉置たまき、藩士/兵学) S 2 2 3 8  
 1584 閑院(かんいん) ? - ? 平安前期延喜901-923頃;命婦、  
 源昇・藤原忠房・平定文らと交渉、

歌;勅撰5首:古今(740・837)後撰(225・117)新拾(1299)、  
[逢坂の木綿ゆふつけ鳥りにあらばこそ君が行き来きをなくも見め](古今;恋740、  
中納言源昇が近江介の時に贈る歌/都の境界でお祓い用の木綿をつけた鶏)  
閑院の御と同一? → 閑院の御(かんいんのご、後撰集歌人) D 1 5 4 2

P1594 閑陰(かんいん;法諱、号;荊忍子)?-? 江前期天台宗尾張春日井石山寺の住僧、  
1698「念仏和歌」著

P1595 貫允(かんいん、貫充かんじゅうとも?、通称;興雲堂/得乗坊)?-? 江中期天台宗東叡山の僧、  
1785「教行枢機指事」、「維摩詰経三観」「玄義籤録雑糅記」著

観胤(かんいん・戴) → 独立(どくりゅう;道号・性易しょうえき;法諱、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6

漢陰(かんいん・百々) → 俊徳(しゅんとく・百々どど、医者) L 2 1 6 7

寛蔭(寛陰かんいん・白井) → 寛蔭(寛陰ひろかげ・白井/宮下、国学者) F 3 7 6 5

寛胤(かんいん・白井) → 寛胤(ひろたね・白井しらい、藩士/日記) G 3 7 2 9

寛胤(かんいん・轟木) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2

幹員(かんいん・佐藤) → 幹員(もとかず・佐藤さとう、詩人/俳人) C 4 4 2 7

閑院親王(かんいんしんのう) → 貞元親王(さだもとしんのう、歌人) C 2 0 5 5

閑院贈太政大臣(かんいんぞうだいじょうだいじん) → 能信(よしのぶ・藤原/閑院、歌) F 4 7 5 3

閑院按察(かんいんのあぜち) → 公通(きんみち・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 6 9

D1541 閑院大君(かんいんのおおぎみ、源宗于むねゆき[?-939]女むすめ)?-? 平安前期歌人、閑院の御の姉か?、  
元良親王・藤原師尹もろまさ・源巨城おおきらと交渉;「大和物語」入/「元良親王集」入、  
勅撰5首;後撰(736/1248/1326)拾遺(986)続古今(1107)、  
[誰となくかゝるおほみに深からん色をときはにいかゞ頼まん](後撰;恋736/返歌、  
大忌衣のあなたに変わらぬ深い色を期待できない、  
藤原師尹が五節所の閑院大君[舞姫だったか]に贈る歌;  
常磐なる日陰のかづら今日しこそ心の色に深く見えけれ、  
冠の左右に垂らした常緑の日陰蔓のように私の心は深く色変りしない)

閑院大臣(かんいんのおとど) → 冬嗣(ふゆつぐ・藤原、左大臣/詩歌) 3 8 1 8

D1542 閑院の御(かんいんのご・かんいんのみこ、南院の今君、源宗于女?/是忠親王の養女)?-? 平安前期、  
閑院尚侍貴子(藤原忠平女)の女房、師尹もろまさ/元良親王/敏行/源巨城らと交渉、  
後撰1130、  
閑院大君の妹か?、元良親王集の閑院中君/閑院三君も同一か?  
[我がのりしことをうしとや消えにけん草葉にかゝる露の命は](後撰;雑1130、  
牛車を借りてその牛が死んだので贈る歌);  
大和物語109段では源宗于女が源巨城の牛を借りたことになっている

D1543 閑院五御子(かんいんのごのみこ、雄法[河]王の女?or宇多天皇皇女)?-? 平安前期歌人、古今857、  
[かずかずに我を忘れぬものならば山の霞をあはれとは見よ](古今857)  
(敦慶親王[887-930]の妃;帳台の紐に結ばれた遺書/辞世の歌)  
雄法[河]王の女なら広井女王(859没80余歳)(古今集目録説)[歌の詞書/時代が合わない]  
→ 広井女王(ひろいによおう、催馬楽歌名手) F 3 7 5 5  
宇多天皇皇女なら均子内親王ひとしきのみこ(敦慶親王妃890-910;21歳夭逝)(勅撰作者部類説)  
[古今成立年代(905頃)と合わない]

→ 均子内親王(きんしなしいんのう、後撰歌人) H 1 6 9 6

閑院左大臣(かんいんのさだいじん) → 冬嗣(ふゆつぐ・藤原、左大臣/詩歌) 3 8 1 8

閑院三親王(かんいんのさんのみこ) → 貞元親王(さだもとしんのう) C 2 0 5 5

閑院大将(かんいんのだいしょう) → 朝光(あさみつ・藤原、歌人) 1 0 4 8

閑院太政大臣(かんいんのだいじょうだいじん) → 公季(きんすえ・藤原、日記) E 1 6 1 7

閑院大納言(かんいんのだいなごん) → 公通(きんみち・藤原、歌人) E 1 6 6 9

閑院大納言(かんいんのだいなごん) → 朝光(あさみつ・藤原、歌人) 1 0 4 8

閑院宮(2代かんいんのみや) → 典仁親王(すけひとしんのう、歌人) C 2 3 8 9

D1544 寛胤法親王(かんいんほつしんのう、後安祥寺殿、後伏見天皇皇子)1309-7668 母;東御方(正親町実明女)、  
幼少時;真言宗勧修寺かんじゅじに出家/安祥寺寺務/1337勧修寺15世長吏/38東大寺別当、

1360東寺長者法務/67東大寺別当/73辞職;高野山隱棲、歌;風雅2068・新千2126、菟5句入、  
[長き夜の闇のうつつに迷ふかな夢を夢とも知らぬ心に](風雅;釈教2068、  
未得真覺恒処夢中ということ詠む)

G1509 寒鳥(かんう・井上いのうえ、名;清雅、寒瓜かんか男)1733-9462 播磨姫路の俳人、  
1766「一葉の数」89「五々の秋」編、

[寒鳥の別号] 丹頂堂3世/風羅坊5世/春曙庵/称桜坊/十百齋、寒鴻/寒桐の父

甘雨(かんう;法諱) → 為霖(いりん;字・甘雨、曹洞僧) I 1 1 3 9

甘雨(かんう/甘雨亭) → 勝明(かつあき・板倉いたくら、藩主/儒者) C 1 5 3 9

甘雨亭(かんうてい) → 介我(初世かいが・佐保、俳人) 1 5 9 3

P1596 間雲(かんうん・喜多村きたむら/津軽つがる、名;政方、喜多村源八政広男)1682-172948 陸奥弘前藩士、  
母;山鹿素行女鶴女、弘前藩家老の父の死後誕生のため生後すぐに家督嗣、  
1715(正徳5/34歳)家老に就任;殖産興業推進;領内経営に功績、儒学/詩文/山鹿流兵学修学、  
藩史編纂を企画;古記録や古文書を蒐集、

1710「山鹿志」、「武治提要」「武教全書諸説評論家伝秘書」「雨窓客論」「寒燈隨筆」、

「甲陽戦略便義」「兵機全集」「略四書分類」「武教衛葵録」「間雲堂詩集」「間雲堂文稿」外著多、

[間雲の幼名通称/別号]幼名;長命、通称;平十郎/監物/校尉、

別号;城門郎/耕道[軒]/間雲堂/一花翁、喜多村久通・建部綾足の父

閑雲(かんうん;号) → 宗興(しゅうこう;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 2 2

閑雲(かんうん) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8

閑雲(かんうん・下沢) → 保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌) G 4 5 0 0

閑雲(かんうん・堀田) → 幾千女(きちよ・堀田ほった/松平、歌・書) V 1 6 1 6

寒雲(かんうん;号) → 宗室(8世そうしつ・千せん、茶人/裏千家11世) H 2 5 6 8

観雲(かんうん;号) → 環中(かんちゅう;号・禅機、臨濟僧) R 1 5 3 7

看雲(かんうん;道号) → 稽洲(けいしゅう;法諱・玉澗、臨濟僧) G 1 8 0 1

看雲(かんうん・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5

閑雲軒(かんうんけん) → 仍春(じょうしゅん・里村、幕府連歌師) T 2 2 1 1

玩雲斎(がんうんさい) → 季平(すえひら・武久たけひさ/松岡、藩士/歌) I 2 3 7 5

閑雲散人(かんうんさんじん) → 周鳳(しゅうほう;法諱・瑞溪;道号、臨濟僧) 2 1 4 9

看雲子(かんうんし) → 松窠(しょうか・中江なかせ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9

看雲栖(かんうんせい) → 嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人) K 2 2 7 2

閑雲堂(かんうんどう) → 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、儒者/詩人) J 1 5 5 1

閑雲楼(かんうんろう) → 鷺十(路時雨ろじゅう、恵乘;本願寺派僧/俳人) B 5 2 7 5

看雲楼(かんうんろう) → 西浦(せいほ・三宅みやけ、絵師) O 2 4 5 1

D1545 恒恵(かんえ;法諱、号;岡崎、太政大臣洞院公賢男)?-?195存 母;小倉実教女、叡山実乘院の大僧正、  
南北期歌人、1364?「一万首作者」入/69法華八講参加、新後拾遺1436、

[思ひねのそのままならば行く末のわがあらまはしは夢にみてまし](新後拾;雑1436)

観恵(かんえ;法名) → 長時(ながとき・北条/赤橋、執権/歌人) E 3 2 6 9

観恵(かんえ;号) → 長舜(ちやうしゅん;法諱、天台僧/歌人) I 2 8 8 0

寛恵(かんえ;字) → 日善(にちぜん;法諱・即妙院、日蓮僧) C 3 3 6 7

H1501 寛叡(かんえい、仁、俊忠男)? - 1178 僧、忠親「山槐記」入

W1539 観英(かんえい;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の法師、1237刊[檜葉集]4首入、  
[修南院にて月をよめる、

あまの河やそのふなつに霧はれてとわたる月のかげぞさやけき](檜葉;秋236)

[聖教院童の亀王の没後49日の法事後に亀王かむわの硯のすみのつつみがみに書付る、

なきあとにのこれるまつのけぶりこそはれぬ思ひのかたみなりけり](檜葉;雑710)

恒叡(かんえい;字) → 日智(にちち;法諱・通本院、日蓮僧) F 3 3 0 6

巖影(がんえい・中西) → 久受(ひさつぐ・中西/大中臣、神職/歌) B 3 7 3 8

寛永太上皇(かんえいたいじょうこう) → 後水尾天皇(ごみずのおてんのう、古典/歌) D 1 9 8 9

寛永三筆(かんえいのみさんびつ); 江戸初期多彩な書を残した3人の書家

→ 光悦(こうえつ・本阿弥、鑑定/茶)1558-1637 1 9 0 5

- 信尹(のぶただ・近衛、関白/歌/連歌) 1565-1614 3 5 0 8  
 → 昭乗(しょうじょう・松花堂、僧/茶) 1584-1639 2 1 8 6
- 簡易(かんえき・江村) → 如亭(じよてい・江村、儒者/本草家) C 2 2 8 2  
 玩易斎(がんえきさい) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩歌) E 3 1 5 3  
 玩易斎(がんえきさい) → 宗六(そうろく・佐々木/源、書家) J 2 5 2 4
- G1510 観益道人(かんえきどうじん) ? - ? 僧、噺家、1834噺本「如是我聞」著、  
 ;漢文体の戯文/笑話を著
- 観奕道人(かんえきどうじん) → 金鶏(金雞きんけい・奇々羅/畑、医/狂歌/戯作) 1 6 6 0  
 閑悦(かんえつ・松下、坊主衆) → 平生三里季保(へいぜいのさんりすえやす、狂歌) 2 7 5 9  
 観恵坊(かんえぼう) → 覚空(かくくう、僧/歌人) B 1 5 4 1  
 勘右衛門(かんえもん・馬場) → 信貞(のぶさだ・馬場道与、兵法家) B 3 5 4 7  
 勘右衛門(かんえもん・杉山) → 大象軒(たいざうけん・杉山当太、兵法家) K 2 6 5 7  
 勘右衛門(かんえもん・横山) → 吉春(よしはる・横山よこやま、古流兵法家) G 4 7 0 7  
 勘右衛門(かんえもん・野田) → 中洲(ちゅうしゅう・野田、藩士/儒/詩文) G 2 8 1 9  
 勘右衛門(かんえもん・寺嶋) → 宣義(のぶよし・林/寺嶋、歌人) D 3 5 9 3  
 勘右衛門(かんえもん・杉木) → 正珍(まさつら・杉木すぎき/秦、神職/歌) U 4 0 0 2  
 勘右衛門(かんえもん・深井) → 景周(かげちか・深井ふかい、武道家) L 1 5 0 0  
 勘右衛門(かんえもん・佐原) → 良屋(かたすえ・佐原さわら、幕臣) M 1 5 9 6  
 勘右衛門(かんえもん・河野) → 通喬(みちたか・河野こうの、幕臣) B 4 1 7 0  
 勘右衛門(かんえもん・本多) → 直盛(なおもり・本多ほんだ/笹瀬、幕臣) O 3 2 7 2  
 勘右衛門(かんえもん・山本) → 青城(せいじょう・山本、家老/儒者) C 2 4 2 6  
 勘右衛門(かんえもん・戸田) → 元周(もとちか・戸田、国学者) D 4 4 0 3  
 勘右衛門(かんえもん・岡本) → 況斎(きょうさい・岡本、儒/国学者) I 1 6 7 9  
 勘右衛門(かんえもん・吉田) → 守尚(もりなお・吉田、藩士/与力/奇談集) G 4 4 0 4  
 勘右衛門(かんえもん・遠田) → 自省(よりみ・遠田とおだ、藩士/日記) J 4 7 7 8  
 勘右衛門(かんえもん・遠田) → 自延(よりのぶ・遠田とおだ、藩士/書簡) J 4 7 4 2  
 勘右衛門(かんえもん・志村) → 五城(ごじょう・志村むら、藩儒/詩文) G 1 9 4 6  
 勘右衛門(かんえもん・松崎) → 義克(よしかつ・松崎まつざき、国学者) C 4 7 8 7  
 勘右衛門(かんえもん・下郷/千代倉) → 蝶羽(ちょうう・下郷/下里、醸酒業/俳人) H 2 8 2 6  
 勘右衛門(かんえもん・下郷/千代倉) → 伝芳(でんぼう・下郷/千代倉、商家/俳人) E 3 0 3 1  
 勘右衛門(かんえもん・中村) → 直斎(ちよくさい・中村、藩士/儒者) K 2 8 2 7  
 勘右衛門(かんえもん・間宮) → 宗好(むねよし・間宮まみや、国学者) C 4 2 8 8  
 勘右衛門(かんえもん・加藤) → 正行(まさゆき・加藤かとう、幕臣/記録) I 4 0 3 5  
 勘右衛門(かんえもん・亀屋) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8  
 勘右衛門(かんえもん・藤屋) → 桃隣(5世とうりん・山口/加藤、俳人) I 3 1 3 8  
 勘右衛門(かんえもん・石尾) → 氏一(うじかず・石尾いしお/藤原、幕臣) D 1 2 5 4  
 勘右衛門(かんえもん・和泉屋) → 三孝(さんこう・徳亭とくてい、狂歌/戯作) E 2 0 3 1  
 勘右衛門(かんえもん・伊吹) → 正健(まさよし・伊吹いぶき、藩士/国典) I 4 0 7 5  
 勘右衛門(かんえもん・小津) → 信厚(のぶあつ・小津おつ/長井/大泉、国学) H 3 5 5 9  
 勘右衛門(かんえもん・米屋) → 寛至(ひろゆき・浜中はまなか、国学者/歌) K 3 7 6 5  
 勘右衛門(かんえもん・芝原) → 音信(おとずれ・荻廼屋、国学/狂歌/歌) D 1 4 2 6  
 間右衛門(かんえもん・長橋) → 菜園道間戸(かえんみちまど、長橋、狂歌) P 1 5 9 8  
 寛右衛門(かんえもん・三浦) → 竜山(りゅうざん・三浦みくら/黒坂、儒者/藩士) E 4 9 1 6  
 寛右衛門(かんえもん・三浦) → 葛山(かつざん・三浦、竜山男/藩士/儒者) N 1 5 3 5  
 貫右衛門(かんえもん・山口) → 西里(さいり・山口やまぐち、儒者/教育) P 2 0 7 0  
 幹右衛門(かんえもん/みきえもん・佐々木) → 孝政(たかまさ・佐々木、儒者) N 2 6 1 8  
 菅右衛門(かんえもん・武嶋) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2
- D1546 堪円(湛円かえん/たんえん;法師)?-? 1034存 平安期;伊予天台僧/叡山阿闍梨、慈覚門徒、  
 歌人、後拾遺473(筑紫より上る時に滞在していた家主に贈る歌)、  
 [山の端に月影見えば思ひいでよ秋風吹かば我も忘れじ](後拾遺;別473)

- W1537 **寛円**(かんえん;法師、) ? - ? 鎌倉前中期;興福寺僧/法師、松陽院住、歌人;檜葉集2首入、  
[嘉禎二(1235)年二月十二日の風に住みける松陽院の桜をねごめにふきをられて、ちるをだにつらしと思ひし花の木のまたこむ春もまたずなりぬる](檜葉;春41)
- P1597 **灌園**(かんえん・岩崎いさき、名;常正/万、儀左衛門男)1786-1842<sup>57</sup> 幕府徒士・本草学者;江戸周辺の動植物を解明、自宅で本草会催、シボルトと対談;肖像画、1804「葉価集」10「本草図説」18「草木育種」24「武江産物志」28「本草図譜」、  
「介虫写生図譜」「灌園花譜」外著多数、「岩崎灌園遺稿」、1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂に参加、  
[灌園の字/通称/別号]字;土方、通称;源蔵/源三、別号;又玄堂ゆうげんどう、法号;梅林院
- 灌園(かんえん・安藤) → 親重(ちかしげ・安藤、神職/国学/故実) 2 8 9 7  
灌園(かんえん・皆川) → 篁斎(こうさい・皆川みながわ、儒者) B 1 9 1 6  
灌園(かんえん・増山) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0  
灌園(かんえん・本田) → 山雪(さんせつ・本田ほんだ、書家) M 2 0 5 3  
灌園(かんえん) → 驥六(きろく・武田/竹田、酒造業/俳人) H 1 6 7 0  
灌園(かんえん・五足斎) → 五足斎灌園(ごそくさいかんえん、狂歌作者) F 1 9 7 4  
干堰(かんえん・大神) → 茂興(しげおき・大神おのが/大三輪、神職) N 2 1 7 3  
貫淵(かんえん) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
貫円斎(かんえんさい・小森) → 義貞(よしさだ・小森こもり、和算家) K 4 7 3 7
- P1598 **栞園道間戸**(かんえんみちまど、長橋ながはし、名;眉元/字;武民)?-? 大阪狂歌:桃李園栗窓くりまど社中、1834「狂歌柳葉集」編、「桃李園社中狂歌詠草」著、  
[栞園道間戸の通称/別号]通称;間右衛門、別号;桃李園/栞園道窓かんえんみちまど
- 灌園房清溢(かんえんぼうせいいつ) → 清溢(せいいつ・灌園房、華道家) H 2 4 3 8
- G1511 **観応**(かんおう;法諱、号;巧智房)1656-1710<sup>55</sup> 下野真言僧;智積院運敵門、秘法修学;慶宜門、報恩院流;有雅門、1687辞書「真言補忘記ぶもうき」(真言新義派論義)、88「初学暗誦要文」編、「開合名目抄」「華嚴五教章」「伝法灌頂胎蔵界式幸聞記」「父母恩重経科註首書」著
- G1512 **菅翁**(かんおう・草官散人) ? - ? 読本、1770「垣根草」著、  
庭鐘と同一説あり → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医/読本) B 3 0 2 0
- P1599 **閑鷗**(かんおう・星野ほしの、通称;次郎右衛門/別号;木枯庵)?-? 江中期駿河沼津の俳人、1726「小倉百しほ染」79「雨のやどり」著
- G1513 **菅翁**(かんおう) ? - ? 江戸住雑俳点者、1839一声「歌羅衣」入
- Q1500 **完鷗**(かんおう・鈴木すずき、通称;安五郎/別号;二不軒)?-1881 江後期武州柴又の俳人、1854「そのうつき」著
- 莞翁(かんおう・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2  
間翁(かんおう) → 竹亭(ちくてい、佐野さの、儒者/詩文) D 2 8 5 2  
間翁(かんおう・志自岐) → 小楯(おたて・志自岐じき/鎌奥、藩士/歌) D 1 4 9 5  
桓翁(かんおう・瀬尾) → 柳斎(りゅうさい・瀬尾/妹尾せのお/藤原、古銭学) E 4 9 0 7  
管翁(かんおう・中村) → 大蔭(おおかげ・中村なかむら、大庄屋/国学) E 1 4 0 2  
寛翁(かんおう) → 輔幹(すけもと・岡田寛、儒詩、国学) H 2 3 2 3  
寛翁(かんおう・尾池) → 桐陽(とうよう・尾池おいけ、医者/詩人) H 3 1 8 3  
寛翁(かんおう・岡田) → 輔幹(すけもと・岡田おかだ、藩士/儒者/詩) H 2 3 1 3  
寛翁(かんおう・木村) → 芳衡(よしひら・木村きむら/堀江、藩士/歌) M 4 7 4 1  
貫翁(かんおう・九鬼) → 隆都(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城) N 2 6 0 9  
閑鷗(閑翁かんおう) → 敬豊(のぶとよ・瀬下せしも、国学/俳人) G 3 5 4 0  
閑鷗(かんおう・上杉) → 清憲(きよりの・上杉うえすぎ、商家/歌人) T 1 6 5 9  
閑翁(かんおう・藤田) → 安貞(やすさだ・藤田/北川、藩士/奉行) B 4 5 4 7  
閑翁(かんおう・鈴木) → 石橋(せつきょう・鈴木、儒家/教育者) E 2 4 1 4  
閑翁(かんおう・中川) → 忠瑗(ただみつ・中川なかがわ、国学/歌人) Y 2 6 5 1  
冠翁(かんおう・菅) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1  
寒翁(かんおう・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3

- 感媼(かんおう・井上) → 通女(つうじょ・井上/三田、侍女/歌人) 2901  
 観翁(かんおう・井口) → 白華(はくか;道号・妙音;法諱、臨濟僧) C3682  
 観翁(かんおう・服/服部) → 南郭(なんかく・服部はつとり、儒/詩歌) 3231  
 鑑翁(かんおう→かんのう;道号) → 士昭(ししょう;法諱、南北期臨濟僧) T2174  
 観応(かんおう;法諱) → 玉屑(ぎょくせつ;号・観応;法諱、真言僧/俳人) D1603
- D1547 **岩翁**(巖翁かんおう・多賀谷たがや、通称;長左衛門)?-1722 江戸幕府桶御用商人、俳人:其角門、  
 1678「鱗形」入/80「桃青門弟独吟廿歌仙」独吟入/96「若葉合」編、「続虚栗」「花摘」「猿蓑」入
- D1548 **頑翁**(がんおう・清水しみず、名;逸/字;伯民はくみん/通称;利右衛門、本姓;源) 1712-9382 長崎篆刻家、  
 今体派、画;清人伊孚九門、彫刻/書;丁書岳・徐長行門、  
 「頑翁印譜」、「養和堂印譜」・1756「雕虫館印譜」著
- G1514 **玩鷗**(がんおう・太田おた、修姓;賀/田、寄隆男/本姓;甲賀) 1745-1804/11?60/67 京or倉敷生、  
 儒;南宮大湫門;1765-72師と江戸下向/父と広幡家出仕/従六下近江介、詩;江村北海門、  
 1789詩社結成/1796位官返上/山城淀藩儒(藩主招聘)、「玩鷗詩集」「笑明詩」「非詩話」著、  
 備中儒者岡窪汀かくてい[開上老隠]と同門(江村北海門)、  
 [玩鷗(;号)の名/字/通称/別号]名;隆玄/象、字;伯魏、通称;栄助/左衛門、  
 別号;鶴汀/拙窩/開上老隠こうじょうろういん
- 頑翁(がんおう・大原) → 観山(かんざん・大原おほら、儒者) H1565  
 頑翁(がんおう・大森) → 杖信(じょうしん・大森おほり、茶道家) K2206  
 寒翁斎(かんおうさい) → 焉馬(えんば・烏亭、俳/狂歌/落語) B1333  
 閑鷗舎(かんおうしゃ) → 登舟(としゅう・閑鷗舎、俳人) O3105  
 頑翁了愚(がんおうりょうぐ) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩) H4013  
 崑屋(がんおく・館森) → 古道(たけみち・館森たてもり、儒者/歌人) Y2612  
 観音院僧正(かんのいんのそうじょう) → 済信(さいしん;法諱、真言大僧正) G2077  
 観音院僧都(かんのいんのそうず) → 延尋(えんじん;法諱、真言僧) F1307  
 観音院太后(かんのいんのたいごう) → 昌子内親王(しょうし、朱雀皇女/冷泉皇后) J2247  
 翰音斎主人(かんのさいしゅじん) → 鉄鷄(てつけい・畑はた、医者) C3026  
 感恩斎(かんのさい・松浦) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B2476  
 観音寺(かんのじ) → 公名(きんな・西園寺、太政大臣/歌) E1635
- Q1501 **灌花**(かんか) ? - ? 江中期肥前の俳人、  
 1717「歳旦駒立」19「享保四年歳旦」編/14「五十韻扇」著
- D1549 **寒瓜**(かんか/かんが・井上いのかげ、名;等清/芽清、千山男) 1687-176579 播磨姫路の俳人;父門/惟然門、  
 1743父の志を継承し風羅堂建造;芭蕉の遺物安置、芭蕉忌・惟然33回忌催行、  
 1730惟然追悼「蓑の雫」編/36「年の雲」/44蕉翁半百忌「雪の棟」/58「梅の紅」散木葉」編、  
 1732父追悼「霜の葉」編/50父追悼13回忌追善「五五の冬」編、寒鳥の父  
 [寒瓜の別号] 桐笑翁/丹頂堂2世/春曙堂/風羅堂/十月堂
- Q1502 **簡窩**(かんか・田代たしろ、名;政嗣まさかま/幼名;桂四郎、政定男) 1790-186980 肥後人吉藩士;  
 兄政典の養子、1821郡奉行/29用人/45-63家老/65再度家老、儒;辛島塩井/樺島石梁門、  
 槍術/馬術を修得、妻;上原門兵衛女、1853藩命で「求麻くま外史」編纂、  
 1862「司馬法旁詮」66「尉繚子旁詮」著、  
 [簡窩の字/通称/別号]字;李順、通称;忠助/忠左衛門、別号;自養/水哉亭、法号;自養斎
- D1550 **観鷺**(かんが・永田ながた/修姓;永、名;忠原/字;俊平) 1738-9255 京の儒者・服部蘇門/江村北海門、  
 経史/暦法に精通/能書、六如(慈周)と親交、1764「嘯社吟稿」69「熙朝儒林姓名録」編、  
 1771「蘇門文鈔」編/73「詩語聯璧」/74「麟鳳」の大書、「観鷺堂詩集」「書家童蒙訓」著、  
 [観鷺の別号] 東皐/黎祁れいき道人、西河せいかの父、女婿;岡崎鶴亭かくてい
- G1515 **閑鵝**(かんが・箱島はこしま、初号;浙江せつこう、阿誰あずい男)?-? 下総関宿の俳人:宋阿門、蕪村と交友、  
 1775「果報冠者」編:閑鵝に改名披露記念(夢に群鷺の遊びを見て改名)、  
 1776「その人」編、1776几董「続明鳥」(629)/1783維駒「五車反古」(125)入、  
 [姑の鬼もこもれる十夜じふやかな](続明鳥;629/十夜は浄土宗10月5日~15日の念仏法要)
- Q1503 **貫河**(かんが・石川いしかわ、名;平直/字;君義、別号;達堂) 1781-185979 三河横須賀の絵師;岸駒門、  
 詩書に精通、岡崎住、1837「松蘭譜」画

[惟成(；名)の通称/号]通称；松之丞、号；

- 完瓦(かんが・篠田) → 惟成(これなり・篠田しのだ、藩士/歌人) Q 1 9 9 0  
桓雅(かんが；字) → 一瓢(いっぴょう・川原かわはら、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3  
喚我(かんが・墨十庵) → 文和(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人) G 3 8 8 8  
閑雅(かんが；俳名) → 寿来(じゅらい・宝田たからだ、歌舞伎作者) J 2 1 0 9  
貫雅(かんが・土肥) → 鹿鳴(ろくめい・土肥どひ、儒者；易説) B 5 2 0 9  
灌河(かんが・百川堂) → 茂喬(しげたか・文屋ぶんやの、書肆/狂歌) C 2 1 3 2  
園雅(かんが；字) → 日従(にちじゅう；法諱、茂蘭、日蓮僧) C 3 3 2 0  
G1516 岩下(がんか) ? - ? 加賀小松の俳人；1776樗良「誹諧月の夜」入、  
[身ひとりや菴あんに更け行く後のちの月](月の夜；167/九月十三夜)  
巖華(がんか・大石) → 久敬(ひさたか・大石/古賀、藩士/農政) B 3 7 2 3  
閑画庵(かんがあん) → 顕(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1  
1546 観海(かんかい・松崎まつさき、名；惟時、観瀾男) 1725-7551 丹波篠山藩士；儒(家学)；父門/春台門、  
1746家督/馬廻役/1764席次下大夫/65世子舖傳役兼侍読、詩；高野蘭亭門、蕃山の論に共鳴、  
1748「来庭集」72「観海集」、「論語記聞」「観海楼論語記聞」著、南畝の師、  
[観海の字/通称] 字；君脩/子黙、通称；才蔵、法号；観海紹濤  
Q1505 観海(かんかい；法諱) 1769 - 181547 武州豊島の真言宗大竜寺3世・光海門、  
1791「安流聖教伝授録」著  
D1551 観海(かんかい・小崎おさき、名；知節)?-? 江戸前期文筆家、1693随筆「仮寝夢」著  
観海(かんかい) → 観山(かんざん、茶人) Q 1 5 7 7  
函海(かんかい；道号) → 禅慧(ぜんえ/ぜんね、法諱・函海、臨濟僧) L 2 4 6 9  
閑海(かんかい・藤田) → 貞升(定升さだます・藤田、藩士/和算家) J 2 0 7 5  
寛海(かんかい；法諱) → 既醉(きすい；号、茂蘭2世/真言僧/俳人) B 1 6 3 1  
寛海(かんかい；字) → 豪潮(ごうちょう；法諱・寛海；字、天台僧) K 1 9 6 6  
館開(かんかい；字) → 僧生(そうしょう；法諱・館開；字、曹洞僧) I 2 5 1 6  
寰海(かんかい；道号) → 周契(しゅうけい；法諱・寰海、臨濟僧/詩) W 2 1 9 8  
鹹海(かんかい；法諱) → 竜道(りゅうどう；字・鹹海、天台僧) F 4 9 3 5  
Q1506 寒涯(かんがい・井田いだ、通称；一蔵/七左衛門) 1743-181068 代々能登小木真脇村の庄屋、  
俳人；闌更門、1800(58歳)出家；寒涯号、西国行脚、蒼虬そうきゅう/玉屑ぎよきらいらと交流、  
「寒涯発句集」「旅ぶくろ」著、「井田寒涯遺墨集」、  
[寒涯の別号] 贅泉/迷々/秋佳子/冥々庵/妙々庵/寒厓  
閑外(かんがい・直江) → 金石(きんせき・荻原おざわら/直江、俳人) R 1 6 2 9  
Q1507 願海(がんかい；法諱・大悲；字、俗姓源) 1823-7351 上州高崎天台僧；1838東叡山玉林院範海門、  
1843-53千日回峰達成；比叡山大行満阿闍梨、56梅尾高山寺/58紀州粉河寺/近江幽居、  
「願海日記」著、1855「聖歎喜天叢書」編/65「奉納河都山寺佛像聖教目録」著、  
[願海の号] 遍照無障金剛/寂忍/不可得/石窓/恥堂/光照  
願海院(がんかいいん；諡号) → 空誓(くうせい；法諱、真宗僧) C 1 7 2 6  
観海居士(かんかいこじ) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3  
菡海子(かんかいし) → 蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者/詩) 4 8 1 0  
観海主人(かんかいしゅじん) → 忠利(ただとし・牧野/源、藩主) F 2 6 3 8  
寛海大師(かんかいだいし) → 豪潮(ごうちょう；法諱・寛海；字、天台僧) K 1 9 6 6  
D1552 巻懐堂(かんかいどう) ? - ? 俳人；雑俳・1713「誹諧大黒柱」序  
浣華園(かんかえん) → 可董(かどう・蓑内みのうち、俳人) O 1 5 1 6  
浣花園(かんかえん) → 里溪(りけい・長谷川/水町、藩士/俳人) 4 9 8 9  
観稼翁(かんかおう) → 善淵(ぜんえん・上田うえだ、藩儒) L 2 4 8 0  
坎窩久臧(かんかきゆうざう) → 由誓(ゆうせい・豊嶋/豊島、俳人) 4 6 1 7  
W1547 感覺(かんかく；法諱) ? - ? 鎌倉期；南都の僧/法師、  
歌人；1237刊[檜葉集] 2 首入、  
[落葉を、  
まてしばしあたらさかりのもみぢばをけふ吹きそむる木枯の風](檜葉；雑881)

- D1553 **桓覚**(かんかく、岡崎権僧正、洞院実泰or公賢男?)?-? 1367存 南北期比叡山天台実乗院僧/法印、権僧正/大僧正/歌;一万首作者入、1367新玉津島社歌合参加、勅撰3首;新千載(857)新拾遺(1563/1828)、  
[聞きわくる心のうちのまことこそ教へによらぬ悟りなりけれ](新千:釈教857)
- D1554 **堪覚**(かんかく、法師) ? - ? 京の僧、東国に下向していた、1439成立「新続古今」979(;傀儡侍従くぐつものじじゅうと贈答)、  
[知るらめや都を旅になしはてば猶東路にとまる心を](新続古今:十羈旅979)  
(上洛途中の宿を発つ時の歌)
- Q1508 **観覚**(かんかく・かんがく・松山まつやま/初姓;阪巻さかまき、別号;木僊堂)1843-190967 下総葛飾郡の天台僧、下総香取郡の等覚院住、歌人:神山魚貫なつら/伊能穎則ひでのり門、「松山観覚歌集」著  
観覚(かんかく;法名) → 親長(ちかなが・藤原/法性寺ほつしょうじ、連歌) B 2 8 3 9  
観覚(かんかく;法名) → 重時(しげとき・北条/平、鎌倉幕臣/歌人) C 2 1 5 1  
観覚(かんかく;字・賢雄;法諱)→ 如禅道人(にょぜんどうじん、浄土僧/書画) G 3 3 0 5
- Q1509 **菅岳**(管岳かんがく・堀ほり、名;田功/字;康夫/通称弥六、金城男)1801-4444 佐渡藤津農業(豪農)、儒者:円山学古/成島筑山門、兄左山さざん没後に家督継嗣、詩/書/連歌、  
「管岳詩文稿」「論語正就篇」著
- Q1510 **観岳**(かんがく;法諱・速満院、俗姓長柄)?-1878 加賀の真宗大谷派真証寺僧/のち嗣講、「俱舍論講義」、「大経草紙」「大無量寿経聴記」著
- T1518 **貫学**(かんがく;法諱) ? - ? 江後期;僧、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[伊勢の海やあまも拾はぬみなし貝あはぬ思ひに朽ちやはてなん](大江戸倭歌;恋1409)
- 観岳(かんがく・江竜) → 清雄(すがお・江竜えつ/八木、歌人) I 2 3 1 3  
鑑岳(かんがく) → 相阿彌(そうあみ、同朋衆/絵師/諸芸) 2 5 0 2  
冠嶽(かんがく・内田) → 鵜洲(ていしゅう・内田、儒者) B 3 0 0 9  
鑑覚庵道古(かんかくあんどうこ)→ 了意(りょうい・古筆こひつ/9世、鑑定家) G 4 9 2 1  
寒岳園(かんがくえん) → 白斎(はくさい・峰村みねむら、農業/俳人) D 3 6 0 8  
看花斎(かんがさい) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8  
浣花井甘井(かんかせいかんせい)→ 甘井(かんせい・浣花井、俳人) E 1 5 0 3  
閑豁老人(かんかつろうじん) → 玄周(げんしゅう・西にし、藩士/医者) J 1 8 5 5  
韓果亭(かんかてい) → 栗嶺(りつとう・韓果亭、狂歌作者) C 4 9 1 3  
観荷堂(かんかどう) → 蘆庵(ろあん・小沢おざわ/平、歌人) 5 2 0 1  
浣花堂(かんかどう) → 靖亭(せいいてい・若林友輔、藩士/詩人) J 2 4 2 6  
浣華道人(かんかどうじん) → 善叢(ぜんそう;法諱・茂彦もげん;道号、臨濟僧) G 2 4 2 9  
閑花林(かんかりん) → 平砂(2世へいさ・臯月さつき、俳人) 2 7 3 1  
閑花林(かんかりん) → 鼎左(ていさ・藤井、奇淵門/俳人) 3 0 7 9  
閑花林(かんかりん) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9  
看花弄月翁(かんかろうげつおう)→ 松山(しょうざん・長谷川はせがわ、医者/詩人) J 2 2 2 7
- Q1511 **閑々**(かんかん、閑々尼) ? - ? 京の俳人:島原連、1772几董「其雪影」入、  
[なで廻す山のあたまや遠しぐれ](其雪影;419/山々の頭を撫でるように時雨が渡る)  
鑑寛(かんかん・立花) → 鑑寛(あきとも・立花、藩主/歌人) D 1 1 0 4  
漢官(かんかん・藤井/吉田/吉)→ 篁敦(こうとん・吉田/藤井、医/儒者) 1 9 1 8
- Q1586 **寒巖**(かんがん・義尹ぎいん)1217-130084 鎌倉期曹洞宗禅僧、父;鳥羽天皇or順徳天皇説、通称;法皇長老と呼ばれる、1231(寛喜3)出家;初め比叡山で天台教学修学、1241(仁治2)深草興聖寺の道元門/道元の越前移転に随行/1253入宋、師没後に1254帰国/道元門で永平寺2世孤雲懐奘に師事、1260頃肥後宇土郡古保里庄の古保里越前守女の素妙尼の要請により如来寺を建立、1264(文永元)道元語録を持参し再び入宋;無外義遠・退耕徳寧・虚堂智愚らを歴参、1267(文永4)帰国;博多聖福寺に3年滞留/のち肥後住;1276益城郡に極楽寺を開創、寒巖派(法皇派)の祖、勸進聖的性格も強く当時九州第一の難所緑川の大渡に架橋計画;2年の工事で1278完成、河尻庄大渡に大慈寺を開創;1288後宇多上皇の祈願所となり隆盛、

1300如来寺へ隠遁;没、大慈寺に寒巖義尹自賛像が残る

Q1512 **寒巖**(かんがん・北山きたやま/本姓;馬、名;孟熙、馬ば道良どりょう男)1767-1801<sup>35</sup> 幕臣;御先手与力、  
絵師:父道良[晋陽]門、山水画、「三国英雄図絵」画、

[寒巖の字/通称]字;文圭/文奎、通称;権之助、法号;西学院館主葆光居士

寛巖(かんがん;道号) → 春登(しゅんとう;法諱・寛巖、曹洞僧) F 2 2 8 5

巖間(がんかん・木俣) → 守安(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/歌) J 4 4 7 5

G1517 **雁々**(がんがん) ? - ? 江中期俳人:

1796屠竜「江戸続八百韻」四吟入(;屠龍・素兄・大帟だいと4吟百韻)

閑々庵(かんかんあん) → 長嘯(ちやうしやう・北山、俳人) I 2 8 9 6

間々翁(かんかんおう) → 惟中(いちゆう・岡西/松永、歌・俳人) 1 1 1 9

閑観翁(かんかんおう) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1

罽寒翁(かんかんおきな) → 谷峨(2世こくが・梅暮里、俳/音曲/人情本) C 1 9 3 5

菅諫議(かんかんぎ) → 為長(ためなが・菅原、廷臣/詩歌) 2 6 6 8

寒巖窟(かんがんくつ) → 海量(かいりやう、真宗僧/歌人) 1 5 0 2

間々軒(かんかんけん) → 十丈(じゆうじやう・竹内たけうち、俳人) H 2 1 6 7

閑々子(かんかんし) → 東溪(とうけい;道号・宗牧、臨濟僧) D 3 1 0 1

閑々子(かんかんし;号) → 天如(てんによ;法諱・峻山;字、真言/兩部神道) E 3 0 1 3

寒巖室(かんがんしつ;号) → 妙庵(みやうあん;道号・普最;法諱、黄檗僧) G 4 1 0 9

閑々桑者(かんかんそうしや) → 柳圪(りゅうた・八代やしろ、儒者/教育) F 4 9 1 0

観々堂(かんかんだう;号) → 智応(ちおう;法諱・等空;字、真言律僧) 2 8 4 9

乾々道人(かんかんだうじん) → 時升(ときます・新納にいろ、藩士/詩文) K 3 1 0 6

G1518 **閑々坊**(かんかんぼう) ? - ? 江後期備後尾道住の詩人/狂詩作者、

1809「疎漏菴あん詩集」跋・七絶入

閑観房(かんかんぼう) → 玄証(げんしやう;法諱、真言僧/絵師) J 1 8 9 2

寛湛法師母(かんかんぼうしのはは) → 寛湛母(かんたんのはは、後撰歌人) E 1 5 1 1

閑々楼(かんかんろう) → 北嵩(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師) D 3 9 5 1

G1519 **寛閑楼佳孝**(かんかんろうかこう) ? - ? 1817随筆「北里見聞録ほくりけんもんろく」著

Q1514 **観機**(かんき;法諱・潜巖せんがん;道号) ? - 1755 羽後湯沢の曹洞僧;大陽だいや観月門、

神宮寺村宝蔵字12世、地蔵菩薩の彫刻家、「大陽和尚語録」編

Q1515 **菅祈**(かんき・津打つうつ/つうち、別号;藤川菅祈) ? - ? 江中期歌舞伎作者;2世津打治兵衛門、

延享1744-48頃江戸市村座・中村座で活躍/のち上方住、1745「道行雨夜衛」「扇伊豆日記」、

1745「廓通富士見西行」、46「面影砥水鏡」「無間鐘思暁」、47「満月小栗楼」「玉櫛粧曾我」著

幹規(かんき・市毛) → 幹規(みきのり・市毛いちげ、藩士/文筆家) 4 1 7 3

咸熙(かんき・井上) → 咸熙(ともしろ・井上いのうえ/中村、農業/歌) U 3 1 0 6

寛紀(かんき・佐羽内) → 勇右衛門(ゆうえもん・佐羽内さわうち、馬術) 4 6 7 5

完熙(かんき・林) → 良適(りやうてき・林はやし、幕府医官) J 4 9 0 2

頑極(がんき) → 官慶(かんぎやう・頑極がんき、曹洞僧) Q 1 5 2 2

岩記(がんき・樺山) → 久舒(ひさのぶ・樺山かばやま、藩士) B 3 7 7 6

歓喜庵(かんきあん;号) → 信暁(しんぎやう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 2 9 0

歓喜院(かんきいん) → 日静(にちじやう;法諱・博瑞、日蓮僧) C 3 3 4 6

歓喜院(かんきいん) → 日台(にちだい;法諱・歓喜院、日蓮僧) C 3 3 8 0

歓喜院(かんきいん) → 忠器(ただかた・酒井さかい、藩主/歌人) U 2 6 9 8

歓喜園院(かんきえんいん) → 兼忠(かねただ・鷹司、関白/歌) C 1 5 8 2

観几下(かんきか) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0

歓喜光院(かんきこういん) → 通躬(みちみ・中院/源、廷臣/歌人) 4 1 1 8

眼槻岡敷(がんきこうふ/めつきおかしき) → 兎毛(とも・関せき、藩士/詩/狂歌) P 3 1 0 3

顔其斎(がんきさい・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5

歓喜斎浄心(かんきさいじやうしん) → 倚松(いしやう・三好、俳人) F 1 1 6 6

歓喜心院(かんきしんいん) → 円猷(えんゆう;法諱、真宗高田派僧) F 1 3 4 1

歓喜心院(かんきしんいん) → 公麗(きんかず・滋野井しげのい、故実家) D 1 6 8 6

- 寛義親王(かんぎしんのう→ひろよし)→ 公啓親王(こうけいしんのう、天台僧) I 1 9 4 6
- Q1516 鑑吉(かんきち;通称・石川いしかわ、名;克己)1825-? 幕末期;1860遣米使節団参加;森田清行の従者、1860「航海日誌」著  
 桓吉(かんきち・成島) → 筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者) D 2 8 0 7  
 甘義亭(かんぎてい) → 幸賢(こうけん・麻野、俳人) B 1 9 0 2  
 貫久(かんきゅう→つらひさ・森)→ 連久(つらひさ・森、神職) E 2 9 4 6  
 寛休(かんきゅう・小林) → 祐良(すけよし・小林、幕臣/台所方) D 2 3 7 0  
 菅丘(かんきゅう・松平) → 頼紀(よりのり・松平/源、藩士/伝記) J 4 7 4 5
- G1520 関牛(かんぎゅう・蔀しとみ、名;徳風/字;子偃、関月かんげつ男)?-1843? 大阪立売堀の絵師:父門、版本挿画/版下画、往来物の注釈、1816「插花百練」27「日本往来」画/29春暉「北窓瑣談」挿絵、1832「掌中歴代要覧」編/34「女訓浪華名所」「続文章大全」/41「女諸通用文章」「続文章大全」外、[関牛の通称/別号]通称;蔀屋仙三、別号;萇楊斎ていようさい 2 世  
 咸牛(かんぎゅう・箕作) → 阮甫(げんぷ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3  
 官休庵(かんきゅうあん) → 宗守(初世そうしゅ・千せん、武者小路流茶人) B 2 5 7 7  
 観牛庵(かんぎゅうあん) → 瑞明(ずいめい;法諱、真言僧/国学) I 2 3 6 2
- G1521 緩急軒(かんきゅうけん) ? - ? 狂歌、1780梅好「大津みやげ」入  
 寛居(かんきょ・岩下) → 杜厚(とこう・岩下いわた、俳人) L 3 1 6 9  
 寛居(かんきょ→ゆたい・足代)→ 弘訓(ひろのり・足代あじろ/度会、神職/国学者) 3 7 2 6
- Q1517 寒魚(かんぎょ・山田やまだ) ? - ? 江末期陸前今泉の書家/易、仙台藩足軽、子弟教育、「単語集」「篆隸草三体字典」著  
 貫魚(かんぎょ・守住/庄野)→ 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2  
 含虚(がんきょ;法諱) → 性天(しょうてん;道号・含虚、臨濟僧) L 2 2 0 6
- D1556 観教(かんきょう;法諱、御願寺僧都、源信輔、源公忠男)934-101279 廷臣;蔵人所雑色/天台叡山僧;948敦実親王より受戒/990法橋/998崇福寺別当/999阿闍梨/1003法眼/1012権大僧正、著聞集逸話、歌人、勅撰2首;拾遺203(金葉Ⅱ247)/新統古2062、玄々集/続詞花集、信明の弟/勝観・寛祐の兄、[みづうみに秋の山辺をうつしてははたばり広き錦とぞ見る](拾遺203、竹生島参詣時に紅葉の影の水に映るを見ての詠/端張はたばりは横幅)
- G1522 間喬(かんきょう・岡おか、名;南)?- ? 江中期安永1772-81頃大阪商家、諸芸に通ず、「山海名物語」「産科紀聞」「秘方集成」著、「金瓶梅訳文」(訳者;岡南おかなみ間喬の名)、[間喬の通称/号]通称;七助、号;貴適齋  
 煥郷(かんきょう・曾) → 槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者) H 3 6 1 5  
 寛郷(寛卿かんきょう・長井)→ 在寛(ありひろ・長井/馬淵、藩士/儒者) F 1 0 7 1  
 寛郷(かんきょう・内部) → 寛郷(ひろさと・内部うちべ、国学者) I 3 7 6 3  
 浣郷(かんきょう・新渡戸) → 伝(つとむ・新渡戸にとべ、藩士/開拓事業) 2 9 9 6
- Q1519 寛暁(かんきょう;法諱・華嚴院宮僧正、堀河天皇皇子)1103-5957 母;藤原隆宗女、真言僧;聖恵門、両部灌頂受/1124法眼/52護持僧/53東大寺別当/58仁和寺円教寺別当/大僧正、「浮図集」編 歌人;1165清輔[続詞花集]入、[身のしづめることを思ひて五月雨の頃 人につかはしける、五月雨のひまなきもりの雫には宿もあるじもくちにけるかな](続詞花;雑871)
- Q1522 官慶(かんきょう;法諱・頑極がんき;道号、俗姓古川)1683-176785 肥前諫早曹洞僧;月門胸吾/黙子素淵門、1721黙子の嗣法/27但馬永源寺住持/肥前天祐寺・近江清涼寺住持、尾張新豊寺・摂津仏眼寺開、1747「黙子和尚行実」49「黙子和尚語録」編、65「頑極禅師語録」
- S1564 丸鏡(がんきょう・喜多村きたむら)?- ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、[木食もきじきの日照りなりけり雪の山](難波色紙;68、木の實のみ食す修行者には雪山は早魃と同じ)
- D1557 元慶(がんきょう/げんけい・藤原茂規or藤原義親or源義親男)?-? 平安期僧侶/法師、筑紫大山寺の別当、歌人;後拾遺178(;この歌の作者に関する逸話;袋草紙入)、[わが宿の垣根な過ぎそほとゝぎすいづれの里もおなじ卯の花](後拾遺;夏178、

筑紫の大山寺にて歌合の時の詠)

- Q1520 **願暁**(がんぎょう) ? - 874 平安期元興寺の三論学僧; 薬宝・勤操門、  
唯識/密教に精通、864律師、「因明義骨」「大乘法門章」「内外万物縁起章」著  
願行(がんぎょう; 字) → 憲静(けんせい/けんじょう; 法諱、真言僧) K 1 8 4 2  
寛恭院(かんきょういん) → 家厚(いえあつ・花山院かざんいん、廷臣/記録) E 1 1 7 8  
観行院(がんぎょういん) → 常子(つねこ・橋本、和宮母/記録) C 2 9 0 7  
観行院(がんぎょういん) → 日延(にちえん; 法諱、日蓮僧) 3 3 7 1  
甘暁隠居(がんぎょういんきよ) → 基君(もとすみ・松本まつもと、本陣経営) L 4 4 4 0  
漢興鉄冠(かんきょうてつかん) → 草山(そうざん; 道号・祖芳; 法諱、臨濟僧) H 2 5 4 5  
観魚漁人(がんぎょぎょじん) → 富元(とみもと・宇仁/宇仁館うにだて、神職/占ト) O 3 1 9 7  
眼玉(がんぎょく・鈴木) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2  
環玉江(がんぎょくこう) → 玉江(ぎょくこう・環たまき、絵師) O 1 6 8 9  
観旭亭(がんぎょくてい) → 杜厚(とこう・岩下、俳人) L 3 1 6 9  
来鳳軒(がんぎょくてい) → 桂州(けいしゅう; 道号・道倫、臨濟僧) 1 8 6 5  
観魚亭(がんぎょくてい) → 庸政(つなまさ・前島まえじま、医者/詩人) D 2 9 7 3  
閑居張万子(かんきよはります) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
観魚楼(がんぎょろう) → 広正(ひろまさ・加藤、詩人) H 3 7 1 3  
寛近(かんきん・大坪) → 寛近(ひろちか・大坪おおつば、役人/国学) I 3 7 8 7
- Q1521 **寛欽親王**(かんきんしんのう、法諱; 寛欽/法号; 後染王院、貞敦親王男) 1514-1563 50 勸修寺かじゅうじ長吏、  
母; 三条香子(実香女)、後奈良天皇の猶子、1526勸修寺入; 海覚法親王門/30得度、  
安祥寺寺務、「教授略作法初後夜」著
- G1523 **岸駒**(がんく; 通称、姓; 岸きし/本姓; 佐伯、佐伯文右衛門男) 1749?-1838 長寿 90 加賀金沢の絵師、  
京で修業; 岸姓/有栖川宮より雅楽助を受、宮中絵事; 主殿大属/1837越前守従五下、  
岸派画家の祖、虎の絵に長ず/1809金沢城二丸障壁画、  
「四条派画卷」「造内裏御間以下御下絵」画、1792海量「ひちよばな」「あめのはし」画、  
岸駒(; 通称)の名/字/別通称/号]名; 駒/昌明、字; 賁然、  
別通称; 乙次郎/鍵助/雅楽助うたのすけ、  
号; 華陽/同功館/可観堂/虎頭館/天開/天開翁/天開窟/鳩巢楼/蘭斎
- Q1523 **寛空**(かんくう; 法諱、蓮台寺僧正/香隆寺僧正、俗姓; 文室(ぶんや) 884-972 89 京左京真言僧; 902出家、  
宇多法皇の侍童/東大寺で法相宗修学/916大覚寺で伝法灌頂受/東寺住; 金剛峰寺座主、  
仁和寺別当/960権僧正/上品蓮台寺(香隆寺)開山/964僧正、「理趣法」「羅言我口訣」
- Q1524 **観空**(かんくう、左兵衛尉、俗名; 源みなもと光忠) 1237-? 1237 存 筑前浄土僧、1237「法然上人伝法絵」画
- Q1526 **関空**(かんくう; 法諱・善廓; 字、俗姓岡崎) 1633-81 49 尾張熱田浄土僧; 7歳で両親失い大宝禅寺出家、  
浄土宗要; 東山禅林寺積峰門/越前安養寺・紀州総持寺住、「元祖年譜」「法然別伝註」著
- Q1527 **観空**(かんくう; 法諱、慧察; 号) ?-1719 京の浄土宗西山派北野宝樹院の僧、  
1719「浄土分類諷誦啓蒙集」著
- Q1525 **環空**(かんくう; 法諱) ? - ? 江戸中期能登天台僧; 敬雄(金竜道人)門、詩、  
1765「雨新菴詩集」67「祖州遺稿刪」、「環空詩鈔」、「環空遺偈」著  
閑空(かんくう) → 季遊(きゆう・佐々木、寄節ききょう、俳人) M 1 6 1 7  
感空(かんくう; 法名) → 頓阿(とんあ、時宗僧/歌学) 3 1 6 7  
観空(かんくう; 号) → 元亮(げんりょう・鈴木すずき、鍼医/歌人) N 1 8 8 1  
寰空(かんくう; 号) → 貞準(ていじゆん; 法諱・一中; 字、浄土西山派僧) B 3 0 1 4
- Q1528 **雁空**(がんくう・関せき、通称; 喜八) 1734-1808 75 上州高崎雪門派俳人; 蓼太門、1790「風月の臍」編、  
1806「風月帖」編、「増山の井補註」「歳旦集」著  
[雁空(; 号)の別号] 雪万/文来庵/雪燕舎/兀々老  
翫珂亭(玩珂亭がんくてい、翫珂翁) → 石寿(せきじゆ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5  
驩虞堂(かんくどう) → 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、幕臣/漢学者) B 2 4 4 4  
勘九郎(かんくろう・西村) → 道三(どうさん・斎藤、戦国武将/領主) E 3 1 6 8  
勘九郎(かんくろう・上島/上嶋) → 鉄卵(てつらん・上島、俳人) C 3 0 6 6  
雁九郎(がんくろう・末田) → 百千(ももち・末田すえだ、藩士/神職) K 4 4 1 4

- 菅家(かんげ) → 道真(みちざね・菅原、大臣/漢学/詩歌) 4 1 0 5
- Q1529 観景(かんけい; 字・照嚴しょうごん; 法諱、俗姓中原) 1612-7463 律宗僧; 1618法金剛院照珍門、  
1628金剛院を嗣、顕密; 1630奈良招提寺で如周門/真言; 醍醐堯円門/仙洞で法華経講、  
1655勅命で京泉涌寺に住、「倚松庵いしょうあん主人聊以自娛集」編
- Q1530 灌畦(かんけい・大口おおぐち、名; 美明) ?-? 但馬豊岡出身/大坂南新町の本草家; 松岡恕庵門、  
1754「薬品辨惑」69「本草綱目国字辨」著
- 貫卿(かんけい・石原/石) → 哲庵(鼎菴ていあん・石原、儒/詩/医) 3 0 2 3
- 貫卿(かんけい・渡辺) → 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4
- 貫卿(かんけい・馬場) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
- 寛卿(かんけい・小川) → 其瀾(きらん・小川おがわ、儒者) Q 1 6 4 6
- 寛卿(かんけい・時田) → 流翠(りゅうすい・時田ときた、商家/俳人) E 4 9 8 7
- 寛敬(かんけい・平井) → 寛敬(ひろたか・平井ひらい、藩士/歌人) K 3 7 7 7
- 寛敬(かんけい・三原) → 寛敬(ひろたか・三原みはら、国学者) L 3 7 3 2
- 寛経(かんけい・成沢) → 寛経(ひろつね・成沢なるさわ、商家/国学者) G 3 7 4 4
- 簡兮(かんけい・久米) → 訂斎(ていさい・久米、儒者) 3 0 8 3
- 干啓(かんけい・高橋/関) → 梨一(りいち・関・高橋/一祚・一紹、幕臣/俳人) 4 9 3 1
- 官慶(かんけい; 法諱) → 頑極(がんごく; 道号・官慶、曹洞僧) R 1 5 7 4
- 閑敬(かんけい・野口) → 直勝(なおかつ・野口、国学/詩歌) B 3 2 0 4
- 浣溪(かんけい; 号) → 炬範(きよはん; 法諱・浣溪、浄土宗) Q 1 6 1 8
- 缶卿(かんけい→ふけい・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4
- 観計(かんけい・石川) → 総昌(ふさまさ・石川いしかわ、旗本/幕臣) H 3 8 9 9
- 煥卿(かんけい・鈴木) → 澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者) F 2 4 8 9
- 岩桂(がんけい) → 仙山(せんざん・平岩桂、儒、詩人) F 2 4 4 6
- 岸卿(がんけい・田中) → 希尹(きいん・田中たなか、儒者) J 1 6 6 0
- 寛敬院(かんけいいん; 法号) → 利厚(としあつ・土井どい、藩主/建議書) M 3 1 0 3
- 観桂阪散人(かんけいはんさんじん) → 乙州(おとくに・河合/川井、俳人) 1 4 8 9
- 観劇道人(かんげきどうじん) → 艇斎(ていさい・石川、藩士/儒者) 3 0 8 7
- D1558 関月(かんげつ・薮しとみ/初姓; 柳原やなぎはら、名; 勝俊/德基のりもと) 1747-9751 大坂の書肆千種ちぐさ屋、  
絵師; 月岡雪鼎門、山水人物画/古跡研究/詩文/書、1789法橋、儒/歌; 加藤景範門、  
1770「絵本国見山」「絵本深山猿」「万国人物図会」、  
1779「青陽唱詠」/89「操大全玉文庫」「狂歌つのくみ草」、「日本山海名産図会」外画多数、  
[関月(;号)の字/通称/別号]字; 子温/阮二[原二]、通称; 千種屋源次郎、  
別号; 萸楊斎ていようさい(初世)/萸斎ていさい/青莪堂/二酉堂亭、 関牛の父
- G1524 関月(かんげつ・樋口) ? - ? 狂歌、1782橘洲「若葉集」52首入(4番目に多く入集)
- Q1531 寛月(かんげつ・池田いけだ、通称; 庄蔵/正蔵) ?-1802 大阪の心学者・中沢道二門、1793江戸に下向、  
1795から教化活動/1800三舎印鑑を受、01上京; 堵庵17忌法筵参加/師を伴い江戸へ、  
寄場人足の教化方; 関東心学興隆に尽力、「道話聞書」著
- Q1532 観月(かんげつ; 法諱・皆乗院; 号、別法諱; 大解) 1787-185973 豊後大分の真宗僧; 慈性寺で生、  
皆往院鳳嶺門/美濃表佐村大谷派善行寺住職/1832擬講/50嗣講、  
1850「往生要集講義」51「往生礼讃前序深心釈講説」52「愚禿鈔二種深信釈講義」外著多数
- 観月(かんげつ; 法諱) → 大陽(だいう; 道号・観月、曹洞僧) L 2 6 1 7
- 観月(かんげつ・東湖) → 東湖観月(とうこかんげつ、東武散人) E 3 1 0 7
- 観月(かんげつ; 字) → 日要(にちよう; 法諱・顕是院、日蓮僧) D 3 3 4 5
- 観月(かんげつ; 号) → 了空(りょうくう; 法諱、真宗本願寺派僧) H 4 9 1 6
- 観月(かんげつ・楫取) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
- 観月(かんげつ; 法名) → 礪山(れいざん・寺田てらだ、俳人無名庵12世) 5 1 3 1
- 観月(かんげつ; 号) → 光泰(こうたい; 法諱・高野、僧/国学) Q 1 9 7 7
- 漢月(かんげつ; 道号) → 禅胡(ぜんこ; 法諱・漢月、曹洞僧) M 2 4 2 5
- 澗月(かんげつ・高垣) → 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q 2 1 6 5
- 閑月(かんげつ・町尻) → 説望(かねもち・町尻まちじり/藤原、廷臣/神道) V 1 5 7 2

翫月 (かんげつ; 号)	→ 内基 (うちもと・一条、関白/連歌)	D 1 2 1 3
翫月 (かんげつ; 字)	→ 楽樹 (らくじゅ; 法諱・翫月、真言僧)	B 4 8 2 1
閑月庵 (かんげつあん)	→ 山暁 (さんぎょう・川村かわむら、俳人)	E 2 0 2 2
閑月庵 (2世かんげつあん)	→ 竹妓 (ちくぎ・高木、俳人)	C 2 8 8 2
翫月庵 (かんげつあん)	→ 一恵 (いっけい・華道家)	H 1 1 0 3
冠月庵耕一 (かんげつあんこういち)	→ 政信 (まさのぶ・久保くぼ、戸長/国学)	P 4 0 3 7
観月園 (かんげつえん)	→ 勝良 (かつら・玉木たまき/田巻、問屋/歌)	V 1 5 0 6
観月臥松楼主人 (かんげつがしょうしゅじん)	→ 覚応 (かくおう・周山・真宗僧)	J 1 5 6 0
観月僧都 (かんげつそうず)	→ 礪山 (れいざん・寺田てらだ、俳人無名庵12世)	5 1 3 1
観月亭 (かんげつてい)	→ 昌興 (まさおき・葛巻かづらまき、藩士/歌)	B 4 0 4 9
観月堂 (かんげつどう)	→ 讓斎 (じょうさい・玉置たまき、藩士/兵学)	S 2 2 3 8
玩月堂 (がんげつどう)	→ 仁兵衛 (じんべえ・堀野屋、書肆)	P 2 2 8 2
翫月堂 (かんげつどう)	→ 新六 (しんろく・西宮、地本問屋/三馬作品刊行)	2 2 9 7

U1564 **関月尼** (かんげつに・旧姓; 小山こやま/名; せき、大塩平八郎女) 1823-85 63 母; 遠島、大坂の生、早くに尼僧、京で修行僧恵等えとうと諸国を遍歴; 1841(天保12)日向延岡に到着、二人は臼杵郡島野浦の神聚寺じんじゅじに入り同棲; 地の人に生花・茶道・三味線・琴を指導; “おせきさん”と呼ばれ愛される; 10年間、国学; 樋口種実たねみ門/歌人; 京の太田垣蓮月門、恵等の浮気で離別し延岡東海とうみの常楽寺に身をよせる; 船問屋の伝五郎と同棲; 離別、延岡誓敬寺の食客; 歌・諸芸を教授、延岡祝子ほりの千光寺恵照の妻、1877(明治10)西南の役後; 若い未亡人の芸芸教育を託され束髪を落し黒染衣で活躍、晩年は経典書写し寺々に納経することに専念、  
[きのふありて今日はなき身と消えゆくも残るも同じ道芝の露]

観月楼 (かんげつろう)	→ 桃如 (とうじょ・観月楼、俳人)	F 3 1 2 3
観月楼 (かんげつろう)	→ 高猷 (たかゆき・藤堂とうどう、藩主/歌)	N 2 6 6 6

D1559 **観賢** (かんけん; 法諱、般若寺僧正/中院僧正、俗姓; 秦は阿古麻呂) 853?-925 72? 平安期讃岐真言僧、醍醐寺聖宝門/895伝法阿闍梨; 般若寺に住/900仁和寺別当/902権律師/919醍醐寺座主、金剛峯寺別当、真言第十二祖、「五大力秘釈」「結縁灌頂記」「不動法」「本尊加持」外著多数

菅賢 (かんけん・久保/古屋)	→ 菅賢 (すがよし・古屋、藩士/歌人)	F 2 3 4 3
侃憲 (かんけん・竹下/榎本)	→ 其角 (きかく・榎本/宝井、俳人)	1 6 0 5
寛謙 (かんけん・遠藤)	→ 随所 (ずいしょ・遠藤、篆刻家/砲術家)	E 2 3 6 8

D1560 **観巖** (かんげん) ? - ? 平安期仏書1134「東大寺要録」編集  
S1578 **鑑玄** (かんげん・岡田おかだ、名: 満足) ?-? 江前期美濃の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[心葉ころばやをのが糸緒の管柳はこやなぎ] (手鑑/

心葉; 薫物壺の箱の板蓋に環をつけ取手に組緒で揚巻を結ぶ飾り)		
完元 (かんげん; 出家号)	→ 晴通 (はれみち・久我こが、廷臣/連歌)	H 3 6 1 2
菅彦 (かんげん・森本)	→ 菅彦 (すがひこ・森本/紀、国学者/歌)	F 2 3 8 7
還源 (かんげん・粟蓮社)	→ 法洲 (ほうじゅう: 法諱、浄土僧)	B 3 9 4 6
巖軒 (がんげん)	→ 常久 (つねひさ・殿村/大神、国学/本草)	D 2 9 3 9
喚犬喚鶏之舎 (かんげんかんけいのや)	→ 永好 (ながよし・間宮、国学/歌人)	G 3 2 4 7
管絃長者 (かんげんちやうじゃ)	→ 貞保親王 (さだやすしのう・南宮、管絃)	C 2 0 5 9
閑言楽山人 (かんげんらくさんじん)	→ 閑言楽山人 (むだらくさんじん、洒落本)	4 2 8 7
間健老人 (かんげんろうじん)	→ 訥斎 (じんさい・中根なかね、医者/詩人)	O 2 2 5 6

Q1533 **貫古** (かんこ・毎日庵) ? - ? 播州俳人; 惟然門、京住医者、1763「文塚集」著  
S1545 **かんこ** (; 組連) ? - ? 江戸日本橋大伝馬の川柳の組連;

取次; 1776「川柳評万句合」入;  
取次例; [喜三太きさんだは豆を煮かけて打つて出る] (76万句合/前句; うけ合にけり々々)、  
(義経の臣; 御厩みくりやの喜三太)、  
(厩番うまやばんだからいつも馬の餌の準備; 途中で飛び出しいざ合戦/幸若舞で剛勇で登場)

V1596 **漢古** (かんこ・村山むらやま、) 1770-1841 72 肥前養父郡蔵上村(対馬藩飛地田代領)の生、儒・漢学者、対馬藩田代領代官所に出仕(役人)、青柳種信・草場珮川・広瀬淡窓・旭荘と交流、

詩文・歌・俳諧・書の外雅楽(横笛)・篆刻・一弦琴を嗜む、  
対馬藩田代藩校東明館設立に尽力;東明館読書口授方/訓導師、  
息子村山東一郎と東明館を支援;広瀬淡窓・弟旭莊を招聘;田代の学校興隆に尽力、  
晩年に国学・歌;大隈言道門、  
1831「自覚談」著(没後1856刊)、歌;「詠草」(60首/[曾根崎古賀家文書]入)  
[漢古(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;理十/成章、字;孟倬もうたく、通称;勘吾、  
号;太白山人/南園

- Q1534 **甘古**(かんこ・平田ひらた、屋号;和泉屋/泉屋)?-1863 安藝広島の人/俳人;飯田篤老門、  
篤老「巖島奉納集」撰、1846「炭ふくべ」1860「老梅集」著、  
[明月や植たやうなる磯の鳥](玄蛙「萍うきくさ日記三編」)、  
[甘古の通称/号]通称;和泉屋新蔵/泉屋所平/所右衛門、号;梅屋/月光園
- T1562 **鑑子**(かんこ・池田いけだ、戸田氏正女)1838-1906 69 美濃大垣藩主の娘/岡山藩主池田章政の室、  
歌;加藤千浪門  
[鑑子(;名)の別名] 米子/春子/イヨ子  
閑湖(かんこ・岩松) → 孝純(たかづみ・岩松/源、幕臣/文筆) M 2 6 1 2  
鑑虎(かんこ・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5
- Q1535 **完伍**(かんご・伊藤/伊東いとう、通称;喜助/喜一郎、屋号;大黒屋)1796-1869 74 三河宝飯牛久保富商、  
俳人・卓池門、1858「西月夜」「ひよひよ草」編/61「およひこし」編、追善33回忌「涼石集」
- D1561 **簡吾**(かんご・武田たけだ) ? - ? 駿河沼津の蘭医、  
1854伊豆下田津波で大破のロシア使節プチャーチン乗船ディアナ号の世界地図を模刻;  
1858「輿地(萬国)航海図」として刊行  
菅五(かんご) → 為言(ためのお・菅原すがわら、廷臣/歌人) H 2 6 2 7  
勘吾(かんご・村山) → 漢古(かんこ・村山むらやま、役人/漢学/詩歌/教育) V 1 5 9 6  
寛吾(かんご・寺井) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1  
冠吾(かんご・村井) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4
- Q1536 **岸虎**(かんと・桃川舎とうせんしや)?- ? 江戸中期俳人、1741「百蜀魂」編(:麦林3回忌追善)
- Q1537 **翫古**(かんと・賀美かみ) ? - ? 江戸中期安藝広島の人/詩人、「翫古詩集」著  
願故(がんと・鎮蓮社) → 存貞(ぞんてい;法諱、浄土僧/伝法改革) F 2 5 6 6  
観古庵(かんとあん) → 指月(しげつ;道号・慧印;法諱、曹洞僧) R 2 1 4 5
- Q1538 **千候**(かんとこう) ? - ? 江戸中期備前岡山俳人;彦根蕉風孟遠門、  
備中足守の連衆、1720「目団扇もくうちわ」共編(俱占・之建と)
- Q1539 **寛光**(かんとこう;法諱・隆英房;字)1736-?1822以後没 讃岐多度真言僧・高野山修学/声明;廉峰門、  
近世高野山声明道の達人、「魚山私鈔略解」/1783「五音声譜伽陀(仮博士)」著
- Q1540 **貫虹**(かんとこう・池内) ? - ? 大阪の俳人、1757律中「耳勝手」入
- Q1541 **潤菫**(かんとこう) ? - ? 俳人;1774美角「ゑぼし桶」入、  
[世の業わざには身はつながられて網代守](ゑぼし桶;55/厳冬の夜に氷魚取る網代守の境涯)
- 1547 **菅江**(漢江かんとこう・朱楽あけら、姓;山崎やまざき、名;景基/景貫かげつら)1738?-98or18016lor64 幕臣;  
牛込二十騎町住、御先手与力、歌;椿軒門、狂歌;朱楽連組織、椿軒同門南畝らと天明狂歌壇、  
川柳、戯作者、1777洒落本「売花新駅」、83「万載狂歌集」南畝と共編、  
1785「故混馬鹿集(狂言鶯蛙集)」編、86「絵本江戸爵」88「八重垣縁結」91「狂歌めし合」、  
1793「狂歌大体」、「貝つくし歌合」「床善草」「朱楽館家集」「潮干のつと」「花の枝折」外著多、  
川柳;柳多留十五-二十篇に入、妻;節松嫁々ふしまつかか(;狂歌)、  
[いつ見てもさてお若いと口々にほめそやさるゝ年ぞくやしき]、  
[棹姫の笑ひかけつゝ山の端をあらはす方に春や立つらん](万載集;春2)、  
辞世[執着の心や娑婆に残るらむよしのの桜さらしなの月]、  
[菅江の通称/字/別号]通称;郷助、字;道甫、俳号;貫立、号;淮南堂/芬陀利華庵ふんだりげあん  
参考 → 嫁々(かか・節松、孤月尼、狂歌) 1 5 0 3
- Q1542 **觀光**(かんとこう・片山かたやま、名;一積/通称;紀兵衛、一真男)?-? 1786存 代々米沢藩儒;1760家督、  
儒者職兼記録係/1776藩校興讓館提学/86致仕、「觀光文集」「雑詠抄」著
- Q1543 **観好**(かんとこう・高森たかもり、初名;維新)1750-1830 81 水戸藩士/蘭学;桂川甫周門、エレキテル研究、

森島中良らと温度計望遠鏡製作、水戸藩致仕/遠江横須賀藩で天文学講義、漆工芸、  
1814「象限図説」「野札機的爾々きたる全書」/20「渾天儀略説」「時刻撰」、「風雨説」「東北旅譚」著、  
[観好の通称/号] 通称;惣右衛門、号;香山

D1563 甘交(かんこう・芝/司馬しば、通称;大伴寛十郎)1764?-1804 江戸黄表紙・滑稽本作者:初世全交門、  
1786「人遠茶懸物」「大々太平記」「道笑雙六」、87「現金青本之通」、「甘交随筆」著、  
[芝甘交(;号)の別号] 一弘斎/浅泉居

G1525 寒鴻(かんこう・井上) 1770 - 1792早世23 俳人・寒鳥門、丹頂堂4世  
寒香(かんこう・藤堂) → 高俊(たかし・藤堂とうどう、彫刻/製陶) Y 2 6 4 0  
簡公(かんこう・松平) → 頼亮(よりあきら・松平、藩主/藩政改革) I 4 7 3 5  
寛江(かんこう;法諱) → 暈外(りょうがい;道号・寛江かんこう、曹洞僧/詩人) G 4 9 8 3  
寛光(かんこう・高橋) → 寛光(ひろみつ・高橋、藩士/紀行記録) H 3 7 4 0  
寛光(かんこう・片岡) → 寛光(ひろみつ・片岡、国学/歌) H 3 7 4 1  
寛光(かんこう・本田) → 寛光(ひろみつ・本田ほんだ、国学) K 3 7 9 7  
寛宏(かんこう・勾田) → 台嶺(たいれい・勾田まがた/修姓;勾、絵師) L 2 6 2 9  
寛洪(かんこう;法諱) → 徹堂(てつどう;道号・寛洪、曹洞僧) E 3 0 7 5  
官江(かんこう・千那堂) → 千那(せんな;号、明式、本願寺派僧、俳人) 2 4 3 6  
乾弘(かんこう→かたひろ・千野せんの) → 尚賢(ひさかた・柳、医・和算) 3 7 9 4  
韓江(かんこう・村瀬) → 秋水(しゅうすい・村瀬むらせ、絵師) X 2 1 7 3  
桓光(かんこう;字) → 日暉(にちき;法諱・白蓮華院、日蓮僧) B 3 3 1 9  
完孝(かんこう;字) → 日眞(にっしん;法諱・守要院、日蓮僧) E 3 3 5 6  
完高(かんこう・斎藤) → 完高(さだたか・斎藤さいとう、藩士/史家) I 2 0 3 9  
煥光(かんこう・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8  
観行(かんこう;名) → 了清(りょうせい;法諱・中川、真言僧/歌) M 4 9 4 1  
観候(かんこう・塩見/浜村) → 蔵六(4世ぞうろく・浜村/塩見、篆刻家) J 2 5 2 6  
鑑幸(かんこう・伊藤) → 鑑幸(てるゆき・伊藤いとう、神職/国学) F 3 0 0 2  
鑑康(かんこう・朽網) → 宗歴(むねゆき・朽網くたみ/入田、武将) C 4 2 7 5

D1562 桓豪(かんこう;法諱、岡崎大僧正、一条内家男/洞院実泰養子)1312-6453 天台叡山の実乗院住僧、  
桓守門/権僧正/大僧正;1358天台座主、歌人;1350為世十三回忌和歌参加(権僧正名)、  
勅撰3首;新千載(473/928;天台座主名)新拾遺(1524)、

[いほりさす山田のを晩稲をしぬかりしほにいなば色づく秋の村雨](新千載;秋473、

庵さすは庵を造って住む/かりしほは刈るしおどき)

[雪のうちに思ひを出づる身にかへてなかばききけん法のことのは](同;釈教928)

Q1544 観豪(かんこう;法諱・戒光;字、俗姓西野)1747-181367 紀州西野村真言僧;1758大宮寺で出家、  
智積院勸善・憲海門/1790集議席/1803六波羅蜜寺住/1810智積院29世、「宗要六条義」著

Q1545 貫豪(かんこう;法諱、冷泉為則の猶子)1752-? 1821存 天台叡山南谷松林院僧/1785法印/大僧正、  
1796「紋白帽子免許並贈号等案文」著

寛剛(かんこう・高内) → 松陰(しょういん・高内たかうち、和漢学/武芸) G 2 2 8 3  
顔厚(がんこう) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1  
寛厚院(かんこういん) → 泰衍(やすみち・加藤かとう、藩主) D 4 5 0 6  
観行院(かんこういん/かんぎょういん) → 日延(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 1  
観光院(かんこういん) → 昌服(まさもと・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 9 5  
寒香園(かんこうえん) → 昆溪(こんけい・長谷川、詩人) P 1 9 1 7  
寒香園(かんこうえん) → 繁実(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家) S 2 1 7 5

D1564 元興寺僧(がんこうじのほうし) ? - ? 万葉四期歌人、卷六1018旋頭歌、

[白玉しらたまは人に知らえず知らずともよし 知らずとも我し知れば知らずともよし]、

(万葉;1018/天保十年738元興寺僧の自ら嘆く歌/多識だが世間に知られず侮られ嘆く)

勸耕舎(かんこうしゃ) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2  
観耕亭(かんこうてい) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0  
漢阜亭(かんこうてい) → 祥胤(よしたね・宮下みやした、商家/国学) P 4 7 4 5

- 漢興鉄冠(かんこうてつかん) → 草山(そうざん;道号・祖芳;法諱、臨濟僧) H 2 5 4 5  
 寒香堂(かんこうどう・寺崎) → 梅坡(ばいは・寺崎らさき、儒者) B 3 6 9 5  
 盟江老漁(かんこうろうぎよ) → 樗堂(ちよう・栗田、酒造業/俳人) K 2 8 4 3  
 I1523 甘谷(かんこく・長島ながしま、其水堂きすいどう)?-1728 俳人;沾州門、1716風葉「江戸筏」天巻36点句入  
 D1565 甘谷(かんこく・菅かん/菅谷すがのや、初姓;府川/堀、本姓;藤原/菅原、名;晨耀) 1691-1764 74  
 泉州岸和田藩士府川家生、同藩堀家養子、儒者/詩;徂徠門/古文辞学、  
 「東西異聞録」「南嶠園集」、「甘谷先生遺稿」、  
 [甘谷の字/通称/別号]字;子旭、通称;小善/小膳、初号;南嶠  
 Q1546 観国(かんこく;法諱、別法諱;豪濟、号;慈門) 1697-1774 78 天台宗比叡山北谷善光院の住僧、  
 武蔵川越喜多院住/大僧正、1753「唯識論箋」1772「白毫観」、「観国師手書雑記」外著多数  
 Q1547 甘谷(かんこく・野口のぐち、名;祐/字;子謙/通称;多新次) 1714-78 65 常陸水戸藩士/儒者:滄洲門、  
 1733彰考館入/76総裁、「陰陽志」編  
 Q1548 甘谷(かんこく・坪田つばた、通称;加兵衛/嘉平) 1759-1817 59 加賀金沢の俳人;馬来門、  
 1803「苗しろ」編、  
 [甘谷の別号] 丹頂林、圃辛亭2世、冬蘭庵2世、法号;釈観月  
 甘谷(かんこく・岡田) → 新川(しんせん、岡田、儒者/詩人) 2 2 4 4  
 甘谷(かんこく) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7  
 甘谷(かんこく・江幡) → 通理(みちまさ・江幡えばた、医者/国学) I 4 1 2 3  
 甘谷(かんこく・藤田) → 適(かなう・藤田ふじた、絵師/国学) V 1 5 5 6  
 閑谷(かんこく・梅本) → 薫(かおる・梅本うめもと、経師/歌・俳人) T 1 5 7 9  
 観国(かんこく・井上) → 蘆洲(ろしゅう・井上いのうえ、儒者/易学) B 5 2 7 2  
 幹克(かんこく・石河) → 明善(めいぜん・石河いしかわ、藩の儒者) 4 3 2 6  
 岩国(がんこく・篠崎しのぎ) → 兎城(とじょう・篠崎しのぎ、俳人) O 3 1 1 6  
 R1574 頑極(がんごく;道号・官慶かんけい;法諱) 1682-1768 87 江中期肥前諫早の曹洞僧;天祐寺の月門門;  
 出家/のち徳翁良高門/遠江少林寺黙子素淵の法嗣、近江藩主井伊家の帰依を受ける、  
 彦根の清涼寺入、尾張名古屋の新豊院を創建、萊翁黙仙の師  
 甘谷園(かんこくえん) → 江南(こうなん・田中/高島/宇留野/山野辺、儒/医/投壺) G 1 9 4 3  
 観国堂(かんこくどう) → 元宜(げんぎ;法諱・仁岳;字、僧/歌人) I 1 8 3 9  
 観古軒(かんこくけん) → 鳩台(きゅうだい・松下まつした、儒/国学) M 1 6 7 9  
 甘古斎(かんこくさい・大森) → 杖信(じょうしん・大森おおもり、茶道家) K 2 2 0 6  
 観古堂(かんこくどう) → 正澄(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学) D 4 0 1 0  
 観古堂(かんこくどう) → 実純(さねいと・武者小路/藤原/三条、廷臣/歌) K 2 0 7 4  
 鑑古堂(かんこくどう) → 諸文(もろぶみ・小貝おがい、商家/歌人) J 4 4 4 4  
 翫古堂翁(がんこくどうおう) → 成章(なりあき・山田やまだ、藩士/歌人) P 3 2 2 0  
 諫鼓堂尾佐丸(かんこくどうおさまる) → 紀尾佐丸(きのおさまる、狂歌) L 1 6 7 4  
 玩古道人(がんこくどうじん) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1  
 勘五郎(かんごろう・宮原) → 義潔(よしきよ・宮原みやはら/源、幕臣;高家) D 4 7 1 8  
 勘五郎(かんごろう・宮原) → 義周(よしちか・宮原みやはら/源、幕臣;高家) E 4 7 5 2  
 勘五郎(かんごろう・黒沢) → 四如(しじょ・黒沢くろさわ、藩儒/易学) T 2 1 7 3  
 菅根(かんこん) すべて → 菅根(すがね)  
 岩根(がんこん・渋谷) → 岩根(いわね・渋谷しぶたに、国学者) J 1 1 5 3  
 頑石幽人(がんせきゆうじん) → 果堂(かどう・南合なんごう、藩士/儒者) H 1 5 5 1  
 Q1549 寛佐(寛左かんさ;法諱・東井坊、幼名;弥介[助]、白仁大炊佐男) 1584-1642 59 豊後天台円寿寺14世、  
 13世寛清の甥、叡山修業;阿闍梨、連歌作者;昌琢門/里村家相伝を伝受/同門宗因と交流、  
 1616千道・尚俊と三吟百韻/昌琢と何船百韻、「寛佐口伝」著、  
 [末そよぐ一村蘆の深みどり](1626[寛永3]昌琢「賦何木連歌」参加;第7句、  
 前句玄的;雨晴れわたる入江すゞしも)  
 咸佐(かんさ・戸川) → 咸佐(かんすけ・しげすけ・戸川とがわ、藩士/書家) R 1 5 1 5  
 G1527 雁紗(がんさ・柳江庵、鸞亭)?- 1820 伊勢の俳人/雑俳/笠付;冠句確立  
 Q1550 寛濟(かんさい・かんせい・水本法務大僧正、中山慶親男) 1596-1663 68 京真言僧;雅巖/源朝門、

- 報恩院16世/1642大僧正;東寺二長者/56護持僧/58東寺177世長者法務、  
「四度十八道函授」「不動十四根本印図」「無動尊十四根本印図」、「寛齋漁伝授秘書」著
- H1561 **閑齋** (かんさい・内藤ないとう、名;就篤/就馬/希顔) 1625-9268 江前期長門生/毛利家臣/儒者;林羅山門、  
僧虎溪の推挙で仙台藩儒;江戸住、藩主侍講、能書家、1689「四箴墨宝」書、「閑齋詩文集」著、  
「仙台封内記」編/「忠宗公年譜」「義山公年譜」「閑齋以貫藤魯先生集」著、  
[閑齋の字/通称/別号]字;以貫、通称;六左衛門、別号;楽山/楽山人/白石山人
- Q1551 **閑齋** (かんさい・津田つた、名;信貞/字:与鷗/通称;兵蔵) 1641-171373 近江儒者:今井有順門、  
1687水戸藩彰考館入/1701致仕、1691「続神道集成」編/1710「聞取法門集」、「稻田神社縁起」
- H1558 **寛齋** (かんさい・服部はっとり/修姓;服、名;保庸、保考男) 1675-172147 江戸儒者;順庵門、甲府藩儒員、  
1704綱豊の將軍綱吉後継(家宣)に伴い父と共に幕臣/儒官、「談苑」「御伽物語」著、  
「寛齋日記」「桑韓唱酬集」「徒然筆のまゝ」著、「寛齋遺稿」、  
[寛齋の字/通称/別号]字;紹卿、通称;長十郎/藤九郎、別号;竜溪、法名;道忠
- Q1552 **看齋** (かんさい・伊野辺/伊野部いのべ、名;九右衛門/明僚) ?-? 江中期出雲将棋士、民間棋士、  
1728「象戲手段」著
- H1559 **寛齋** (かんさい・久代くしろ、名;景寛/通称;弥三郎、別号;敲亭) 1667-174377 代々姫路藩主榊原家臣、  
1741藩主転封に伴い越後高田藩士、儒者(朱子学);兄振濯しんとくと家塾;子弟教育、  
1718「心境西銘」、「報讐伝聞録」著
- Q1553 **渙齋** (かんさい・磯野いその、) 1705-177470 尾張名古屋藩士、神道;吉見幸和よしかげ門、  
儒者;朱子学;蟹養齋門、松平通温に出仕;徒士/小姓、表馬廻/勝手番、  
1748(寛延元)藩主徳川宗勝男の勝當の側役/66病により側役辞任;表御馬廻、  
1745「延享二年上京記」、「革命辨」「国初泰伯辨」「無戸室辨」著  
[渙齋(;)号)の名/通称]初名;員胤かづたね(;)初名)/員純かづすみ、通称;平八、
- Q1554 **簡齋** (かんさい・田辺たなべ/初姓;熊谷くまがい、名;希績、田辺損齋養嗣子) 1746-181368 仙台藩士/家督;  
藩儒、「伊達世臣家譜」「伊達世臣家譜続編」編、1809「伊達族譜」編、希道まねみの父、  
[簡齋の字/通称/別号]字;叔考、通称;喜右衛門、別号;鶏沢、諡号;良順先生
- 1548 **寛齋** (かんさい・市河いちかわ/修姓河、名;世寧せいね/字;子静、山瀬蘭台男) 1749-182072 江戸儒者/詩人、  
1776林家入門/87江湖詩社結成/昌平鬢員長;90辞去/91富山藩儒/藩校祭酒/1813長崎、  
詩風革新;大窪詩仏菊池五山の師、「日本詩紀」50巻、「全唐詩逸」「寛齋摘草」、戯作「北里歌」著、  
「寛齋詩文集」「寛齋百絶」「三大家百絶」「西野凍筆」「西野漫録」「半江奇筆」「江湖詩話」外多数、  
[寛齋の通称/別号]通称;山瀬新平/市河小左衛門、別号;西野/半江/江湖詩老、  
戯作名;玄味子、私諡号;文安先生
- D1566 **卷齋** (かんさい) ? - ? 俳人、成美せいび門、師三周忌1819「三霜」編
- H1562 **環齋** (かんさい・鎌田かまた/修姓;鎌、名;禎) 1753-182270 大阪儒者;片山北海門、程朱学者/能書家、  
京岡崎に隠棲、1793「漢土諸家人物誌」校訂、  
1803「詩学貫珠」04「詩韻貫珠」12「一類腋」著、16「詩韻通覧」編、  
「続詩学貫珠」「唐宋詩源」「唐宋詩語類苑」「唐宋詩学類苑大成」「字林玉篇大全」著、  
[環齋の字/通称]字;資庸(志庸)、通称;松荷/禎蔵、法号;玉環齋
- D1567 **侃齋** (かんさい・石川いしかわ、名;元輅/字;公乗) 1764-184077 越後新潟の絵師;木村巽齋/釧雲泉門、  
佐久間象山がその絵を激賞、世に受け入れられず貧窮生活、「侃齋老人之筆」著、  
[侃齋の通称/別号]通称;竜助、別号;二橋外史/信天翁/老香堂
- H1560 **簡齋** (かんさい・深江ふかえ、名;順房、順清男) 1771-184878 肥前佐賀多久の儒者;多久聖堂の修学、  
1795藩校弘道館入/監察、1801帰郷/03多久聖堂教授/05大監察、05家督;新鉄砲物頭、  
1839致仕、「丹丘邑志」「丹丘遺芳」著、  
[簡齋(;)号)の通称]通称;三太夫
- Q1555 **閑齋** (かんさい・大井おおい) ? - ? 江後期文化1804-18頃信濃の医者、  
江戸住;杉田玄白門、溝部みぞべ有謙の父、  
「一貫舎癩祭録」編/「養春堂方函」「外科方函」著、  
[閑齋(;)号)の通称]通称;養春堂/其馨子蘭父きけいしらぶ
- G1528 **閑齋** (かんさい・大江おおえ?、別号;梅閑/椿杖齋) ?-1837? 近江の義仲寺無名庵10世住職/庵の修復、  
俳人;時雨会興行/蝶夢創設栗津文庫の再興に尽力、1811「俳諧道中双六」/17「長櫃」編、

- 1823「時雨会奉扇会」24「時雨会句集」29「栗津文庫」33「たねもの集」編
- Q1556 咸齋(かんさい・藤井ふじい、通称;大坂屋四郎兵衛)?-1843 江戸八官町の薬舗/本草家、  
1823「手板発蒙」著、法号;峰誠応清雅
- Q1557 寛齋(かんさい・加藤かとう、名;喜継)1782-186685 常陸水戸藩士・1847留付列、地歴産物を調査、  
俳人;妻千尋も俳人、「加藤寛齋随筆」「寛齋雑記」「寛齋筆記」「寛齋漫筆録」「貞婦木曾伝」著、  
「陶々庵即興集」「奥州嶽温泉紀行」「菜園温故録」「辰の口堰の鏡」「寛齋調法雑記」著、  
[寛齋の通称/別号]通称;多吉/善兵衛、別号;文昇/陶々庵/対榴屋たいりゅうや
- S1592 閑哉(かんさい・鈴木すずき)1784-185067歳 伊予松山藩士;小姓、江戸詰;国学者  
[閑哉(;号)の通称]通称;九郎/錠之助
- Q1558 咸齋(かんさい・富沢とみさわ、名;尚熙/昇、通称;胖右衛門)1788-186073 羽前新庄藩儒/三浦滝山門、  
「咸齋遺稿」
- Q1559 幹齋(かんさい・吉村よしむら、名;董洪、字;光甫)1789-184759 肥前佐賀藩士/儒者;昌平黌出、  
藩校弘道館助教/什物役兼仁、1846藩主に従い江戸;帰国途中病気で客死、  
「登富岳記」「奥羽紀行」「公私年契」「列公年譜考補」著、「前修遺稿」編、  
[幹齋の通称/別号]通称;祐平、別号;麦濠/松泷しょうはん
- Q1560 間齋(かんさい・狩野かのう、名;良安/字;君修)1797-186973 秋田藩士;大館城代佐竹西の家臣、  
「間齋集」著、妻;山田勝証女の美津(水子/歌人)、良知りょうち/旭峰の父  
[間齋の通称/別号]、通称与十郎、致仕後の号;良夢、良知りょうち/旭峰の父  
参照 → 水子(みづこ・狩野かのう、歌人) I 4 1 6 5
- S1592 閑哉(かんさい・鈴木すずき)1784-185067歳 伊予松山藩士;小姓、江戸詰;国学者  
[閑哉(;名)の通称]通称;九郎/錠之助
- Q1561 簡齋(かんさい・桜田さくらだ、名;迪/景迪/迪之、贅庵男)1797-187680 陸前仙台儒者;叔父桜田虎門門、  
長沼流兵法;1819堀田正敦のため下野佐野築城/30仙台藩大番士/致仕;済美館で文武教授、  
のち藩校養賢堂で剣法指南、息景敬かげりと勤王派尊攘活動;1863幽閉、1834「可驗録」、  
1862-66「桜田良佐雑記」1863-64「桜田良佐日記」66「幽中日記」、「武芸新論」「真秘録」著、  
[簡齋の字/通称/別号]字;子恵、通称;甫助/良佐よしすけ、別号;簡堂/済美/郝然かくねん居士  
父 → 贅庵(ぜいあん・桜田景雄、儒者) H 2 4 3 3  
兄 → 澹齋(たんさい・桜田景行、儒者) I 2 6 7 0
- S1593 閑哉(かんさい・渡辺わたなべ、章4男)1798-187376歳 岩代下長折村の名主の家に生、生来学問好き、  
国学;大屋士由門/儒学;渡辺竹窓門/算学も修学、1817(文化14)布沢村の名主、  
1843(天保14)父を継嗣;下長折村名主/49鈴石村名主を歴任;疲弊した農村の復興に尽力、  
1857(60歳)隠居;閑哉と号す、安積平野の開墾のため安積疎水開発を企画/岳温泉復興、  
馬鈴薯栽培奨励(閑哉芋)、護岸用台明竹の増殖奨励(閑哉竹)/養蚕製糸の奨励、  
農民子弟教育の奨励;農民から尊敬される、  
[閑哉(;号)の名/字/通称/別号]名;朴、字;希哲、通称;儀右衛門、別号;松齋/霞峯
- Q1562 幹齋(かんさい・高村たかむら、名;貞/字;士固、悠齋男)?-? 江後期淡路の医者/本草、内科;村井琴山門、  
外科;吉雄如淵門、洲本で医業;村上文庵と淡路最初の種痘法を実施、1832「扁鵲志志」著
- Q1563 貫齋(かんさい・多湖たこ、名;謹/安元、松江の玄孫)?-? 江後期信州松本藩儒/1819-58藩校助教、  
儒書預として教授、1831「安元詩稿」33「家つと草」41「澹齋長沼先生行状」著、  
[貫齋の字/通称]字;公信、通称;大蔵、
- Q1564 渙齋(かんさい・松井まつい、名;濤/字;秋水/通称健蔵)1806-5449 江後期江戸の儒者/詩文、書、  
1837甲斐西野郷校教師;子弟教育/48江戸帰郷、  
1849「朱子治家格言児訓」訳、51「甲斐叢記」補筆、
- S1594 閑哉(かんさい・森田もりた/旧姓;伊東、名;清安)1817-9478歳 江後期;俳人、  
1884五十鈴神社の芭蕉句建立[疑ふなうしをの花も浦の春]、  
[月はいまはなれた色や朝ざくら](閑哉句碑)
- Q1565 簡齋(かんさい・青方あおかた、名;晋賜、運善男)1820-5940 肥前福江藩士;1846家老;  
藩主五島盛徳に出仕、一時致仕/1858復職;59藩命で江戸に赴く;没、  
文武に優れ特に洋学に精通/詩・書を嗜む、  
1835「日置流雪荷派表目録」受く、54「西洋伝砲術皆伝状」受く、55「兵法伝授序」受く、

[簡齋(；号)の字/通称] 字;明德、通称;晋太郎

- Q1566 **寛齋**(かんさい・井神いがみ、名;親陽)?-? 江戸期歌人;葛岡宣易門、  
「吉備津宮参詣之記」「樗葉集」「吉野の記行」著
- Q1567 **咸齋**(かんさい・山本やまもと、名;愿/愿中)?-? 江後期医者:金沢藩老臣長恭連の侍医、  
詩:林蓀坡そんぱ門、「咸齋詩草」著
- Q1568 **桓齋**(かんさい・遠近とおちか、名;慎/通称;晋八、鶴鳴かくめい男)1824-6340 土佐中村儒者;父門、  
古注学を講説、「鎮西紀行」著
- Q1569 **貫齋**(かんさい・伊東いとう、名;盛貞、神官:織田筑後男)1826-9368 武蔵府中出身蘭医者;1845洪庵門、  
1853伊東玄朴の女婿/55和歌山藩医/57幕命で下田詰;ハリスを治療/58幕府奥医;法印、  
1860「眼科新編」「日用方叢」訳/62「遠西方彙」訳、  
[貫齋の字/通称/別号]字;文仲、通称;貞/瑤川院、別号;磯廻舎
- Q1570 **簡齋**(かんさい・山本やまもと/別姓;館たち、名;良臣/安暢/諄大、安良男)?-? 江後期医/本草:山本亡羊門、  
松江藩主松平斉貴の側医/松江藩医学校存濟館教授、1865藩表医師上座、  
1844「雲州採薬記事」45「古今蘭草辨誤」58「石菖編」著、「鸚寮(安良)あんりょう先生百絶句」編、  
[山本簡齋の字/通称/別号]字;徵聖、通称;泰淵、別号;青浦/氷川
- Q1571 **幹齋**(かんさい・三木みき、名;正貢、俳人志成の長男)1832-6130 阿波板野郡松茂町中喜来の藍商、  
詩:赤松藍洲門、詩/書/俳諧を嗜む;早世、「雲城詩稿」著、「菁里遺稿」  
[幹齋の通称/別号]通称;宗太郎、別号;其雪きせつ/菁里せいり
- V1552 **幹齋**(かんさい・今こん、) 1833 - 189260 陸奥津軽藩侍医、医;江戸の幕府医官多紀家入門、  
詩文を能くす、兼松石居と親友、成男・裕の父、「幹齋遺稿」あり、  
[幹齋(；号)の名/字/通称/別号]名;弘貞/字;君栗、通称;寛貞/敬一/春碩、別号;猶存

竿齋(かんさい・石坂)	→	宗哲(そうてつ・石坂いしざか、医官/鍼灸)	I 2 5 5 5
完齋(かんさい・内海)	→	貞倚(さだより・内海うつみ/高橋、名主)	O 2 0 0 0
完齋(かんさい・神田)	→	祐世(すけよ・神田かんだ/源、廷臣/歌人)	I 2 3 3 3
完齋(かんさい・斎藤)	→	幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌)	E 4 6 3 4
咸齋(かんさい・小野)	→	慶孝(よしたか・小野おの/宇治、神職/歌人)	L 4 7 8 3
菅齋(かんさい・有賀)	→	豊秋(とよあき・有賀ありが/菅原、国学/歌/俳)	U 3 1 0 2
観齋(寛齋かんさい・畠中)	→	胸脈先生(どうみやくせんせい、畠中観齋、狂詩)	3 1 2 2
観齋(かんさい・長沼)	→	詮政(あきまさ・長沼ながぬま、和算家)	D 1 0 8 9
観齋(かんさい・杉山)	→	正仲(まさなか・杉山すぎやま、藩士/儒者)	F 4 0 1 0
観齋(かんさい・内田)	→	五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文)	F 1 9 5 2
観齋(かんさい・森)	→	忠義(ただよし・森、藩士/儒/記録)	R 2 6 3 2
環齋(かんさい・三上)	→	致之(むねゆき・三上みかみ、兵学者)	C 4 2 7 7
寛齋(かんさい・若林)	→	強齋(きょうさい・若林、儒者/詩歌)	C 1 6 5 0
寛齋(かんさい・加藤)	→	大式(だいに・加藤、家老/儒者)	B 2 6 9 7
寛齋(かんさい・内藤)	→	頼寧(よりやす・内藤、藩主/詩)	J 4 7 9 1
寛齋(かんさい・山本)	→	格安(ただやす・山本、国学/和算家)	R 2 6 0 6
寛齋(かんさい・坂内)	→	仁義道守(じんぎのみちもり、狂歌/絵師)	N 2 2 7 9
寛齋(かんさい・金)	→	岳陽(がくよう・金こん、藩士/儒者)	H 1 5 8 0
寛齋(かんさい・藤井)	→	正麗(まさよし・藤井ふじい、商家/町役)	S 4 0 2 7
寛齋(かんさい・早川)	→	武英(たけひで・早川、藩士/樺太開拓)	O 2 6 6 8
寛齋(かんさい・秋山)	→	知守(とももり・秋山あきやま、神道家)	T 3 1 9 7
寛齋(かんさい・近藤)	→	政和(まさかず・近藤こんどう、医者/国学)	P 4 0 7 6
寛濟(かんさい・栗田)	→	寛濟(ひろなり・栗田くりた/源、神職/国学)	J 3 7 4 9
寛哉(かんさい・大竹)	→	船積(ふなづみ・田原/俵たわらの、商家/狂歌/戯作)	D 3 8 5 5
勘齋(かんさい・山屋)	→	勝秀(かつひで・山屋やまや、藩士/和漢学)	N 1 5 8 0
勘齋(閑齋/簡齋/閑哉かんさい・山本)	→	広足(ひろたり・山本、神道家)	G 3 7 3 3
感齋(かんさい・中村)	→	忠亨(ちゅうてい・中村、藩士/儒者)	G 2 8 6 4
間齋(かんさい・林)	→	壮軒(そうけん・林、櫻字男/幕府儒官)	H 2 5 1 1
蘭齋(かんさい・中山)	→	手巻(たまき・中山なかやま、国学/名主)	Y 2 6 6 5

簡齋(姦齋/簡齋かんさい・伊沢)→蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3  
 簡齋(かんさい・加藤) → 泰幹(やすもと・加藤、藩主/詩歌) D 4 5 2 8  
 簡齋(かんさい・永田) → 有功(ゆうこう・永田ながた、藩士/和算家) B 4 6 6 2  
 簡齋(かんさい・永田) → 敏昌(としまさ・永田/森島、有功の養子、和算家) N 3 1 7 2  
 簡齋(間齋かんさい;号) → 昇道(しょうどう;法諱、枕雲、真宗僧/漢学/歌人) R 2 2 6 1  
 簡齋(かんさい・安岡) → 良亮(よしすけ・安岡、郷土/国事奔走) D 4 7 8 1  
 簡齋(かんさい・神谷) → 道一(みちかず・神谷かみや、国学/史家) I 4 1 7 0  
 閑齋(かんさい・里村) → 仍憐(じょうれん・里村さとむら、連歌宗匠) C 2 2 0 8  
 閑齋(かんさい・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
 閑齋(かんさい・蜂屋) → 宗意(そうい・蜂屋はちや/菅原、香道家/歌?) F 2 5 9 8  
 閑齋(かんさい・片桐) → 春一(はるいち・片桐、藩士/軍学/国学) F 3 6 9 8  
 閑齋(かんさい・荒尾) → 敏樹(としき・荒尾あらお、幕臣;鉄砲奉行) U 3 1 0 0  
 閑齋(かんさい・西川) → 竜章堂(りゅうしょうどう・西川にしかわ、書家) E 4 9 7 3  
 閑齋(かんさい・川村) → 修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌) F 3 2 0 7  
 閑齋(かんさい・塩沢) → 亮雄(すけお・塩沢しおざわ/竹村、庄屋/歌) I 2 3 5 8  
 閑齋(かんさい・木村) → 信章(のぶあき・木村きむら、歌人) I 3 5 1 1  
 閑齋(かんさい・由比) → 演義(のぶよし・由比ゆい、藩士/歌人) E 3 5 0 6  
 閑齋(かんさい・志自岐) → 小楯(おたて・志自岐じじき/鎌奥、藩士/歌) D 1 4 9 5  
 閑齋(かんさい・横山) → 愿恭(よしやす・横山よこやま/中西、名主) P 4 7 9 8  
 閑齋(かんさい・福島) → 秋郷(あきさと・福島ふくしま、商家/歌人) I 1 0 3 6  
 閑齋(かんさい・三好) → 清房(きよふさ・三好みよし、藩士;重臣) V 1 6 3 3  
 寒齋(かんさい・保岡) → 嶺南(れいなん・保岡、儒者/詩) 5 1 6 0  
 貫齋(かんさい・浅井) → 玄香(げんこう・浅井あさい、藩士/詩) I 1 8 7 5  
 貫齋(かんさい・中島) → 長守(ながもり・中島、砲術) G 3 2 1 2  
 貫齋(かんさい・樋口) → 定雄(さだお・樋口ひぐち、武芸者) H 2 0 8 0  
 貫齋(かんさい・鈴木) → 主計(かづえ:通称・鈴木すずき、眼科医) M 1 5 1 2  
 貫齋(かんさい・岩田) → 清庸(せいよう、岩田/磐田、藩士/和算) J 2 4 7 0  
 貫齋(かんさい・内山) → 良隆(よしたか・内山うちやま、藩士/儒・兵学) E 4 7 1 1  
 貫齋(かんさい・柏淵) → 時憲(ときのり・柏淵かしづち、国学者) U 3 1 7 2  
 莞齋(かんさい・斎藤) → 幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3  
 管齋(かんさい・堀内) → 元鑑(げんがい・堀内ほりうち、医者/文章家) I 1 8 1 6  
 煥齋(寛齋かんさい・丹羽) → 貴明(たかあき・丹羽、藩家老) L 2 6 4 7  
 菡齋(かんさい・菴原) → 道麿(みちまる・菴原いはら、蝦夷開拓) C 4 1 6 1  
 寒齋(かんさい・保岡) → 嶺南(れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官) 5 1 6 0  
 幹齋(かんさい・津田) → 信成(のぶなり・津田、藩士/文筆) C 3 5 6 3  
 漢齋(かんさい・樋口) → 紀綱(のりつな・樋口ひぐち、商家/儒者/歌) J 3 5 7 8  
 関西(かんさい) → 慧叡(えかつ;法諱・鄂隠がくいん、臨濟僧) 1 3 5 4  
 関西(かんさい;号) → 西胤(せいいん;道号・俊承;法諱、臨濟僧) L 2 4 5 2  
 翰齋(かんさい・畑) → 鉄鷄(-鶏てつけい・畑はた、医者/絵師) C 3 0 2 6  
 艦齋(かんさい・亀屋) → 亀丈(きじょう、俳人) K 1 6 9 2  
 乾齋(かんさい) すべて → 乾齋(けんさい)

E1502 願西(がんさい・安養尼あんようのあま、源信の妹or姉) 953-1034<sup>82</sup> 平安中期の尼僧;吉野で念仏を唱う、今昔物語・古今著聞集などに道心堅固の逸話

H1563 含齋(がんさい・沢野さわの、名;修) 1828-1903<sup>76</sup> 儒者;安積良齋門、松江藩訓導、「含齋詩存」著

丸齋(がんさい・高野) → 眞盈(まさみつ・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 7 0

願西(がんさい;法名) → 実重(さねしげ・平たいら、廷臣/歌人) D 2 0 0 4

間在居(かんざいきよ) → 明挙(めいきよ・梅ばい、詩人/俳論) 4 3 1 1

Q1572 勘左衛門(かんざえもん・長野ながの) 1551-1600<sup>戦死</sup> 50 薩摩武将;関ヶ原討死、「長野勘左衛門覚書」著

G1529 勘左衛門(かんざえもん・星野ほしの、名;茂則) ?-? 尾張藩士/射術家;1668三十三間堂通し矢、西鶴大矢数に影響を与えた

- Q1573 **勘左衛門** (かんざえもん・横田よこた、名;房郷ふささと) 1722-8766 熊本藩士;1752家督/番方・鉄砲十挺頭、  
軍学者(謙信流):愛甲景甫門/加治縫殿門、1774「士林要言」72「横田勘左衛門房郷覚書」著
- Q1574 **官左衛門** (かんざえもん・畑はた) ?- ? 江中期江戸神田橋の書家:篠田行休こうきゅう門、  
1774「大橋都往来」「手本書」著
- 官左衛門 (かんざえもん・稲毛) → 屋山(おくざん・稲毛いなげ、篆刻家) B 1 4 0 8  
寛左衛門 (かんざえもん・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5  
堪左衛門 (かんざえもん・中川) → 政宣(まさのぶ・中川、弓術家) F 4 0 5 7  
堪左衛門 (かんざえもん・壇) → 益昌(えきしょう・壇だん、和算家) D 1 3 6 6  
勘左衛門 (かんざえもん・伊勢) → 貞益(さだます・伊勢いせ/平、故実家) J 2 0 7 4  
勘左衛門 (かんざえもん・立花) → 増弘(ますひろ・立花たちばな、領主/和学) Q 4 0 8 4  
勘左衛門 (かんざえもん・橋村) → 正珍(まさつら・橋村はしむら/度会、神職) R 4 0 6 8  
勘左衛門 (かんざえもん・服部) → 大方(ひろかた・服部はっとり、伊賀衆/歌人) K 3 7 6 4  
勘左衛門 (かんざえもん・新保;変名) → 継成(つぐしげ・甘粕/甘糟、藩士/史家) 2 9 7 1  
勘左衛門 (かんざえもん・小川) → 志純(ゆきとむ・小川、藩士/郷土史家) E 4 6 9 8  
勘左衛門 (かんざえもん・森) → 芳材(よしき・森もり、藩士/記録) D 4 7 0 5  
勘左衛門 (かんざえもん・黒瀬) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2  
勘左衛門 (かんざえもん・横田) → 巖正(いづまさ・横田よこた/上野、藩士/歌) K 1 1 7 7  
勘左衛門 (かんざえもん・三島) → 正英(まさひで・三島みしま、小説作者) G 4 0 7 1  
勘左衛門 (かんざえもん・土屋) → 秀世(ひでよ・土屋つちや/川上、役人/国学) K 3 7 2 0  
勘左衛門 (かんざえもん・堀) → 轍(わだち・堀ほり、歌人) 5 3 8 8  
勘左衛門 (かんざえもん・小口) → 静雄(しずお・小口おぐち/源、国学) N 2 1 6 4  
勘左衛門 (かんざえもん・武藤) → 手束(たつか・武藤むとう、藩士/国学) W 2 6 6 6  
勘作 (かんさく・熊谷) → 直好(なおよし・熊谷くまがい、歌人) 3 2 0 4  
勘作 (かんさく・葛上) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8  
寛作 (かんさく・三浦) → 義方(よしかた・三浦/円城寺、藩士/地誌) P 4 7 2 8
- 1550 **勘三郎** (かんざぶろう・初世・中村なかむら) 1598?-165861 歌伎役者、中村座創設座元/江戸劇場の祖
- D1568 **勘三郎** (2世・中村、明石/鶴屋) 1647-74早世28 歌伎役者、初世男、拍子事、座本
- D1569 **勘三郎** (3世・中村) ? - 1679 歌伎役者、座本
- D1570 **勘三郎** (4世・中村、伝九郎、舞鶴) 1662-171352 歌伎役者、座本、荒事、奴丹前やっこたんぜん
- D1571 **勘三郎** (5世・中村) 1666 - 170136 歌伎役者、座本、早わざ・拍子事
- D1572 **勘三郎** (6世・中村、冠子) 1688-175770 歌伎役者、5世弟、座本
- D1573 **勘三郎** (7世・中村、明石、雀童) 1717-7559 歌伎役者、6世男、座本、
- D1574 **勘三郎** (8世・中村、勝三郎、舞鶴) 1723-7755 歌伎役者、7世弟、座本、朝比奈
- D1575 **勘三郎** (9世・中村、3世七三郎) 1765-87早世23 歌伎役者、2世七三郎孫、座本
- D1576 **勘三郎** (10世・中村) ? - 1810 歌伎役者、座本
- D1577 **勘三郎** (11世・中村、3世伝九郎) 1766-182964 歌伎役者、座本、2世八百蔵男
- D1578 **勘三郎** (12世・中村、5世伝九郎) 1800-5152 歌伎役者、座本、11世男
- D1579 **勘三郎** (13世・中村) 1828 - 189568 歌伎役者、座本、12世男
- Q1575 **勘三郎** (14世・中村) → 仲蔵(3世なかぞう・中村、歌伎役者) D 3 2 9 8  
勘三郎 (かんざぶろう・若狭屋) → 五鹿(ごろく・若狭屋、俳人) P 1 9 3 9  
勘三郎 (かんざぶろう・伊東) → 矩州(くしゅう・那須/伊東、俳人) 1 7 4 8  
勘三郎 (かんざぶろう・伊東) → 巨洲(きょしゅう・伊東、俳人) P 1 6 6 4  
勘三郎 (かんざぶろう・榎倉/二見) → 忠知(ただとも・二見ふたみ、神職/連歌) M 2 6 0 6  
勘三郎 (かんざぶろう・中川) → 忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4  
勘三郎 (かんざぶろう・安部) → 重憲(しげのり・安部あべ、国学者) N 2 1 0 2  
勘三郎 (かんざぶろう・雲井) → 正篤(まさあつ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 3  
勘三郎 (かんざぶろう・雲井) → 正帥(まさのり・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 4  
勘三郎 (かんざぶろう・松屋) → 義和(よしかず・矢野やの/藤井、商家/藩士/国学) P 4 7 7 4  
煥三郎 (かんざぶろう・中野) → 竜田(りゅうでん・中野なかの、儒者) K 4 9 8 5  
寛三郎 (かんざぶろう・新田) → 邦光(くにてる・新田にった、神道家) C 1 7 9 5

- 寛三郎(かんざぶろう・菊池)→ 卷石(けんせき・菊池まくり、藩士) K 1 8 4 7  
 寛三郎(かんざぶろう・秀島)→ 鼓溪(こけい・秀島ひでしま、庄屋/儒/教育) M 1 9 2 8  
 寛三郎(かんざぶろう・阿部)→ 正寧(まさやす・阿部あべ、藩主/歌) L 4 0 9 6  
 寛三郎(かんざぶろう・高山)→ 慶孝(よしたか・高山たかやま、商家/行政/歌) N 4 7 7 6  
 崑三郎(がんざぶろう・林) → 毛川(もうせん・林はやし、藩士/藩政改革) 4 4 5 9
- Q1576 貫三(貫山かんさん;法諱・了純;字)?-? 江後期天保1830-44頃の真言宗智山派学僧、  
 「勸学院道場灌頂記」著
- 漢三(かんさん;道号・道一)→ 道一(どういつ;法諱・漢三、曹洞僧) B 3 1 0 2  
 乾三(かんさん→けんさん) → 乾三(けんさん;法諱・積、僧/注釈書) B 1 8 9 2
- 1551 冠山(かんざん・岡島おかじま) 1674-1728<sup>55</sup> 長崎唐話学;上野玄貞門/1692萩藩主毛利家訳士、  
 儒;1711林鳳岡門/荻生徂徠と親交、唐話・唐音に精通、  
 白話小説紹介;「水滸伝語訳」「通俗忠義水滸伝」「通俗皇明英烈伝」訳、  
 1716「唐音和解わげ」著(逍遥軒序)/16「唐話纂要」編/25「字海便覧」「華音唐詩選」著、  
 1726「唐語便用」「唐訳便覧」著/26「唐音雅俗語類」27「唐音学庸」編/「唐話類纂」著、外著多、  
 [冠山(;号)の名/字/通称]名;明敬/璞、字;玉成/援之、通称;長左衛門/弥太夫/喜兵衛
- 1552 観山(かんざん・松宮まつみや/本姓;菅原/修姓;菅、修験者俊恵男) 1686-1780長寿<sup>95</sup> 下野足利生、  
 1799江戸遊学;松宮政種の養子、北条流軍学・北条氏如門、幕吏;師と蝦夷踏査、神仏儒/国学、  
 1769山県大式「柳子新論」の跋文執筆;筆禍で江戸所払、四谷住、俊英の父、  
 「学論」「北遊筆記」「愚詠千首」「愚詠塵塚集」「国学正義」「四随草」「尚武編」「老問筆乘」著、  
 1775「異説辨解」外著多数、  
 [ありはてぬこの世の名残今はとてかき置く筆や形見なるらむ](辞世)、  
 [観山(;号)の名/字/通称/別号]名;俊乃としぐ、字;伯貫/繩甫、通称;主鈴/左司馬、  
 別号;観梅道人/東嶽散人、法号;仰高院/諡;真相靈神、兵学学統は養子定俊が継承
- Q1577 観山(かんざん、名;元隆[玄隆]) 1715-85<sup>71</sup> 大阪の庸軒流茶道・藤村正員門、寺町住;門弟2千人、  
 晩年は小橋村に寥寥庵を結ぶ、「茶人系譜」著、  
 [観山の別号] 寥寥庵/寥寥斎/解脱庵/漸至庵/等観/慕庸軒/観海
- I1524 環山(かんざん・竹内たけうち、一万堂)?-? 江中期江戸の俳人;沾徳座沾山側点者、  
 1754竹翁「誹諧童の的」点句入
- Q1578 観山(かんざん;法諱・即道;字、号;至圭/無相) 1725-87<sup>63</sup> 下総匝瑳郡の融通念仏宗僧、  
 下総慈土山に住、のち大和法徳寺/円融寺住、1767-72頃大念仏寺で講義、  
 1765「勸化翼」71「融通木母集」、「融通円門章遊意」「融通円門章論講」外著多数
- Q1579 完山(かんざん) ? - ? 陸前仙台俳人;1783維駒「五車反古」入、  
 [桜三日四日を花や嵐山](五車反古;卷首143/花の寿命は短いが嵐吹く洛西は特に短い)
- D1580 冠山(かんざん・松平まつだいら、旗本池田いげ政勝男) 1767-1833<sup>67</sup> 松平定得さだのり養子/1773家督、  
 因幡若桜藩主/縫殿頭/1801致仕、儒;佐藤一斎門/地誌・仏典に精通、柳間詰の文学三侯の1、  
 1829著書多数焼失、地誌;「浅草寺志」「三滄一覽」「武蔵名所考」、随筆;「思い出草」「南蘭草」著、  
 [冠山(;号)の名/字/通称/別号]名;定常、字;君倫、通称;鍔之助/恒次郎、  
 別号;冠石/慎斎/去留/不軽居士/冕嶠陳人、法号;停雲院
- H1564 冠山(かんざん・小笠原おがさわら) 1763-1821<sup>59</sup> 肥前の儒者;増井玄覧/山本北山門、豊前小倉藩士、  
 江戸藩邸学問所思永館助教、「周易選説」「間散録」「学庸愚解」「間散統録」「五象小言」著、  
 [冠山(;号)の名/字/通称/別号]名;謙、字;益卿、通称;仲、別号;楽易道人
- G1530 菅山(かんざん・山口やまぐち、名;重昭/重明しげあき、風簷ふうえん男) 1772-1854<sup>83</sup> 若狭小浜藩士/儒;父門、  
 西依成斎/墨山/叔父岡畏斎門、江戸藩邸学問所教授、ペリ-来航時;鎖港攘夷論、  
 「大学講義」「王学駁議」「近斎存稿」「菅先生集」外著多数、輜斎ゆうさいの兄、巽斎そんさいの養父、  
 [菅山の通称/別号]通称;定一郎/貞一郎、別号;近斎、法号;菅山休翁居士
- Q1580 完山(かんざん・野坂のさか) 1785- 1840<sup>56</sup> 安藝賀茂寺家村の医者;三宅見龍/中神琴溪門、開業医、  
 1834広島藩御医格、俳人;雨洗/篤老門、1807-「鶴亭かくてい日記」著、  
 [寝たままの猫かりて来る時雨かな](1822筵史「はつたより」入)、  
 [完山の字/通称/別号]字;子軌、通称;三益、別号;柴籬さいり/鶴亭
- Q1581 函山(かんざん・小林こばやし、名;白蟻/字;和同/通称埴蔵てつぞう)?-? 江後期1830-44頃の漢学者:

復古大周易館象数学塾を開く（[大易遺伝専門2370余年の後学]と称す）、

1836「大周易象数図経要領」38「易伝天眼通」著

- Q1582 **環山** (かんざん・植木うえき、名; **友風**ともかぜ、字; 士雲、雨鼎うてい男) 1808-8174 丹波氷上郡和田村の生、  
儒医; 父門、上京し儒者; 猪飼敬所/巖垣東園(松苗)門、歌; 大国隆正門、  
帰郷; 祖父玄卿(遯窩)からの医業を継嗣、傍ら1863私塾学半館を開設; 詩・書を教授、  
安積良斎が学半館の額を書き篠崎小竹が門柱に聯句を揮毫、門弟多数、  
詩:「晩楓軒詩艸」著、  
[環山の通称/別号]通称; 教之助、別号; 玉堂/班竹
- V1581 **閑山** (かんざん・丸山まるやま、惟義これよし[南海]男) 1810-7274 伊予松山藩士/儒; 父門、絵師、  
画; 大高坂南海門/竹画に長ず; [墨竹の三名人](蔵澤・南海と)、  
墨竹画は吉田蔵澤→大高坂南海→丸山閑山→中野雲濤へ続く、  
[閑山(;号)の名/通称/別号]名; 隆、通称; 市郎兵衛、  
別号; 寛揖かんゆう/子思/子興/三洞/雪花斎
- S1586 **寛山** (かんざん; 法諱、俗姓; 山岸) 1815-6753歳 武蔵菅谷村の農家/幼少時; 比企郡曹洞宗東昌寺入、  
1838東昌寺とうしょうじ住寺; 25年間、禅学・漢学を修学/詩歌・俳諧に通ず、青少年の門弟を教導、  
のち広野村高木山広正寺住寺に転ず、般若経を書写; 門弟・信徒に配布、  
歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[とはれじと思ひ閉ぢたる柴の戸をいかに水鶏くひなのなほたたくらむ]、  
(大江戸倭歌; 夏524/閑居水鶏)
- H1565 **観山** (かんざん・大原おおはら、有恒/恒有/三寅、加藤重孝男/大原恒固養嗣子) 1818-7558 松山藩士、  
江戸の昌平黌に修学; 舎長、のち伊予藩校明教館教授/藩主世子松平定昭側用達、  
「膾残録」「観山文集」著、「蕉鹿窩遺稿」  
[観山(;号)の字/通称/別号]字; 士行、通称; 大次郎/城之助/晋之助/武右衛門、  
別号; 頑翁/蝸亭/蕉鹿
- Q1583 **看山** (かんざん・田村たむら、名; 久常/敏、久俊男) 1820-9475 丹波柏原藩士/儒(朱子学); 安積良斎門、  
中小姓/近習/徒歩頭/会講出筵/1858藩主織田信民と藩校崇広館設立/教授、のち大阪開塾、  
「論語師説」「詩経師伝」「周易上・下経師説」「書経講義誌」「大学師説」「中庸師説」編、  
[看山の字/通称]字: 子訥、通称; 可左衛門
- P1556 **観山** (かんざん) ? - ? 江戸期越中真宗西方寺の僧、「正信偈拾藩録」著
- |                |                          |           |
|----------------|--------------------------|-----------|
| 冠山 (かんざん・菅原/菅) | → 長好(ながよし・菅原、神職/国学)      | G 3 2 4 8 |
| 坎山 (かんざん・山口)   | → 和(やわら・山口やまぐち、和算家)      | E 4 5 4 2 |
| 菅山 (かんざん)      | → 貞融(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌)   | C 2 0 4 9 |
| 菅山 (かんざん・松平)   | → 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌) | I 4 7 9 0 |
| 寛山 (かんざん・日高)   | → 凉台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩)  | I 4 9 8 0 |
| 寛山 (かんざん・塩谷)   | → 定興(さだおき・塩谷しおたに、医者/歌人)  | O 2 0 6 3 |
| 看山 (かんざん・栗本)   | → 義貫(よしつら・栗本くりもと、国学/教育)  | M 4 7 6 3 |
| 看山 (かんざん・芳賀)   | → 猶昌(なおまさ・芳賀はが、国学者)      | O 3 2 2 7 |
| 幹山 (かんざん→けんさん) | → 幹山(けんさん; 道号・師貞、臨濟僧)    | J 1 8 1 9 |
| 灌山 (かんざん; 別号)  | → 叶翁(きょうおう・坂井、俳人)        | G 1 6 5 9 |
| 閑山 (かんざん; 道号)  | → 慧玄(えげん; 法諱、臨濟僧)        | 1 3 6 1   |
| 環山 (かんざん・飯田)   | → 忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家)      | F 2 6 6 7 |
| 環山 (かんざん・川村)   | → 寛緯(ひろのぶ・川村、藩士/和算家)     | G 3 7 8 3 |
| 貫山 (かんざん; 道号)  | → 祖通(そつう; 法諱・貫山、曹洞僧)     | K 2 5 1 2 |
| 閑山 (かんざん・小山)   | → 武岑(たけみね・小山こやま、古書筆録)    | O 2 6 8 0 |
| 閑山 (かんざん・羽太)   | → 政方(まさみち・羽太はた/藤原、旗本/歌)  | M 4 0 1 1 |
| 寒山 (かんざん・岡田)   | → 半江(はんこう・岡田おかだ、文人画家)    | H 3 6 5 8 |
| 観山 (かんざん・福田)   | → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師)    | B 2 6 0 9 |
| 観山 (かんざん・徳川)   | → 宗堯(むねたか・徳川/松平、藩主/文筆)   | B 4 2 4 7 |
| 観山 (かんざん・法道寺)  | → 善(よし・法道寺、五観門和算家)       | K 4 7 2 4 |
| 観山 (かんざん・松岡)   | → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革)   | F 4 0 4 8 |

- 鑑山(かんざん・三井) → 士博(ことひろ・三井みつゐ、医者/和学) R 1 9 3 8  
 乾山(かんざん) すべて → 乾山(けんざん)  
 丸三(がんざん→まるみつ・横山) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/淘宮術) K 4 0 2 2  
 V1593 頑山(がんざん・村上むらかみ、旧姓;長野)1791-1859<sup>69</sup> 伊予今治藩士;侍講、儒者/歌人、  
 [頑山(;号)の名/通称]名;孝彝(たかひね、通称;佐吾八/宏左衛門)  
 Q1584 翫山(がんざん/がんざん・小倉おぐら、通称;与五郎)1815-95<sup>81</sup> 近江伊香郡南富永村の蚕種業、  
 俳人;「翫山関東紀行」著  
 巖山(がんざん/げんざん・秋山) → 惟恭(こいひや・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2  
 巖山(がんざん・齋木) → 巖(いわお・齋木さいき/藤原、神職/国学) K 1 1 2 8  
 雁山(ゑんざん) → 黒露(くろく・山口、俳人) C 1 9 4 0  
 唧山閣(がんざんかく) → 千鹿(せんろく・竹野たけの、俳人) H 2 4 0 7  
 看山軒(かんざんけん) → 慶山(けいざん;法諱、真宗僧/歌人) N 1 8 7 5  
 含山軒蝦芸(がんざんけんかげい;号) → 蝦芸(かげい・含山軒、性徳、真宗僧/俳人) K 1 5 7 6  
 官山子(かんざんし) → 千那(せんな;号、明式、本願寺派僧、俳人) 2 4 3 6  
 函三子(かんざんし) → 読耕斎(どっこうさい・林はやし、幕府儒官) O 3 1 4 8  
 元三大師(がんさんだいし、げんざん) → 良源(りょうげん、天台中興/歌) E 9 4 5 6  
 観山亭(かんざんてい) → 文角(ぶんかく・太田おおた、俳人) E 3 8 9 2  
 菅三品(かんざんぼん) → 文時(ふみとき・菅原、漢学者/詩人) 3 8 1 6  
 看山眠処(かんざんみんしょ) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7  
 観山楼(かんざんろう) → 正樹(まさき・島崎、庄屋/国学者) C 4 0 2 9  
 看山楼(かんざんろう) → 蕉雨(しやうう/蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3  
 翫山楼(がんざんろう) → 希言(まれこと・倉科くらしな、歌人) P 4 0 4 6  
 D1581 灌子(かんし・あつこ・藤原ふじわら、藤原典侍とうのすけ、満子?)?-? 平安期女官;930-938掌侍/934賀茂祭使、  
 946禁色許可;典侍/963従三位;尚侍(村上・冷泉・円融3代)、967延暦寺五智院を建立、  
 973出家;度者を賜る、歌人;960天徳内裏歌合参加、続後撰477/玉葉2069、  
 [しぐれつつ時ふりにける花なれど雲井にうつる色はかはらず](続後撰;冬477、  
 円融院にひとと菊を献上に添えて詠)  
 Q1585 歛子(かんし・藤原ふじわら、皇太后宮、関白教道女)1021-1102<sup>82</sup> 母;藤原公任女、  
 後冷泉天皇中宮/皇后、1074(承保元)出家;小野に移住;1102(康和4)同地に没、  
 号;小野皇太后、女房歌人に皇太后宮陸奥むつ/みちのく(後拾遺入集)  
 D1582 寛子(かんし・藤原、号;四条宮、関白頼通女)1036-1127<sup>長寿92</sup>、  
 母;具平親王女隆姫女王or種成女の祇子、後冷泉天皇の皇后/太皇太后、  
 歌合を多数主催:1056春秋/66皇后宮/89四条宮扇合など、  
 女房に;下野・康資王母・主殿・筑前・越前など歌人数  
 G1531 館子(かんし) ? - ? 俳人・芭蕉門/1680「桃青門弟独吟20歌仙」追加入  
 Q1518 凵子(かんし) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」2句入  
 [生きて世に人の死を算む翁草](二葉之松;321/長生きして物故した知人を数える)  
 G1532 貫子(かんし) ? - ? 俳人;雑俳、1702鷺水「若多びす」笠付点入  
 G1533 飲之(かんし・生白堂) ? - ? 江中期江戸俳人、江戸の書肆生白堂と関係?、  
 1730「響にい」編(:一幻庵白雲の追悼集)  
 G1534 鵬子(かんし・岡橋おかはし、名;世廉、楽山男)1734-69<sup>36</sup> 大阪人;庶出子;嫡母に養育され家督継嗣、  
 俳人、詩文家、大道雲門和尚に参禅、巴桃と交遊、1752「俳諧印譜」編、  
 1755狂文「魯竹文輯」著(巴桃跋:分類刊行)、56「もゝなゆた」66「琥珀苗」編、  
 [鵬子(;号)の字/通称/別号]字;魯直、通称;治兵衛、  
 別号;叙夕(よせき/春靄、雁鳴館/魯竹窓(;書斎号))  
 D1584 貫四(初世かんし・松まつ、万屋吉右衛門?)-1798 江戸芝居茶屋菊屋主人/74浄瑠璃作者;脇作、  
 肥前座立作者;1775「恋娘昔八丈」「吉野静人目千本」、76「桜姫操大全」85「伽羅めいばく先代萩」  
 D1585 貫四(二世かんし・松) ? - ? 江戸浄瑠璃作者;薩摩座/結城座付合作者;  
 1802「敵討操姿鏡」、07「女郎花縁助太刀おみなへしゆかりのすげだら」

- G1535 喚之(かんし・榎本えのもと、母;星布尼)?-1800 武州八王子俳人;白雄門、1793「星布尼句集」編
- S1552 菅子(かんし、二代目花屋久次郎[菅裏]男)?-? 江戸の書肆;星運堂三代目主人;1818継嗣、三代目花屋久次郎を名乗る、川柳作者;1879「誹風柳多留七二篇」~「一二四篇」の編纂、同七八篇より評者、眠亭賤丸の四世川柳を支援/「菅子独吟」11句(柳多留九一篇巻末)、1832「成田不動明王奉納狂句合」第一冊刊行/33成田大会続編を板行後突如離散、[菅子(;号)の別号] 芙蓉山人雪成3世
- 参考 父 → 菅裏(菅裡/菅籬かんり、書肆/川柳作者) E 1 5 2 1
- 完子(かんし、大夢庵) → 毛越(もうおつ、俳人) 4 4 4 5
- 冠子(初世かんし・吉田) → 文三郎(初世ぶんざぶろう・吉田、浄瑠璃) 3 8 2 3
- 冠子(2世かんし・吉田) → 文三郎(2世ぶんざぶろう・吉田、浄瑠璃) F 3 8 3 8
- 冠子(かんし・中村) → 勘三郎(6世・中村、歌舞伎役者) D 1 5 7 2
- 咸之(かんし・上田) → 咸之(しげゆき・上田/藤原、書家/茶人) T 2 1 0 6
- 咸子(かんし・松平) → 咸子(みなこ・松平まつだいら、親良室/歌) H 4 1 6 5
- 官司(かんし・山田) → 官司(かんじ;通称・山田やまだ、剣術家) I 1 5 7 9
- 寛氏(かんし・石野) → 寛氏(ひろうじ・石野いしの、藩士/記録) B 3 7 8 6
- 寛子(かんし・池田) → 慶徳室(よしのりのしつ・池田いけだ、藩主妻/歌) K 4 7 5 4
- 寛至(かんし・浜中) → 寛至(ひろゆき・浜中はまなか、国学者/歌) K 3 7 6 5
- 菅子(かんし・小峯) → 菅子(須賀子すがこ・小峯/三田、歌人) F 2 3 8 3
- 菅子(かんし・竹川) → 菅子(すがこ・竹川/荒木田、歌人) F 2 3 8 4
- 菅子(かんし→すがこ・小曾根) → 紅子(もみこ・小曾根/片野、歌人) E 4 4 9 5
- 菅子(かんし・芳野) → 菅子(すがこ・芳野よしの/飯野/小出、老女/教育/歌) J 2 3 4 2
- 幹之(かんし・杉本) → 幹之(みきゆき・杉本すぎもと/堀川、藩士/歌) J 4 1 3 6
- 灌子(かんし・伊達) → 灌子(ひろこ・伊達だて、藩士室/歌) K 3 7 0 9
- 灌子(かんし・向井) → 長樹(ながき・向井、藩士/文筆) D 3 2 5 1
- 鑑子(かんし・稲葉) → 琨子(たまこ・稲葉いなば/伊達、歌人) V 2 6 6 9
- 閑子(かんし・佐久間) → 立枝(たつえ・佐久間、女流歌人) R 2 6 5 5
- 貫之(かんし・紀) → 貫之(つらゆき・紀き、廷臣/歌人) 2 9 1 6
- 貫之(貫芝かんし;道号) → 梵鶴(ぼんかく;法諱・貫之、曹洞僧) F 3 9 4 0
- 貫之(かんし・河本) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4
- 観之(かんし・徳川) → 光圀(みつくに・徳川/源・松平、藩主/修史) 4 1 2 5
- 鑑子(かんし・池田) → 鑑子(かんこ・池田いけだ/戸田、藩主室/歌) T 1 5 6 2
- D1586 卷耳(かんじ・森もり、中閑舎)?- ? 江中期越後高田の俳人・蕉門、1722「北国曲」編、露川/燕説/涼菟などの北国行脚を後援
- Q1587 卷耳(かんじ・今井いまい) ? - ? 江中期俳人・矩州と交流、1744「夜の鶴」編(;汲深7回忌追善)
- Q1588 寛司(かんじ・菊池きくち、初名;庄司/正礼、正嗣男) 1738-1821 84 陸奥弘前藩士、1790勘定奉行兼郡奉行、藩財政再建に尽力/1798隠居、「新田閑暇話」著
- S1521 閑事(かんじ・松村まつむら) ? - ? 江後期安藝広島彫師/俳人;玄蛙門、玄蛙関係俳書板刻、玄蛙「萍日記二編」「年武廼夜母能加丹里ねむのやものがたり」板刻、[月てるや浪の上にも露はしる](1824南亭「はつひかげ」)
- I1579 官司(かんじ;通称・山田やまだ、農業千右衛門男) 1825-69 45 江後期;安房平群桑ヶ村農家出身、武芸者/剣術;千葉周作門/書;藤森弘庵門/画;菊池容斎・春木南溟門、幕命で剣術教授方、新徴組肝煎取締役、勝海舟と交流、1868戊辰戦に出陣;越後関川で負傷/没、「千葉成政先生夜話聞書」編、[官司(;通称)の別通称/号]別通称;文次、号;鏡浦きやうほ
- V1580 莞爾(かんじ・丸岡まるおか、吉村三助長男) 1836-98 63 土佐土佐郡の土佐藩士/国学・歌;鹿持雅澄門、1870土佐藩大従事/大阪府権大属/1871左院/大議生/74海軍省出仕/75式部権頭、1883内務省大書記官/社寺局長/兼造神宮支庁副使、88沖縄県知事/92高知県知事、歌人、[莞爾(;名)の初名/字/通称/号]初名;長俊、字:山公、通称;三太夫、号;建山/掬月/蒼雨/似児爺/爛斧樵夫/海南袁氏
- Q1589 完而(かんじ・筑紫坊) ? - ? 江戸後期薩摩の俳人・1893「もゝの枯葉」編

- 寛持(かんじ→ひろもち) → 百樹園寛持(ひやくじゅえんひろもち、狂歌) E 3 7 5 7  
 寛治(かんじ・筒井) → 庄兵衛(4世しょうべえ・井筒屋、書肆/俳人) B 2 2 4 8  
 寛治(かんじ・本城) → 紫巖(しがん・本城ほんじょう、藩儒) P 2 1 8 9  
 寛治(かんじ・大塚) → 盛寛(もりひろ・大塚おおつか、藩士/歌人) J 4 4 0 4  
 寛治(かんじ・小木曾) → 常春(つねはる・小木曾おぎぞ/島地、藩士/歌人) F 2 9 3 6  
 寛司(かんじ・長戸) → 得斎(とくさい・長戸ながと、藩士/儒者/詩) K 3 1 7 3  
 莞爾(かんじ・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2  
 官治(かんじ・本堂) → 親知(ちかとも・本堂ほんどう、藩士/歌) B 2 8 3 5  
 官治(観次かんじ・今田/大原) → 呑響(どんきょう・大原おおはら、儒/経世家) S 3 1 1 3  
 幹二(かんじ・長川) → 政徳(まさのり・長川ながかわ/高杉、漢学者) G 4 0 2 9  
 完二(かんじ・関口) → 雪翁(せつおう・関口せきぐち/関、儒者) K 2 4 7 4  
 簡二(かんじ・古松) → 淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、歌人) D 3 8 2 0  
 完治(かんじ・土持) → 整信(なりのお・土持ひじもち、庄屋/民政) O 3 2 5 0  
 勘司(かんじ・安倍) → 溪川(けいせん・安倍あべ、和算家) G 1 8 2 4  
 勘司(かんじ・村山) → 政方(まさかた・村山むらやま、国学者/歌) T 4 0 1 3  
 勘治(かんじ・古賀/大石) → 久敬(ひさか・大石/古賀、藩士/農政) B 3 7 2 3  
 勘次(かんじ・向後/田口) → 河鳥(かちょう・都曲園、田口/向後、狂歌) N 1 5 1 5  
 監二(かんじ・相場) → 長昭(ながあき・相場あいは、国学者) D 3 2 1 2  
 咸字(かんじ・箕作) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3  
 貫治(かんじ・木戸) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/新政参画) N 2 6 7 9  
 乾字(かんじ・松浦) → 詮(あきら・松浦まつうら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 D1583 岸紫(がんし・長谷はせ、一心軒)?-? 大坂伏見の談林俳人;雑俳、  
 1692遠舟「八重一重」入、「雨の芦」「誹諧御蔵林」編  
 G1536 岸芷(がんし・高木たかぎ/細木、名;宗久/通称坂東、別号;也足斎)?-1829 能登鳳至郡曾良の俳人、  
 去来書簡を蔵;1791「去来文」編/1808「都花めぐり」編  
 岩子(がんし・江幡) → 岩子(いわこ・江幡えばた/小屋、歌人) K 1 1 0 0  
 巖治(岩次がんじ・工藤) → 巖治(いわじ・工藤、藩士/洋学者) I 1 1 4 1  
 巖二(がんじ・有房) → 正詳(たださだ・有房ありふさ、歌人) V 2 6 3 1  
 岩次(がんじ・いわじ・秋元) → 安民(やすたみ・秋元あきもと/藤原、藩士/国学者) B 4 5 9 5  
 閑市庵(かんしあん) → 一掌(いっしょう・荒井あらい、茶人) H 1 1 3 4  
 閑事庵(かんじあん) → 了仲(りょうちゅう・古筆こひつ、鑑定家) I 4 9 9 0  
 観時庵(かんじあん) → 泰珠(やすよし・大野おおの、藩老/歌人) F 4 5 1 7  
 雁字庵(がんじあん) → 嵐々(らんらん・大坪おおつぼ、俳人) D 4 8 2 0  
 勸持院(かんじいん) → 日求(にちぐ;法諱、智門院、日蓮僧) B 3 3 4 6  
 勸持院(かんじいん) → 日禅(にちぜん;法諱・守玄院、日蓮僧) C 3 3 6 4  
 勸持院(かんじいん) → 日導(にちどう;法諱・題目房、日蓮僧) C 3 3 9 8  
 勸持院(かんじいん) → 日忍(にちにん;法諱・智門院、日蓮僧) D 3 3 0 8  
 幹支軒(かんしけん・小泉) → 松卓(しょうたく・小泉こいずみ、和算家) K 2 2 7 5  
 歆之軒(かんしけん・吉田) → 常与(じょうよ・歆之軒/吉田、華道/俳人) L 2 2 8 0  
 観自在菩薩楼(かんじざいぼさつろう) → 榕庵(ようあん・宇田川、医・蘭学者) 4 7 5 7  
 寛時成(かんじせい) → 寛時成(ゆたかなるときなり、狂歌作者) E 4 6 6 6  
 勘七(かんしち・井手) → 伊房(これふさ・井手いで、藩士/歌人) Q 1 9 2 7  
 勘七(かんしち・井手) → 氏辰(うじとき・井手いで、藩士/歌人) E 1 2 4 7  
 勘七(かんしち・井手) → 氏房(うじふさ・井手、氏辰男/藩士/歌) E 1 2 4 8  
 勘七(かんしち・井手) → 伊明(これあき・井手/山内、氏房養嗣/藩士/歌) Q 1 9 2 8  
 勘七郎(かんしちろう・中岡/豊島) → 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者) B 3 9 4 3  
 閑室(かんしつ;道号) → 元佑(げんきつ;法諱・閑室、臨濟僧) 1 8 1 0  
 乾室(かんしつ・永田) → 徳本(とくほん・永田/長田ながた、医者) L 3 1 4 5  
 Q1590 灌実(かんじつ;法諱・密蔵みつぞう;字) 1113-1200<sup>88</sup> 紀州有田真言僧、高野惣持院学僧;行恵門、  
 中院流灌頂職位を受/1195高野山寺務検校、「秘書」著

菅日(かんじつ;字・菅原) → 淳茂(あつしげ・菅原、道真男/漢学者) B 1 0 2 8  
 貫実(かんじつ・恩田) → 貫実(つらざね・恩田おんだ、藩家老/国学) F 2 9 5 2  
 観実(かんじつ) → 覚伊(かくい・阿闍梨、天台僧/歌人) J 1 5 4 4  
 閑日庵(かんじつあん) → 鷗里(応吏おうり・忠津ただつ、俳人) B 1 4 3 7  
 元日堂(かんじつどう) → 宝嘉僧(ほうかそう、彫師/戯作者) 3 9 2 8  
 元日坊(かんじつぼう) → 東藤(とうとう・穂積、俳人) G 3 1 7 2  
 元日坊立春(かんじつぼうりっしゅん) → 渡(わたる・六橋園ろつきょうえん、狂歌作者) 5 3 4 5  
 莞爾亭一笑(かんじていっしょう) → 立栄(2世りゅうえい・野村/野、医者) C 4 9 8 7  
 権子内親王(かんしなしいんのう) → 宣政門院(せんせいもんいん、光厳天皇妃/歌) G 2 4 1 8  
 冠車(かんしゃ、俳人) → 湖十(こじゅう四世、俳人) C 1 9 8 5  
 寛瀉(かんしゃ・橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7  
 寛舎(かんしゃ・ひろのや) → 弘道(ひろみち・吉川よしかわ、絵師) H 3 7 3 5  
 寛綽(かんしゃく・川村) → 寛綽(ひろのぶ・川村かわむら、藩士/和算家) G 3 7 8 3  
 翫雀(かんじゃく;俳号) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5  
 観寂(かんじゃく) → 兼郷(かねさと・広橋ひろはし、廷臣/歌) F 1 5 6 8  
 寛綽斎(かんしゃくさい) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2

D1588 **桓守**(かんじゆ;法諱、禅定坊;号、洞院公守男) 1282-? 1338存 天台僧;山城の法性寺座主、  
 1321岡崎実乗院の法務/29天台座主・大僧正に至る、洞院実泰の弟、  
 歌人;1320(元応2)日吉社歌合を主催/35内裏千首参加、  
 1338朗詠題詩歌に参加、続現葉集/臨永集/藤葉集入集、  
 勅撰8首;続千載(415/897/989)続拾(1339)新千(235/837/2129)新拾遺(1503)、  
 [山田もるしづが寢覚のをりをりをりやまた鹿の音の遠ざかるらん](続千;秋415/田家鹿)  
 [桓守の通称] 岡崎大僧正

Q1513 **勸受**(かんじゆ) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、  
 [早稲晩わせおくのなきは菩提の菓このみなり](二葉之松;391/仏教の悟りに早晩はない)

Q1591 **看寿**(かんじゆ・伊藤いとう、幼名政福まさとも、宗印男) 1719-6042 将棋士/兄宗看の嗣、  
 1754八段(準名人)、「将棋図巧」「象棋作物詰書」、1755「象棋百番奇巧図式」著

鑑寿(かんじゆ・立花) → 鑑寿(あきひさ・立花、藩主/歌人) 1 0 8 0  
 鑑寿(かんじゆ・小原) → 鑑寿(あきひさ・小原おほら、歌人) G 1 0 6 9  
 閑寿(かんじゆ・1701「徒然草集説」) → 鷲水(ろすい・青木、俳人) 5 2 0 4  
 寛寿(かんじゆ・大橋) → 綽堂(しゃくどう、大橋/平、医者) W 2 1 1 0  
 寛樹(かんじゆ・栗田) → 寛樹(ひろき・栗田くりた、染色業/歌人) J 3 7 4 8  
 観寿(かんじゆ;字) → 日耀(にちよう;法諱・体量院、日蓮僧) D 3 3 5 1  
 歓寿院(かんじゆいん) → 日台(にちだい;法諱・歓喜院、日蓮僧) C 3 3 8 0  
 観樹院(かんじゆいん) → 日空(にっくう・陽山、日蓮僧) D 3 3 8 4

D1590 **観修**(かんじゆ;法諱・智静ちじょう;諡号、長谷僧正/木幡大僧正、俗姓志紀) 945-100864 京天台僧、  
 叡山修業;三井寺余慶門/道長の庇護;997園城寺長吏/1000大僧正/05木幡浄妙寺検校、  
 歌;新勅撰578(尼への戒律;十戒五障)、  
 [ねむごろにとをの戒めうけつればいつつのさはりあらじとぞ思ふ](新勅;釈教578)

D1591 **竿秋**(かんじゆ・橋本/松木、通称:奈良屋市兵衛、別号;香稻庵) 1695-177278 江戸商人/京富小路住、  
 俳人;淡々門、1732師より点印・家譜受;改姓松木、1732「衣更着(如月)田きさらぎた」編、  
 1734「竿秋四十賀集」、38「春庭楽」編/44「月宮階」53「年賀集」、64「淡々翁三回忌三万日」編  
 1728柳岡「万国燕」45句入、

[三絶の響きと成るや千本ちとの木](万国燕;9/千本の木は高雄清滝川の紅葉の絶景)、  
 (三絶は高雄山神護寺の鐘;橋広相序詞・菅原是善銘文・藤原敏之書)

Q1592 **寒秀**(かんじゆ・森垣もりがき/市橋、孤松軒[亭・散人]) ?-1789 江中期但馬生野の俳人;寒瓜・闌更門、  
 1749「花実巻」51「障子昏」72「続障子昏」77「寒瓜追善集」編、  
 1773几董「月の夜」76樗良「誹諧月の夜」各1句入、  
 [青柳の乱れていのる嵐かな](月の夜92/もつれる様子は祈りの姿)

Q1593 **観秀**(かんじゆ;法諱・大峰たいほう;法号、号;欲生庵) ?-1790 能登羽咋の真宗法誓寺僧、

「高僧和讃写瓶録」著

H1567 **函洲**(かんしゅう・川西かわにし/河西、名;潜、中井封豊男/河西惟孝養子)1801-42自決42 江戸の生、儒;竹村悔斎門/昌平鬢修学、三河挙母藩儒;藩校崇化館教授、藩主内藤政優と異説;自刃、1839「唐宋八家文格」「唐宋八家文格纂評」編、「函洲遺稿」、[函洲の字/通称]字;士竜、通称;確輔/確助/格輔かくすけ

Q1594 **観秀**(かんしゅう) ? - ? 武蔵西吉見村の真言宗安楽寺僧、「吉見岩殿山略縁起」著

簡修(かんしゅう・植木) → 雨鼎(うてい・植木うえき、医者/詩文) D 1 2 1 6

環洲(かんしゅう;号) → 実融(じつゆう;法諱、天台僧;僧正) V 2 1 1 4

環洲(かんしゅう) → 雄淵(おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1

寛秀(かんしゅう;初字) → 等空(とうくう;法諱・本瑞;字、真言僧) C 3 1 9 2

幹修(かんしゅう・石河) → 明善(めいぜん・石河いしかわ、藩の儒者) 4 3 2 6

Q1595 **貫十**(かんじゅう) ? - ? 俳人;1768秀億「葛藤かつらぶじ」入

Q1596 **観什**(観十/寛什かんじゅう;法諱)?-1873 真宗大谷派僧;擬講、美濃の円徳寺僧、「行信信行能所辨」著

貫充(かんじゅう) → 貫允(かんいん、天台僧) P 1 5 9 5

寛什(かんじゅう;初諱) → 行海(ぎょうかい;法諱、真言僧) N 1 6 4 1

寛住(かんじゅう・久保) → 寛住(ひろずみ・久保くぼ、国学者/歌人) J 3 7 3 4

寛柔(かんじゅう・大塚) → 寛柔(ひろなり・大塚おおつか、歌人) G 3 7 7 2

G1537 **雁舟**(がんしゅう) ? - ? 俳人、1692和氣遠舟「すがた哉」入

Q1597 **元秀**(げんしゅう) ?(1747以前生)-? 近江の真宗大谷派僧、1747「正信偈領解鈔」、「仏光寺先規作法記録」著

Q1598 **岩州**(がんしゅう・中村なかむら、名;頼/字;圃公/通称元之助)1777-? 岡山儒者;姫井桃源/赤松滄洲門、1801上京;村瀬栲亭門/詩文;六如(慈周)門、大田錦城/菅茶山と交遊、1840刊「夢遊篇」著

巖舟漁者(がんしゅうぎょしや) → 東野(とうや・国分/国府こくぶ、儒者) H 3 1 5 4

含秀軒(かんしゅうけん) → 太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2

勸修寺(かんしゅうじ) → 勸修寺(かじゅうじ)を参照

神秀法師(かんしゅうほうし) → 神秀法師(しんしゅうほうし;号、浮世草子) E 2 2 4 7

勘十郎(かんじゅうろう・松平) → 忠隆(ただたか・松平、幕臣/歌人) P 2 6 7 0

勘十郎(かんじゅうろう・八木) → 宗直(むねなお・八木/日下部、幕臣/山田奉行) B 4 2 9 4

勘十郎(かんじゅうろう・小野/竹原) → 玄路(はるみち・竹原/小野、歌人) G 3 6 9 4

勘十郎(かんじゅうろう・友松) → 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道) 1 2 2 3

勘十郎(かんじゅうろう・信田/佐藤) → 枝彦(えだひこ・佐藤、国学/歌) E 1 3 0 3

勘十郎(かんじゅうろう・竹原) → 惟秋(これあき・竹原、藩士/故実家) O 1 9 0 7

勘十郎(かんじゅうろう・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8

勘十郎(かんじゅうろう・羽太) → 正忠(まさただ・羽太はぶと、幕臣/和学) R 4 0 5 7

勘十郎(かんじゅうろう・七里) → 長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学) K 3 2 1 5

勘十郎(かんじゅうろう・伊集院) → 盛昌(もりまさ・伊集院いじゅういん/阪元、藩士) J 4 4 1 8

勘十郎(かんじゅうろう・黒田) → 家満(いえみつ・黒田くろだ、国学者) K 1 1 2 3

勘十郎(かんじゅうろう・平野) → 愷彦(やすひこ・平野ひらの、藩士/弓術) G 4 5 4 8

勘十郎(かんじゅうろう・四方田) → 長淳(ながゆき・四方田よもだ、官吏/歌人) P 3 2 2 5

寛十郎(かんじゅうろう・戸田) → 氏栄(うじよし・戸田とだ、幕臣/奉行/記録) C 1 2 8 5

寛十郎(かんじゅうろう・大伴) → 甘交(かんこう・芝/司馬しば、戯作者) D 1 5 6 3

閑樹園(かんじゅうえん) → 菊雄(きくお・閑樹園、俳人) B 1 6 0 4

寛叔(かんしゅうく・田近/伊藤) → 鏡河(きょうか・伊藤、藩士/儒者) N 1 6 3 8

幹叔(かんしゅうく・米川) → 操軒(そうけん・米川よねかわ、儒者) B 2 5 2 3

Q1599 **巖宿**(がんしゅうく;法諱・広蓮社信譽、俗姓伊丹)1610-8778 撰津浄土僧;信行院貞運門、増上寺随波門、1680増上寺29世/82麻布一本松に退隱、「璽書口決」著

簡肅先生(かんしゅうくせんせい;諡号) → 三角(さんかく、奥田、藩士/儒者) E 2 0 1 9

貫珠軒(かんしゅうけん) → 直温(なおほる・今枝、藩士/儒者) C 3 2 1 1

- 勸修寺僧正(かんじゅじのそうじょう) → 道寶(どうほう;法諱、真言僧/歌人) H 3 1 1 7  
勸修寺内大臣(かんじゅじのないだいじん) → 高藤(たかふじ・藤原、廷臣) D 2 6 6 8  
勸修寺宮(かんじゅじのみや) → 済深親王(さいじんしんのう;法諱、大仏殿再建) G 2 0 8 1  
勸修寺法務(かんじゅじほうむ) → 寛信(かんしん、真言僧/歌人) D 1 5 9 7  
岩出(がんしゅつ・大中臣) → 輔親(すけちか・すけむつ・大中臣み、神職/歌) 2 3 0 8  
岩出(がんしゅつ・大中臣) → 定忠(さだただ・大中臣、神職/歌人) B 2 0 9 7  
観樹堂(かんじゅどう) → 義圭(ぎけい、唱導家) 1 6 6 6
- R1500 観俊(かんしゅん、俊憲[1122-67]男/信西孫)?-? 平安後期天台宗園城寺の大法師、  
歌人;1166-80頃「三井寺山家歌合」(観蓮[教長]判)参加、通称;宰相公、  
[月ゆゑに花を惜しまぬ名やたたむ雲吹きはらふ風をまづみる](山家歌合;春月六番左)  
閑春(かんしゅん・河口) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4  
寛春(かんしゅん;字) → 慧海(えかい;法諱・春貞、真言僧) D 1 3 5 0
- R1501 観順(かんしゅん;道号・貞宗;法諱)?-1678 磐城平の真宗光明寺15世、  
1648-52頃領内巡視の普請奉行沢村勘兵衛に新江筋開発を主張;  
のち沢村勘兵衛により夏井川以北に小川江筋開発、1656-64「小川江筋由緒書」著
- R1502 寛順(かんしゅん) ? - ? 1718存 江前期真言僧;1691醍醐寺報恩院住、  
1703地震に祈祷;将軍綱吉より百石施行/大僧正/東寺長者・法務、  
1704「四度聞記」、「秘鈔見聞記」、「幸心院金胎聞書」著  
寛順(かんしゅん;字) → 泉英(せんしょう;法諱、今川義元男/律僧) M 2 4 5 4  
菅緒(かんしゅ・長谷川) → 菅緒(菅雄すがお・長谷川、医者/国学/歌) B 2 3 6 2  
菅処(かんしゅ・渡辺) → 玄包(はるかね・渡辺わたなべ、神職/国学) L 3 6 0 0
- M1556 寛助(かんじょ;法諱・善巧;字、源師資男)1057-1125<sup>69</sup> 真言僧;遍照寺経範門、1104権少僧都、  
1107権大僧都/09法印/覚法親王に伝法灌頂授/12東寺33世長者/21大僧正、  
円教寺・広隆寺・東大寺別当歴任、1113「大北斗」、「護摩私記」、「成就院口伝」、「秘密宝蔵鈔」著、  
[寛助の通称] 成就院大僧正/弁の大僧正/法の関白のりのかんぱく
- R1503 観助(かんじょ;法諱、広橋ひろはし兼勝男)?-? 1659存 醍醐寺理性院真言僧;1611義演門、  
東寺長者/秋篠寺別当/大元別当/19大僧都/23法印/30権僧正、1625「観助僧正記」著
- R1518 観性(かんじょう、藤原顕能男)?- ? 1182存 平安末期天台宗叡山学僧;事相に精通/法橋、  
1178「三六抄」注、1182「青蓮院法印御房灌頂日記」、「灌頂秘要抄」、「大海抄」著
- R1504 寛昌(かんじょう;法諱・浄雲じょううん;字、平教盛男)?-? 鎌倉前期天台僧;顕密二教修学、  
漢学;菅原為長門、入宋;天台山道教門、仏書多数携え帰国;播磨書写山円教寺に住、  
「書写山講式讚章」著
- S1538 閑松(かんじょう) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入  
[灸すゆる子のそば逃ぐる女親](二息/嫌がり泣く幼子を見るに忍びない)
- D1594 甘笑(かんじょう) ? - ? 江戸中期浮世草子作者、1760「花重連理駄」
- H1568 寒松(かんじょう・松平まつだいら、名;康純やすずみ/字;少卿)1746-1813<sup>68</sup> 石見浜田の生/近江彦根藩家老、  
儒・野村東皐門、詩歌を嗜む、康成やすなりの父、  
「寒松集」/1806「寒松亭文集」著、「寒松館遺稿」、  
[寒松(;号)の通称]通称;安五郎/倉之助、法号正性院  
寒松(かんじょう;号) → 龍派(りゅうは;道号・禅珠、臨濟僧/詩) F 4 9 3 8  
官松(かんじょう・能美) → 洞庵(とうあん・能美のうみ、藩士/医者) 3 1 8 3  
観昭(かんじょう;法諱) → 慈範(じはん;道号、真宗木辺派僧) V 2 1 4 8  
観象(かんじょう・竹内) → 義方(よしかた・竹内/源、絵師/故実家) C 4 7 7 0  
成章(かんじょう;号) → 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌) 3 2 2 7  
煥章(かんじょう;号) → 普文(ふもん;法諱・煥章、天台僧) E 3 8 1 4  
煥章(かんじょう・佐藤/小田) → 穀山(こくざん・小田/田/陳、漢学) F 1 9 5 5  
煥章(かんじょう・山口) → 石室(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家) K 2 4 1 3  
寛勝(かんじょう・ひろかつ・平山) → 蝶酔(ちようすい・平山、商家/俳人) J 2 8 0 8
- G1539 寛乗(かんじょう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;東大寺僧/法師、歌人/連歌、  
1241「仁治二年連歌懷紙」連衆/書写、歌;1237刊[檜葉集]入、

[むすびける夜半のはつしもけさとけてひかげにぬるる庭の玉笹](檜葉;冬302)

- R1505 **観成**(かんじょう) ? - ? 江戸中期京鷹峰の日蓮僧、  
1727「圭牖自鏡けいゆうじきょう」編51「法華乙卯記」著
- R1506 **環定**(かんじょう;法諱、号;開得院)1807-69<sup>63</sup> 加賀金沢の真宗大谷派即願寺住職、  
1862高倉寮擬講、1855「法華経記」、「入阿毘達磨論記」「執持鈔講義」著
- 観城(かんじょう;号) → 恵忍(えにん;法諱、真宗僧/蓮如研究) E 1 3 1 6  
観城(かんじょう;号) → 芳猷(ほうゆう;法諱、真宗僧) C 3 9 6 2  
観丈(かんじょう・小菅) → 蒼狐(そうこ・小菅こすげ、俳人) B 2 5 3 1  
乾城(かんじょう;号) → 希逸(きいつ・川口かわぐち、臨濟僧) E 1 6 9 4  
寛乗(かんじょう;法諱) → 聖守(しょうしゅ;法諱、真言僧) S 2 2 8 5
- R1507 **岩松**(がんしょう、別号;易雄/丁夢庵/狂雷道/玉田夫)?-? 江後期1789-1818頃江戸の俳人・超波門、  
1793「俳諧ある日」編、1800「桑之林」、10「那谷之歌仙」編、13「黒牡丹」著
- F1572 **含章**(がんしょう・古田ふるた、名;重威/字;子儀/通称;左膳)?-? 江後期豊後岡藩士/1787家督、  
儒者;姥柳有莘門/古屋昔陽門、藩校由学館司業/近習/物頭、  
藩主中川家家譜「公室年譜」共編(伊藤鏡河と)
- R1508 **含章**(がんしょう・小川おがわ、名;式/字;民徳/通称弘蔵、玄亀男)1812-94<sup>83</sup> 豊後日出の儒者;  
弘化-安政1844-60頃大阪に住/但馬生野銀山の塾主、豊後杵築藩儒、江戸外桜田に住、  
1848「生野銀山孝義伝」49「開抗略記」著
- V1510 **含章**(がんしょう・十林とばやし、)1828-1896<sup>69</sup> 近江蒲生郡の善性寺住職/歌人;[鳩のうみ]入、  
馬淵彰寿てるひさの歌の師
- 願昌(がんしょう;法名) → 徳隣(とくりん;法諱、本願寺僧/国学) T 3 1 4 3  
含章(がんしょう・辻) → 含章(もちあき・辻つじ、歌人) K 4 4 5 3  
寒松院(かんしょういん) → 俊嶺(しゅんれい;法諱、本願寺派僧/歌) P 2 1 4 7  
寒松院(かんしょういん) → 長勝(ながかつ・小笠原おがさわ/源、藩主/連歌) D 3 2 4 5  
寛彰院(かんしょういん) → 知子(ともこ・池田いけだ、藩主室/歌人) T 3 1 1 6  
鑑照院(かんしょういん;法号) → 義隆(よしたか・佐竹さたけ/岩城、藩主) D 4 7 9 4  
勸成院(かんじょういん;号) → 北山(ほくざん・勸成院、真宗大谷派僧) D 3 9 2 2  
含章院(がんしょういん;法号) → 親審(ちかしば・堀、藩主/天保改革) 2 8 9 8  
願成院(がんじょういん) → 准玄(じゅんげん:字・円雅;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 1 5 0  
願乘院(がんじょういん;号) → 公教(こうきょう;法諱、真宗僧/茶・歌人) I 1 9 3 2  
願乘院(がんじょういん;諡号) → 蓮教(れんきょう;法諱、本願寺僧) 5 1 9 8  
喚乘院達悟(かんじょういんたつご) → 角丈(かくじょう・葛麻庵、真宗僧) K 1 5 0 7  
寒松館(かんしょうかん) → 素鴉坊(そにゅうぼう・真柴庵、俳人) K 2 5 2 8  
寒松館(かんしょうかん) → 景山(けいざん・中川おがわ、藩士/詩歌) F 1 8 7 8  
岩松溪比丘(がんしょうけいびく) → 正亮(せいりやう・性亮しょうりやう;法諱、律宗学僧) L 2 2 9 4  
寒松軒(かんしょうけん) → 日具(にちぐ;法諱・竜華院、日蓮僧) B 3 3 4 5  
看松斎(かんしょうさい) → 方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者) 3 9 9 3  
堪笑軒(かんしょうけん) → 宗左(そうさ・初世そうさ・千せん、江岑宗左/茶人) B 2 5 5 4  
菅相公(かんしょうこう) → 是善(これよし・菅原すがわら、廷臣/漢学者) E 1 9 5 7  
歛笑居士(かんしょうこじ、1778「笑林広記抄」) → 椿園(ちんえん・伊丹、読本作者) 2 8 3 2  
看松斎(かんしょうさい) → 兼与(けんよ・猪苗代いなわしろ、連歌師) D 1 8 2 1  
観松斎(かんしょうさい) → 桃葉(とうよう・飯塚いづか、蒔絵師) S 3 1 9 8  
含章斎(がんしょうさい) → 永恕(えいじよ・狩野、絵師) C 1 3 9 7  
含章斎(がんしょうさい) → 東郭(とうかく・和田わだ、医者) C 3 1 1 3  
含章斎(がんしょうさい) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9  
含章斎(がんしょうさい) → 直貞(なおさだ・野呂のろ、国学者) B 3 2 2 0  
巖松斎(がんしょうさい) → 雪堤(せつてい・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 6 1  
岸松斎一貞(がんしょうさいいつせい) → 一貞(いつせい・岸松斎、姓:高森、華道) H 1 1 6 7  
観勝寺上人(かんしょうじしようにん) → 良胤(りやういん;法諱・大円、真言僧) G 4 9 2 3

- 含笑舎(かんしょうしゃ・抱臍)→ 抱臍(ほうさい、備後文筆/狂歌) 3 9 8 2  
 菅丞相(かんじょうしょう) → 道真(みちざね・菅原、右大臣/詩歌) 4 1 0 5
- D1595 寛性親王(かんじょうしんのう、名;惟永/通称;常瑜伽院御室、伏見天皇皇子)1289-1346<sup>58</sup> 鎌倉南北期僧、  
 1300出家;性仁親王門、母顯親門院(洞院実雄の女季子)、1311六勝寺檢校/38一品、  
 1308「常瑜伽院御室日次記」著、歌;1336(建武3)住吉社法樂和歌参加(5首)、  
 [風の荻露の浅茅に秋たけて月ふくる庭に虫ぞうらむる](住吉法樂;51)  
 [うさもそひあはれもまさるとにかくにもの思ふ頃は月よながめじ](同;53)
- 環松亭(かんしょうてい) → 光章(みつあき・加賀美/源、神道/国学) C 4 1 9 9  
 觀象堂(かんしょうどう;塾号)→ 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I 3 2 9 6  
 寒松堂(かんしょうどう・岩田)→ 夫山(ふざん・岩田いわた、書家) C 3 8 3 2  
 寒松堂(かんしょうどう・高宮)→ 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2  
 觀勝堂(かんしょうどう) → 信善(のぶよし・三輪/鈴木、藩士/歌人) D 3 5 9 7  
 含章堂(かんしょうどう) → 竜山(りゅうざん・谷川たにがわ、医者/易占) E 4 9 2 0  
 含章堂主人(かんしょうどうしゅじん)→ 当綱(まさつな・竹俣たけのまた、藩士) D 4 0 9 8  
 勘定疎人(かんじょうのうとんど)→ 疎人(うとんど・勘定、狂歌) B 1 2 4 8
- R1593 勘定外成(かんじょうの外かなり、栴屋安次郎)?-? 狂歌四方連、橘町住  
 菅蕉丛(かんじょうりん) → 樸斎(朴斎ぼくさい・門田もんでん、儒者/詩) D 3 9 1 6  
 顔書斎(かんじょうさい) → 巖戈(いわしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
 還諸子(かんじょうし) → 存真(ぞんしん、大河内おおこうち/西山、医者) F 2 5 5 9  
 甘藷先生(かんじょうせんせい・青木)→ 昆陽(こんよう・青木、儒/蘭学) 1 9 5 5
- G1540 勘四郎(かんしろう・鞍貫くらぬき)?-? 能狂言師、1687間の本「能間七十八番」(間狂言)書  
 勘四郎(かんしろう・松平) → 忠国(ただくに・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 5 9  
 勘四郎(かんしろう・八尾) → 友春(ともはる・八尾やお、書肆) Q 3 1 3 0  
 勘四郎(かんしろう・鷹羽) → 真一(しんいち・鷹羽たかのほ/源、和算家) N 2 2 3 2  
 勘四郎(かんしろう・末吉) → 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3  
 簡四郎(勘四郎かんしろう・山本)→ 葎園(みえん・山本、儒者/書画) 4 1 5 2  
 官次郎(かんじろう・中嶋) → 信敬(のぶのり・中嶋、幕臣/文筆) C 3 5 7 6  
 官次郎(かんじろう・西川) → 芝石(しせき・西川にしかわ、俳人) U 2 1 1 2  
 勘次郎(かんじろう・香月) → 春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学) G 3 6 9 7  
 勘次郎(かんじろう・森田;2世)→ 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9  
 勘次郎(かんじろう・小中村)→ 清矩(きよのり・小中村こなかむら/紀、商家/国学者) H 1 6 5 1  
 乾次郎(かんじろう・山田大路)→ 親彦(ちかひこ・山田大路ようたおおじ/飯高、神職) B 2 8 6 7  
 寛二郎(寛次郎かんじろう・海老名)→ 義恭(よしか・海老名えびな、役人/連歌) E 4 7 0 6  
 寛二郎(かんじろう・羽生) → 信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人) J 3 5 6 4  
 歛次郎(かんじろう・大給) → 乗友(のりとも・大給だいぎゅう/松平、藩主) H 3 5 5 6  
 岩次郎(がんじろう・永田) → 白輅(はくろ・永田ながた、藩士/俳人) E 3 6 1 6  
 岩次郎(がんじろう・田中) → 久重(ひさしげ・田中/源、細工師/発明) B 3 7 1 3  
 岩次郎(がんじろう・水野) → 正名(まさな・水野みずの、藩士/藩政改革) E 4 0 9 5
- D1597 寛信(かんしん、寛信法務/勸修寺法務、藤原為房男)1084-1153<sup>70</sup> 真言宗僧;1093出家/  
 1103一身阿闍梨/10勸修寺別当/26元興寺別当/42権大僧都/45東大寺別当、勸修寺流の祖、  
 法印、「類頭鈔」「類秘鈔」「祈雨鈔」「尊勝鈔」、1130「真言集」53「後七日記」著、歌;続後撰622、  
 [入りぬとも思はざらなん月影のわしの高嶺に遠く照らせば](続後撰;釈教622、  
 鷲の高嶺;印度マガタ国の首都王舎城北東の靈鷲山りょうじゆせん;釈迦の法華経説法地)
- R1509 観心(かんしん;法諱・実悟房じつごぼう;字)?-? 平安後期嘉応1169-71頃真言僧;五智房融源門、  
 高野山大伝法印学頭/華遊院主/上人、「観心鈔」「大日経抄」著、歌;檜葉集(1237刊)入、  
 [雖未自度而能度他の文をよみ侍りける、  
 山深み苔のしたには朽ぬれど人をぞ渡す谷のかけ橋](檜葉;釈教560/観心上人名)
- R1510 観信(かんしん;法諱・月溪;字、月筌男)?-? 江中期大坂天満の真宗本願寺派定専坊の僧、  
 仏教学;父門、1716定専坊僧住職/父没後華蔵会興隆に尽力、  
 1730「月筌律師行状」、「無量寿経眼随」、「往生論註眼随」、「法事讚頭宗記」著、

「顕教行証文類高堅記」「愚禿鈔科章」「玄義分随积」外著多数

- R1511 **寛深**(かんしん;法諱/初め信性、法号;大楽心院、関白近衛家熙男)1723-8765 大覚寺門跡、東寺長者、真言宗法印/大僧正、「嵯峨のひかり」編
- G1541 **関深**(かんしん) ? - ? 記紀万葉の歌謡注釈、1815「本朝楽府三種合解」著  
寛信(かんしん・源) → 寛信(博延ひろのぶ・源みなもと、廷臣/歌人) G 3 7 7 8  
寛信(かんしん・尾崎) → 久愷(ひさやす・尾崎、藩士/儒者) C 3 7 1 0  
寛信(かんしん・石原) → 寛信(ひろのぶ・石原、藩士/儒者) G 3 7 8 2  
寛信(かんしん・狩野) → 融川(ゆうせん・狩野;浜町家5世/藤原、絵師) D 4 6 2 1  
寛親(かんしん・池田) → 寛親(ひろちか・池田いけだ、藩家老/歌文) G 3 7 3 6  
寛親(かんしん・榎本) → 寛親(ひろちか・榎本えのもと、幕臣/歌人) I 3 7 6 5  
観心(かんしん・武蔵入道) → 隆資(たかより・藤原、歌人) E 2 6 0 9  
幹信(かんしん・狩野) → 松栄(しょうえい・狩野かのう、絵師/永徳父) F 2 2 4 1  
菅人(かんじん・朱楽館) → 朱楽館菅人(あけらかんかんじん、狂歌) E 1 0 2 7
- E1523 **願信**(がんしん、法師) ? - ? 浄土宗法蔵院僧、1666行風「古今夷曲集」入、  
[名にし負はば救はせたまへ阿弥陀仏生死しやうじの海にしづむ石亀](古今夷曲集:十)  
巖眞(がんしん・小出) → 侗斎(どうさい・小出こいで、儒者) E 3 1 1 9
- D1596 **鑑真**(かんじん・号;大和上)687/688- 76377/76歳 唐揚州江陽の学僧、日本律宗の祖、  
入唐僧栄叡ようえいらの要請を受け暴風や失明の苦難に耐え753(天平勝宝5)渡来、  
東大寺に初めて戒壇を設置;天皇以下多数の僧に受戒/戒律道場の唐招提寺建立、  
[淡海三船「唐大和上東征伝」に詳細]  
寛信院(かんしんいん) → 貞喜(さだはら・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7  
感神僧都(かんじんそうず) → 恵珍(えちん、東大寺僧、年表製作) B 1 3 6 4
- D1598 **閑醉**(閑水かんすい、別号;梅月堂/友自)?-? 江前期(元禄期)大阪難波東住人;雑俳撰者、  
1697「俳諧ぬりがさ」撰、1700「俳諧田蓑笠たみのがさ」編:版、1703「俳諧辻談義」「田植哥」撰、  
1703「すがたなぞ」序、「俳諧たむけの香」著、  
大阪書肆の野村長兵衛の筆名か?
- R1512 **観水**(かんすい) ? - ? 京俳人、1688不卜「続の原」/91江水「元禄百人一句」入、  
[山里や頭巾とるべき人もなし](続の原十一番左91・百人一句;21)
- I1501 **潤水**(かんすい・小畑おぼた) ? - ? 京俳人、1689言水「前後園」/90言水「新撰都曲」4句入、  
[巢の燕つばめ夜弓よゆみに覆ふ翅つばさかな](都曲;109/羽を弓のように広げて子を守る)
- Q1504 **甘水**(かんすい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」5句入、  
[見たきとて不二に届かぬ行灯あんどの火](二葉之松;430/不二は富士山)
- I1525 **潤水**(かんすい) ? - ? 京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」7句入、  
[杜もり有りて鄙ある町の月夜哉](万国燕;7/町で森の月を見る;田舎の山河を思う)
- G1542 **閑水**(かんすい) ? - ? 狂歌、1742百子「狂歌時雨の橋」入
- S1548 **閑睡**(かんすい) ? - ? 江中期安藝吉田の俳人;野坡系、  
「櫓ほだ焼くや猿も狐も窓の客」(1752野坡追善「十三題」入)
- G1543 **観水**(かんすい、木下順庵の玄孫)?-? 儒者;1789順庵「錦里先生文集」刊
- R1513 **寒翠**(かんすい・稲垣いながき、名;茂松、茂包男)1803-4341 美作津山藩儒/儒;古賀侗庵門、  
「秋風余韻」「雪青洞詩鈔」「墮涙口碑」「事実文編」「備作人名大辞典」著、  
[寒翠の字/通称/別号]字;木公、通称;武十郎、別号;研嶽/雪青洞/雪洞/石巒
- H1569 **寒翠**(かんすい・小林こばやし、名;虎、誠斎男)1828-7750 越後長岡藩士/儒;高野松陰・山田到処門、  
1845藩校崇徳館助教(18歳)、1850江戸で蘭学;佐久間象山門、54象山と横浜開港主唱;譴責、  
戊辰戦争時藩に非戦論主唱、「小学国史」「独国学鬻論略」、「寒翠詩文稿」「伊香保日記」著、  
[寒翠の字/通称/別号]字;炳文、通称;虎三郎、別号;双松/病翁、法号;双松院
- G1544 **観水**(かんすい) ? - ? 京の俳人、1889「続新山家ぞくしんさんが」著  
閑水(かんすい・筑紫) → 従門(よりかど・筑紫つくし/藤原、幕臣/神道/俳人) I 4 7 5 3  
閑水(かんすい・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人) H 3 1 1 1  
閑水(かんすい) → 信晧(しんぎょう、別号;閑水、俳人) R 2 2 6 9  
閑水(かんすい・新見) → 正興(まさおき・新見しんみ/源、幕臣外国/奉行) B 4 0 5 6

澗水(かんすい・坂部) → 広胖(こうはん・坂部/戸田/山田、和算家) K 1 9 9 7  
 観水(かんすい) → 邦孚(くにさね・中西、天文/算・医) C 1 7 7 5  
 観水(かんすい・向井) → 元升(元松げんしょう・向井、医者/本草) C 1 8 2 2  
 観水(かんすい・坂尾) → 清風(せいふう・坂尾/阪尾さかお、藩儒) J 2 4 5 4  
 鑑水(かんすい・尾池; 隠居名) → 退溟(たいめい・西山、藩士/儒/詩人) L 2 6 0 9  
 寒水(かんすい・田丸) → 直暢(なおのぶ・田丸たまる、本草家) C 3 2 0 3  
 寒水(かんすい・別府) → 安宣(やすのぶ・別府べつふ、藩士/国学者) C 4 5 5 8  
 寒水(かんすい・戸田) → 忠友(ただとも・戸田とだ、藩主/国学) Y 2 6 3 6  
 環水(かんすい・千葉) → 胤英(たねふさ・千葉ちば、藩士/和算家) S 2 6 0 2  
 環翠(かんすい・三宅) → 帯刀(たてわき・三宅みやけ、国学者) G 2 6 2 9  
 環翠(かんすい・藤井) → 春蔭(はるかげ・藤井ふじい、旅館業/国学) K 3 6 7 4  
 管水(かんすい; 号) → 了祥(りょうしょう; 法諱、真宗大谷派学僧) I 4 9 1 6  
 韓水(かんすい・平川) → 清古(きよひさ・平川/田中、藩儒/歌) V 1 6 0 7  
 韓水(かんすい・土佐) → 光文(みつふみ/みつあや・土佐/藤原、絵師) E 4 1 8 0  
 観粹(かんすい; 字) → 音空(おんくう; 法諱・観粹、浄土宗西山派僧) D 1 4 4 1  
 灌水(かんすい・湯浅) → 経邦(つねくに・湯浅ゆあさ、国学者) C 2 9 0 4  
 桓随(かんすい; 字) → 日鎮(にっちん; 法諱・境本院、日蓮僧) F 3 3 2 4  
 閑瑞(かんすい; 号) → 霊秀(れいしゅう; 法諱、真宗大谷派僧) B 5 1 4 0

D1599 翫水(がんすい・湯漬ゆづけ) ? - ? 浮世草子作者・

1710「御入部伽羅女ごにゆうぶきやらおんな」著

含粹(がんすい・歌川) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9  
 含翠(がんすい・大口) → 樵翁(しょうおう・大口おおくち、茶人/香道) H 2 2 3 7  
 巖水(がんすい; 号) → 雪村(せつそん; 道号・周継; 法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3  
 環翠園(かんすいえん) → 南山(なんざん・南部なんぶ、儒/詩文) J 3 2 0 1  
 環翠園(かんすいえん) → 鏡河(きやうか・伊藤いとう、儒者) N 1 6 3 8  
 坎水園(かんすいえん) → 伯先(はくせん・中村/吉川、医者/俳人) D 3 6 5 4  
 翫翠園(がんすいえん) → 驥(き・森下もりした、藩士/医者) J 1 6 4 8  
 含水園(がんすいえん) → 青洋(せいよう、桂有彰、商家/絵師/狂歌) J 2 4 6 9  
 換水和尚(かんすいおしょう) → 天如(てんによ; 法諱・峻山; 字、真言/両部神道) E 3 0 1 3  
 観水居(かんすいきよ) → 言道(ことみち・大隈おおくま、歌人) 1 9 3 8  
 菅水斎(かんすいさい) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3  
 環水軒(環翠軒かんすいけん) → 通尹(みちただ・河野こうの、儒者/詩文) B 4 1 8 0  
 環翠軒(かんすいけん) → 業忠(なりただ・清原、漢学/詩) H 3 2 5 4  
 環翠軒(かんすいけん) → 宣賢(のぶかた・清原/卜部、和漢学) 3 5 0 5  
 観水軒(かんすいけん) → 木因(ぼくいん・谷、俳人) 3 9 6 1

R1514 玩水軒(がんすいけん・山崎やまさき、名; 勝政) 1651-86<sup>36</sup> 肥後熊本の儒者・陽明学、藩主の右筆、  
 「醜嘯集」「容俗字苑」「分勘用私記」「孝経威儀之解」「歳序雑記」、1681「古今書法」著  
 [玩水軒(; 号)の寺/通称]字; 権佐、通称; 半弥

環翠斎(かんすいさい) → 晴臯(せいこう・狩野かのう、藩御用絵師) H 2 4 5 5  
 菅水斎(かんすいさい) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3  
 観水子(かんすいし) → 元升(元松げんしょう・向井、医者/本草) C 1 8 2 2  
 還翠舎(かんすいしゃ) → 季朗(りろう・原沢はらさわ、庄屋/俳人) J 4 9 9 2  
 含粹舎(がんすいしゃ) → 芳輝(よしてる・一椿斎いちんさい・歌川、絵師) E 4 7 8 1  
 貫徳平兵衛(かんすいたいらのひょうえ) → 章棟(あきむね・平、武士/連歌) C 1 0 6 0  
 観水亭(かんすいてい) → 丈阿(じょうあ、草双紙作者) Q 2 2 7 6  
 飲水亭(かんすいてい・邸名) → 塵生(じんせい、村井屋、俳人) 2 2 4 0  
 含粹亭(がんすいてい) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9  
 看翠堂(かんすいどう) → 魚江(ぎょこう・田中、俳人) D 1 6 1 3  
 観水堂(かんすいどう) → 丈阿(じょうあ、草双草紙) Q 2 2 7 6  
 観翠堂(かんすいどう) → 夢仏(むぶつ・枝桑庵しそうあん、俳人; 雑俳) C 4 2 9 6

- 観翠堂(かんすいどう) → 千百(せんひやく・観翠堂、俳人;雑俳) G 2 4 5 1  
 含翠堂(がんすいどう) → 友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6  
 環翠楼主人(かんすいろうしゅじん) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7
- E1500 勘助(勘介/菅助かんすけ・山本やまもと、図書男) 1493?-1561?69? 三河牛窪出身no兵法家;  
 20歳頃養家大林家出奔/諸国遍歴;兵法を独学、武田信玄の軍師;足軽大将、川中島で戦死、  
 1546「軍法兵法記」、「百目録聞書」「武術早学」「武道問答之書」、「軍理摘要」著、  
 [勘助(通称)の名/初通称/号]名;貞幸/晴幸、初通称;源助、号;道鬼/道鬼斎
- R1515 威佐(かんすけ・しげすけ・戸川とがわ、字;文敬、貞信男) 1681-175777 岩国藩士;藩右筆、儒者/教育者、  
 儒・書;宇都宮由的ゆてき(遯庵とんあん1633-1709)門、書;佐々木文山門、神道;寂照・笠庵門、  
 私塾を経営;門弟指導、  
 1719朝鮮使と会見?;門弟11歳栗屋の娘(のちの老女ふさ?)を同行(申維翰[海游録]入)、  
 「岩国故実集」撰、「以呂波之伝」「中臣祓講習稿」「篆分草隸」「当用書札略抄」著、  
 [威佐の通称/号]通称;幸太夫、号;整斎/筆花堂
- E1501 勘介(かんすけ・榊山さかきやま;号、宮崎伝吉男)?-? 1711-36頃大阪歌舞伎作者、中山金蔵らと合作、  
 榊山座の榊山小四郎に庇護薫陶を受ける、1713「栄代金市蔵」15「愛子若近江八景」、  
 1715「けいせい金峯山」16「けいせい金龍山」17「鸚鵡返百年狐」23「福寿海金湊」外著多数
- R1516 勘助(かんすけ・宇治うじ/旧姓武内)?-? 代々出羽鶴岡大庄屋(大肝煎):代々勘助を名乗る、  
 藩の重要賓客(巡見使等)の使者宿、「格席諸書記」「鶴岡御町例集」著
- R1517 勘助(かんすけ;通称・細野ほその)?-? 江後期奥羽武芸者/三義明致流:川澄忠智門、  
 心極細野流を創立、「剣術義論」著、山崎利秀の師
- T1585 官介(かんすけ・小川おがわ/旧姓;桜井) 1837-191074 周防徳山藩士小川亀齡の養子、  
 桜井武雄(魁園)の弟、鳴鳳館に修学/萩の明倫館で文武を修学、  
 江戸で儒を修学;安積良斎・庄原篁燾門、帰郷後;藩校興讓館教授、  
 廃藩後は家塾開設:子弟教育、歌人、  
 [官介(;名)の字/号]字;子友、号;塩浦/慎独斎
- 勘介(かんすけ・力石) → 癡々(ちち・力石ちからい、藩士/篆書家) E 2 8 7 4  
 勘介(かんすけ・中村) → 三近子(さんきんし・中村/平、儒者/教訓書) F 2 0 7 7  
 勘介(かんすけ・斎藤) → 豊宣(とよぶ・斎藤、藩士/記録) R 3 1 4 1  
 勘介(かんすけ・石川) → 柏山(はくざん・石川いしかわ、書家) D 3 6 1 0  
 勘介(勘助/簡亮かんすけ・並河) → 天民(てんみん・並河、儒者/雅楽) E 3 0 3 4  
 勘助(かんすけ・丹羽) → 氏次(うじつぐ・丹羽にわ、武将/藩主) C 1 2 4 6  
 勘助(かんすけ・近藤) → 貞用(さだもち・近藤、幕臣/黄檗参禅) J 2 0 8 8  
 勘助(かんすけ・平田) → 直良(なおよし・平田、和算家) C 3 2 9 4  
 勘助(かんすけ・木村) → 芥舟(かいしゅう・木村きむら、幕臣/日記) I 1 5 7 2  
 勘助(かんすけ・蜷田/見坊) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7  
 勘助(勘佐かんすけ・古野) → 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9  
 勘助(かんすけ・高橋) → 種之(たねゆき・高橋たかはし、藩士/教育) S 2 6 1 2  
 勘助(かんすけ・高橋) → 種芳(たねよし・高橋、種之男/藩士/兵学) S 2 6 1 5  
 勘助(かんすけ・島津) → 潮水(ちようすい・島津しまう、五木庵/俳人) J 2 8 1 1  
 勘助(かんすけ・三瓶) → 可道(よしみち・三瓶みかめ、陪臣/和学) P 4 7 3 1  
 勘助(かんすけ・藤川) → 義智(よしとも・藤川ふじかわ、藩士/和算家) F 4 7 0 6  
 勘助(かんすけ・磯部) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5  
 官助(かんすけ・芳賀) → 光起(みつおき・芳賀/木村、藩士/産物方) D 4 1 1 5  
 寛助(かんすけ・永山) → 二水(じすい/にすい・永山ながやま、藩儒) T 2 1 9 6  
 寛助(かんすけ・赤松) → 国明(くにあき・赤松あかまつ、伊予の文人) D 1 7 9 5  
 寛介(かんすけ・雲谷) → 任斎(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学) E 2 2 2 3  
 監輔(かんすけ→けんすけ) → 監輔(けんすけ・岡本、儒/北辺防備主張) K 1 8 3 7  
 威輔(かんすけ・山田) → 道貞(みちさだ・山田やまだ、文筆家) B 4 1 5 4
- G1545 欽生(かんせい・小松こまつ) ? - ? 加賀の連歌作者:能順門、1707能順「聯玉集」編・序
- E1503 甘井(かんせい・澆花井かんかせい)?-? 越後の俳人、

1806「金蘭集」編：万子収集の芭蕉連句を出版、

鈴木甘井と同一？ → 一保(かざやす・鈴木すずき、藩士/和漢学) M 1 5 5 5

観性(かんせい) → 観性(かんしょう、天台学僧) R 1 5 1 8

観成(かんせい) → 観成(かんじょう、日蓮僧) R 1 5 0 5

観成(かんせい・彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか/田中、藩士/和算) G 3 5 3 3

観清(かんせい・水口坊) → 左門(さもん・水谷みづたに、修験者/尊攘) N 2 0 4 6

菅生(かんせい・坂倉) → 茂樹(しげき・坂倉さくら、神職/国学) Q 2 1 8 7

澗声(かんせい・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8

寛成(かんせい;名) → 尊快法親王(そんかいほっしんのう、梶井門跡/歌) E 2 5 7 0

寛成(かんせい;名) → 長慶天皇(ちやうけいてんのう、南朝3代/歌) I 2 8 0 2

寛清(かんせい) → 済深親王(さいじんしんのう;法諱、大仏殿再建) G 2 0 8 1

寛正(かんせい・石井) → 寛正(ひろまさ・石井いし、国学者) L 3 7 1 6

寛正(かんせい・林田) → 守秋(もりあき・林田はやしだ、藩士/国学/歌) L 4 4 0 4

寛濟(かんぜい) → 寛濟(かんさい、真言僧) Q 1 5 5 0

関西(かんせい;号) → 西胤(せいいん;道号・俊承;法諱、臨濟僧) L 2 4 5 2

喚醒(かんせい・関) → 重嶷(しげたか・関せき、藩家老/地歴) R 2 1 2 0

漢生(かんせい・大杉) → 安直(やすなお・大杉おおすぎ/日下部、国学) F 4 5 5 1

願西(がんせい・平実重) → 実重(さねしげ・平、平安期歌人) D 2 0 0 4

閑棲庵(かんせいあん) → 幽軒(ゆうけん・渋谷しぶや、藩士/和漢学) B 4 6 4 2

勸成院(かんせいいん/かんじょういん;号) → 北山(ほくざん・勸成院、真宗大谷派僧) D 3 9 2 2

願成院(がんせいいん/がんじょういん) → 准玄(じゅんげん・円雅、真宗本願寺派僧) J 2 1 5 0

玩世教主(がんせいきょうしゅ;戲号) → 蘭台(らんだい・井上いのうえ、儒者/折衷学) C 4 8 9 1

閑栖斎(かんせいさい) → 長泰(ながやす・相良さがら/稻留、武将/和学) N 3 2 2 4

寛成親王(かんせいしんのう) → 長慶天皇(ちやうけいてんのう、南朝3代/歌) I 2 8 0 2

観生堂(かんせいどう) → 皓山(こうざん・水野みずの、本草家) J 1 9 3 0

菅生堂(かんせいどう/菅生堂人) → 祐佐(ゆうさ・伴ぼん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9

玩世道人(がんせいどうじん) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0

菅性堂人恵忠居士(かんせいどうじんけいちゆうこじ) → 祐佐(ゆうさ・伴ぼん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9

**寛政の三奇人**(かんせいのさんきじん);江戸期寛政(1789-1801)頃に尊攘活動をした奇行3人

→ 子平(しへい・林) 1738-93 2 1 3 3

→ 正之(まさゆき・高山彦九郎) 1747-93 I 4 0 2 7

→ 君平(くんぺい・蒲生) 1768-1813 C 1 7 0 0

**寛政の三博士**(かんせいのさんはかせ);寛政頃活躍した3人の儒学者

**寛政の三助**(さんすけ)ともいう

→ 栗山(りつざん・柴野彦輔) 1736-1807 4 9 0 3

→ 二洲(にしゅう・尾藤良佐) 1745-1813 2 1 2 1

→ 精里(せいり・古賀弥助) 1750-1817 2 4 1 5

精里の代わり → 寒泉(かんせん・岡田清助) 1740-1816 E 1 5 0 6

閑夕(かんせき・篠崎) → 兎城(とじょう・篠崎しのぎ、俳人) O 3 1 1 6

冠石(かんせき・菅原/菅) → 長好(ながよし・菅原、神職/国学) G 3 2 4 8

冠石(かんせき・池田/松平) → 冠山(かんざん・松平/池田、藩主/和漢学) D 1 5 8 0

R1519 **頑石**(がんせき・渡辺わたなべ、名;実/字:廷倫、平瀬保伴男) 1715-63 49 大阪の渡辺家を嗣/南組総年寄、詩文/華音;清人蔣眉山門、「石山遺草」、

[頑石の通称/別号]通称;又兵衛、別号;石山房/石山居/岬翁こつおう、法号;理等院

E1504 **雁赤**(がんせき・神田、3世六花庵) ?-1816 俳人・官鼠門

頑石(がんせき) → 鵜洲(ていしゅう・内田、儒/詩) B 3 0 0 9

頑石(がんせき;道号) → 曇生(どんしゅう;法諱・頑石、臨濟僧) S 3 1 3 3

玩石(がんせき;号) → 克讓(こくじょう;法諱、真宗僧) C 1 9 3 6

玩世教主(がんせきょうしゅ) → 蘭台(らんだい・井上、儒/詩文) C 4 8 9 1

観世三郎(かんせさぶろう) → 観阿彌(かんあみ・能役・作者) 1 5 4 5

- 観世三郎(かんぜさぶろう) → 世阿彌(ぜあみ、名;元清、能楽役/作者) 2 4 0 1  
 観世大夫(初世かんぜだゆう) → 観阿彌(かんあみ、結崎清次、能役/作者) 1 5 4 5  
 観世大夫(2世かんぜだゆう) → 世阿彌(ぜあみ、元清、能役/作者) 2 4 0 1  
 観世大夫(3世かんぜだゆう) → 音阿彌(おんあみ;法号、元重、能役者) 1 4 4 3  
 観世大夫(5世かんぜだゆう) → 之重(ゆきしげ・観世、能役者) 4 6 0 7  
 観世大夫(7世かんぜだゆう) → 宗筋(そうせつ・観世左近元忠、能役者) C 2 5 3 4  
 観世大夫(9世かんぜだゆう) → 身愛(ただちか・観世左近忠親、能役者) F 2 6 2 6  
 冠雪(かんせつ・八木) → 美庸(よしつね・八木やぎ、大庄屋/歌人) P 4 7 6 9  
 観雪(かんせつ・吉田) → 俊彦(としひこ・吉田よしだ、藩士/国学) W 3 1 9 3  
 潤雪(かんせつ) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
 閑拙(かんせつ:号) → 梵丁(ぼんちよう:道号・竺洲・曹洞僧) F 3 9 5 4  
 寛撰院(かんせついん) → 日暉(にちこう;法諱・寛道、日蓮僧) B 3 3 8 8  
 観雪斎(かんせつさい・喜多川) → 月麿(つきまろ・喜多川/小川、絵師) 2 9 5 9  
 頑拙(がんせつ) → 遜菴(とんあん・宇都宮うつのみや、儒者/詩) 3 1 6 8  
 含雪(がんせつ・山県) → 有朋(ありとも・山県、藩士/内閣組織) F 1 0 5 3  
 含雪(がんせつ・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 翫雪(がんせつ・都筑) → 為経(ためつね・都筑つぎ/松下、幕臣) Y 2 6 2 7  
 含雪軒(がんせつけん) → 宗春(そうしゅん・西山、宗因男/連歌作者) B 2 5 9 6  
 含雪斎(がんせつさい) → 持資(もちすけ・太田、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7  
 甘節堂(かんせつどう) → 弥白(やはく・梅村うめむら、書肆) D 4 5 9 5  
 甘節堂如衡(かんせつどうじょこう) → 則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/歌) G 3 5 5 0  
 玩世道人(がんせどうじん) → 雪巖(せつがん、天台/真宗僧、詩人) E 2 4 1 1
- E1505 観暹(かんせん、法師) ? - ? 平安後期の僧・歌人・連歌作者、  
 連歌;金葉652(付句は平為成)/664(成光への付句)、  
 [日の入るは紅くれなゐにこそ似たりけれ](金葉;雑652/付句;茜さすとも思ひけるかな)  
 平為成 → 為成(ためなり・平たいら) H 2 6 2 2
- N1530 寛暹(かんせん、法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧/法眼、歌人;1345刊[藤葉集]入、  
 [たのめつつ同じつらさの偽をまつとはさのみ人にしられじ](藤葉;恋471)
- C1513 貫千(かんせん・守盈斎/四感亭、姓不詳)?-1771 備後府中の俳人;鬼貫/浮風門、如芥の弟、  
 1744鬼貫追善「むなくるま」入/62「密語橋ささきのはし」如芥/東歩と共編(浮風序)、  
 追善;「松の蟬」(歌江編)、[ふるさとへ帰る今宵の月涼し](府中金鏡寺句碑)
- E1506 寒泉(かんせん・岡田おかだ、名;前里/善里/恕、善富男)1740-181677 江戸牛込旗本/兵学;村士淡斎門、  
 儒;井上金峨門/1789幕府儒官・学制改革;異学の禁、94常陸代官職、寛政三博士の1、  
 1792「幼学指要」「二礼儀略」、「寒泉文集」「秋虫考」「松柏考」「静春窩偶筆」「春風館記」著、  
 [寒泉の字/通称/別号]字;仁卿/子強、通称;又次郎/式部/清助、別号;泰斎/招月楼/冷水
- G1547 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、名;朋来/鳳来/濟、尚誠男)1797-187983 大坂和泉町の儒者、  
 幼時に両親死亡/伯父に養育/1811懷徳堂修学;中井碩果門/師の女歌子と結婚;養子/復姓、  
 1840懷徳堂教授/55ロシア艦隊大阪湾来訪時;応接史官、  
 「帝陵求是」「原気」、日記「居諸録」著、  
 [寒泉の字/通称/別号]字;享先/伯楫、通称;復一/又一郎/小一郎、  
 別号;樺翁/鵠斎、諡号;恭肅
- R1520 甘泉(かんせん・結城ゆうき、名;榮)?-? 江後期筑前の絵師;のち江戸浅草広小路住、  
 1852「常盤粧」「旅中懷宝」/54「蝦夷地略」「蝦夷品彙訳言」著  
 甘泉(甘千/寒泉かんせん・稲津) → 芳室(ほうしつ・稲津いなう/坂上/椎本、俳人) B 3 9 2 5  
 寒泉(かんせん・西村) → 広休(ひろよし・西村、本草学) H 3 7 7 2  
 寒泉(かんせん・田丸) → 直暢(なおのぶ・田丸たまる、本草家) C 3 2 0 3  
 韓川(かんせん・戸部) → 愿山(げんざん・戸部とべ、藩士/儒者) E 1 8 8 8
- R1521 還善(かんぜん・三雲みくも/施薬院、名;宗顕、分部わけ光命男)1762-180544 1769施薬院三雲宗隆養嗣、  
 京医者;1791家督;施薬院と称す、98京で日本初の刑屍解剖観察、98「施薬院解男体臓図」編
- R1522 観禅(かんぜん;道号・眺宗/詵宗ちようしゅう;法諱)?-1848 曹洞僧;智海恵航門/武州永林寺27世、

下総総寧寺46世/1844永平寺59世、「永平高祖発菩提心」編、

[観禅の号] 慈航真济禅師

勧善(かんぜん;字) → 融道(ゆうどう;法諱、真言学僧) D 4 6 5 1

観善(かんぜん・平沢) → 昌達(しょうたつ・平沢、医/本草学者) K 2 2 7 8

G1548 巖泉(がんせん) ? - ? 江戸の蕉門俳人/1680「桃青門弟独吟二十歌仙」入

H1570 巖川(がんせん・早崎はやさき、名;勝任) 1805-86.82 伊勢の儒者;津阪東陽/猪飼敬所門/昌平鬻出、古賀侗庵門、津藩校有造館講官;命により土井馨牙ごうがの有造館版資治通鑑校訂に参加、1852伊賀崇広堂講官/督学、「東征集」「経解」「遊名勝記」、「巖川詩文集」「巖川詩話」著、[巖川の字/通称/別号]字;士信、通称;門太夫、別号;南涯

巖仙(がんせん・谷沢/油与) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0

頑仙(がんせん・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7

頑仙(がんせん・古賀) → 穀堂(こくどう・古賀こが、藩士/儒者/詩) C 1 9 3 9

R1523 甘涎齋(かんぜんさい) ? - ? 江中期京の戯作者;1784「1ツ鉄炮」1781「破菟筵」著

寒扇子(かんせんし) → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) 3 9 8 8

乾泉亭(かんせんてい) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4

甘泉堂(かんせんどう) → 元長(もとなが・吉田、書肆/歌人) D 4 4 5 4

甘泉堂(かんせんどう) → 市兵衛(いちべゑ・山中、江戸書肆) E 1 1 5 2

E1510 官鼠(かんそ・姓;山南やまなん、六花庵2世/山南さんなん陳人)?-1803 伊豆俳人;乙児門/師の六花庵継承、駿河沼津住、「官鼠歳旦集」著

G1538 観宗(かんそう;母;讃岐/頼政の孫)?-? 平安後期園城寺大法師、歌人、

1166-80頃「三井寺山家さんか歌合」(観蓮[教長]判)参加、

[いづる日にかはらず照らす月なればみがかれにけり花の白玉](山家歌合;春月四番左)

E1507 寛宗(かんそう) ? - ? 南北期僧;権律師、歌、

1384成立「新後拾遺集」1074、

[さりともとなほこそ頼め偽に思ひなすべき契ならねば](新後拾;恋1074)

G1549 閑叟(間叟かんそう・新楽にら、名;定) 1764-1827.64 幕臣;御徒士、七絃琴;児玉空々門、致仕後遊歴、足利学校蔵書調査/1803戸川安論に随行;雇医師として蝦夷/択捉巡回/1806江戸に帰郷、1797「足利学校蔵書目録」編、1803「蝦夷雑話」「蝦夷俳諧歌仙」編/06「蝦夷記」、「閑叟記」著、[閑叟の字/通称/別号]字;子固、通称;郷右衛門/伝蔵、別号;間叟/馬門/愛間[閑]堂

法号;正善院

R1524 閑叟(かんそう・九々庵、風羅堂/竜門司)?-? 江後期1805-18頃薩摩の俳人;暁台門/京住、1808「石皮集」13「竜門会」編、「秋ぬき」「煤ぬき」「夏木立」編

浣窓(かんそう) → 湖十(7世こじゅう、木髪3世/俳人) C 1 9 8 8

閑叟(かんそう) → 直正(なおまさ・鍋島、藩主/詩歌) C 3 2 4 7

閑窓(かんそう・神田/奥山) → 金陵(きんりょう・奥山おくやま、医者/詩文) S 1 6 1 5

閑窓(かんそう・小本) → 政常(まさつね・小本おもと/金田一、藩士/国学) O 4 0 2 2

間叟(かんそう) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8

酣叟(かんそう・富田) → 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1

観想(かんそう;字) → 房海(ぼうかい;法諱、真言僧) 3 9 2 7

観巢(かんそう・高橋) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文/シボルト事件) B 1 5 9 9

寒叟(かんそう) → 珂然(かねん;法諱・真阿、浄土僧) P 1 5 1 3

官左右(かんそう・川合田) → 夏丸(夏磨なつまる・川合田かわいだ、歌人) L 3 2 6 8

R1525 貫蔵(かんぞう・西川にしかわ) ? - ? 江後期越前藩士?、洋学:和蘭語/兵学、

1856「三兵用訣精論」59「坑卒袖珍」訳

R1526 勘蔵(かんぞう・長谷川) ? - ? 江後期文政1818-30頃上州新町宿の人?、

「長谷川勘蔵覚書」著(:上州の産物書)

W1511 函三(かんぞう・山中やまなか) 1844-1897.54 周防佐波郡の国学者、山中泉三と同族?

寛蔵(かんぞう・長川) → 華山(かざん・長川ながかわ、儒者) H 1 5 4 6

寛蔵(かんぞう・岡田) → 葭堂(かどう・岡田おかだ、俳人) O 1 5 2 2

寛蔵(かんぞう・今木) → 正矩(まさのり・今木/今城いまき、和算家) G 4 0 1 8

- 寛蔵(かんぞう・馬場) → 正通(まさみち・馬場ばば、経世家/教育) H 4 0 4 7  
 寛蔵(かんぞう・田上) → 恭讓(やすのり・田上たがみ、幕臣/和算家) C 4 5 6 8  
 寛蔵(かんぞう・市岡) → 経智(つねとも・市岡いちおか、代官/国学) F 2 9 2 8  
 寛蔵(かんぞう・樋口/杉本) → 隆重(たかしげ・杉本/中臣、神職/歌俳) X 2 6 7 1  
 勘蔵(かんぞう・増田) → 清通(清道きよみち・五島、増田、同心/戯作) Q 1 6 3 4  
 勘蔵(かんぞう・横山;変名) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王/討幕) 2 2 5 9  
 勘蔵(かんぞう・天野) → 意順(もとのぶ・天野あまの、商家/歌人) B 4 4 3 8  
 甘蔵(かんぞう・海妻) → 直繩(なおつな・海妻かいつま、儒/国/故実) B 3 2 6 9  
 完蔵(かんぞう・飯田) → 篤老(とくろう/あつおい・飯田、医者/俳人) L 3 1 6 2  
 完蔵(かんぞう・沼尻) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家) D 3 9 6 2  
 完蔵(かんぞう・薩埵) → 徳軒(とくけん・薩埵さつた、心学者) K 3 1 6 4  
 官蔵(かんぞう・萩原) → 意校(いこう・萩原はぎわら、俳人) F 1 1 4 2  
 官蔵(かんぞう・今井) → 兼庭(かねにわ・今井いまい、和算家) O 1 5 8 0  
 官蔵(かんぞう・岡本) → 可復(かふく・岡本おかもと、藩士) P 1 5 2 6  
 官蔵(かんぞう・岡島) → 竜湖(りゅうこ・岡島おかじま/谷田部/吉成、儒者) D 4 9 6 8  
 官蔵(かんぞう・横山) → 愿恭(よしやす・横山よこやま/中西、名主) P 4 7 9 8  
 官蔵(かんぞう・三浦) → 元簡(もとりのり・三浦/乙幡、藩士/国学/歌) D 4 4 8 5  
 官蔵(かんぞう・小川) → 金義(かねよし・小川おがわ、藩士/歌人) T 1 5 8 3  
 官蔵(かんぞう・山上) → 雪山(せつざん・山上やまがみ/松下、藩士/国学) O 2 4 5 6  
 宦蔵(かんぞう・三浦) → 元規(もとりのり・三浦みうら/館野、藩士/歌) L 4 4 4 9  
 幹蔵(かんぞう・中西) → 鷹山(ようざん・中西なかにし、医者/古医方) B 4 7 0 4  
 G1550 丸窓(がんそう) ? - ? 江中期江戸雑俳点者、1767撰集「豆鉄炮」編  
 巖藻(がんそう・小池) → 内広(うちひろ・小池、国学/神道) D 1 2 1 1  
 甘草舎主人(かんぞうしやしゅじん) → 北荘(ほくそう・深町ふかまち、商家/詩文) D 3 9 6 8  
 菅贈太政大臣(かんぞうだいていじ) → 道真(みちざね・菅原) 4 1 0 5  
 観測(かんそく;字) → 日葆(にちほう;法諱・芳文院、日蓮僧) D 3 3 1 9  
 R1527 観尊(かんそん;法諱) 1716 - 1776 京の天台僧;園城寺法泉院住僧/1745忍玉より灌頂、  
 「新選門要集」「三部秘経条簡」「浄土三蔵考」著、1765「一念往生」編/76「題要随考目次」著  
 H1571 閑存(かんそん・氏家うじえ、名;頭/字;士徳/通称;晋、緑山男) 1828-89 仙台藩士/儒;1847昌平鬻出、  
 長沼流兵法、藩校養賢堂教授/侍講、1851「孝経刊誤集註」、「朱子家訓類抄」著  
 R1528 観尊(かんそん;法諱・号;清堂) ?- ? 江後期弘化嘉永1844-54頃真言高野山僧/不動院真教房住、  
 歌;本居内遠門、「たち花の香」編  
 E1508 寛尊法親王(かんそんほつしんのう、法諱;寛融/寛尊、龜山天皇皇子) 1302-82 母;日野俊光女、  
 大覚寺門跡、権大僧都に直任/僧正/1340二品/77天王寺別当/79一品、  
 歌人;「詠歌清書写」、「嵯峨のひかり」著、1339住吉法楽歌参加/45?実教[藤葉とうよう集]4首入、  
 1350為世十三回忌和歌参加、  
 勅撰12首;風雅(1248/1791)新千(548/936/1936)新拾(3首)新後拾(4首)、  
 [さだめなき人の心のいかなればうき一かたにかはりゆくらむ](風雅;恋1248)  
 [たちのぼる雲のとだえも見えわかで山端くるる春雨の空](藤葉;春42)、  
 [寛尊法親王の通称] 西院/四天王寺宮、大覚寺二品親王(;兼好集)  
 R1529 寛太(かんだ;通称・渡辺わたなべ、名;宰) 1762-1828 肥後益城郡甲佐の人/文武修業、郡の横目付、  
 緑川の洪水対策/水運工事に功績、「甲佐堤防根帳」  
 貫多(かんだ・佐脇) → 嵩雪(すうせつ・佐脇さわき、絵師) F 2 3 3 0  
 神田庵(かんだあん) → 小知(小智しょうち・木村、商家/俳人) U 2 2 1 3  
 H1572 冠帯(かんだい・田中たなか、名;喜吉/希古、窪島重冬男/田中兵庫養子) 1662-1729 武州川崎の里正、  
 1704家督:川崎宿本陣当主;宿場復興、農政家/儒;徂徠・錦江門、  
 1721「民間省要」吉宗に献上、1723川方御普請御用;荒川・多摩川・酒匂川の治水工事尽力、  
 「治水要方」「治民策」「走庭記」「続夢評」「玉匣」「玉川堂稿」「酒匂川文命東西堤碑文」外著多、  
 [冠帯の字/通称/別号]字;邱愚/丘愚/邱隅きゅうぐう、通称;休愚/休隅/右衛門/邱[丘]隅右衛門、  
 別号;冠帯老人/武陽散民、

- 寛泰(かんたい・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5  
 寛台(かんたい・佐久間) → 寛台(ひろもと・佐久間、藩士/謡曲注釈) H 3 7 5 0
- R1530 岩苔(がんたい・岡田おかだ、名;弘、通称;讃岐屋善兵衛、別号;槐亭)?-1815 撰津兵庫宮内穀物仲買業、  
 俳人;青羅・玉屑門、1800「槐亭集」編  
 岸岱(がんたい;号) → 岱(たい・岸、岸駒男/絵師) 2 6 0 0
- G1552 鴈台(がんたい) ? - ? 上方雑俳、1751春耕「あふ夜」入  
 冠帯老人(かんだいろうじん) → 冠帯(かんたい;号・田中たなか、農政家) H 1 5 7 2  
 神田居(かんだきよ、俳人) → 楼川(ろうせん・谷口) 5 2 3 3  
 甘沢(かんとく;道号) → 宗霖(そうりん;法諱・甘沢、臨濟僧) D 2 5 1 7  
 漢濯(かんとく・島村) → 秋江(しゅうこう・島村しまむら/永野、藩儒) X 2 1 1 9
- R1531 完太夫(かんだゆう・添田そえだ、号;仙翁)?-? 江中期1688-1736頃加賀藩前田家家臣/棋士;詰将棋、  
 七段、曲詰の創案者、1731「将棊駒組啓蒙」、「象戯秘曲集」著、  
 [完太夫の別通称]宗太夫/神山孫兵衛  
 官太夫(かんだゆう・辻) → 勝才(かつとし・辻、藩士/詩人) N 1 5 5 9  
 官太夫(かんだゆう・馬場) → 春水(初世しゅんすい・馬場ばば、書家) K 2 1 0 2  
 官太夫(かんだゆう・中西) → 有恭(ありやす・中西なかにし/横橋、神職) I 1 0 1 2  
 官大夫(かんだゆう・進藤) → 重矩(しげのり・進藤しんどう、神職/国学者) O 2 1 9 7  
 勘太夫(かんだゆう・不破) → 浚明(ふかあきら・不破ふわ、藩士/儒者) H 3 8 5 1  
 勘太夫(かんだゆう・黒瀬) → 正親(まさちか・黒瀬くろせ/秦、神職/絵師) P 4 0 5 4  
 管太郎(かんだろう・堀内) → 元鑑(げんがい・堀内ほりうち、医者/文章家) I 1 8 1 6  
 勘太郎(かんだろう・巨瀬) → 至信(ゆきのぶ・巨瀬こせ、旗本/藩士/幕臣/歌) G 4 6 8 2  
 勘太郎(かんだろう・久田) → 宗左(3世そうさ・千せん、久田、茶人) H 2 5 3 5  
 勘太郎(かんだろう・久野) → 正頼(まさより・久野くの、藩士/歌人) I 4 0 8 5
- R1532 緹削(かんとん・青木あおき、名;安都/字;鄰卿、号;金山)?-1782 江後期医師、  
 1767「外科撮要」、「外科当用」著  
 菡萏(かんとん) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7  
 元旦(がんとん→げんたん;号・谷/島田) → 文啓(ぶんけい・谷/島田、絵師/藩士) F 3 8 1 0  
 菡萏居(かんとんきよ) → 敬所(けいしよ・中井なかい、篆刻家) B 1 8 0 0
- E1511 寛湛母(かんだんのはは、寛湛法師の母、中納言橋公頼の妻)?-? 平安中期歌人、後撰942  
 [ながめつゝ人待つ宵の呼子鳥いづ方へとか行き帰るらん](後撰集;十三恋942)  
 含丹楼主人(がんとんろうしゅじん) → 遜齋(そんさい・伊東いとう、書家) F 2 5 4 2
- E1509 寛智(かんち;法諱・禅明房;号、甲斐守藤原道政男)1046-111166 真言仁和寺華藏院僧;济延門、  
 1079伝法灌頂受/1104権律師/10嘉祥寺別当、1075「悉曇要集記」、「悉曇秘要抄」、  
 [寛智の号] 禅明房/勝寺、華藏院律師、叡山天台僧範経の兄
- R1533 観智(かんち;法諱・朝阿ちようあ;号)1231-131383 安房浄土宗西山派僧;浄音門、山城禅林寺18世、  
 武蔵鵜木の光明寺を拠点に布教活動、「観念法門聞書」著  
 観智(かんち;初法諱) → 智明(ちみよう;法諱、真言律僧) F 2 8 4 4  
 乾知(かんち・松本) → 乾知(けんち・松本まつもと、儒者;中斎門) E 1 8 3 7  
 閑智(かんち・中田) → 勇蔵(ゆうぞう・中田なかだ、藩士/暦算家) D 4 6 3 2  
 鑑致(かんち/あきむね?・立花) → 鑑通(あきみち・立花、藩主/詩歌俳) D 1 0 9 4  
 寛致(かんち・成沢) → 雲帯(うんたい・成沢なるさわ、商家/俳人) D 1 2 9 1
- R1534 観智院(観知院かんちいん・裏松[日野]重光女、足利義教の室)?-1447 尼僧、義勝/義政の母、従一位、  
 「十喩詩」著  
 観智院(かんちいん) → 日慧(にちえ;法諱、日蓮僧) 3 3 5 6  
 甘池園(かんちえん) → 比呂伎(ひろき・山本やまもと、和漢学/神職) M 3 7 2 4
- T1523 観竹(かんちく) ? - ? 江後期;歌人、学者、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [明日ありと雪も螢も集めずは学ばで消えん露の間の世に](大江戸倭;1969/教訓の心)  
 閑筑(かんちく・高橋) → 正明(まさあき・高橋たかはし、幕臣/茶/歌人) L 4 0 7 2

- 鑑智国師(かんちこくし) → 証空(しょうくう;法諱、浄土宗西山派祖) G 2 2 2 1
- R1535 喚丑(かんちゆう;法諱・乙堂いつどう;道号)?-1760 上州境野の曹洞僧;隠之道頭の法嗣、  
1731江戸盛徳寺住持/51上州鳳仙寺住持/57退隠、1739「駁辨道書」、「洞上叢林公論」著
- G1553 環中(かんちゆう・高宮たかみや、名;貞/字;大幹)?-? 江中期大阪本町三丁目の医者、書/俳諧/国学、  
国文注釈、1749「難経達言」57「要略存皮」「金匱要略存皮」63「伊勢物語審註」69「掌中詩聯」著、  
[環中の別通称/号]別通称;了作、号;鳳岡/蘆江散人
- R1536 環中(かんちゆう;法諱・道枢;字)?-? 江中期肥後阿蘇村真宗本願寺派東光寺住職、  
熊本順正寺侍童の時寺僧と口論し出奔/安藝の慧雲門/京の功存門、1801講師、  
のち帰郷し子弟教育;肥後轍を開(竜北会;討論の場)、1789「建幢摧邪篇」著、  
「浄土論随聞記」「信行両座義」「真宗安心正中録」「三帖和讃大綱」外著多数、  
[環中の号] 竜北/登竜閣/忍成房
- R1537 環中(かんちゆう;号・禅機;字、別号;観雲/無窮子、高木伊左衛門男)1790-185970 周防玖珂臨濟僧;  
周防福城寺16世、漢学;松本愚山門、聖護院普門律師門;梵曆研究、天竜寺栖松軒住、  
一山の学頭職、「紀元曆書」「紀元曆書諺解」著、「縮象符天曆書」編、「西行東行記」著
- R1538 観中(かんちゆう;法諱・明脱;字)?-? 江中期武蔵江東の天台僧、  
叡山安楽院の守篤(1769没)門;師を追って川越喜多院で修学、「四年処草稿」著
- T1543 貫忠(かんちゆう;法諱・愛宕あたご/堀田)1828-191386 紀伊海草郡の天台僧;愛宕山麓の円珠院住僧、  
権僧正、国学;本居内遠(1792-1855)・加納諸平門、  
[貫忠(名)の通称/号]通称;作左衛門、号;如庵/一雨院
- 観中(かんちゆう;道号) → 中諦(ちゅうたい;法諱・観中、臨濟僧) 2 8 1 8
- 観中(かんちゆう・松浦) → 熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革) H 3 7 4 5
- 観中(かんちゆう・堀) → 流水軒(りゅうすいけん・堀ほり、手習師匠) E 4 9 8 8
- 冠宙(かんちゆう・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1
- 環中(かんちゆう・道一) → 也寥(やりよう・碓花坊、禅僧、俳人) 4 5 2 9
- 環中(かんちゆう・藤野) → 長春(ながはる・藤野ふじの、書・篆刻家) F 3 2 3 9
- 環中(かんちゆう・中) → 天游(てんゆう・中なか、医者/蘭学者) E 3 0 4 5
- 貫忠(かんちゆう・鎌原かんばら) → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、儒者) E 3 1 6 2
- 寛忠(かんちゆう・藤波) → 寛忠(ひろただ・藤波ふじなみ/大中臣、神職) G 3 7 2 8
- 寛中(かんちゆう・国分こくぶん) → 威胤(いたけね・国分、藩士/詩人) O 2 6 4 3
- 韓中秋(かんちゆうしゅう) → 藍田(らんてん・谷口たにぐち、儒者/国事) D 4 8 0 7
- R1539 環中仙(かんちゆうせん・多賀谷/初姓;不破ふわ、名;元陳、通称;仙九郎/い三)?-? 名古屋生/京住、  
江中期1716-36頃和算家、妙権術を發明;初心者用数学手引書・数学遊戯書・手品書など著、  
1727「和国知恵較」「初心算法早伝授」、30「璣訓蒙鏡草」「当世影絵姿鏡」、33「唐土秘事の海」著
- 菅中納言(かんちゆうなごん) → 長雅(ながまさ・高辻、廷臣/漢学/聯句) F 3 2 7 0
- R1540 寛朝(かんちゆう;法諱・広沢僧正/遍照寺僧正、敦実親王男)916-99883 母;藤原時平女、926真言僧;  
祖父宇多法皇門、寛空より伝法灌頂受/967仁和寺別当/973東大寺別当/981東寺長者、  
986大僧正/989広沢池畔に遍照寺開、「一乗義私記」「五教章一乗義私記」「金剛界次第」著
- R1541 管鳥(かんちゆう・不夜庵3世/文鳥庵、酸漿かたばみ屋弥三郎、椎名)?-1818 京島原の揚屋百花楼主人、  
俳人・大祇門、「島原句集」、「不夜庵発句集」著、1772几董「其雪影」73「明鳥」76「続明鳥」、  
1777蕪村「夜半楽」入、  
[菜の花や黄昏時たそがれどきの経の声](其雪影;巻尾260)
- R1542 寛兆(かんちゆう・松橋、寿春亭)?-? 江末期八戸俳人、1851「俳諧風雅帖」、「磯の寄藻」
- 観潮(かんちゆう・佐久間) → 信満(のぶみつ・佐久間/三浦、藩士/謡曲) D 3 5 4 8
- 桓頂(かんちゆう) → 是真(ぜじん;法諱・遵教、日蓮僧/歌) K 2 4 6 1
- 寛長(かんちゆう/ひろなが・金子) → 真頼(まより・黒川/金子、国学者) K 4 0 1 8
- 灌頂院(かんちゆういん) → 義演(ぎえん;法諱、一字名;山、真言僧) 1 6 8 2
- 観潮翁(かんちゆうおう) → 秀斎(しゅうさい・堀尾、医/儒/神道) X 2 1 2 8
- 寒蝶子(かんちゆうし) → 江隠(こういん;道号・宗頭;法諱、臨濟僧) H 1 9 3 5
- 観鳥舎(かんちゆうしゃ) → 手束(たつか・武藤むとう、藩士/国学) W 2 6 6 6
- 韓長齡(かんちゆうれい、狂詩) → 岡持(おかもち・手柄てがら、狂歌) 1 4 0 9

- 韓長老(かんちょうろう) → 文英(ぶんえい;道号・清韓、臨濟僧/鐘銘事件) H 3 8 5 2  
 観潮楼(かんちょうろう) → 安美(やすよし・松本まつもと、商家/儒者) D 4 5 5 3
- R1543 **関通**(かんつう;法諱・無礙むがい;字、俗姓横井) 1696-1770<sup>75</sup> 尾張浄土僧;照誉靈徹門/増上寺玄達門、尾張一色村の西方寺住;伽藍を整備;円成律寺と改名、尾張三河/江戸/京で布教活動、三木本円通寺・北野転法輪寺建立、「夢の知識」、「燧囊」、「燧囊俚語」「宗略大要義」外著多数、[関通の別法諱/法名/号]別法諱;元教/専問せんけい、法名;一蓮社向誉/即蓮社勝誉、号;雲介子  
 鑒通(かんつう・石上) → 鑒通(てらみち・石上いそのかみ、国学者) C 3 0 9 4  
 鑑通(かんつう・立花) → 鑑通(あきみち・立花、藩主/詩歌俳) D 1 0 9 4  
 感通(かんつう・井上) → 通女(つうじよ・井上/三田、侍女/歌人) 2 9 0 1  
 貫通(かんつう・米谷) → 吉郎右衛門(きちろうえもん・米谷まいや、藩士/兵学) L 1 6 3 8  
 貫通(かんつう・鳥田) → 智庵(ちあん・鳥田からすだ/修姓;田、藩医/本草) 2 8 3 5  
 寛通(かんつう・大岡) → 栗斎(りつさい・大岡おおおか、儒者) B 4 9 9 5
- R1544 **岩通**(がんつう;法名/号;応蓮社、法諱;良声) ?-1760 出羽(羽後)田川郡湯沢の浄土僧、1716久保田(秋田)誓願寺15世・久保田城内阿弥陀堂別当を兼任;秋田領内の念仏弘通に尽力、1744退隠、詩歌を嗜む、「阿弥陀堂記」著  
 感通媼(かんつうおう) → 通女(つうじよ・井上) 2 9 0 1  
 貫通斎(かんつうさい) → 金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9
- R1545 **簡亭**(かんでい・堀井ほりい、名;洌、字;子泉) ?-? 江中期撰津高槻の儒者、1798刊「簡亭先生遺稿」  
 [簡亭の通称/別号]通称;魯蔵、別号;菅亭  
 簡亭(かんでい・渡辺) → 長易(ながやす・渡辺わたなべ、神道/歌人) P 3 2 3 7  
 堪亭(かんでい) → 可笑(かしょう・伊庭、黄表紙作者) 1 5 1 7  
 幹亭(かんでい・浅井) → 凶南(となん・浅井、医/本草/詩) O 3 1 5 6  
 鑑亭(かんでい) → 七里(しちり・北村、回漕問屋/俳人) E 2 1 6 8  
 感亭(かんでい・近藤) → 浩斎(こうさい・近藤こんどう、藩士/儒者) I 1 9 9 2  
 寛定(かんでい・南) → 寛定(ひろさだ・南みなみ、藩士/和算家) H 3 7 7 8  
 寛貞(かんでい・芝) → 寛貞(ひろさだ・芝しば、国学者) H 3 7 7 7  
 関亭京鶴(かんでいきょうかく) → 恒成(つねなり・瀬川、戯作者) C 2 9 9 5  
 関亭伝笑(かんでいでんしょう) → 伝笑(でんしょう・合巻作者、読本祖) D 3 0 8 3
- R1546 **澗庭隠士**(かんでいゐんし、澗庭隠者) ?-? 叡山天台学僧、「北斗護摩集」「五大略要抄」著  
 貫汀夫(かんでいふ) → 奚花坊(けいかぼう・青木、俳人) 1 8 4 1  
 閑適(かんでき・島川) → 秀邦(ひでくに・島川しまかわ/倉田、藩士/和漢学) J 3 7 7 8
- G1554 **巖的**(がんてき;法諱・松誉しょうよ;法名) ?-? 江前期1684-1713頃江戸浄土僧、江戸檀林修学、上野館林善導寺修学/元禄(1688-1704)頃大坂生玉・堺に住、1687「臨終要決鼓吹」著、1705巡礼案内「観音靈驗記真鈔」「浄土列祖伝」/12「翻迷開悟集」13「廃悪修善録」著  
 乾惕斎(かんできさい→けんてきさい) → 乾斎(けんさい・三浦みづら、医者/詩人) I 1 8 9 1
- R1547 **観徹**(かんでつ;法諱・浄覚;法名) 1657-1731<sup>75</sup> 京浄土僧;観善門、関東で性相を修学、1716鎌倉光明寺58世、1710「浄宗護国篇」12「知光青海二曼荼羅合讚」25「阿弥陀経合讚」著、[観徹の法名] 浄覚/円蓮社義誉/真阿
- R1548 **貫徹**(かんでつ;法諱・廓門かくもん;道号、号;屋愚子) ?-1730 江前中期;曹洞僧;下野黒羽大雄寺13世、江戸正覚寺住持/詩文、円山道白無著道忠らと親交、1686「輔教編新臻註」1729「護法集砕金」著  
 環徹(かんでつ・法諱) → 速満(そくまん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 5 3
- R1549 **丸鉄**(がんてつ;号・山田やまだ、通称;仁三郎) 1795-1835<sup>41</sup> 尾張の儒者/詩文/書、「感懐録」著  
 貫徹斎(かんでつさい・池田) → 正慶(まさよし・池田いけだ、和算家) I 4 0 7 6  
 閑田(かんでん・伴ぼん) → 蒿蹊(こうけい・伴ぼん、商家/歌人/和文) 1 9 0 8  
 観田(かんでん・細木) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0  
 管田(かんでん・北条/伊勢) → 氏擘(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7
- E1512 **含粘**(かんでん・三曲窩) ? - ? 大和郡山俳人;蕉門、1694素牛(維然)「藤の実」入  
 閑田翁(かんでんおう) → 蒿蹊(こうけい・伴ぼん、商家/歌人/和文) 1 9 0 8  
 閑田子(かんでんし・閑田盧かんでんろ) → 蒿蹊(こうけい・伴、国学/歌人) 1 9 0 8

- R1550 **関関**(かんと) ? - ? 甲斐俳人、稲中庵黒露社中、1742「作可折百句」編  
 煥関(かんと・滝田/安藤) → 東野(とうや・安藤、修姓;藤とう、儒者) 3 1 2 4  
 寛度(かんど・舟橋) → 元美(げんび・林はやし、棋士) M 1 8 1 7
- G1555 **竿頭**(かんとう・百尺亭ひやくせきてい)?-? 嘶家、洒落本作者;  
 1774「軽口五色紙」、1776「無論里問答」著
- R1551 **観濤**(かんとう・中村なかむら、名;易直、梅鳩ばいう男)?-? 江後期天明寛政1781-1801頃筑後久留米藩士、  
 儒・程朱学;父門、詩文に長ず、天文;入江東阿門、「竹叢集」「談天発蒙」「袋野堰溝記」著、  
 [観濤の通称/別号]通称;新助、別号;竹叟/竹叢  
 寒桃(かんとう・松田) → 三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩) B 4 1 2 7  
 観濤(かんとう・山田) → 重興(しげおき・山田、商家/郷士/漢学) a 2 1 0 3  
 寛藤(かんとう・鈴木) → 寛藤(ひろふじ・鈴木すげき、幕臣/国学者) K 3 7 0 0
- R1552 **観導**(観道かんとう;法諱・覚愍かくびん;号)?-? 南北期浄土宗西山派僧;行観門、  
 武蔵鶉ノ木光明寺住僧、「玄義分観導抄」「散善義観導抄」「定善義観導抄」「法事讃鈔」著
- R1553 **貫道**(かんとう) ? - ? 江中期美濃西重寺の真宗僧、  
 1733「浄土真宗目随鈔」著
- R1554 **観道**(かんとう;法諱・昭義しょうぎ;字)1752-1822<sup>71</sup> 周防平尾村の真宗本願寺派僧、漢学;義端門、  
 京本山学林修学、性相華嚴天台;勸善・隆山門、宗学;慧雲門、周防平尾真覚寺住職、  
 「高僧和讃採集記」「浄土真宗義林章」「真宗正訛篇」「浄土和讃観経讃採集記」著
- R1555 **観道**(かんとう;法諱、字;三光/三光明、号;笑本)1768-?1850-60頃没 武州本田の教念寺:時宗僧、  
 京七条金光寺西部学寮の寮主;子弟教育/選択集研究、義徹/覚阿/実辨らの師、  
 「選択骨目抄」「選択皮肉抄」「選択獅子絃」「選択集知津章」「選択集貴旧鈔」著
- E1513 **簡堂**(かんとう・羽倉はくら、名;用九もちなか、秘救やすもり男)1790-1862<sup>73</sup> 幕臣;代官/1838伊豆諸島巡視、  
 1842老中水野忠邦に抜擢;納戸頭/生野銀山視察/鴻池に献金要請/忠邦失脚に蟄居、  
 儒者:精里門、「小四海堂しょうしかいどう叢書」「簡堂叢書」「西上録」「旌善録」「紫閨録」外著多数、  
 [簡堂の字/通称/別号]字;士乾、通称;外記、別号;天則/可也/蓬翁/小四海堂、法号;浄界院
- R1556 **完堂**(かんとう・安倍/阿部あべ、名;伝/字;教/通称;泰佐)?-? 幕末期江戸の儒者・詩人、  
 1849「蓬行録」著、52「詩歌合」「新撰詩歌合」「日本州名解」編
- R1557 **簡堂**(かんとう、曾我そが、名;敬長/字;希淵/通称;静次)1830-84<sup>55</sup> 越後浦木村農業、  
 儒者:佐藤一斎門/大橋訥庵門、帰郷;光霽塾を開き子弟教育、  
 新発田藩主の招聘/郷学講師/士籍、「異端辨」「講余漫録」著  
 簡堂(かんとう・桜田) → 簡斎(かんさい・桜田、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1  
 甘棠(かんとう・安田) → 石牙(せきが・安田/早川、医者/俳人) D 2 4 3 6  
 甘棠(かんとう・安田) → 雷石(らいせき・安田/早川、石牙の孫/医者/俳) 4 8 7 2  
 甘棠(かんとう・景山) → 豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌) U 3 1 7 1  
 観導(かんとう・号) → 至善(しぜん;法諱、真宗大谷派僧) U 2 1 1 7  
 還道(かんとう→げんどう;法諱) → 大円(だいえん・還道、曹洞僧) J 2 6 2 5  
 貫道(かんとう;字) → 泰深(たいしん;法諱、真言僧) K 2 6 4 0  
 貫道(かんとう・越) → 越貫道(こしかんとう、詩人) F 1 9 6 6  
 貫道(かんとう・片山) → 尚彦(ひさひこ・片山かたやま、絵師/神職) J 3 7 0 5  
 貫道(かんとう・真田) → 貫道(つらみち・真田、藩家老) E 2 9 4 9  
 貫道(かんとう・大神おおが) → 貫道(つらみち・大神おおが、神職) E 2 9 4 8  
 貫道(かんとう・藤井) → 貫道(つらみち・藤井ふじい、国学者) G 2 9 2 8  
 貫道(かんとう・浅野) → 清左衛門(せいざえもん・浅野、文筆家) I 2 4 4 0  
 貫道(かんとう・下河) → 東里(とうり・下河しもかわ、藩士/儒者/詩) I 3 1 1 1  
 貫堂(かんとう・河田) → 熙(ひろむ・河田、幕臣/渡欧) F 3 7 9 4  
 貫堂(かんとう・吉田) → 業忠(なりただ・吉田よしだ、歌人) P 3 2 3 2  
 寛堂(かんとう・若槻) → 幾斎(きさい・若槻わかつき/源、儒者) I 1 6 5 3  
 寛堂(かんとう・川路) → 太郎(たろう・川路かわじ、幕臣/英語) T 2 6 0 1  
 寛道(かんとう;字) → 日皞(にちこう;法諱・寛撰院、日蓮僧) B 3 3 8 8  
 寛道(かんとう・石井) → 寛道(ひろみち・石井いひ、藩士/国学者) H 3 7 2 8

- 寛道(かんどう・松岡) → 寛道(ひろみち・松岡まつおか、神職/教育) H 3 7 3 1  
 乾堂(かんどう) すべて → 乾堂(けんどう)
- R1558 雁宕(がんとう・田中たなか/修姓; 田、名; 采蕙/尚章、字; 白圭)?-? 江前期尾張藩士/儒:小出侗齋門、詩人; 1721「防丘詩選」校
- 1553 雁宕(がんとう・砂岡いさおか、尚我[俳人]男)?-1773 下総結城の俳人; 沾山・のち巴人門、江戸俳壇巴人没後一時帰郷/江戸のち仙台住; 茅風庵結、蕪村と親交、息子; 冲翼・進歩も俳人、蓼太と論争; 蓼太「ゆきおろし」に反駁「蓼すり古義」(; 1771弟周午・息冲翼・進歩刊)、1752「復古衾」55「夜半亭発句帖」編、64「合補誹諧談」72「俳諧一字般若」、「雫の森」、[煮凍にこりや格子のひまを洩る月夜](続明烏; 13回忌追善集「たままつり」易難編)、[雁宕(; 号)の通称/別号]通称; 四良左衛門/三右衛門、別号; 茅風庵(; 仙台で結庵)/伐木齋法号; 高誉雁宕榎樹居士
- 巖寶(がんとう; 道号・明投) → 明投(めいとう; 法諱・巖寶、臨濟僧) 4 3 2 9  
 蕨冬庵(かんどうあん) → 国彦(くにひこ・酒井、藩士/俳人) D 1 7 1 1  
 観道院(かんどういん) → 日称(にっしょう; 法諱・是境、日蓮僧) E 3 3 2 8  
 欸冬園(かんとうえん) → 為仙(ためり・飯島、歌人) H 2 6 3 3  
 款冬園(かんとうえん) → 信古(のぶふる/のぶひさ・今井、神職/国学/歌) D 3 5 2 3  
 款冬園(かんとうえん) → 信美(のぶよし・荷田/羽倉はくら、国学者) D 3 5 8 8  
 観濤閣(かんとうかく) → 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) J 4 7 6 5  
 観濤閣(かんとうかく) → 琴鶴(きんかく・松浦まつうら、易占家) Q 1 6 7 5  
 竿道竿(かんとうかん) → 道閑(3世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 9  
 甘棠居(かんとうきよ) → 志慶(しけい、商家/俳人) Q 2 1 5 8  
 甘棠軒(かんとうけん) → 棠軒(とうけん・近藤、儒者/経史) D 3 1 3 5  
 甘棠舎(かんとうしゃ) → 三橋(さんきょう・青風舎、俳人) M 2 0 0 3  
 甘棠書院(かんとうしよいん) → 運善(ゆきよし・青方あおた、家老/記録) 4 6 2 8  
 菅道真(かんとうしん、唐名) → 道真(みちざね・菅原) 4 1 0 5  
 関東米(かんとうべい、洒落本作者) → 振鷺亭(しんろてい) 2 2 3 2  
 関東平々山人(かんとうへいへいさんじん) → 枇杷麿(枇杷丸びわまる・青山堂、書肆/狂歌) 3 7 3 2  
 関東米(かんとうまい) → 振鷺亭(しんろてい・猪狩いかり、戯作者) 2 2 3 2  
 寛時成(かんとときなり) → 寛時成(ゆたかなるときなり、狂歌) E 4 6 6 6  
 寛得(かんとく・谷) → 寛得(ひろり・谷、儒者) G 3 7 9 1  
 寛篤(かんとく/ひろあつ・米沢) → 一馬(いちば/いちま・貞松斎、華道/俳人) G 1 1 3 7  
 涵徳(かんとく・朝比奈) → 玄洲(げんしゅう・朝比奈あさいな、藩士/儒者) E 1 8 8 9  
 観徳院(かんとくいん) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1  
 巖徳院(がんとくいん) → 頼説(よりひさ・松平まつだいら、藩主/蹴鞠) K 4 7 5 6  
 観徳軒(かんとくけん・森川) → 香山(こうざん・森川、弓術家) J 1 9 1 5  
 閑徒老人(かんとろうじん) → 初斎(じんさい・中根なかね、医者/詩人) O 2 2 5 6  
 かななぎ → 熊野のかななぎ(くまの) B 1 7 0 3  
 巫部麻蘇娘子(かななぎべのまそおとめ) → 巫部麻蘇娘子(かむなぎべのまそおとめ、万葉歌人) 1 5 4 0  
 勘入(かんにゅう・堀) → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) 3 9 8 8  
 閑入(かんにゅう、向南亭) → 季文(きぶん・北村) B 1 6 7 5  
 閑入軒(かんにゅうけん) → 長孝(長好ながよし/ちょうこう・望月、歌人) 3 2 2 2  
 観如(かんによ; 字) → 日深(にちじん; 法諱・常在院、日蓮僧) C 3 3 5 4  
 観如(かんによ; 字) → 元瑜(げんゆ; 法諱・観如、真言僧) M 1 8 5 6  
 観如(かんによ; 字) → 実倫(じつりん; 法諱・観如、天台僧) V 2 1 1 6  
 観如院(かんによいん) → 日透(にっとう; 法諱・堯弁、日蓮僧) F 3 3 4 1
- V1585 観如夫人(かんによふじん・溝口みぞぐち直信妻、名; 侶姫、松平武元女) 1759-1836 78 江戸生、歌人、越後新発田藩の世嗣溝口直信(1756-86)の正室; 長男亀次郎(直侯/1778-1802)出産、夫は藩主兄直養の養子; 世子で従五下伯耆守; しかし病身で退身事件(廢嫡問題)起る、藩内に権力抗争が続く; 1786(天明6)夫は世子に復帰; 間もなく江戸に没; 家督は息子亀次郎(直侯)が継嗣(9代新発田藩主)

- 幹仁(かんにん→もとひと) → 後小松天皇(ごこまつてんのう、南北合一/歌) C 1 9 5 5
- E1514 元仁(がんにん) ? - ? 万葉二期歌人:九3首(1720-22)、渡来人僧か?  
[馬並なめてうち群れ越え来き今見つる吉野の川をいつかへり見む](1720)
- 堪忍庵(かんにんあん) → 末眞(すえまさ・車館くるまで/和田、神職/茶人) F 2 3 6 3
- 堪忍軒(かんにんけん) → 朋水(ほうすい・香田こうだ、俳人/歌人) B 3 9 8 6
- R1559 堪忍舎二字守(かんにんしゃにじもり、北田きただ、名;万吉/祐年)?-? 江後期1818-30頃江戸の狂歌作者、  
文車庵社中の判者、「文車菴月並秀逸書拔」著、  
[堪忍舎二字守の別号]竜宮亭玉守/美髯亭/文明亭/雲竜社
- G1556 堪忍成丈(かんにんのなりたけ、桑名屋武右衛門)?-? 酒舗、狂歌;小石川連、1785後万載1首/87才蔵集入  
[相生の夫婦めをとの中にちよこりと松のふぐりのつきしみどり子]
- 雁奴(がんぬ) → 太木(ふとき・大根、狂歌) D 3 8 5 3
- R1560 寛寧(かんねい;法諱・得法院、俗姓;内田)1797-1879<sup>83</sup> 肥後真宗本願寺派僧;明増門、  
山鹿大光寺住職、のち性海門、勸学職、  
「散善義聴記」「宗要論題」「讚阿弥陀仏偈聴記」1866「帖外和讚啓蒙録」著
- U1541 観然(かんねん;法諱) ? - 1762 信濃伊那郡山吹村の天台宗領法寺住僧、  
歌人;澄月門
- 寛念(かんねん) → 寛念(かくなん、藤原、詞花歌人) K 1 5 3 6
- 観念(かんねん;字) → 日答(にっとう;法諱・義天院、日蓮僧) F 3 3 4 8
- 漢年(かんのねん・河合) → 道臣(ひろおみ・河合かわい、家老/殖産) F 3 7 6 1
- 幹年(かんのねん・内藤) → 左兵衛(さへえ・内藤、藩士/奉行) L 2 0 5 5
- 鑑翁(かんのう;道号) → 士昭(ししょう;法諱、南北期臨濟僧) T 2 1 7 4
- 感応(かんのう;号) → 水月(すいげつ;号、僧/歌人) E 2 3 4 1
- 観応(かんのう;法諱) → 玉屑(ぎやくせつ;号・観応;法諱、真言僧/俳人) D 1 6 0 3
- 感応院(かんのういん;法号) → 幸貫(ゆきつら・真田/松平、藩主/詩歌) 4 6 2 1
- 勸農衛(かんのうえい・中村) → 勸農衛(かのおえ・中村/黒川、医者) P 1 5 1 6
- E1515 勘之丞(かんのじょう・荒井あらい) 1786-1854<sup>69</sup> 伊勢一志郡伊勢寺の国学者/孝徳のため御蔵庄屋、  
1823治績のため苗字帯刀、書画が得意、「伊勢寺記」「勢陽雜記」、1851「勢国見聞集」著
- 勘之丞(かんのじょう・市来) → 政常(まさつね・市来いちき、国学者) N 4 0 6 9
- 勘之丞(かんのじょう・志村) → 吉智(よしのり・志村しむら、国学・歌人) N 4 7 2 5
- 寛之丞(かんのじょう・成川) → 国男(くにお・成川なるかわ、医者/国学) E 1 7 4 0
- 貫之進(かんのしん・津阪) → 拙脩(せつしゅう・津阪、儒者) N 2 4 7 1
- 勘之進(かんのしん・井手) → 氏辰(うじとき・井手いで、藩士/歌人) E 1 2 4 7
- 勘之助(かんのすけ・松木) → 高彦(たかひこ・松木/度会、神職/記録) M 2 6 9 4
- 勘之助(かんのすけ・山路) → 重固(しげかた・山路やまじ、藩士/歌人) Q 2 1 7 7
- 桓之助(かんのすけ・成島) → 筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者) D 2 8 0 7
- 貫之介(かんのすけ・鍋木) → 雅直(まさなお・鍋木かぶらき、藩士/砲術/歌) O 4 0 9 4
- 貫之助(かんのすけ・三好) → 鉄之介(てつすけ・関、藩士/桜田門外変) C 3 0 5 9
- 貫之助(かんのすけ・河田) → 熙(ひろむ・河田、幕臣/渡欧) F 3 7 9 4
- 灌之助(かんのすけ・白米) → 満直(みつなお・白米はくまい、神職) K 4 1 0 6
- 観之坊(かんのぼう・河村) → 再和坊(さいわぼう・河村、医者/俳人) B 2 0 1 8
- 観音院僧都(かんのいんのそうず) → 延尋(えんじん;法諱、真言僧) F 1 3 0 7
- 官梅(かんばい・林) → 道栄(どうえい・林/官梅、通事/書家) B 3 1 3 5
- 菅椽人(かんばいじん) → 梅人(ばいじん・平山、俳人) B 3 6 6 3
- 観梅道人(かんばいどうじん) → 観山(かんばん・松宮、軍学/儒/国学) 1 5 5 2
- 甘白(かんぱく・沼) → 古濂(これん・沼ぬま/梅本、医者/儒者) P 1 9 0 3
- 甘白(かんぱく・松崎) → 蘭谷(らんこく・松崎まつざき、藩士/儒者) C 4 8 0 8
- 関白右大臣(かんぱくうだいじん;風雅) → 良基(よしもと・二条、歌/連歌) 4 7 2 9
- 関白家新少将(かんぱくけのしんしょうしょう) → 新少将(しんしょうしょう、芬陀利花院前関白内大臣家) E 2 2 6 4
- 関白家丹後(かんぱくけのたんご) → 丹後(たんご・宜秋門院) I 2 6 0 7
- 関白家丹後(かんぱくけのたんご) → 丹後(たんご・宜秋門院ぎしゅうもんいん、歌人) I 2 6 0 7

関白家弁(かんぱくけのべん) → 弁(べん・関白家、続詞花集歌人) B 2 7 6 0  
 関白家民部卿(かんぱくけのみんぶきょう; 続古今集)  
     → 民部卿(みんぶきょう・後一条関白家、女房/歌人) G 4 1 8 7  
 関白前左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 後拾遺) → 師実(もろざね・藤原) H 4 4 2 4  
 関白前左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 続古今) → 実経(さねつね・一条) D 2 0 2 1  
 関白前左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 新拾遺) → 良基(よしもと・二条、歌/連歌) 4 7 2 9  
 関白前左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 新後拾遺) → 師嗣(もろつぐ・二条、関白/歌人) H 4 4 4 4  
 関白前太政大臣(かんぱくさきさきさだいじょうだいじん; 玉葉) → 冬平(ふゆひら・鷹司) E 3 8 3 8  
 関白前太政大臣(かんぱくさきさきさだいじょうだいじん; 新続古) → 持基(もちもと・二条、撰関/歌/連歌) 4 4 1 0  
 関白左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 新勅撰) → 教実(のりざね・九条/藤原、歌) E 3 5 5 9  
 関白左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 新千載) → 経教(つねのり・九条) D 2 9 0 9  
 関白左大臣(かんぱくさきさきさだいじん; 新葉歌人) → 教頼(のりより・二条) G 3 5 3 6  
     (2説) → 冬実(ふゆざね・二条) E 3 8 2 6

勘八(かんぱち・小原) → 克紹(かつつぐ・小原おはら、儒/絵師/地誌) N 1 5 5 3  
 勘八(かんぱち・武田) → 熟軒(じゅくけん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7  
 閑八(かんぱち・高岡) → 養拙(ようせつ・高岡、商家/儒者) B 4 7 3 1  
 官八郎(かんぱちろう・横関) → 敦(あつし・横関よこせき/源、陪臣/歌) I 1 0 7 7  
 蒲原(かんばら; 号) → 智教(ちきょう; 法諱、真宗仏光寺派僧) C 2 8 4 1

R1561 寛美(かんび・深谷) → 寛美(ひろよし・深谷ふかたに、与力/歌人) K 3 7 8 1  
 1785「俳諧一時雨」86「芭蕉杉風両吟百員」編、92「句勧進」94「花千もと」著、「春興」編

寛美(かんび・松平) → 八十郎(やそろう・松平まつだいら/源、幕臣/歌) E 4 5 9 5  
 甘寐舎(かんびしゃ・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8  
 韓弼(かんびつ) → 西臯(さいこう・多々羅たたら、町人/詩人) G 2 0 6 7  
 寛平御時后宮(かんびじょうのおおんときさきさいのみや) → 班子女王(はんしじょおう、光孝皇后) 3 6 4 7  
 寛平帝(かんびじょうのみかど) → 宇多天皇(うだてんのう) 1 2 6 8  
 完敏親王(かんびん → さだとしんのう) → 堯恕法親王(ぎょうじよほつしんのう、僧/詩人) C 1 6 6 5  
 簡夫(かんぶ・森田) → 梅礪(ばいかん・森田もりた、儒者/詩) 3 6 9 1  
 環夫(かんぶ・伊藤) → 蘭斎(らんさい・伊藤いとう、藩儒者/詩人) C 4 8 1 6  
 観府(かんぶ) → 景之(かげゆき・恵川えがわ、藩士/和算) L 1 5 4 4  
 貫夫(かんぶ・寺石; 変名) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王/討幕) 2 2 5 9  
 寛夫(かんぶ・添川) → 廉斎(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者) B 5 1 0 8

G1557 鷹不(たかふ) ? - ? 俳人、1686西吟「庵桜いおざくら」歌仙入

関武隠士(かんぶいんし) → 吉豊(よしとよ・種田たねだ、軍記作者) F 4 7 0 8  
 貫風(かんぶう) → 雲堂(うんどう・加藤、俳人) B 1 2 5 8  
 灌仏(かんぶつ・榛間) → 法住(ほうじゅう; 法諱・鳳巖・榛間はりま、僧/歌) G 3 9 3 4  
 幹文(かんぶん・石河/久米) → 幹文(もとぶみ・久米/石河、藩士/国学) E 4 4 2 3  
 煥文(かんぶん・鴨田) → 白翁(はくおう・鴨田かもた、儒者/詩) C 3 6 7 4  
 簡文(かんぶん; 諡号) → 耐軒(たいけん・曾我/春田、儒者/詩) B 2 6 3 1  
 観文堂(かんぶんどう) → 莘野(しんや・伊藤いとう、儒者) 2 2 8 2  
 勘平(かんぺい・井手) → 夢沢(ぼうたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7  
 勘平(かんぺい・佐藤) → 周軒(しゅうけん・佐藤、藩家老/学事振興) H 2 1 2 5  
 勘平(かんぺい・本多) → 直盛(なおもり・本多ほんだ/笹瀬、幕臣) O 3 2 7 2  
 勘平(かんぺい・石田) → 梅岩(ばいがん・石田いしだ興長、心学者) 3 6 0 3  
 勘平(かんぺい・山本) → 広足(ひろたり・山本、神道家/詩人) G 3 7 3 3  
 勘平(かんぺい・岩瀬) → 華沼(かしゅう・岩瀬いわせ、藩士/儒者) H 1 5 4 8  
 勘平(かんぺい・黒田) → 東園(とうえん・黒田くろだ、儒者/詩人) B 3 1 5 1  
 勘平(かんぺい・内堀) → 幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、藩士/歌人) G 4 6 6 5  
 完平(かんぺい・添川) → 廉斎(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者) B 5 1 0 8  
 完平(かんぺい・武井) → 庸(よう・武井たけい、神職) N 4 7 8 2

- 寛平(かんぺい・谷口) → 陶溪(とうけい・谷口たにくち、藩士/歌人) D 3 1 1 9  
 寛平(かんぺい・春日) → 載陽(さいよう・春日かすが、医者/儒者) O 2 0 2 8  
 寛平(かんぺい・高妻) → 五雲(ごうん・高妻こうづま、儒者/教育者) Q 1 9 8 1  
 寛平法皇(かんぺいのほうおう) → 宇多天皇(うだてんのう、歌人) 1 2 6 8
- G1558 勘兵衛(初世かんべえ・村上、浄雲、平楽寺)?-1626 京書肆、1622「医正伝」刊  
 G1559 勘兵衛(二世かんべえ・村上、浄清)?-1654 京書肆、1636「はなひ草」刊、医仏書刊  
 G1560 勘兵衛(三世かんべえ・村上、宗信)?-1663 京書肆、浄土宗から日蓮宗に改宗・出版  
 G1561 勘兵衛(四世かんべえ・村上、元信)?-? 1669日蓮宗門書肆、深草元政と親密  
 G1562 勘兵衛(かんべえ・野呂松のろまつ)?- ? 17c末の人形遣:のろま人形創、土佐座「二河白道」出演  
 G1563 勘兵衛(かんべえ・藤間) ? - 1769 歌舞伎所作事、振付:2世伝次郎[舞扇]門、藤間流祖  
 E1516 勘兵衛(かんべえ・多田ただ、名;直洪なおひろ、通称;海部屋かいぶや勘兵衛)?-? 江後期大阪書肆/号;定学堂、  
 1801「合類書籍目録」「書籍目録大全」編/12「群書一覽」編
- R1562 勘兵衛(かんべえ・高島たかばたけ/高畑、名;敬/号;青菰/屋号塩屋)?-? 江後期京の考証家、  
 1854平塚飄齋・三条実方らと山陵会を開、1852「諸陵考」、「青菰雑誌」編/「遠古登点譜」著
- 勘兵衛(かんべえ・小幡) → 景憲(かげのり・小幡おばた、幕臣/軍学者) B 1 5 8 9  
 勘兵衛(かんべえ・古筆) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、平沢、鑑定/俳) H 4 9 5 6  
 勘兵衛(かんべえ・渡辺) → 吉光(よしみつ・渡辺わたなべ、武将) H 4 7 5 1  
 勘兵衛(かんべえ・毛利) → 重能(しげよし・毛利もうり、武家/和算家) T 2 1 0 9  
 勘兵衛(かんべえ・本間) → 宗全(そうぜん・久田ひさだ;3世、茶人) C 2 5 3 9  
 勘兵衛(かんべえ・後藤) → 光信(みつぶ・後藤ごとう、金工/白銀師) E 4 1 3 5  
 勘兵衛(かんべえ・谷) → 重通(しげみち・谷たに、和学者/彫刻) S 2 1 7 6  
 勘兵衛(かんべえ・堀) → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) 3 9 8 8  
 勘兵衛(かんべえ・池田) → 貞雄(さだお・池田いけだ、幕臣) H 2 0 7 8  
 勘兵衛(かんべえ・大津屋) → 如貞(じよてい・井口いぐち、俳人) C 2 2 8 1  
 勘兵衛(かんべえ・山口) → 素堂(そどう・山口、商家/俳人) 2 5 2 6  
 勘兵衛(かんべえ・野村) → 重威(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌) R 2 1 2 8  
 勘兵衛(かんべえ・菱屋/著屋めどきや) → 兼勝(かねかつ・上坂かみさか、書肆) F 1 5 6 7  
 勘兵衛(かんべえ・著屋めどきや) → 尹勝(ただかつ・上坂かみさか、書肆) P 2 6 3 9  
 勘兵衛(かんべえ・杉田) → 玄与(げんよ・杉田、書肆) M 1 8 6 8  
 勘兵衛(かんべえ・長谷川) → 安辰(やすとき・長谷川/藤原、幕臣) C 4 5 2 1  
 勘兵衛(かんべえ・杉野) → 配力(はいりき・杉野、藩士/俳人) C 3 6 1 8  
 勘兵衛(かんべえ・下里) → 知足(ちそく・下里しもさと、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1  
 勘兵衛(かんべえ・八尾) → 友久(ともひさ・八尾やお、書肆) Q 3 1 3 5  
 勘兵衛(かんべえ・三輪) → 照寛(てるひろ・三輪みわ、国学者/歌人) C 3 0 9 0  
 勘兵衛(かんべえ・三浦) → 樗良(ちよら・三浦みうら、俳人) 2 8 3 1  
 勘兵衛(かんべえ・滝沢) → 花咲庵米守(はなさきあんよねもり、江戸狂歌) F 3 6 4 4  
 勘兵衛(かんべえ・森) → 為泰(ためひろ・森、千竹園、国学/歌人) H 2 6 3 8  
 勘兵衛(かんべえ・浅野) → 夏道(なつみち・浅野あさの、歌人) K 3 2 8 1  
 勘兵衛(かんべえ・滝/柳田) → 為貞(ためさだ・柳田/滝、藩士/歌人) S 2 6 4 0  
 勘兵衛(かんべえ・小沢) → さゝを(鎮盈ささお・小沢/山川、藩士/俳人) H 2 0 4 5  
 勘兵衛(かんべえ・小沢) → 列根(つらね・小沢こざわ、さゝを男/藩士/俳人) E 2 9 4 3  
 勘兵衛(かんべえ・北村) → 富傑(よしまさ・北村/原、国学/歌人) M 4 7 5 0  
 勘兵衛(かんべえ・今井) → 道平(みちひら・今井いまい、製陶家/歌・俳) I 4 1 1 1  
 勘兵衛(かんべえ・菊川) → 水守(みずもり・菊川さくかわ、国学者/歌) I 4 1 8 6  
 官兵衛(かんべえ・黒田義孝) → 孝高(よしたか・黒田、武将/連歌) D 4 7 9 3  
 官兵衛(かんべえ・黒田長溥) → 長溥(ながひろ・黒田、藩主/連歌) F 3 2 5 9  
 官兵衛(かんべえ・黒田長知) → 長知(ながとも・黒田、藩主/連歌) E 3 2 9 8  
 官兵衛(かんべえ・黒田) → 継高(つぐたか・黒田くろだ、藩主/芸能) F 2 9 6 6  
 官兵衛(かんべえ・山宮) → 雪楼(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒者) E 2 4 7 1  
 官兵衛(かんべえ・吉田) → 東洋(とうよう・吉田よしだ、藩士/藩政改革) H 3 1 8 8

- 官兵衛(かんべえ・関) → 政彰(まさあき・関せき、藩士/歌人) Q 4 0 4 0  
貫兵衛(かんべえ・檜原) → 久臣(ひさおみ・檜原ならはら、国学者) K 3 7 4 9  
菅兵衛(かんべえ・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえすぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6  
寛兵衛(かんべえ・太田) → 正儀(まさよし・太田おた、藩士/和算家) I 4 0 7 2  
寛兵衛(かんべえ・西山) → 元文(もとふみ・西山にしやま、藩士/儒者) E 4 4 2 2  
寛兵衛(かんべえ・永原) → 孝類(たかとも・永原ながはら、藩士/国学者) Y 2 6 6 8  
貫勉(かんべん・渡辺) → 貫勉(ぬきかつ・渡辺わたなべ、醸造業/歌人) 3 4 1 9  
幹輔(かんぼ・鄭てい) → 敏斎(びんさい:号・鄭、通事/語学教育) H 3 7 8 2
- R1563 諫圃(かんぼ・米津よねづ/初姓;夏目/修姓米、名;包徳、夏目成美男) 1759?-? 江戸蔵前札差の家に生、  
母方米津家の養嗣子、俳人;父の句文集編纂、1721成美文集「四山藁」包昌包寿らと共に編、  
1799成美「浅草はうご」に13歳の時の画入/1828父13回忌追善「あられ供養」編、  
[諫圃の幼名/別号]幼名;久次郎、別号;贅亭、包寿の弟/包昌の兄
- 寛甫(寛保かんぼ;字) → 日感(にちかん・宏善院、日蓮僧) B 3 3 0 9  
寛保(かんぼ・谷) → 文啓(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) F 3 8 1 0  
貫甫(かんぼ・大道寺) → 忠(ただし・大道寺だいどうじ、庄屋/歌人) P 2 6 5 4  
閑甫(かんぼ・細川) → 宣紀(のぶり・細川ほそかわ、藩主/詩人) C 3 5 7 2  
煥甫(かんぼ・佐々木) → 玄童(げんりょう・佐々木、書家/幕府儒官) M 1 8 8 7
- H1573 冠峰(かんぼう;通称・伊藤いとう、名;一元/字;吉甫) ?-?天明1781-89頃没70歳 伊勢の豪商;絹紬商;  
家業を弟に譲渡、漢学/詩;中西淡淵門、医事、諸国遍歴/美濃笠松に住;講説、  
「自放編」「冠峰文集」「緑竹園詩集」著
- R1564 冠峰(かんぼう・橋たちばな、名;尚賢) 1724-9471 高松藩医;幼科(小児科)、  
1771「黴瘡証治秘鑑」「麻疹精要方」著
- 寛法(かんぼう;法諱) → 任助親王(にんじょしんのう、真言御室僧) G 3 3 5 2  
寛宝(かんぼう;法諱) → 邦頼親王(くによりしんのう、伏見宮/歌人) D 1 7 3 7  
幹方(かんぼう・下村) → 幹方(もとかた・下村しもむら、和算家) C 4 4 3 4  
栞坊(かんぼう・三浦) → 柴居(さいきよ・三浦みうら、俳人) G 2 0 6 3  
岩坊(がんぼう) → 岩坊(いわのぼう;号・仁恵にんけい、真言僧/連歌) I 1 1 4 5  
雁峯(がんぼう) → 覚照(かくしやう、真宗本願寺派僧) K 1 5 0 3  
冠芳斎(かんぼうさい) → 季遊(きゆう・佐々木、俳人) M 1 6 1 7  
韓峰山人(かんぼうさんじん) → 顕義(あきよし・山田やまだ、藩士/軍人/司法) I 1 0 6 9  
冠峯子(かんぼうし) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1  
玩芳舎(がんぼうしゃ) → 文勝(ふみかつ・虫明むしあき、医者/国学) I 3 8 7 6  
巖峯亭(がんぼうてい) → 鬼角(きかく・山本やまもと、里正/俳人) J 1 6 8 2  
寛宝入道親王(かんぼうにゅうどうしんのう) → 邦頼親王(くによりしんのう、歌人) D 1 7 3 7  
岩坊法印(がんぼうほういん) → 祐文(ゆうぶん;法諱、坊官/歌人) H 4 6 5 0  
間放野夫(かんぼうやぶ) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0
- G1565 鴈木(がんぼく、陶苑閑人) ? - ? 1702惟然「まつのなみ」の「松濤庵記并詩」著
- 雁木子(がんぼくし) → 午橋(ごきやう・小笠原、儒者/詩) G 1 9 4 5  
観鷺亭(かんぼくてい) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2  
貫邁(かんまい・丹羽) → 親孝(ちかたか・生駒いこま/丹羽、旗本) L 2 8 4 6  
菅磨(かんまる・木島) → 菅磨(すがまる・木島きじま、歌人) B 2 3 6 5  
干満翁(かんまんおう) → 一彦(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人) V 1 5 8 2  
汗漫遊蕩生(かんまんゆうとうせい) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2  
歎味斎(かんみさい) → 非得(ひとく・思恩堂しおんどう、心学者) E 3 7 1 4
- R1565 寬命(かんみょう;法諱・大夫阿闍梨、左大臣源俊房孫) ?-? 平安後期真言僧;園城寺法印証観門、  
1158伯父実運より伝法灌頂受、醍醐勝俱胝院住、「諸尊要鈔」「伝法灌頂事」「灌頂私記」著
- I1596 観明(かんみょう;法諱) ? - ? 室町期;近江の僧、1510「神縁年録」著
- T1524 観明(かんみょう;法諱) ? - ? 江後期;僧、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[今はただかかげ尽しし灯の頼みすくなき恋もするかな](大江戸倭歌;恋1601)

- [世のうさを知らで過ぎぬる心には年の数さへ忘れにけり](同;雑1971/心静延齡)
- 願明(がみみょう;号) → 了海(りょうかい;法諱、真宗仏光寺派僧) G 4 9 7 1
- 観妙院(観明院がみみょういん) → 日存(にちぞん;法諱、日蓮僧) C 3 3 7 5
- 勘妙坊智清(かみみょうぼうちせい・実相院) → 正(ただし・齋藤さいとう、修験/神職) X 2 6 3 3
- R1566 閑民(かみん・中井なかい/宍戸、通称;半三郎、中本維時男) 1813-6755 岩代梁川養蚕業/養蚕講組織、  
上信地方に蚕種販売、1840一時桑折の宍戸家の婿;離縁、独立し中井氏を名乗る、  
1858「養蚕精義」/60「種元鑑」「蚕種銘鑑」著、[閑民の別号] 松寿軒
- 頑民斎(がみんさい) → 聖謨(としあきら・川路/内藤、幕臣/詩歌) M 3 1 0 2
- 甘眠堂(かみみんどう) → 曲江(きょくこう・小池こいけ、藩士/絵師) O 1 6 8 8
- I1526 観夢(かむ・岸きし、幻世庵) ? - ? 江戸下谷山崎町の俳人;亀世系、江戸座点者、  
1848沾山7世「俳諧鱗はいかいけい」27点句入
- 閑夢(かむ・岩倉) → 一絲(いし;道号・文守、臨濟僧) E 1 1 6 2
- 頑夢(がむ;字) → 心岩(しんがん;法諱・頑夢、浄土僧/画) N 2 2 7 7
- 1554 桓武天皇(かむてんのう、山部王やまべのおおきみ、柏原天皇、光仁天皇皇子) 737-80670 在位781-806、  
773立太子/781即位(天智系後胤)、母;百濟系氏族和やまと乙繼おとつぐの女高野新笠にいがさ、  
①新都造営;784長岡京(種継暗殺事件/早良さわら親王配流で中断)/794平安京遷都、  
②蝦夷対策:788-801討伐軍派遣/第3次遠征;征夷大將軍坂上田村麿を派遣/胆沢いざむ築城、  
③文化事業;795曲水宴で詠歌、民間芸能推進;801近江の歌舞・804播磨の風俗歌演奏、  
804遣唐使派遣;空海最澄の参加:唐風文化と新仏教の興隆の礎、  
[君こそは忘れたるらめにぎ玉のたわやめわれは常の白玉]
- 寛明(かみめい/ゆたあきら) → 朱雀天皇(すざくてんのう、歌人) 2 3 1 5
- 寛命(かみめい) → 寛命(かみみょう;法諱、真言僧) R 1 5 6 5
- 幹命(かみめい・鹿島) → 幹命(もととし・鹿島かしま/平、神職) J 4 4 6 2
- 観明(かみめい) → 観明(かみみょう;法諱、僧) I 1 5 9 6
- 観明(かみめい) → 観明(かみみょう;法諱、僧/歌人) T 1 5 2 4
- 煥明(かみめい・守屋) → 峨眉(がび・守屋もりや、医者/儒者) H 1 5 5 7
- 貫名(かみめい・荒井) → 貫名(ぬきな・荒井あらい、歌人/書) 3 4 1 3
- 雁鳴館(がんめいかん) → 鵬子(かみし・岡橋、俳人/詩文) G 1 5 3 4
- 観明軒(かみめいけん) → 能順(のうじゅん、社僧/連歌) 3 5 3 8
- I1502 寛茂(かかも) ? - ? 江前期;肥前平戸殿川の俳人、  
1687一昌「丁卯ていぼう集」入、1690順水「誹諧破曉集」/言水「新撰都曲」1句入、  
[行き行きて入り日見とめん潮干哉](都曲;潮干狩で沖まで行って入り日を見届ける)
- 寛猛(かまう・山岡/高橋) → 泥舟(でいしゅう・高橋、幕臣/槍術家) B 3 0 1 2
- 簡黙翁(かんとくおう) → 広足(ひろたり・山本、神道家/詩人) G 3 7 3 3
- 咸木而(かんどくじ) → 木而(もくじ/ぼくじ、久留米浄土僧/俳人) 4 4 8 9
- R1568 雁門(がんとん・蒔田まきた、名;貞/忠貞、凌雲男) ?-1850 越前福井儒者/越前坂井郡高柳村代官、  
福井藩出仕/のち大阪で開塾;韻学・経学を教授、晩年帰郷し子弟教育、  
1836「春秋経文彙纂」37「秋風曲」40「孝経通」44「古文尚書正読」、「高柳集」「高柳文集」著、  
「協韻便覧」「毛詩通」著、  
[雁門(通称・号)の字/別号]字;元茂、別号;鳳斎/高向山人、法号;瑞華院
- R1569 観也(かみや) ? - ? 鎌倉期歌人、僧、  
1276(建治2)住吉社三十五番歌合(二条為氏判)参加、  
[都にてまたやしのぼむ古郷ふるさとのかたみとみつる有明の月]、  
(住吉歌合;旅暁月五番左9)
- 勘弥(かみや・大沢) → 政勝(まさかつ・大沢おおさわ、国学者) C 4 0 0 6
- 勘弥(かみや・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4
- 勘弥(11世かみや・守田) → 三津五郎(4世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 4 0
- 官弥(かみや・山下) → 西涯(さいがい・山下やました、儒者/教育) H 2 4 7 2
- 雁奴(がんとく・松本/山田屋) → 太木(ふとき・大根おおねの、狂歌) D 3 8 5 3

- E1517 **桓瑜**(かんゆ;法諱) ? - ? 南北期の僧;権律師、  
歌人;勅撰3首;新千載(2048)新後拾(655/996)、  
[のがるもやすき浮世をいたづらに過ぐしきにける身の昔かな](新千;雑2048、  
出家したころ思い続けたこと)
- E1518 **寛祐**(かんゆう;法諱、源公忠きんただ[889-948]男)?-? 平安前中期の僧・法印、  
信明ねあきら・観教・勝観の弟、歌人;1009?後十五番歌合入、拾遺662、  
袋草紙に兄観教と竹生島参詣時に洪水に遭い詠んだ歌についての相論の逸話入  
[あまた見し豊とよの禊みそぎの諸人もろびとの君しも物を思はする哉](拾遺;恋662、  
大嘗会の賀茂川の御禊見物の時見た童に贈る歌)
- R1570 **観勇**(かんゆう;法諱・月性房;号)1198-1269?72 信濃の天台僧/園城寺に修行;観敏法師門、  
「俱舎論鈔」「授決集鈔」「大乘止観鈔」著
- G1566 **閑友**(かんゆう) ? - ? 俳人、1680心友「江戸宮筋えどみやげ」よよし入
- R1571 **寛雄**(かんゆう;法諱) ? - ? 江中期、近江真宗東光寺の学僧、  
1789「辨惑夜話」著
- G1567 **観遊**(観游かんゆう;号、名;良幹よしもと?・姓不詳)?-? 美作勝山藩士?、藩命で大阪/関東/奥羽を旅、  
1828随筆「雪の魚」著
- H1574 **観遊**(かんゆう・蟹江かにえ、名;昭明、平井正寿男/蟹江至誠の養嗣)1771-1863長寿93 肥後熊本藩儒者、  
藩校時習館に修学、儒;中山黙斎/安野南岳門、時習館助教/獄長/鉄砲隊長、「毫黄繰言」著、  
[観遊の字/通称]字;伯融、通称;寿右衛門、法号;竜樹院
- R1572 **貫雄**(かんゆう・板橋いたばし、通称;孫三郎/法号;唯教院)1809-7163 絵師;住吉弘貫門、山水草花画、  
1852「蘆屋のけふり」画、「職人尽歌合」画
- 寛融(かんゆう;法諱) → 寛尊法親王(かんそんほつしんのう、門跡/歌人) E 1 5 0 8  
 寛雄(かんゆう・佐藤) → 寛雄(ひろお・佐藤さとう、神職/地誌家) F 3 7 5 9  
 寛雄(かんゆう・贅川) → 寛雄(ひろお・贅川にえかわ、国学者) K 3 7 5 5  
 寛揖(かんゆう・丸山) → 閑山(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師) V 1 5 8 1  
 幹雄(かんゆう・三森) → 幹雄(みきお・三森みつり、俳人) 4 1 6 8  
 菅雄(かんゆう・河瀬) → 菅雄(すがお・河瀬かわせ、医者/歌学者) B 2 3 6 0  
 菅雄(かんゆう・服部) → 菅雄(須賀雄すがお・服部/富田、国学/歌) B 2 3 6 1  
 宗尤(かんゆう;出家号) → 宣賢(のぶかた・清原/卜部、和漢学) 3 5 0 5  
 巖雄(がんゆう・武田) → 巖雄(いわお・武田たけだ、藩士/神職) K 1 1 4 1  
 寛裕院(かんゆういん) → 康任(やすとう・松平、藩主/万葉研究) C 4 5 1 6  
 観勇子(かんゆうし;号) → 赤木勾当(あかぎこうとう、歌謡作者;地唄) C 1 0 2 0  
 閑遊亭(かんゆうてい) → 青敷(せいふ、俳人) J 2 4 5 0
- W1544 **寛誉**(かんよ;法諱、号;松室、藤原為房[1049-1115]男)?-? 平安鎌倉期;南都興福寺の僧/法眼、  
兄弟多数;うち僧6人;寛運(仁和寺)・源恵(法性寺)・良恵(天台)・覚隆(天台)・性修(東寺)  
歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[法成寺入道前太政大臣(藤原忠道1097~1164)、  
閑白におはしける時十座仁王講行ひ給ける講師に侍りけるに、  
菩提子の念珠を菊の枝にかけて、  
さもこそはみのりをきくの花ならめむすびし水のつゆものこらぬ  
といふ歌をむすびつけられてはべりけるをみて和したてまつける、  
うつろはでよろづよまでときくの花おくともつみのつゆはきえなむ](檜葉;釈教547)
- G1568 **喚誉**(かんよ、僧) ? - ? 江中期の僧、1755「幡随意上人諸国行化伝」著  
 喚誉(かんよ;法号) → 雲頂(うんちやう;法諱、遣蓮社/浄土僧1679-1753) D 1 2 9 6  
 寒余(かんよ・邨田) → 眉山(2世びざん・邨田/村田、俳人) C 3 7 2 6  
 感誉(かんよ・鎮蓮社) → 存貞(ぞんてい;法諱、浄土僧/伝法改革) F 2 5 6 6  
 観誉(かんよ・長蓮社如空浄業) → 祐崇(ゆうそう;法諱、浄土僧) D 4 6 3 1
- E1519 **寛耀**(かんよう;法諱・高雄僧都、法眼隆寛男)?-? 南北期京の僧、真言宗神護寺僧;権少僧都、  
絵師/歌人、1359成立「新千載集」833、新拾遺990/1168、  
[枯れ果てし鶴の林のかたみとや法のりのことのはひろひ置きけん](新千;釈教833、

釈尊の説教を弟子阿難が結集した事を思い詠、

鶴林; 釈尊入滅時に沙羅双樹が鶴羽の如く白枯死/阿難は仏典結集の中心者アーナンダ)

- R1573 **菅陽**(かんよう・辻葩つじはな、名; 琢成/通称; 七右衛門、百濟ひやくせい男) ?-1842 三河岡崎藩儒; 父門、家塾を開設; 子弟教育、「菅陽遺稿」
- 寛容(かんよう・武嶋) → 独醒菴(どくせいあん・武嶋、医者) L 3 1 1 1  
函陽(かんよう・村松) → 善政(よしまさ・村松むらまつ、神職/国学) P 4 7 5 6  
崑陽(かんよう・川喜田) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0  
寛陽院(かんよういん) → 光久(みつひさ・島津しまづ/松平、藩主) E 4 1 5 7  
寒葉齋(かんようさい) → 桂素(けいそ・宮崎、俳人/文亭綾継: 戯作) 1 8 8 1  
寒葉齋(かんようさい) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8  
涵養齋(かんようさい) → 彦治(ひこはる・杉本すぎもと、教育者) J 3 7 9 2  
観葉観堂菊人(かんようどうきくんど) → 夢仏(むぶつ・枝桑庵、俳人; 雑俳) C 4 2 9 6
- 1555 **完来**(かんらい・大島おおしま・初姓; 富増とみす) 1748-1817 70歳 伊勢津藩士; 致仕し江戸住、能書家、俳人; 2世宗瑞門/1768頃大島蓼太門、蓼太の養嗣子、87雪中庵4世襲名; 嵐雪伝来の印継承、性静穏謙虚; 一門の信頼厚い、1787「藤衣」編・「蓼太居士終焉記」/1805「江の嶋まふで」著、1806「みつのはる」著、「雪門報恩集」「秋の夜」「雪幸集」「探荷集」「俳諧仙人集」編、「完来発句集」編、外編著数、追善句集「空華集」(; 5世対山編)、[我が手足引き連れ出たり門かどすゞみ](空華集/うだる暑さに耐えやおら夕涼み)、[完来(; 号)の通称/別号]通称; 吉太郎、  
別号; 空華居士/震柳舎/雪柳舎/雪柳人/驪翁りおう/野狐窟、雪中庵4世
- 観雷(かんらい・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
飲雷(かんらい) → 湖十(4世こじゅう・晋窓、俳人) C 1 9 8 5  
雁来庵(がんらいあん) → 魯先(ろせん・築、俳人) C 5 2 5 9  
鴈来庵布席(がんらいあんふせき) → 布席(ふせき・鴈来庵/伊達屋、商家/俳人) C 3 8 9 3
- S1573 **閑楽**(かんらく・山崎やまさき) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、[下にましますただのりといふ](物種集/前句; 僊相者そらうもの西おがまんとな南无阿弥陀、謡曲「忠度」; 上にまします忠度の右の腕を打落せば・・・そこ退き給へ人々よ、西拝まんと宣ひて)
- 閑楽庵(かんらくあん) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3
- H1577 **顔楽齋**(がんらくさい・多久たく、名; 安成/字; 忠行/通称; 造酒) 1648-1737 90 佐賀藩家老多久氏一族、儒者; 邑政参画/郷校聖堂設立経営に尽力、「敬物要語」著
- 寒楽散人(かんらくさんじん) → 利春(としはる・加田かた、藩士/歌人) U 3 1 6 5  
観楽亭(かんらくてい) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5  
冠楽堂人(冠楽道人かんらくどうじん) → 松葉軒(しょうようけん、万屋清兵衛、書肆) B 2 2 9 0  
酣楽都督(かんらくととく) → 鶴洲(ていしゅう・内田、儒者/詩人) B 3 0 0 9  
閑楽坊(かんらくぼう・本多) → 忠憲(ただのり・本多、国学、故実/歌/俳) F 2 6 6 3
- 1556 **観瀾**(かんらん・三宅みやけ、名; 緝明、道悦男) 1674-1718 45 京儒者; 浅見綱斎/破門、木下順庵門、1699常陸水戸藩儒/水戸彰考館で大日本史紀伝編纂/1710総裁、浅見の三傑/木門十哲、1711幕府儒官、「斜光集」「萍水集」「中興鑑言」、「観瀾詩集」「観瀾文集」「観瀾集」著、「観瀾三種」「楠正成伝」「糸尾余滴」、1698「助字雅」著、石庵せきあんの弟/済美みちよしの父、[観瀾の字/通称/別号]字; 用晦、通称; 九十郎、別号; 端山、法号; 本源院
- G1570 **観瀾**(かんらん・松崎まつさき、名; 堯臣/字; 子充、嘉言男) 1682-1753 72 丹波篠山藩士/1712家督、家老、1731藩財政再建策で讒/国元蟄居/1746致仕、儒者; 中野偽謙(宋学)門/のち徂徠門、陽明学; 三輪執斎門、越後流兵学; 茂久景泰門、「観瀾詩文集」「白圭集」「白圭文集」「正言」、「君道撮要」「最要抄」「治国論」「窓下草」「窓のすさみ」「窓のすさみ拾遺」「観瀾紀事」著、[観瀾の通称/別号]通称; 左吉、別号; 白圭、観海かんかいの父
- G1571 **甘蘭**(かんらん) ? - ? 京の俳人、1774美角「ゑぼし桶」8句入、[時雨月けふはしぐれのなかばかな](ゑぼし桶; 一弁香19、十月十二日は芭蕉命日の時雨忌)
- H1575 **観瀾**(かんらん・大塚おおつか、名; 静氏/字; 子儉、精斎男) 1761-1825 65 日向高鍋藩儒、儒; 家学/父門、

1777上京;宇井黙齋門/闇齋学修得、1781大阪;御牧直齋・山口剛齋門、岡田寒泉・頼春水門、  
1783江戸藩邸で世子指導、1793藩校明倫堂教授、「本藩実録」「観瀾七説」「観瀾集」「蛭雪録」、  
「高鍋孝子伝」「日本道学淵源録」「名数種俗語考」「本藩実録」「藩祖事略」「国学私議」著、

[観瀾の通称/別号]通称;太一郎、別号;梅楼/拙齋/冬扇子/考槃窩、

官蘭(貫嵐かんらん・紫雪庵/橘雪庵)→ 藤助(とうすけ・福松、浄瑠璃作者/俳) F 3 1 8 8

観瀾(かんらん・小松) → 帯刀((たてわき・小松、家老/国事/日記) R 2 6 7 3

観瀾[亭](かんらん[てい]) → 高基(たかもと・藤堂、兵法家) N 2 6 4 3

観瀾(かんらん・福) → 石室(せきしつ・福ふく、儒者/詩人) K 2 4 1 2

観瀾(かんらん・藤岡) → 有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量) F 1 0 3 4

観瀾(かんらん・堀田) → 正亮(まさすけ・堀田/紀、藩主/老中/詩歌) C 4 0 9 2

観瀾(かんらん・藤堂) → 高基(たかもと・藤堂、藩士、詩/兵法) N 2 6 4 3

芑蘭居(がらんきよ) → 吉従(よしより・杉井すざい、藩士/歌人) N 4 7 4 6

観瀾亭(かんらんてい) → 顕(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1

観瀾堂(かんらんどう) → 魚日(ぎよじつ・西沢にしざわ、俳人) D 1 6 2 1

R1575 観理(かんり;法諱・東南院僧都、俗姓平)894-974<sup>81</sup> 興福寺法相学僧、真言密教;醍醐寺延徹(えんしん)門、  
960真言醍醐寺9世座主/965少僧都/968大僧都/969東大寺47世別当:東南院退隠、  
「諸経論指事」「三論方言義」「因明四相違私記」「悉曇字母智広記」「唯識章」著

E1520 冠里(かんり・安藤あんどう、名;重興/重行/信賢/信友のふとも、重博男)1671-1732<sup>62</sup> 備中松山藩主;  
1698遺領相続;襲封、1704奏者番/06右京進・寺社奉行兼務/11美濃加納藩主に転封;右京亮、  
1713寺社奉行辞し1717復職、1718(享保3)大坂城代;従四下対馬守/22(享保7)老中に就任、  
侍従/将軍家重の信頼を得て老中として幕政に寄与、俳人;木因・其角門、「鬪鶏句合」著、  
[冠里(;号)の通称/法号]通称;政蔵、法号;竜徳院

R1576 潤李(かんり) ? - ? 俳;1773几董「明鳥」1句入、  
[蠅打ちをのがるゝ蠅の命哉](あけ鳥;201/蠅の執念)

E1521 菅裏(菅裡/菅籬かんり、初代花屋久次郎[雪成]男)1780?-1826<sup>47?</sup> 江戸下谷東叡山下竹町書肆;  
星運堂(略称;花久)の二代目主人、雑俳/川柳作者;五条天神裏住により菅裏と号、  
呉陵軒可有門、可有編「誹風柳多留」版元(初代花屋以来)、可有没後は編纂/序を担当、  
1796「誹風柳多留二十六篇」~1818「同七十篇」55冊編纂/刊行、1817父没;菅籬に改号、  
「俳諧鱗はいかいけい」三篇以下編、1773雪成を継承、「誹風末摘花」刊行、東叡山御用書肆、  
[舌二枚晴れて遣つかふは通辞なり](柳多留;三九)、  
[菅裏の別号] 芙蓉散人、再馬2世、雪成2世、雪成舎、法号;黙翁二旧信士、  
参考 → 雪成(初世せつせい・芙蓉散人、再馬、初代花屋久次郎) E 2 4 4 6

R1577 冠里(かんり・神田かんだ、別号;蹊左園)?-1815 阿波小松島の酒造業/農業、俳人;小春園蓼花門、  
「文庫のかたみ」著

R1578 関里(かんり・一瓢庵いつびょうあん、近藤こんどう正好)?-? 江後期幕臣/華道家;石川流生花の祖、  
茶華道;石川流片岡鞞負門、「石川流挿花伝書」著

寛栗翁(かんりつおう) → 永言(ながこと・小栗おぐり、国学/歌人) K 3 2 2 8

寛栗堂(かんりつどう) → 楽斎(らくさい・平松ひらまつ、民政家/詩) D 4 8 4 0

観理房(かんりぼう) → 快澄(かいちょう・観理房、真言僧) I 1 5 9 3

R1579 観隆(かんりゅう;法諱) ? - ? 江中期1716-36頃武蔵入間来迎寺曹洞僧、  
1728「武州入間郡山口来迎寺本尊略縁起」著

G1572 冠柳(かんりゅう・喜多松きたまつ)?- ? 江中期京の歌舞伎作者:1740万太夫座顔見狂言参加、  
1740「飛鳥鳳闕神代巻」41「今様信田妻」45「傾城桜合戦」46「男結三津浜」47「大矢数四七本」著

G1569 貫流(かんりゅう;字・井上のうえ直/通称;貫流左衛門)1736-1808<sup>73</sup> 武術/砲術家;叡山で雲仙門、  
江戸で与力、1820「火砲図説」著

R1580 寛隆(かんりゅう;法諱・大基だいき;字)1770-1854<sup>85</sup> 日向高千穂の真宗正念寺10世住職、仏典/国学者、  
郷土資料の写本・収集に尽力、高千穂神領運動で杉山健吾の入京を支援、  
1830「内股膏葉うちまたごやく」著(;本居宣長と市川匡麻呂の説への批評)、「高千穂日」著、  
[寛隆(;法諱)の通称/号]通称;左京、号;染香せんか

貫立(かんりゅう、俳名) → 菅江(かんこう・朱楽あけら、狂歌) 1 5 4 7

- 官竜(かんりゅう・桑原) → 女媒(じよばい・桑原くわばら、医/俳人) C 2 2 8 9  
 観流(かんりゅう・小川) → 友忠(ともただ・小川/岡本、藩士/天文) P 3 1 6 9  
 乾竜(かんりゅう) → 一馬(いちば・貞松齋、米沢、華道家/俳) G 1 1 3 7  
 寛竜(かんりゅう・毛利) → 高標(たかすえ・毛利、藩主/教育振興) C 2 6 8 5  
 寛隆(かんりゅう・鷺田) → 寛隆(ひろたか・鷺田わしだ、商家/国学/歌) G 3 7 2 2  
 寛隆院(かんりゅういん;法号) → 忠進(ただゆき・酒井さかい、藩主/家訓) R 2 6 1 5  
 寛隆院(かんりゅういん;法号) → 康爵(やすたか・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 8 7  
 観流齋(かんりゅうさい・原) → 武太夫(ぶたゆう・原、幕臣/音曲/狂歌) D 3 8 1 7  
 貫流左衛門(かんりゅうざえもん・井上) → 貫流(かんりゅう・井上、砲術家) G 1 5 6 9  
 G1573 潤流子(潤流子かんりゅうし・寺島てらしま、名;治恒、良安男)?-? 江中期医者;岡本一抱門/謡研究、  
 1728「百味主能師言鈔」、注釈「山姥諷抄」(1792序刊)、「今時医譚」著  
 父 → 良安(りょうあん・寺島、医者/和漢学) G 4 9 0 5  
 看竜舎(かんりゅうしゃ) → 荷豆(かとう・加藤、商家/俳人) O 1 5 1 7  
 観柳書屋(かんりゅうしょおく、古書蒐集) → 抽斎(ちゅうさい・渋江、医/儒者) G 2 8 0 9  
 閑柳亭(かんりゅうてい;茶道) → 百池(ひやくち・寺村てらむら、商家/俳人) E 3 7 6 6  
 含竜堂(かんりゅうどう) → 義忠(よしただ・西村にしむら/源、国学者) E 4 7 2 6  
 G1574 観了(かんりょう) ? - ? 俳人、1676蝶々子「俳諧当世男」入  
 U1539 寛量(かんりょう;法諱) 1756 - 1813 58 近江犬上郡の光明寺住職、歌学;日野資枝すけ門、  
 歌;[彦根歌人伝・寿]入  
 簡亮(かんりょう/かんすけ・並河) → 天民(てんみん・並河、儒/医/神道) E 3 0 3 4  
 寛僚(かんりょう・勝田) → 理閑(りかん・勝田かつた、藩医) 4 9 4 8  
 環陵(かんりょう・東) → 吉貞(よしさだ・東ひがし/林、神職/国学) O 4 7 7 0  
 観霊(かんりょう) → 介石(かいせき;法諱・佐田さだ、真宗本願寺派僧) I 1 5 8 2  
 完梁(かんりょう・西郷) → 勝映(かつてる・西郷さいごう、藩士/俳人) N 1 5 5 5  
 R1581 岸了(がんりょう;法諱・到波とうは;字) 1647-1716 70 伊勢の浄土僧;松阪の樹敬寺祖山門、  
 江戸小石川伝通院に修学、1699下総東漸寺など関東諸寺住職/1715京の知恩院44世、  
 「布薩戒」、1708「辨無得道論」著、  
 [岸了の法名] 入蓮社/通誉/仰阿  
 閑涼軒(かんりょうけん) → 可立(かりゅう・伊藤いとう、俳人) P 1 5 7 0  
 寒蓼堂(かんりょうどう) → 嵐雪(らんせつ・服部、俳人) 4 8 0 6  
 寒寥堂(かんりょうどう) → 婆心(ばしん、俳人;芭蕉研究) E 3 6 6 3  
 R1582 寒緑(かんりよく・茅根ちのね、名;為宜/泰、為敏男) 1824-59 刑死 36 水戸藩士/儒者;藤田東湖・正志齋門、  
 1843弘道館舎長/44師会沢正志齋罷免により致仕;開塾、1854弘道館訓導/55奥右筆頭取、  
 1857小姓頭/59安政大獄で死罪、「青史志料」「学制建議」「息距備考」、1852「投筆余録」、  
 1856-8「寒緑日乗茅根泰日記」58「文淵余波」59「鞠訊きくじん筆記」「茅根鞠問大意」著、  
 「寒緑齋雑録」「寒緑齋雑録」「寒緑小稿」「茅根伊予之助詩草」著、「寒緑遺稿」  
 [寒緑の字/通称]字;伯陽/士誠、通称;伊予之介(助)  
 寒緑(かんりよく・松本) → 寒緑(かんろく、松本まつもと、藩士/儒者) R 1 5 9 0  
 寒緑(かんりよく・秋山) → 寒緑(かんろく・秋山あきやま、藩士/儒者) R 1 5 9 1  
 R1583 閑林(かんりん・岡田おかだ、名;武功/鍊、字;子豊/石補、別号;梯蔭) 1775-1849 75 江戸絵師・谷文晁門、  
 目白台組屋敷住、花鳥画、1844「閑林画譜」著  
 R1584 寛林(かんりん、山崎やまざき、通称;三之丞)?-? 江後期最上流和算家;丸田正通門、  
 1840「算法円理発端」編、早川信道のぶみちの師  
 観輪(かんりん;道号) → 行乗(ぎょうじょう;法諱・観輪、黄檗僧) O 1 6 0 6  
 幹倫(かんりん;名) → 了清(りょうせい;法諱・中川、真言僧/歌) M 4 9 4 1  
 翰鄰(かんりん・徳川) → 頼順(らいじゅん・徳川/源/松平、藩士/詩) 4 8 6 3  
 翰林菅公(かんりんかんこう) → 長親(ながちか・清岡きよおか/五条、廷臣/学者) E 3 2 2 8  
 甘林軒(かんりんけん) → 保行(やすゆき・服部はっとり、菓子商/歌人) G 4 5 4 3  
 看森堂(かんりんどう) → 秀茂(ひでしげ・文の家、旅館主人/狂歌) D 3 7 0 8  
 G1575 閑振(かんれい;法諱/積、名;主忍)?-? 江中期駿河清見寺の臨濟僧/詩人、九州に遊歴、

肥前松浦の大潮に詩を認めらる、九州の「懐古詩」10余篇、「清見十境」詩など多数、  
晩年鼈山巔に退隱、山科稻川「思旧漫録」記事入

- R1585 **歛励**(かんれい;法諱・普潤ふじゆん;字、鷲峰しゅうほう;号)1794-1855<sup>62</sup> 越中小戸の真宗大谷派祐光寺住職、  
高陰寺竜台の弟、詩文/書、良寛/鵬斎と交遊、「越後碑銘集」編/1817「越後碑文集」編
- I1527 **甘令**(かんれい・沢さわ、別号;芹斎/米守庵、3世乾什けんじゅう男)?-? 江戸後期江戸芝新堀俳人、  
1848沾山せんざん7世「俳諧觸はいかいけい」点句入  
竿鈴(干令かんれい) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/新政参画) N 2 6 7 9  
寛嶺(かんれい;法諱・大鏡) → 大鏡(だいきやう;道号・寛嶺、曹洞僧) J 2 6 6 7
- R1586 **岸礼**(がんれい;号、姓;岸きし、名;礼、岸岱がんだい男/本姓佐伯)1816-83<sup>68</sup> 京室町の絵師、岸駒がんくの孫、  
「観音経和訓図会」著、  
[岸礼の字/別号]字;士弟、別号;雪峰/北鵬、通称;岸大路左近将曹/岸大路右近将監  
寛齋院(かんれいいん) → 忠任(ただとう・水野みずの、藩主) P 2 6 9 6  
寛励和尚(かんれいおしょう) → 策伝(さくでん・安楽庵あんらくあん、浄土僧/茶人) 2 0 1 4  
観烈(かんれつ;字) → 房海(ぼうかい;法諱、真言僧) 3 9 2 7
- R1587 **寛蓮**(かんれん;法諱・碁聖[碁聖]法師、俗名;橘たちばな良利よしとし)876・86-926?<sup>51/41</sup> 肥前大村出身;  
廷臣、898越前掾/989肥前掾;宇多上皇出家に随い出家;真言僧、  
908宇多法皇より伝法灌頂を受く、困碁;醍醐天皇に勝ち賭物代で弥勒寺建立、  
913「碁式」編、歌;新古今912、  
[故郷ふるさとの旅寝の夢に見えつるは恨みやすらむまたと訪はねば](新古今;十羈旅912)  
(法皇の仏道修行随行;泉州日根ひねでの歌/旅寝に地名を詠む/またとはまだ一度もの意)
- U1542 **観蓮**(かんれん;法諱、) ? - 1807 三河吉田の宝形院ほうぎやういんの修験者、  
国学;本居宣長門  
観蓮(かんれん;高野入道) → 教長(のりなが・藤原、廷臣/配流/出家、歌人) 3 5 2 1  
鑑連(かんれん/あきつら・戸次べつき) → 道雪(どうせつ・戸次/立花、武将) G 3 1 0 3
- H1510 **願蓮**(がんれん;法諱、俗名;藤原宗康)?-? 1323<sup>存</sup> 鎌倉期僧;法師/歌人、  
続現葉集;俗名入、新後拾遺1493、  
[濁りある水にも月は宿るぞと思へばやがてすむ心かな](、新後拾;釈教1493)  
頑廉(がんれん・神谷) → 南潤(なんかん・神谷かみや、儒者) I 3 2 8 0  
簡廉院(かんれんいん;法号) → 利位(としつら・土井、藩主/蘭学) M 3 1 9 8  
寛連舎(かんれんしゃ) → 園女(そのめ/そのじよ・鶴見つるみ、俳人) K 2 5 3 0  
雁連舎(がんれんしゃ) → 巖丸(いずまる・安武やすたけ、藩士/儒者) F 1 1 7 3  
還蓮社往誉(かんれんしゃおうよ) → 潮呑(ちやうどん;法諱・信入、浄土僧) J 2 8 5 9  
観蓮社称誉念阿(かんれんしゃしょうよねんあ) → 雷雨(らいう;法諱、浄土僧/天台学) 4 8 1 7  
感蓮社報誉竜山(かんれんしゃほうよりゅうざん) → 無住(むじゅう;法諱、浄土僧) 4 2 6 6  
観蓮社妙誉道阿(かんれんしゃみょうよどうあ) → 定月(じやうげつ;法諱、浄土僧;大僧正) I 2 2 3 3
- H1542 **竿露**(かんろう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、  
[山里のしぐれに畳む日傘ひからかさ](二葉之松;440/身より大切な日傘)  
甘露(かんろう;号) → 慧雲(えいん;法諱・子潤;字、真宗僧) D 1 3 4 7  
甘露(かんろう;道号) → 英泉(えいせん;法諱・甘露、曹洞僧) D 1 3 0 9  
甘露(かんろう;道号) → 泡子(ほうし;法諱・甘露、曹洞僧) B 3 9 2 3  
甘露(かんろう;号) → 僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8  
甘露院(かんろういん;号) → 日泉(にっせん;法諱・前旭、日蓮僧) E 3 3 7 9  
甘露院(かんろういん;諡号) → 慧海(えかい・灰峰、真宗本願寺派僧) D 1 3 5 3  
観朗(かんろう;字) → 日陵(にちりやう;法諱・竜興院、日蓮僧) D 3 3 6 5  
関浪(関浪かんろう;道号) → 磨麩(磨塙ません;法諱・関浪、曹洞僧) J 4 0 3 0  
関路鬼木(かんろうきぼく、古槐) → 良基(よしもと・二条、連歌) 4 7 2 1
- G1580 **観勒**(かんらく) ? - ? 百濟僧/602来朝、暦法・天文・地理・方術等の書を伝えた、  
元興寺住;僧正(日本最初)
- R1588 **勘六**(かんろく・近松ちかまつ、名;行重、変名;田中三介)1670-1703<sup>切腹34</sup> 播州赤穂義士;1702討入、  
「聞書妙方」著、法号;刃随露劍信士

- R1589 **勘六**(かんろく・比野ひの、名;吉政/重行)?-? 江後期薩摩藩主の御鳥方役、1802「唐紅毛渡鳥集」、1802「鳥賞案子」/11「諸鳥馴養秘伝」18「飼鳥必要説」、「鳥名集」「鳥はかせ」「鳥博士続篇」著
- R1590 **寒緑**(かんろく、松本まつもと、名;重信/字;実甫さねもと、重堅男)1789-1838遭難死50 会津藩士、儒;昌平覺入、古賀精里門/藩校副教;藩主に講義、1838伊豆七島海防調査;暴風雨で遭難、「松本寒緑文稿」著、  
[寒緑の通称/別号]通称;東蔵、別号;積翠
- R1591 **寒緑**(かんろく・秋山あきやま、名;勝剛/字;伸郷/通称直太郎、勝鳴かつなり男)1837-9761 儒;家学、伊勢桑名藩儒、壮年時失明/変わらず講学に従事、「擬古楽府」著
- |                  |   |                        |           |
|------------------|---|------------------------|-----------|
| 寒緑(かんろく・茅根)      | → | 寒緑(かんりよく・茅根ちのね、儒者)     | R 1 5 8 2 |
| 甘露金剛(かんろこんごう)    | → | 齊世親王(ときよしのう、真言仁和寺僧)    | K 3 1 3 3 |
| 甘露台(かんろだい)       | → | 朱迪(しゅてき・寺島てらじま、藩士/俳人)  | I 2 1 9 8 |
| 甘露道人(かんろどうじん)    | → | 行乘(ぎょうじょう;法諱・観輪、黄檗僧)   | O 1 6 0 6 |
| 完和(かんわ・清水)       | → | 完和(さだかず・清水しみず/中島、藩士/歌) | O 2 0 6 0 |
| 菅和歌(かんわが)        | → | 為言(ためのが・菅原すがわら、菅五/歌人)  | H 2 6 2 7 |
| 感和亭鬼武(かんわていおにたけ) | → | 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者)       | 1 4 2 3   |
- R1594 **歎和坊**(かんわぼう・金子かねこ)?- 1822 長州秋吉の俳人;美濃の再和坊・讃岐の博和坊門、1816「見おさめ笠」著、「夏の越路」編  
[歎和坊の通称/別号]通称;九郎兵衛、別号;椿庵/可舟

